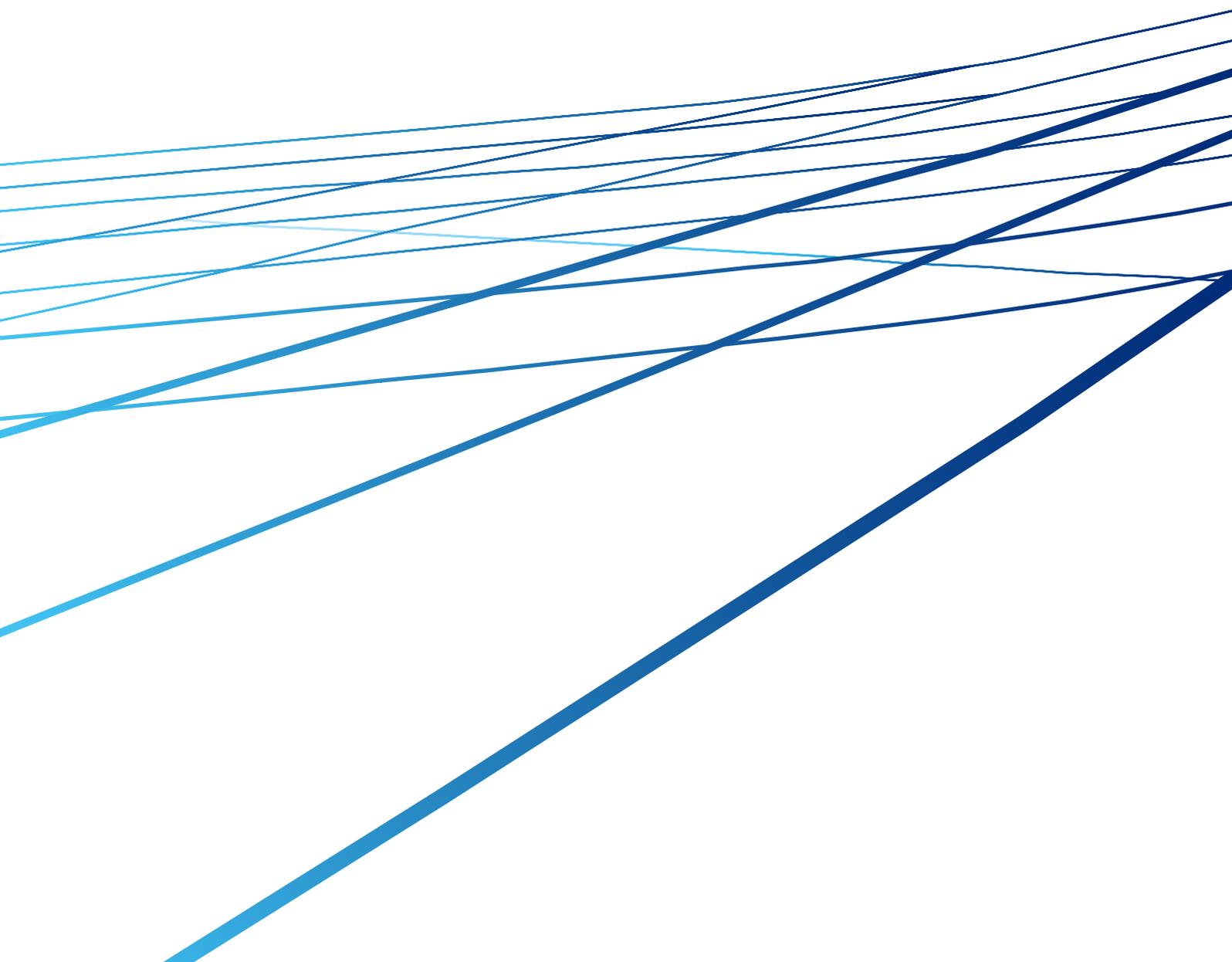




筑波大学
University of Tsukuba

筑波大学体育系業績集

2016.1.1~2017.3.31



はじめに

本冊子「筑波大学体育系業績集 2016. 1. 1～2017. 3. 31」は、平成28年1月1日から平成29年3月31日までの間、筑波大学・体育系に一時的にでも在職した教員の在職期間中における業績を記載したものです。

前巻までは、発行前年の1月1日からその年の12月31日までの1年分の業績を記載していましたが、筑波大学全体における業績のとりまとめの関係上、今後は年度ごと、すなわち各年の4月1日からその次年の3月31日までの1年分の業績をする記載することになりました。そこで本巻に限り移行措置として、平成28年1月1日から平成29年3月31日までの1年3か月分の期間における業績を記載することとしました。

各項目は、以下の基準によって分類されています。

共通事項：論文、著書等の出版物に関しては、本人名はゴシック体になっています。

1. 研究業績

研究業績では、共著論文において、自身が筆頭著者ではないが責任著者（Corresponding author）であった場合、あるいは自身の指導する院生が筆頭著者あるいは責任著者であった場合には、自身の名の前に「*」が付けられています。

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

a-1-2. 和文のもの

a-1-3. その他の外国語のもの

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

b. 著書（翻訳、監訳、監修、編集を含む）

b-1. 英文のもの

b-2. 和文のもの

b-3. その他の外国語のもの

c. その他

c-1. 研究発表（開催地を記載）

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加、3カ国以上参加、1日以上開催のすべてを満たすか、国際団体連合 UIA または国際会議協会 ICCA 加盟団体の会議）

c-1-1-1. 基調講演

c-1-1-2. 特別・招待講演

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

c-1-1-4. ポスター発表

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会（参加人数、参加国数を記す）

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

c-1-2-2. 特別・招待講演

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

c-1-2-4. ポスター発表

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

- c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学、所属学会、協会等によるもの）
- c-4. 研究成果による受賞
- c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究、委託研究、これらからの研究助成、奨励金等（科研費を除く）

2. 教育活動

- a. 教育活動による受賞
- b. 小・中・高校の教科書、副教材等
- c. 学外の教育活動
- d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送
- e. 教育活動に関するプレスリリース（筑波大学、所属学会、協会等によるもの）
- f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

3. 競技活動

- a. 自身の競技活動業績（自身の受賞を含む）
- b. 指導業績（部長、監督、コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）
- c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）
- d. 競技活動に関するプレスリリース（筑波大学、所属学会、協会等によるもの）

4. 社会貢献活動

- a. 社会貢献活動による受賞
- b. 公共機関あるいは私企業等の委員、役員（平成 28 年度だけでなく、それ以前からの継続中のものも含む）
- c. ボランティア活動
ここでいうボランティアは、「自主性（自らの意志で参加したもの）と社会性（社会上の実際の課題に対して何らかの解決を意図している）、無償性（原則、実費や交通費以外の金銭を得ていない）を基底とした活動」のことである。以下のボランティアに該当するものは、「詳しい活動内容：場所（都道府県・市区町）：活動月（おおよその頻度）」が記載されている。
 - c-1. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導
 - c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ、大会運営など
 - c-3. アスリートとして地域の福祉施設、小学校などの訪問・慈善活動
 - c-4. その他
- d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送
- e. 社会貢献活動に関するプレスリリース（筑波大学、所属学会、協会等によるもの）

5. 公共機関、企業等からの委託業務（1. 研究業績の“c-5”以外のもの）

6. 特許、実用新案

体育・スポーツ学分野

教授 岡出美則

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

岡出美則：学習指導要領における体育理論の変遷. *体育科教育*, 64(10):16-19, 2016年10月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Okade, Y.: Effectiveness of hybrid pedagogical model in developing technical, tactical, and communication skills during a university soccer units. *AIESEP, Wyoming*. 2016-6-9.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

古内孝明，岡出美則，三田沙織，今野岳：小学校2年生を対象とした協同学習の学習過程の特徴. *日本スポーツ教育学会第36回大会*，和歌山，2016年10月29日.

奥村拓朗，岡出美則：小学校中学年におけるゴール型ゲームの戦術的認識の発達—フラッグフットボールの作戦を説明した文章の分析を通して—. *日本スポーツ教育学会第36回大会*，和歌山，2016年10月29日.

今野岳，岡出美則，三田沙織，古内孝明：小学校低学年の体育授業へのバルシューレプログラム導入の可能性. *日本スポーツ教育学会第36回大会*，和歌山，2016年10月29日.

荻原朋子，新里勲，須甲理生，岡出美則：小学校高学年児童が持つ素朴概念の変容可能性とパフォーマンスに関する検討-オーバーハンドパス技能に着目して-. *日本スポーツ教育学会第36回大会*，和歌山大学，2016年10月30日.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

体育科教育学会会長（2015年4月～）

日本スポーツ教育学会副会長（2015年4月～）

日本学校体育研究連合会理事長（2015年4月～）

日本フラッグフットボール協会代表理事（2013年8月～）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

カンボジア王国中学校体育カリキュラム開発（NPO法人 ハート・オブ・ワールド）

ミャンマー小学校体育教科書開発プロジェクト（株式会社 パデコ）

ボスニアヘルツェゴビナ国体育科カリキュラム開発（JICA）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kiku, K., Leitner K.: “Depressin” after Tokyo 2020? Characteristics of Japan’s sport policy and the 2020 Tokyo Olympics & Paralympics. *MINIKOMI*, 86: 81-88, 2017.3.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

菊幸一，茂木宏子：体育・スポーツ価値観への社会学的探究．*新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標の開発—第2報—*（平成27年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅲ），日本体育協会，37-47，2016年3月．

菊幸一：スポーツ選手の「セカンドキャリア」を考える；アスリートの第二の人生を「社会的死」にしないために—試される私たちの「市民度」—．*週刊金曜日*，1084：16-18，2016年4月．

菊幸一：友添秀則，松田恵示：新しい「資質・能力の3つの柱」をめぐる．*こどもと体育*，171：6-11，2016年5月．

菊幸一：ポスト東京2020と全体研．*全体研ニュース*，123：1，2016年5月．

菊幸一：森丘保典，友添秀則：日本のスポーツ科学をめぐる．*現代スポーツ評論*，34：17-35，2016年5月．

菊幸一：嘉納治五郎師範がめざした柔道とオリンピック—MIND活動に寄せて—．*柔道*，87(7)：1-4，2016年6月．

菊幸一：21世紀に求められる体育理論とは．*体育科教育*，64(10)：12-15，2016年9月．

菊幸一：新たな時代の保健体育のアウトカムを考える—保健と体育の充実に向けた教育課程の可能性—．*九州体育・保健体育ネットワーク研究会in福岡*（平成27～30年度科学研究費助成金・基盤B・15H0364研究報告書），7-12，2016年10月

菊幸一：オリンピックとパラリンピックの相違．*スポーツゴジラ*，32：4-8，2016年10月．

菊幸一：「新しい公共」形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する国際比較研究．*平成25～28年度科学研究費補助金・基盤B・25282190研究成果報告書*（研究代表），206，2017年3月．

菊幸一：スポーツ組織の公共性と自立性からみた課題と展望．*体育・スポーツ経営学研究*，30(1)：65-81，2017年3月．

菊幸一：3年間のまとめと今後の研究課題—「みる」スポーツ価値意識研究の課題と展望．*新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標の開発—第3報—*（平成28年度日本体育協会スポーツ医・科学研究報告Ⅰ），日本体育協会，48-58，2017年3月．

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

菊幸一：社会変化と今後の体育．友添秀則・岡出美則（編著），新版・教養としての体育原理，94-99，大修館書店，2016年7月．

菊幸一：スポーツと暴力の倫理学．友添秀則（編集），よくわかるスポーツ倫理学，110-121，ミネルヴァ書房，2017年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体

連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Kiku, K: “Depression” after Tokyo 2020? Ostasienwissenschaften – Japanologie der Universität Wien und der Akademische Arbeitskreis Japan, Vienna, 2017.2.1.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

菊幸一：スポーツ庁の設置とこれからの学校体育—スポーツ政策と体育政策のハザマで—。第9回東海大学学校保健体育授業研修会，平塚，2016年3月。

菊幸一：文化としてのスポーツ・浪漫としてのスポーツ—次世代に繋ぐ—。日本体育学会第67回大会組織委員会企画，大阪，2016年8月。

c-1-2-2. 特別・招待講演

菊幸一：グローバル社会におけるスポーツの価値とその未来—東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて—。全国外大連携プログラム/通訳ボランティア育成セミナー招待講演，千葉，2016年9月。

菊幸一：Fair Play から Integrity へ—現代スポーツの価値再考—。大阪体育大学2016年度第3回スポーツ科学セミナー招待講演，大阪，2016年10月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

菊幸一：次期学習指導要領の課題と21世紀型能力に向けた体育授業。九州体育・保健体育ネットワーク研究会2016ファイナルin福岡シンポジウム，福岡，2016年3月。

菊幸一：スポーツと“ひと・社会”。日本体育学会第67回大会組織委員会企画シンポジウム，大阪，2016年8月。

菊幸一：ユネスコの新「体育・身体活動・スポーツ国際憲章」と日本の現状・課題と展望—スポーツの立場から—。日本体育学会第67回大会本部企画合同シンポジウム，大阪，2016年8月。

菊幸一：生涯スポーツと学校体育—そのハザマ（vs.）をどう認識するか？—。日本体育学会第67回大会体育哲学専門領域企画シンポジウム，大阪，2016年8月。

菊幸一：次年度のシンポジウムに向けてのラフスケッチ。日本体育学会第67回大会体育社会学専門領域プレセッション，堺，2016年8月。

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「セカンドチャレンジ～戦力外通告 元選手たちの選択～」，NHK大阪，2016年4月22日。

「スポーツにおけるアカデミズムとジャーナリズムの役割」，ニュース・オブエド，2016年5月30日。

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「新たなスポーツ価値意識の多面的な評価指標の開発」（公益財団法人日本体育協会スポーツ医・科学研究委員会）

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

菊幸一：新中学保健体育。学研教育みらい，131-169，2016年1月20日。

菊幸一：中学体育実技2016。学研教育みらい，1-4，2016年4月1日。

菊幸一：現代高等保健体育改訂版。大修館書店，122-125，158-159，162-165，2016年4月1日。

菊幸一：最新高等保健体育改訂版。大修館書店，118-119，146-151，2016年4月1日。

菊幸一：体育・スポーツ理論改訂版。大修館書店，24-25，30-31，2016年4月1日。

c. 学外の教育活動

- 「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2016第1分科会シンポジウム『スポーツの価値』について考える」
(郡山市, 2016年2月5日)
- 「2016年度福岡県立高等学校保健体育科主任会講演 これからの保健体育科の在り方について—中央教育審議会教育課程部会の審議経過を踏まえて—」(福岡市, 2016年5月13日)
- 「2016年度第1回東京都スポーツ指導者研修会 スポーツ指導と体罰を考える」(東京都, 2016年6月12日)
- 「2106年度全日本学生柔道連盟教養講座 学生柔道とJudoの接点—学生柔道のこれからのために—」
(東京都, 2016年9月30日)
- 「2016年度日本体育協会公認コーチ・教師・AT養成共通科目講習会 社会の中のスポーツ」(福岡市,
2016年10月21日)
- 「2016年度日本体育協会公認コーチ・教師・AT養成共通科目講習会 社会の中のスポーツ」(東京都,
2016年10月29日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 日本体育学会代議員 (2015年～)
- 日本体育学会体育社会学専門領域代表 (2015年～)
- 日本スポーツ社会学会会長 (2015年～2017年3月)
- 日本体育科教育学会理事 (2006年～)
- 日本体育・スポーツ政策学会理事 (2005年～)
- 東京体育学会常任理事 (2011年～)
- 社会学系コンソーシアム評議員 (2011年～)
- 文部科学省中央教育審議会専門委員 (初等中等教育分科会) (2015年～2017年3月)
- 文部科学省大学設置・学校法人審議会専門委員 (2013年～2016年10月)
- 文部科学省学習指導要領等の改善に係る検討に必要な専門的作業協力者 (2016年～)
- 国立教育政策研究所教育課程センター高等学校「体育」学習指導要領実施状況調査結果分析委員会委員
長 (2016年～2017年3月)
- 日本体育協会スポーツ医・科学専門委員会委員 (1999年～)
- 日本体育協会B級・C級コーチ養成研修講座講師 (2001年～, 共通科目・科目別主任講師2010年～)
- 日本体育協会国民体育大会委員会委員 (2005年～)
- 日本体育協会国民体育大会検討小委員会委員 (2005年～)
- 日本体育協会秩父宮記念スポーツ医・科学賞選考委員会作業部会委員 (2005年～)
- 日本体育協会名称変更趣意書(仮称)検討ワーキング委員 (2016年～)
- 日本オリンピック委員会アントラージュ専門部会部会員 (2015年～)
- 全日本柔道連盟柔道MIND特別委員会委員 (2014年～)
- 日本アンチ・ドーピング機構学術委員会委員 (2015年～)
- 日本スポーツ仲裁機構将来構想検討委員会委員 (2016年～)
- 杉並区体育施設指定管理選定委員会委員長 (2005年～)

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Min, Y, *Saito, K, .: A Comparative Study about the Opportunities and Rights of Female Sports at School in Japan and South Korea: “diagnosing current issues of sports Law with the host of Pyeongchang winter Olympic games ahead”Tasks on the 2018 Pyeongchang winter Olympic and the sport Law, *Proceeding of 7th Asia Sports Law conference · 13th International Conference of the Korean Association of Sports & Entertainment Law*, Seoul, 293-310, 2017-2.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

日下智明, *齋藤健司：地方スポーツ政策における地方自治体とJリーグクラブの官民パートナーシップに関する一考察—地方スポーツ推進計画の分析を中心として—。筑波大学体育系紀要, 39：75-79, 2016年3月。

齋藤健司：スポーツリスクマネジメントと法的責任。みんなのスポーツ, 431：12-14, 2017年3月。

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

齋藤健司：標準テキストスポーツ法学。エイデル研究所, 73-78, 2016年6月。

齋藤健司：教養としての体育原理(新版)。大修館書店, 108-110, 2016年7月。

齋藤健司：よくわかるスポーツマネジメント。ミネルヴァ書房, 158-161, 182-183, 2017年3月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Min, Y, *Saito, K, .: A Comparative Study about the Opportunities and Rights of Female Sports at School in Japan and South Korea: “diagnosing current issues of sports Law with the host of Pyeongchang winter Olympic games ahead”Tasks on the 2018 Pyeongchang winter Olympic and the sport Law, 7th Asia Sports Law conference · 13th International Conference of the Korean Association of Sports & Entertainment Law, Seoul, 2017-2.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

齋藤健司：2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を考える—東京から地域連携へ—。日本体育・スポーツ政策学会第26回大会シンポジウム, 神戸, 2016年12月。

齋藤健司：アンチ・ドーピング体制の整備に関する法的課題。日本スポーツ法学会第24回大会パネルディスカッション, 東京, 2016年12月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

関允淑, 齋藤健司：韓国における学生選手の学習権保障制度の形成過程に関する研究。日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月。

姜知佑, 齋藤健司：韓国の学校体育政策の政策体系の分析。日本体育・スポーツ政策学会第26回大会, 神戸, 2016年12月。

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「日本体育学会指導者育成・資格特別委員会公開検討会講師 フランスの指導者資格制度」(東京, 2016年9月3日)

「公益社団法人全国スポーツ推進委員連合平成27年度スポーツ推進委員リーダー養成講習会講義 リスクマネジメント」(東京2016年2月14日)

「公益社団法人全国スポーツ推進委員連合平成28年度スポーツ推進委員リーダー養成講習会講義 リスクマネジメント」(東京2017年2月11日)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

バドミントン部監督, 第67回全日本学生バドミントン選手権大会, 女子団体優勝, 2016年10月16日.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ法学会 副会長 (2017年~), 事務局長 (2014年~2016年), 理事 (2006年~)

日本体育・スポーツ政策学会 理事長 (2017年~), 理事 (2003年~)

公益財団法人日本スポーツ仲裁機構 仲裁人候補者 (2004年~)

一般社団法人日本スポーツ法支援・研究センター 理事 (2014年~)

アジアスポーツ法学会 理事 (2015年~)

教授 酒井利信

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

酒井利信: 武道史における神授の思想について. *武道学研究*, 49-1, 1-14, 2016年8月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

Sakai, T.: Last glimpse of Kendo of A-Level War Criminals: The record of Mr. Yoshihiko Jifuku. *Budo world*, 2017年3月.

酒井利信: 宮本武蔵. *Budo world*, 2017年3月.

Sakai, T.: Miyamoto Musashi. *Budo world*, 2017年3月.

酒井利信: 塚原卜伝. *Budo world*, 2017年3月.

Sakai, T.: Tsukahara Bokuden. *Budo world*, 2017年3月.

酒井利信: 体育学. *螢雪時代*, 旺文社, 968-969, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

大石純子, 酒井利信: 武道の文化性—心と身体. たくましい心とかしこい体—身心統合のスポーツサイエンス—. 大修館書店, 190-209, 2016年7月30日.

b-3. その他の外国語のもの

사가이토시노부酒井利信・이형민李炯旻訳：일본검도어역사. 헬토, 1-176, 2016年2月15日 (韓国語)

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件：50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Sakai, T.: Outline of Budo History – From fighting Techniques to Means of Education-. Romania
Kendo Summer Seminar, Brasov ROMANIA, 2016-8.

c-1-1-4. ポスター発表

**Sakai, T., Ohishi, J., Kengyel, TS., Kim, L., Karukome, Y., Murakami, R., Kanzaki, H., Szabo, B., Abe
T.:** Japanese Mystery of Budo in the World. HHP research weeks 2016, Ibaraki, 2016-3.

**Sakai, T., Ohishi, J., Kengyel, TS., Kim, L., Karukome, Y., Murakami, R., Kanzaki, H., Szabo, B., Abe
T.:** Japanese Mystery of Budo in the World. 筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス
先端研究センター (ARIHHP) 設置記念フォーラム, 茨城, 2016-3.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

酒井利信：武道ワールド・プロジェクトについて. 第1回武道ワールド・セミナー, 茨城, 2017年3月.

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

筑波大学公開講座「剣道」(2016年4-6月, 9-12月, 延べ16日間)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

剣道部副部長

第65回関東学生剣道選手権大会, 日本武道館, 2016年5月8日, 加納彰大, 準優勝.

第50回全日本女子学生剣道選手権大会, 日本武道館, 2016年7月2日, 木宮凜々子, 準優勝.

8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会, 日本武道館, 2016年7月16日, 二宮恭子, 準優勝.

第55回全日本女子剣道選手権大会, ホワイトリング長野市真島総合スポーツアリーナ, 2016年9月11日,
大西ななみ, 準優勝.

第64回全日本学生剣道優勝大会, エディオンアリーナ大阪 (大阪府立体育館), 2016年10月9日, 第3位.

第17回関東女子学生剣道新人戦大会, 東京武道館, 2016年12月3日, 第3位.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本武道学会理事 (2011年～)

日本武道学会剣道専門分科会事務局長 (2014年～)

身体運動文化学会理事長 (2016年～)

全日本剣道連盟総務・資料小委員会委員 (2003年～)

茨城県剣道連盟審査委員会委員 (2015年～)

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

松浦佑希, 本谷聡, *坂入洋右: 多様な運動感覚の経験を重視した運動指導方略の心理的効果. *コーチング学研究*, 30(2), 149-158, 2017年3月.

稲垣和希, *坂入洋右: 心理状態の自己調整法としての姿勢調整の有効性. *いばらき健康・スポーツ科学*, 33, 1-8, 2017年3月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

坂入洋右: からだからこころへのアプローチ. たくましい心とかしこい体, 征矢英昭, 坂入洋右, 大修館書店, 2-18, 2016年7月30日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Sakairi, Y.: Mechanism of the effects of mindfulness-based practice: Attention and acceptance as a mediator of intervention outcomes; Mindfulness-based practice as skills training in sports and meditation. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, 2016-7-29.

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Sakairi, Y.: New Perspectives of the Theory and Method of Psychology: The Eastern Paradigm of Sciences of Human Being as a Whole; Natural Science for Gods, Human Science for Mortals. The 31st International Congress of Psychology, Yokohama, 2016-7-26.

c-1-1-4. ポスター発表

Inagaki, K., Miyabe, I., **Sakairi, Y.:** Developing an Educational Program for Mind and Body Self-Regulation Skills Using the Two-Dimensional Mood Scale. The 6th Asian Congress of Health Psychology, Yokohama, 2016-7-23.

Inagaki, K., **Sakairi, Y.:** Effects of upright posture on psychological state and task performance in children. The 31th International Congress of Psychology, Yokohama, 2016-7-26.

Amemiya, R., **Sakairi, Y.:** Variation in Athletic Burnout throughout the Competitive Season. Poster Presentation: The 31th International Congress of Psychology, Yokohama, 2016-7-28.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

坂入洋右: 自律訓練法の効果機序. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.

c-1-2-2. 特別・招待講演

坂入洋右: 心身医学療法の温故知新: 自律訓練法; 自律性原理とマインドフルネス. 日本心身医学会第57回総会, 仙台市, 2016年6月4日.

坂入洋右: 役に立つ科学としてのスポーツ心理学. トップダウンからボトムアップへのパラダイムシフト. 九州スポーツ心理学会第30回大会, 福岡市, 2017年3月4日.

c-1-2-4. ポスター発表

稲垣和希, 高野美穂, 吉田昌宏, 雨宮怜, 松浦佑希, **坂入洋右**: 自律訓練実施中における生理・心理状態の変化動態—消去動作の効果—. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.

井上真由美, 酒井進吾, 雨宮怜, **坂入洋右**: 自律訓練法による肌および心理状態の改善効果. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.

町田柚衣, 庄司雪乃, 雨宮怜, **坂入洋右**: 心的敏感さの違いによる自律訓練法実施前後の気分変化の比較. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.

吉田昌宏, 飯長喜一郎, **坂入洋右**: 自律訓練法による発達障害者の自尊感情の向上と維持. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.

松浦佑希, 雨宮怜, 町田柚衣, **坂入洋右**: 間接接触による短時間のペア運動における感覚経験型指導方略の心理・対人的効果. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 札幌市, 2016年11月5日.

元嶋菜美香, 田井健太郎, **坂入洋右**: 親子スポーツ教室に参加した児童生徒および保護者の継続意志に影響を与える要因. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 札幌市, 2016年11月5日.

稲垣和希, 浅井豪太, **坂入洋右**: バトミントン競技者を対象にした練習への競争の導入が心理状態およびパフォーマンス発揮に及ぼす効果. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 札幌市, 2016年11月6日.

高野美穂, **坂入洋右**: スポーツ場面想起時の心理状態と重心動揺の関係性. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 札幌市, 2016年11月6日.

c-4. 研究成果による受賞

日本スポーツ心理学会優秀論文奨励賞 (雨宮怜, **坂入洋右**: スポーツ競技者のアレキシサイミア傾向とバーンアウトに対する抑制因としてのマインドフルネスの役割. 日本スポーツ心理学会, 札幌市, 2016年11月5日.)

日本自律訓練学会第39回大会優秀研究発表賞 (稲垣和希, 高野美穂, 吉田昌宏, 雨宮怜, 松浦佑希, **坂入洋右**: 自律訓練実施中における生理・心理状態の変化動態—消去動作の効果—. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.)

日本自律訓練学会第39回大会最優秀研究発表賞 (井上真由美, 酒井進吾, 雨宮怜, **坂入洋右**: 自律訓練法による肌および心理状態の改善効果. 日本自律訓練学会第39回大会, つくば市, 2016年9月17日.)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
「スキンケア習慣を活用した自律訓練法」(花王株式会社)

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

我孫子市立久寺家中学校における全校生徒のストレスマネジメント指導 (2016年10月～2017年3月)

日本プロゴルフ協会 A級講習会 講師

日本カウンセリングカレッジ 講習会 講師

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

筑波大学心身統一合気道会顧問

筑波大学空手道部顧問

筑波大学卓球同好会顧問

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本自律訓練学会第39回大会 大会長（2016年9月16日～18日）

日本心理医療諸学会連合 理事（2005年～）

日本心理学諸学会連合 代議員（2005年～）

日本心理学会 代議員（2010年～）

日本スポーツ心理学会 理事（2010年～）

日本自律訓練学会 理事（2003年～）

日本健康心理学会 理事（2010年～）

日本交流分析学会 評議員（2008年～）

日本マインドフルネス学会 副理事長（2013年～）

教授 真田 久

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

真田久：オリンピック・パラリンピック教育の推進。『*体育の科学*』, 66-3, 杏林書院, 207-212, 2016年3月。

真田久：オリンピック・パラリンピック教育について。『*たのしい学校*』, 43, 2016春号。大日本図書, 2-5, 2016年4月。

真田久：日本におけるオリンピック教育。『*体育科教育*』, 64巻5号, 大修館書店, 74-77, 2016年5月。

真田久：リオデジャネイロ大会の隠れた見どころ。『*調査情報*』, 530, 8-13, (株)TBSテレビ, 2016年5月。

真田久, 荒牧亜衣：オリンピック・パラリンピック教育の全国展開に向けて。『*体育科教育*』, 64-7, 大修館書店, 66-69, 2016年7月。

真田久：オリンピック・パラリンピック教育の意義と価値。『*初等教育資料*』, 949, 東洋館出版社, 10-15, 2017年2月。

真田久：2020年以降も続くオリンピック・パラリンピック教育を。『*体育科教育*』, 65-3, 大修館書店, 58-61, 2017年3月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-1. 英文のもの

Sanada, H.: Japan: Olympic education for peace and international cultural understanding. Roland Naul, Deanna Binder, Antonín Rychtecký and Ian Culpan (Eds): *Olympic Education An international review*, Routledge, 192-205, 2017-3.

b-2. 和文のもの

真田久：嘉納治五郎と日本のオリンピック・ムーブメント，古代オリンピックほか，日本オリンピックアカデミー編，『*JOA オリンピック小事典*』メディア・パル, 38-39, 42-47, 49, 92, 2016年6月。

真田久：筑波大学オリンピック教育プラットフォーム，つくば国際スポーツアカデミー監訳，ローラント・ナウル著『*オリンピック教育*』大修館書店, 1-298. 2016年7月。

真田久（監修）：オリンピック・パラリンピックまるごと大百科。学研プラス, 2017年2月。

真田久：ヘレネス国家の創造：近代ギリシャのオリンピック。寒川恒夫編，よくわかるスポーツ人類学。

ミネルヴァ書房, 124-125, 2017年3月.

池田延行, 佐藤豊, 真田久, 杉野学, 友添秀則 (監修). オリンピック・パラリンピックに関する指導参考資料. スポーツ庁政策課学校体育室. 1-116. 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-1. 基調講演

Sanada, H.: The Olympic and Paralympic Education and TOKYO 2020 Games. Indo Japanese Conclave III, Manav Rachna International University, 2017-2.

c-1-1-2. 特別・招待講演

Sanada, H.: The Olympic and Paralympic Education for 2020. The Olympic Conference. 韓国中央大学. 2016-12.

Sanada, H.: Olympic Values Education Programme. Singapore Sport Conference, Singapore, 2016-5.

Sanada, H.: TIAS and Switzerland. スイス大使館カクテルパーティ. 東京. 2016年12月16日.

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Sanada, H., Miyazaki, A., Aramaki, A., Obayashi, T.: Spreading Olympic Education for Tokyo 2020. The Second International Colloquium of Olympic Studies and Research Centres. Porte Alegre, 2016-8.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

真田久: 東京オリンピック・パラリンピックに向けて高校生ができること. 東京都国際教育研究協議会, 東京, 2016年1月15日.

真田久: 嘉納治五郎. 第4回日本オリンピック・アカデミー ユースセッション, 筑波大学. 2016年12月24日.

c-1-2-2. 特別・招待講演

真田久: オリンピック教育. 台東区講演会, 東京, 2016年2月4日.

真田久: オリンピックと文化. 京都府市民フォーラム, 京都, 2016年2月11日.

真田久: 東京のオリンピック・パラリンピック教育の全校展開に当たって. 東京都オリンピック・パラリンピック教育パネルディスカッション, 東京, 2016年4月14日.

真田久: 嘉納治五郎とダイバーシティ. 日本オリンピックアカデミー研修会, 東京, 2016年5月29日.

真田久: 東京2020大会と教育プログラム. 東京都教育研修会, 東京, 2016年7月26日.

真田久: オリンピック・パラリンピック教育. 袖ヶ浦市教職員研修会, 千葉. 2016年7月28日.

真田久: 東京2020と教育. 草加市体育協会研修会, 埼玉. 2016年8月21日.

真田久: 2020年東京大会に向けた教育プログラム. みどりの市教育講演会, 群馬. 2016年8月23日.

真田久: オリンピック・ムーブメント, パラリンピック・ムーブメントにおける多様性と融合—嘉納治五郎の視点から—. 日本体育学会学際的シンポジウム I; オリンピック・パラリンピックムーブメントの融合 (インクルージョン), 一クーベルタン卿・嘉納治五郎先生とグッドマン博士の思想を振り返って—, 大阪, 2016年8月24日.

真田久: オリンピック・ムーブメントに果たす日本の役割. 日本女子体育大学特別講演, 東京, 2016年12月8日.

真田久: オリンピック・パラリンピック教育に期待すること. 東京都オリンピック・パラリンピック教

育シンポジウム，東京，2016年12月12日。

真田久：オリンピックとは何か，アシックス社内ワークショップ，東京，2016年12月16日。

真田久：嘉納治五郎校長時代の東京高師，特定非営利活動法人サロン2002公開シンポジウム，東京，2016年12月17日。

真田久：幻の東京オリンピック～アジア初のIOC委員 嘉納治五郎の功績から学ぶ～，東京都北区オリパラプロジェクト，東京，2017年3月1日。

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「オリンピック理念のアジア普及 日本の使命」，時事速報シンガポール，2016年5月16日。

「リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックの隠れた見どころ」，東京新聞，2016年7月27日。

「リオに学ぶ東京五輪の針路」，日本経済新聞，2016年9月4日。

「東京五輪へ8万人のボランティア大募集」，報知新聞，2016年9月27日。

「2020年東京大会に向けて 五輪・パラリンピック教育」，NHK水戸放送局，2016年10月7日。

「逆らわずして勝つ-ラフカディオ・ハーンと柔道」，<http://www.nippon.com/ja/column/g00397/>，nippon.com，2016年12月14日。

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「国際スポーツアカデミー形成支援事業」（スポーツ庁）

「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」（スポーツ庁）

「オリンピック・パラリンピック教材開発に関する共同研究」（大日本印刷株式会社）

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

真田久，舛本直文，來田享子，和田浩一（監修）：オリンピック・パラリンピック教育学習読本 小学校編。東京都教育庁指導部企画課，1-68，2016年3月24日。

真田久，舛本直文，來田享子，和田浩一（監修）：オリンピック・パラリンピック教育学習読本 中学校編。東京都教育庁指導部企画課，1-100，2016年3月24日。

真田久，舛本直文，來田享子，和田浩一（監修）：オリンピック・パラリンピック教育学習読本 高等学校編。東京都教育庁指導部企画課，1-123，2016年3月24日。

真田久（監修）：嘉納治五郎-オリンピックへの道-。オリンピック・パラリンピック教育映像教材（DVD），東京都教育庁指導部企画課，2016年3月24日。

真田久：IOCの教材を用いたオリンピック・パラリンピック教育の展開。教育福岡，641，1-2，2017年3月10日。

真田久：オリンピック・パラリンピック教育のねらいと概要。教室の窓，48，10-11，2016年4月1日。

真田久：オリンピック・パラリンピック教育をどう進めるか。教職研修，533，24-25，教育開発研究所，2016年12月19日。

c. 学外の教育活動

都立国分寺高校 出前講義「オリンピック・パラリンピックと今後の世界と日本」（国分寺市，2016年11月16日）

神田外語大学 全国7外語大連携通訳ボランティア育成セミナー「オリンピックの理解」（千葉市，2016年2月9日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

シンポジウム：「スポーツ芸術表現学」創生へのキックオフ「メダルデザインと大会マスコット」（2016年11月3日）

筑波大学重点公開講座「オリンピックバリューから見たスポーツの魅力」(2016年11月26日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与 (2014年～)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携検討会委員 (2014年～)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会文化教育委員会委員 (2015年～)
東京都 東京のオリンピック・パラリンピック教育を考える有識者会議座長 (2014年～2016年)
スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック教育に関する有識者会議 (2015年～2016年)
日本オリンピック・アカデミー副会長 (2015年～)
嘉納治五郎記念国際スポーツ研究交流センター理事 (2015年～)
東北アジア体育・スポーツ史学会理事 (2010年～)
スポーツ人類学会監事 (2016年～)
日本体育学会代議員 (2016年～2017年)
茨城体育学会副会長 (2015年～)
茨城県体育協会理事 (2013年～)
全日本柔道連盟 評議員選定委員会委員 (2015～2016年)

教授 清水 諭

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

清水諭：グローバリゼーションとスポーツにおける意味の変容. スポーツ社会学研究, 24(2)：41-51, 2016年10月5日.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

Peiris, D.L.I.H.K., Asare, F., **Shimizu, S.**: Preliminary Findings of an Olympic Value Education Programme (OVEP) Project in Thailand. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1(1): 123-131, 2016-10.

Rodriguez Ibanez, L.G., Takahashi, M., Peiris, D.L.I.H.K., Asare, F., Barse, A.P., Abdillah, A.L., Vasileiadou, C., Kengyel, T.S., Kosaka, M., Musah, A.W., Kawamura, S., Syed Omar, S.F.B., Kamimura, Y., Shi, Z., **Shimizu, S.**: The Possibilities of the Educational Values of Olympism: A Visit to a Tsunami Affected Area, Rikuzentakata City, Iwate, Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1(1): 132-139, 2016-10.

Takahashi, M., Musah, W., Rodriguez, L., Tsuchiya, S., Soysa, L., Yamaguchi, T., **Shimizu, S.**: Preliminary Findings for Empowering Girls through Table Tennis in Mathare, Kenya. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 150-157, 2016-10.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

清水諭：ローラント・ナウル (著), 筑波大学オリンピック教育プラットフォーム, つくば国際スポー

ツアカデミー監訳：オリンピック教育．大修館書店，2016年7月10日．

清水論：身体から社会をみつめる．たくましい心とかしこい体：身心統合のスポーツサイエンス，征矢英昭，坂入洋佑（編著），大修館書店，225-231，2016年7月30日．

清水論：オリンピックにおける身体と教育．清水論（責任編集）現代スポーツ評論，創文企画，35：8-15，2016年11月21日．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Shimizu, S.: The Olympics and Construction of Tokyo: 1964-2020. Meiji Jingu Intercultural Research Institute and Universiteit Gent, International Symposium, "Top Sport, Olympic Games and Legacies: From Antwerp 1920 to Tokyo 2020", Tokyo, 2016-10-12.

Shimizu, S.: Perspectives of SDP in Olympic Education. 2016 the 6th International Conference on Physical Education Laboratory of Chung-Ang University, "The Role of School Physical Education in Promoting Olympic Idealism", Seoul, 2016-12-1.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

清水論：アンチ・ドーピング研究教育への貢献．大学間連携によるアンチ・ドーピング研究推進のためのコンソーシアム結成記念式典シンポジウム，東京，2017年1月18日．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会代議員（2015年～）

日本体育学会体育社会学専門領域評議員（研究委員会委員長）（2015年～）

日本スポーツ社会学会理事（2015年～）

茨城体育学会理事（2015年～）

Member of the academic editorial team for Asia in the International Journal of the History of Sport, Routledge. (2013年～)

教授 清水紀宏

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

清水紀宏：オリンピックと格差・不平等．体育・スポーツ経営学研究，30：29-41，2017年3月．

朝倉雅史，清水紀宏：体育教師の学びと研修環境に関する調査研究．体育・スポーツ経営学研究，30：43-63，2017年3月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

清水紀宏：成長する地域スポーツクラブの条件．体育・スポーツ経営学研究，29：60-67，2016年3月．

清水紀宏, 成瀬和弥, 笠野英弘, 茂木宏子:「新しい公共」形成からみた日本における民間スポーツ組織の現状と課題. (代表研究者:菊幸一)「新しい公共」形成をめぐる民間スポーツ組織の公共性に関する国際比較研究, 平成25～28年度科学研究費補助金「基板研究B」研究成果報告書, 133-193, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

清水紀宏:運動部活動に求められるマネジメントとは. 友添秀則 (編著), 運動部活動の理論と実践, 大修館書店, 184-199, 2016年9月10日.

柳沢和雄, **清水紀宏**, 中西純司 (編著):よくわかるスポーツマネジメント. ミネルヴァ書房, 2017年3月31日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

清水紀宏:強い子どもたちを育むための課題と提案. 日本発育発達学会第15回大会, 岐阜, 2017年3月.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

朝倉雅史, **清水紀宏**:保健体育教師の学びと研修経営に関する研究—長期派遣研修制度に着目して—. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

柴田紘希, **清水紀宏**:総合型地域スポーツクラブ非加入者の抵抗条件に関する研究—東京都民を対象にした調査結果から—. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

崎原知美, **清水紀宏**, 柳沢和雄:東京アスリート・サイクル地域貢献モデル事業の事業評価に関する研究. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

林田敏裕, **清水紀宏**:運動部改革の推進プロセスに関する事例研究—総合運動部を設立した高等学校について—. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

熊田吾一, 柳沢和雄, **清水紀宏**:総合型地域スポーツクラブにおけるクラブ経営管理者のキャリアと管理行動に関する研究. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

島海介, **清水紀宏**, 柳沢和雄:アメリカにおける大学スポーツの統括組織に関する研究—特に, NCAAの統治能力について—. 日本体育・スポーツ経営学会第39回大会, 大阪, 2016年3月.

清水紀宏:スポーツ経営学における価値問題再考. 日本体育・スポーツ経営学会第40回大会, 鹿児島, 2017年3月.

宮田樹, 日高碧紀, **清水紀宏**:ライフステージ別に見たスポーツライフスタイル志向に関する研究—東京都民を対象にした調査結果から—. 日本体育・スポーツ経営学会第40回大会, 鹿児島, 2017年3月.

遠藤未来彦, **清水紀宏**:大学におけるスポーツ系サークルの多様性に関する研究. 日本体育・スポーツ経営学会第40回大会, 鹿児島, 2017年3月.

柴田紘希, **清水紀宏**:地域スポーツクラブにおけるミッションに関する研究—クラブの成長との関係に着目して—. 日本体育・スポーツ経営学会第40回大会, 鹿児島, 2017年3月.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「地域スポーツクラブに関する調査研究」(東京都広域スポーツセンター)

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

茨城県運動部活動外部指導者研修会講演「学校教育の一環としての運動部活動」（笠間市，2016年9月3日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会理事（2013年～）

日本体育・スポーツ経営学会理事（1985年～）

茨城体育学会理事（2013年～）

日本体育協会マネジメント資格部会員（2007年～）

第74回国民体育大会茨城県準備委員会施設整備専門委員会委員（2013年～）

教授 中 込 四 郎

教授 松 村 和 則

教授 柳 沢 和 雄

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

柳沢和雄：2020東京オリンピック・パラリンピックと体育・スポーツ経営学—「中央—周辺」論からみた構造的暴力—。体育・スポーツ経営学研究，30：1-6，2017年3月。

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

柳沢和雄：体育・スポーツ経営学における人とスポーツの関わり。体育・スポーツ経営学研究，29：49-59，2016年3月。

柳沢和雄：スポーツ庁と地域スポーツの未来。みんなのスポーツ，426：10-13，2016年9月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

柳沢和雄，清水紀宏，中西純司（編著）：よくわかるスポーツマネジメント。ミネルヴァ書房，2017年3月31日。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

柳沢和雄：スポーツ政策と文化政策—2020年以降の課題—。日本文化政策学会第10回研究大会，浜松，2017年3月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

- 崎原知美，清水紀宏，柳沢和雄：東京アスリート・サイクル地域貢献モデル事業の事業評価に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第39回大会，京都，2016年3月．
- 熊田吾一，柳沢和雄，清水紀宏：総合型地域スポーツクラブにおけるクラブ経営管理者のキャリアと管理行動に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第39回大会，京都，2016年3月．
- 山下博武，柳沢和雄：オープンリーグシステムのプロスポーツにおける人的資源管理の課題．日本体育・スポーツ経営学会第39回大会，京都，2016年3月．
- 遠藤未来彦，熊田吾一，柴田紘希，崎原知美，島海介，林田敏裕，山下博武，柳沢和雄：NASSMにおけるSport Management研究の動向～Journal of Sport Management（2010－2015年）のレビュー～．日本体育・スポーツ経営学会第39回大会，京都，2016年3月．
- 島海介，清水紀宏，柳沢和雄：アメリカにおける大学スポーツの統括組織に関する研究－特に，NCAAの統治能力について－．日本体育・スポーツ経営学会第39回大会，京都，2016年3月．
- 山下博武，柳沢和雄：プロスポーツ組織における人的資源管理の形成要因に関する研究．日本スポーツマネジメント学会第9回大会，大阪，2016年11月．
- 山下博武，柳沢和雄：プロスポーツ組織の人的資源管理に関する事例研究：Jリーグクラブのリテンション・マネジメントに着目して．日本体育・スポーツ経営学会第40回大会，鹿児島，2017年3月．
- 崎原知美，柳沢和雄：大学運動部員の特権意識が及ぼす大学生活への影響に関する研究．日本体育・スポーツ経営学会第40回大会，鹿児島，2017年3月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

- （公社）全国スポーツ推進委員連合「スポーツ推進委員リーダー養成講習会」講師：（東京，2016年2月13日・14日，延べ2日間）
- 「練馬区スポーツリーダー養成講習会」講師：（東京都練馬区，2016年4月2日）
- 独立行政法人教員研修センター「子どもの体力向上指導者養成研修」講師：（水戸市，2016年5月1日）
- 長野県体育センター「長野県新任スポーツ推進委員養成講習会」講師：（松本市，2016年5月28日，延べ1日間）
- 山梨県教育委員会「関東スポーツ推進委員研究大会山梨大会」講師（富士河口湖町，2016年6月3日・4日，延べ2日間）
- 「東京都生涯スポーツ担当者研修会」講師：（東京，2016年6月10日）
- 千葉県広域スポーツセンター「千葉県総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー養成講習会」講師（千葉市，2016年6月12日）
- 独立行政法人教員研修センター「健康教育指導者養成研修」講師（つくば市，2016年7月12-14日，延べ3日間）
- 栃木県教育委員会「栃木県総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー養成講習会」講師（宇都宮市，2016年7月23日）
- （公社）全国スポーツ推進委員連合「全国スポーツ推進委員研究競技大会福井大会」講師（鯖江市，2016年11月17日・18日，延べ2日間）
- 長野県体育センター「長野県総合型地域スポーツクラブアシスタントマネージャー養成講習会」講師（松本市，2016年11月26日・27日，延べ2日間）
- 三重県教育委員会「東海四県スポーツ推進委員研究大会」講師（伊勢市，2017年2月3日，延べ1日間）
- （公社）全国スポーツ推進委員連合「スポーツ推進委員リーダー養成講習会」講師（東京，2017年2月

11日・12日、延べ2日間)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「スポーツがわかる 20年の歩み 活動に濃淡：総合型地域スポーツクラブ」北海道新聞、（2016年10月9日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

一般社団法人日本体育学会代議員（2003年～）

（一社）日本体育学会体育経営管理専門領域会長（2008年～）

茨城体育学会理事長（2013年～）

日本体育・スポーツ経営学会会長（2012年～）

茨城県スポーツ推進審議会委員（2005年～）

第74回国民体育大会茨城県準備委員会施設整備専門委員会委員（2013年～）

教授 ラクワール ランディープ

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Singh, RK., Yabar, H., Murakami-Suzuki, R., Nozaki, N., **Rakwal, R.**: Analysis of linkages between environmental policy instruments and innovation: A case study of end-of-life vehicles technologies in Japan. *J Sustainable Development*, 9: 114-122, 2016-3.

Nagahama, K., Saito, K., Masuda, M., Ota, M., Gairola, H., Kala, SK., **Rakwal, R.**: Forest commons use in India: A case study of Van Panchayat in the Himalayas reveals people's perception and characteristics of management committee. *Environment and Ecology Research*, 4:128-139, 2016-3.

Barnabas, L., Ashwin, N., Kaverinathan, K., Trentin, AR., Pivato, M., Sundar, AR., Malathi, P., Viswanathan, R., Rosana, OB., Neethukrishna, K., Carletti, P., Arrigoni, G., Masi, A., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**: Proteomic analysis of a compatible interaction between sugarcane and *Sporisorium scitamineum*. *Proteomics*, 16: 1111-1122, 2016-4.

Hori, M., Kubo, H., Shibato, J., Saito, T., Ogawa, T., Wakamori, M., Masuo, Y., Shioda, S., **Rakwal, R.**: Unraveling the rat blood genome-wide transcriptome after the oral administration of lavender oil by a two-color dye-swap DNA microarray approach. *Genomics Data*, 8: 139-145, 2016-6.

Kim, SW., Gupta, R., Lee, SH., Min, CW., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**, Kim, JB., Jo, IH., Park, SY., Kim, JK., Kim, YC., Bang, KH., Kim, ST.: An integrated biochemical, proteomics, and metabolomics approach for supporting medicinal value of *Panax ginseng* fruits. *Frontiers Plant Science*, 7: 994, 2016-7.

Wada, N., Yamanaka, S., Shibato, J., **Rakwal, R.**, Hirako, S., Iizuka, Y., Kim, H., Matsumoto, A., Kimura, A., Takenoya, F., Yasunaga, G., Shioda, S.: Behavioral and omics analyses study on potential involvement of dipeptide balenine through supplementation in diet of senescence-

accelerated mouse prone 8. *Genomics Data*, 10: 38-50, 2016-9.

Llorens-Martín, M., Teixeira, CM., Jurado-Arjona, J., **Rakwal, R.**, Shibato, J., Soya, H., Ávila, J.: Retroviral induction of GSK-3 β expression blocks the stimulatory action of physical exercise on the maturation of newborn neurons. *Cell Mol Life Sci*, 73-18: 3569-3582, 2016-9.

Gupta, R., Lee, SJ., Min, CW., Kim, SW., Park, K-H., Bae, D-W., Lee, BW., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**, Kim, ST.: Coupling of gel-based 2-DE and 1-DE shotgun proteomics approaches to dig deeper into the leaf senescence proteome of Glycine max. *J Proteomics*, 148: 65-74, 2016-10.

Cho, K., Lee, HJ., Jo, YM., Lim, SH., **Rakwal, R.**, Lee, JY., Kim, YM.: RNA interference-mediated simultaneous suppression of seed storage proteins in rice grains. *Front Plant Sci*, 7: 1624, 2016-10.

Kengyel, TS., Ohishi, J., Okade, Y., **Rakwal, R.**: Exploring the educational value of Budō in the framework of Japanese junior high school education: From the perspective of physical education teachers in Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 1-15, 2016-10.

Syed Omar, SFB., Koike, S., Nishiyasu, T., **Rakwal, R.**: Proposed methodology for motion analysis of racket side upper limb of Badminton smash using inertial measurement units. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 24-31, 2016-10.

Gupta, R., Lee, SJ., Min, CW., Kim, SW., Park, K-H., Bae, D-W., Lee, BW., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**, Kim, ST.: Proteome data associated with the leaf senescence in Glycine max. *Data in Brief*, 9:90-95, 2016-12.

Tamogami, S., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**: Methyl jasmonate elicits the biotransformation of geraniol stored as its glucose conjugate into methyl geranate in *Achyranthes bidentata* plant. *Plant Physiology Biochemistry*, 109: 166-170, 2016-12.

Wang, Y., Gupta, R., Song, W., Huh, HH., Lee, SE., Wu, J., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**, Kang, KY., Park, SR., Kim, ST.: Label-free quantitative secretome analysis of *Xanthomonas oryzae* pv. *oryzae* highlights the involvement of a novel cysteine protease in its pathogenicity. *J Proteomics*, 2017-2. pii: S1874-3919(17)30060-X. doi: 10.1016/j.jprot.2017.02.012.

Barnabas, L., Ashwin, N., Kaverinathan, K., Trentin, AR., Pivato, M., Sundar, AR., Malathi, P., Viswanathan, R., Carletti, P., Arrigoni, G., Masi, A., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**: In vitro secretomic analysis identifies putative pathogenicity-related proteins of *Sporisorium scitamineum* - The sugarcane smut fungus. *Fungal Biology*, 121-3: 199-211, 2017-3.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

Asare, F., Sawae, Y., **Rakwal, R.**: Literature linkages between disability discrimination and sport in the last two decades. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 59-71, 2016-10.

Gupta, R., Min, CW., Wang, Y., Kim, YC., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**, Kim, ST.: Expect the unexpected enrichment of “hidden proteome” of seeds and tubers by depletion of storage proteins. *Frontiers Plant Science*, 7, 761, 2016-6.

Zargar, SM., Mahajan, R., Nazir, M., Nagar, P., Kim, ST., Rai, V., Masi, A., Ahmad, SM., Shah, RA., Ganai, NA., Agrawal, GK., **Rakwal, R.**: Common bean proteomics: Present status and future strategies. *J Proteomics*, 2017-3. pii: S1874-3919(17)30104-5. doi: 10.1016/j.jprot.2017.03.019.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体

連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Rakwal, R.: Transcriptomic and proteomic profiling of low-level gamma irradiated rice at Iitate village, Fukushima. In: Annual Meeting of The Korean Society for Applied Biological Chemistry, ICC JEJU, Jeju, South Korea, 2016-7-16-18.

Rakwal, R.: Shared Vision and Cooperation on Applied Olympic Education and Research: University of Tsukuba and MRIU – India and Japan. INDO JAPANESE CONCLAVE III, “Olympism for Humanity Restoration Enterprise: Academic Legacy Goals, Scope and Foundation-Towards Tokyo 2020”, Manav Rachna International University (India) in association with University of Tsukuba (Japan), Faridabad, India, 2017-2-13-14.

准教授 ウバイドゥロエフ ズバイドゥロ

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

Sanada, H., **Ubaidulloev, Z.**, Egami I.: Visit of delegation from the Tsukuba International Academy for Sport Studies (TIAS) and Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba to the Academic and Sport Organizations in Republic of Tajikistan on 12-17 March 2016. *The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba*, 40, 81-86, 2017-3.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Ubaidulloev, Z.: History, achievements and international programs of the Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba and opportunities for cooperation with Tajikistan. The 1st Tajikistan-Japan Symposium in Sport and Physical Education, Dushanbe, Tajikistan. 2016-3-14.

Ubaidulloev, Z.: History, achievements and structure of the University of Tsukuba in sport sciences and physical education and opportunities for cooperation with Brazil. Sao Paulo, Brazil, 2016-9-9.

Ubaidulloev, Z.: India-Japan Relations: A new phase of friendship and cooperation in the 21st century. Indo-Japanese Conclave – III “Olympism for Humanity Restoration Enterprise: Academic Legacy Goals, Scope and Foundations Towards Tokyo 2020”, Haryana, India, 2017-2-13-14.

Ubaidulloev, Z.: International Cooperation and Peace through Sport in Eurasia”. Amman, Jordan, 2017-3-5-6.

Ubaidulloev, Z.: University of Tsukuba: An open, transboundary and global university. Saudi Arabian Olympic Committee, Riyadh, Saudi Arabia, 2017-3-8.

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kengyel, S.T., *Ohishi, J., Okade, Y., Rakwal, R.: Exploring the Educational Value of Budō in the Framework of Japanese Junior High School Education: From the Perspective of Physical Education Teachers in Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1-1: 1-15, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

大石純子：国際開発における剣道の現状と可能性. 筑波大学体育系紀要, 39: 1-12, 2016年3月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「History and Current situation of Ladies Kendo in Japan」依頼講演（英語）, (Ladies Kendo Seminar of the German Kendo Federation, Frankfurt Hoechst, 2017年3月4日)

「Ladies Kendo Seminar of the German Kendo Federation」指導（英語）, (ドイツ Frankfurt Hoechst, 2017年3月4日5日, 2日間)

3. 競技活動

b. 指導業績（部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

剣道部副部長

第64回全日本学生剣道優勝大会, 第3位. エディオンアリーナ大阪 (大阪府立体育館), 2016年10月9日.

第17回関東女子学生剣道新人戦大会, 第3位. 東京武道館, 2016年12月3日.

第55回全日本女子剣道選手権大会, ホワイトリング長野市真島総合スポーツアリーナ, 2016年9月11日.
準優勝, 大西ななみ.

第50回全日本女子学生剣道選手権大会, 日本武道館, 2016年7月2日.

準優勝, 木宮凜々子.

第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会, 日本武道館, 2016年7月16日.

準優勝, 岐阜県次鋒; 二宮恭子.

第65回関東学生剣道選手権大会, 日本武道館, 2016年5月8日.

準優勝, 加納彰大.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

財団法人全日本剣道連盟 総務・資料小委員会 (東日本) 委員 (2009年4月～)

身体運動文化学会 常任理事 (2010年4月～2016年10月)

身体運動文化学会 副理事長 (2016年10月22日～)

日本武道学会剣道専門分科会 幹事 (2014年4月～)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

第48回関東女子学生剣道選手権大会 審判：東京武道館：2016年5月14日

第10回全日本女子学生剣道東西対抗試合 東軍助監督：日本武道館：2016年7月2日

第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会 審判：日本武道館：2016年7月16日

第42回関東女子学生剣道優勝大会 審判：東京武道館：2016年9月17日

第35回全日本女子学生剣道優勝大会 審判：春日井市総合体育館：2016年11月13日

第17回関東女子学生剣道新人戦大会 審判：東京武道館：2016年12月3日

准教授 齊藤 まゆみ

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

福田崇, 坂本昭裕, 齊藤まゆみ, 澤江幸則, 春名純：共通体育「トリム運動」での障害学生における体力向上の可能性～脊椎損傷者のトレーニング効果について～. *大学体育学研究*, 38：21-28, 2016年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

齊藤まゆみ, 犀川桜：中学校におけるインクルーシブ体育に関する事例研究(2)～聴覚障害のある生徒の行動に着目して～. *アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1(1)：3-6, 2016年3月.

榎本優子, *齊藤まゆみ：棒高跳びにおいてデフアスリートが活用できる情報の検討. *アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1(1)：34-37, 2016年3月.

牧舞美, *齊藤まゆみ, 澤江幸則：日本におけるパラリンピック教育の方向性：プログラム内容の検討をもとに. *アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1(1)：30-33, 2016年3月.

齊藤まゆみ：障がいのある子どもの意欲を引き出す運動指導. *コーチングクリニック*, ベースボールマガジン社, 62-65, 2016年3月.

宮本俊和, 河合純一, *齊藤まゆみ：ブラインドアスリートの発掘と育成に関する現状と課題. 筑波大学ブラインドパラスポーツミーティング. *日本財団パラリンピック研究会紀要*, 5：43-51, 2016年4月.

齊藤まゆみ：パラリンピック選手を対象としたコンディショニング. *バイオメカニクス研究*, 20(2)：78-83, 2016年10月.

齊藤まゆみ：パラリンピックと国内の障がい者スポーツの動向. *ヒューマンインタフェース学会誌*, 18(4)：191-193, 2016年10月.

齊藤まゆみ, 橘香織：競技スポーツと練習環境. *体育の科学*, 67(1)：1-5, 2017年1月.

齊藤まゆみ, 三枝巧：競技スポーツと指導者の進化. *体育の科学*, 67(2)：119-123, 2017年2月.

齊藤まゆみ：誰もが主役！アダプテッド・スポーツ. *身体障害児・者とスポーツ. すべての人の社会*, 36(11)：8-9, 2017年3月.

齊藤まゆみ：リオパラリンピック観戦報告. *筑波大学体育系紀要*, 40：71-74, 2017年3月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-1. 英文のもの

Hodge, S, R., Hersman, B., Jihyun, L., Silva, A, A, C., **Saito M.**, Sato, T., Haegele, J, A.: Students with Disabilities in Brazil, Japan, South Korea, and the United States. Inclusive Physical Activities: International Perspectives, Information Age Publish, 2017-3.

b-2. 和文のもの

齊藤まゆみ：特別支援教育時代の体育指導。後藤邦夫（編），大修館書店，2016年2月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Kokubu M., Mieda, T., **Saito M.**: Spatial trajectories and accuracy of goal-directed stepping response to auditory stimuli in football players. 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11.

c-1-1-4. ポスター発表

Saito M., Fujita, M., Kawanishi, M.: Sports carrier of Japan's ParaSport athletes; how they became involved in ParaSport. 14th Asian Society of Adapted Physical Education and Exercise Symposium, Gyeongsan, 2016-8.

Mieda, T., Kokubu M., **Saito M.**: A study on auditory reaction time and auditory localization accuracy in football players. 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

齊藤まゆみ：インクルーシブな社会形成に向けた体育・スポーツの可能性と役割。“アダプテッド/医療/障がい者”体育・スポーツ合同コンgres, 岩見沢，2016年7月。

牧舞美，*齊藤まゆみ，澤江幸則：日本におけるパラリンピック教育の方向性-プログラム内容の検討をもとに。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

中山美月，*齊藤まゆみ，澤江幸則：日本におけるパラリンピック教育の方向性-プログラム内容の検討をもとに。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

佐藤寛哉，*齊藤まゆみ，澤江幸則：ブラインドランナーの練習環境。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

門脇翠，*齊藤まゆみ，澤江幸則：デフアスリートの視点によるデフスポーツ意義の検討。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

時光秀明，*齊藤まゆみ，澤江幸則：特別支援教育における武道の実施状況と課題に関する研究。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

c-1-2-4. ポスター発表

齊藤まゆみ，藤田紀昭，河西正博：ジャパンパラ2015（水泳・陸上）出場選手を対象とした障害者アスリートのスポーツキャリアに関する調査：性差に着目して。“アダプテッド/医療/障がい者”体育・スポーツ合同コンgres, 岩見沢，2016年7月。

藤田紀昭，齊藤まゆみ，河西正博：ジャパンパラ競技大会（陸上競技および水泳）参加選手の障害種別にみたスポーツ実施状況およびスポーツキャリアの違いに関する研究。“アダプテッド/医療/障がい者”体育・スポーツ合同コンgres, 岩見沢，2016年7月。

河西正博，藤田紀昭，齊藤まゆみ：ジャパンパラ競技大会2015（水泳・陸上）出場選手を対象とした障

害者アスリートのスポーツキャリアに関する調査－障害種別・受傷時期に着目して．“アダプテッド/医療/障がい者” 体育・スポーツ合同 kongress, 岩見沢, 2016年7月.

澤江幸則, 齊藤まゆみ, 金山千広, 加藤彩乃, 田中暢子, 杉山文乃: パラリンピック教育に対する教師の意識～インクルーシブ体育の意義との関連をもとに～. “アダプテッド/医療/障がい者” 体育・スポーツ合同 kongress, 岩見沢, 2016年7月.

c-4. 研究成果による受賞

アダプテッド・スポーツ科学専門領域奨励賞 (時光秀明, *齊藤まゆみ, 澤江幸則: 特別支援教育における武道の実施状況と課題に関する研究. 2016年8月.)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「地域における障害者スポーツ普及促進事業 (障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」(文部科学省, 笹川スポーツ財団)

「ハイパフォーマンスサポート事業 (パラリンピック競技) 研究開発」(スポーツ庁)

「障害者スポーツの振興と強化に関する調査研究」(公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団)

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「茨城県障害者スポーツ指導者養成講習会」講師 (笠間市, 2016年1月, 2017年1月)

「運動技能を高めるための運動指導の在り方. 茨城県特別支援学校体育連盟講習会」(土浦市, 2016年2月18日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「注目を集める障がい者スポーツ (筑波大学新聞328号)」(2016年5月16日発行)

「アダプテッド・スポーツの楽しみ方 (TSUKUBA FUTURE#64)」(2016年9月)

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

筑波大学公開講座 現職教員講座「さまざまな障害の子どもたちの体育指導」(2016年8月3～5日)

筑波大学公開講座 重点公開講座「めざせ! オリパラバリエーター」(2016年11月26～27日)

筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学研究室「たいそう教室」(2016年1月～2017年3月, 延べ50日間)

筑波大学障がい者のためのスポーツイベント「つくりんピック2016」(2016年12月10日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

一般社団法人 日本体育学会理事 (2013年～)

日本体育学会 アダプテッド・スポーツ科学専門領域評議員 (2008年～)

日本アダプテッド体育・スポーツ学会理事 (2008年～)

Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise Director (2015年～)

公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団調査研究委員会委員 (2012年～)

公益財団法人 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会大学連携検討委員会委員 (2015年～)

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会科学委員会委員 (2016年～)

いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会実行委員会 全国障害者スポーツ大会専門委員会委員 (2016年～)

茨城県障がい者スポーツ研究会会長 (2016年～)

茨城体育学会理事（2015年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

障がい児・者を対象とした運動教室：茨城県・つくば市：4月から12月（毎週1回）

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ、大会運営など

三大学連携障がい者のためのスポーツイベント企画運営：茨城県・つくば市，阿見町：11月23～12月10日

茨城県特別支援学校体育連盟スポーツ大会審判・運営補助：茨城県・つくば市：11月10日

日本知的障害者水泳連盟強化練習支援スタッフ：茨城県・つくば市：4月

e. 社会貢献活動に関するプレスリリース（筑波大学，所属学会，協会等によるもの）

シンポジウム「障害者スポーツ選手発掘・育成システムのモデル構築に向けて」（ヤマハ発動機スポーツ振興財団，11月5日）

准教授 嵯 峨 寿

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

奈良隆章，金谷麻理子，*嵯峨寿，松元剛，木内敦詞：テキストマイニングによる大学体育授業の教育目標に関する肯定的認知度分析．*大学体育研究*，39：45-52，2017年3月．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本レジャー・レクリエーション学会常任理事（1996年～）

日本オリンピック委員会事業専門部会員（2005年～）

日本オリンピック・アカデミー理事（2006年～）

学生氷上競技連盟副会長（2015年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

日本オリンピック・アカデミー主催第39回JOAセッション実行委員長：東京・立教大学：12月11日

准教授 澤 江 幸 則

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

An, M., Sawae, Y.: A Case Study of a Social Welfare Organization (Japanese Sun Industries) for people with Disabilities in Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1(1): 140-149,

2016-10.

Asare, F., **Sawae, F.**, Randeep, R.: Literature Linkages between Disability Discrimination and Sport in the Last Two Decades. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1(1): 59-71, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

澤江幸則, 村上祐介: 学齢期における発達障害のある子どもの運動発達上の困難さとその支援. *臨床発達心理実践研究*, 11(1): 21-26, 2016年7月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

土井畑幸一郎, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 知的障害のある児童生徒が在籍する特別支援学校小学部・中学部におけるトランポリン運動の実施状況. *日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1: 10-13, 2016年3月.

杉山文乃, 澤江幸則, 村上祐介, 土井畑幸一郎: 青年期・成人期における知的障害者の生涯スポーツ実践に関する実践研究. *日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1: 14-17, 2016年3月.

加藤彩乃, 澤江幸則: 青年期・大学生の「障害」の認識に影響を与える授業スタイルの検討Ⅰ. *日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1: 26-29, 2016年3月.

牧舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本におけるパラリンピック教育の方向性: プログラム内容の検討をもとに. *日本体育学会アダプテッド・スポーツ科学専門領域オンラインジャーナル*, 1: 30-33, 2016年3月.

澤江幸則: わかる・できる・やりたいと思える体育授業とは. *実践障害児教育*, 44(1): 10-13, 2016年7月.

澤江幸則: パラリンピックの教材としての価値. *体育科教育*, 64(10): 44-47, 2016年10月.

澤江幸則: 発達障害のある子の特性と授業で求められる配慮点. *楽しい体育授業*, 29(3): 34-37, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Hagiwara, T., Kanayama, C., Saito, M., **Sawae, Y.**, Katou, A., Sugiyama, A.: Changes in the Japanese Elementary School Teachers' Perception of Inclusive Physical Education: Comparison between 2006 and 2015. The 14th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Korea, 2016-7.

Doihata, K., **Sawae, Y.**, Murakami, Y., Sugiyama, A.: Assessment of a Child with Autism Spectrum Disorder on the Developmental Change of Gross Motor Skills by Using Test of Gross Motor Development Second Edition: A Case Study. The 14th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Korea, 2016-7.

Katou, A., **Sawae, Y.**: Relationship between University Students and People with Intellectual Disabilities through Sports. The 14th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Korea, 2016-7.

Sugiyama, A., **Sawae, Y.**, Doihata, K.: Assessment of Motor Development on Children with Intellectual Disability: By Use of The Test of Gross Motor Development 2nd Ed.. The 14th International Symposium of the Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise, Korea, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

Sawae, Y.: Inclusive Sport Event “NANAIRO-EKIDEN” Project from Japan. 2nd South Korea-Japan Symposium of Adapted Physical Education and Activity, 2016-7.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

澤江幸則: 体育指導場面における発達障害学生. 第4回大学体育研究フォーラム, 茨城, 2016年3月.

土井畑幸一郎, 澤江幸則, 杉山文乃: Test of Gross Motor Developmentを用いた運動発達支援の可能性について (1) 自閉症スペクトラム障害児における一事例研究を通して. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

柳澤佳恵, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 通所施設における健康増進活動の在り方. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

時光秀明, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 特別支援教育における武道の実施状況と課題に関する研究. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

稗田優志, 澤江幸則, 齊藤まゆみ: 文献研究による日本のインクルーシブ体育の現状と課題. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

齋藤宣子, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 発達障害児における運動活動参加行動の変容についての研究 逸脱行動に着目して. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

村上祐介, 澤江幸則, 杉山文乃, 土井畑幸一郎: 課題指向型アプローチを通じた発達性協調性運動障害児の心理的変容. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

牧舞美, 齊藤まゆみ, 澤江幸則: 日本におけるパラリンピック教育の方向性 プログラム内容の検討をもとに. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

c-1-2-4. ポスター発表

澤江幸則, 土井畑幸一郎, 杉山文乃: Dual Taskにおける注意欠如多動性障害児の運動特性について (1) 一事例: きょうだい児との比較を通して. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

澤江幸則, 木塚朝博, 杉山文乃, 三田沙織: 身体性コンピテンスからみた子ども理解 (1) 一対人協働課題と新体力テストの結果との関連に着目して-. 日本教育心理学会第58回総会, 香川, 2016年10月.

c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学, 所属学会, 協会等によるもの）

澤江幸則: 自閉症のある人にとってのスポーツ大会開催～第1回ミャンマー自閉症スポーツ大会に開催して～. いとしご, 163:6-7, 2017年3月.

澤江幸則: 発達障害のある子どもたちとスポーツ. すべての人の社会, 441:8-9, 2017年3月.

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書, 副教材等

真田久, 江上いずみ, 澤江幸則, 藤川大祐, 佐野慎輔 監修: 国際社会での活躍に向けた道徳教材 スポーツを通じて学ぶ「共生社会」. 大日本印刷, DVD, 2016年12月.

c. 学外の教育活動

UCFC ジョイア ジョイア勉強会 「障害のある人のスポーツの日常化をめざして ～知的・発達障害のある子どもとの実践を通して～」 (つくば市, 2016年4月17日)

三鷹市障がい児水泳教室主催 障害特性に合わせた指導のあり方や制御方法, 対処方法等について 「発達障害のある子どものための運動発達支援とは」 (三鷹市, 2016年4月24日)

NPO 法人トラッソス主催 発達性協調運動障がい (DCD) セミナー ～不器用な子ども達へのアプロー

チ～ 特別講演（三鷹市，2016年5月21日・22日）

武蔵野東教育センター主催 支援者のためのセミナー 「発達障害のある子どもの運動の困難さと支援～自閉症スペクトラム障害を中心に～」（武蔵野市，2016年5月27日）

あくあとちぎ主催 発達障害のある子どものための運動発達支援とは（栃木市，2016年6月11日）

東京都立城東職業能力開発センター主催 「知的発達障害～訓練指導現場での困りごと～」（東京都足立区，2016年6月29日）

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会・一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会主催 平成28年度東京都初級障がい者スポーツ指導員養成講習会（東京都品川区，2016年8月7日）

公益社団法人発達協会主催 実践セミナーK 特別な関わりが必要な子への保育・教育 合理的配慮も含めて 「運動あそびと体づくり」 講師（東京都品川区，2016年8月8日）

公益社団法人茨城県看護協会 発達障害の早期発見・発達支援研修会「発達性協調運動障害の理解と対応」（水戸市，2016年10月26日）

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会・一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会主催 平成28年度東京都中級障がい者スポーツ指導員養成講習会（東京都北区，2016年10月28日）

NPO法人えじそんくらの会・茨城『ハナミズキ』主催 講演会「発達障がい（ADHD等）のある子どもの運動発達の特性と支援」実践編（入間市，2016年11月5日）

茨城県障がい者スポーツ研究会 第12回茨城県障がい者スポーツ研究会 「リオ・パラリンピックとブラジル国内の障害者対策」（つくば市，2016年11月13日）

公益社団法人東京都障害者スポーツ協会共催 東京都障害者スポーツセミナー 講義「知的障害・発達障害児者のスポーツ指導」 実技「障害のある人と一緒にスポーツをしよう！」（武蔵野市，2016年12月4日）

茨城県障がい者スポーツ・文化協会 平成28年度初級障がい者スポーツ指導員養成講習会（水戸市，2017年1月21日）

東京都障害者スポーツ協会主催 初級障害者スポーツ指導員養成講習会（東京都北区，2017年1月26日）

一般社団法人幼少年体育指導士会主催 第10回 幼少年体育指導士認定講座 「配慮が必要な子どもの指導」（新座市，2017年2月18日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学心理発達教育相談室 相談業務（2012年～）

筑波大学教員免許状更新講習 特別支援学校における体育 ～障害のある子どもも“いきいき”できる体育活動をめざして～（2016年6月19日）

平成28年度筑波大学公開講座 「さまざまな障害の子どもたちの体育指導」 講師（2016年8月4日）

筑波大学重点公開講座 めざせ！オリパラバリューメンター 「パラリンピックバリューからみたスポーツの魅力」 講師（2016年11月26日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本発達心理学会「発達障害」分科会 監事（2015年～）

日本体育学会 アダプテッド・スポーツ科学専門領域 評議員（2014年～）

日本アダプテッド体育・スポーツ学会 理事（2014年～）

日本臨床発達心理士会 埼玉支部 役員（2006年～）

日本臨床発達心理士会 「臨床発達心理実践研究」常任編集委員会 委員（2014年～）

横浜市戸塚地域療育センター運営協議会 会長（2008年～）

附属大塚特別支援学校 学校研究 講師 (2009年～)

障害者ディスクゴルフ協会 会長 (2011年～)

東京都立南花畑特別支援学校運営連絡協議会 委員 (2014年～)

東京都立南花畑特別支援学校調査委員会 委員 (2014年～) 委員長 (2014年～2016年)

東京都立調布特別支援学校 分科会研修「動きの良い体づくり」分科会 講師 (2014年～)

東京自閉症協会主催「エンジョイアウトドスポーツ」プログラム監修 (2015年～)

c. ボランティア活動

c-1. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

アインシュタインクラブ主催家族参加型スポーツ教室「アインげんきキッズ」指導 (2016年1月～2017年3月, 延べ15回)

筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学研究室主催「つくばユースMDC」指導 (2016年1月～2017年3月, 延べ15回)

筑波大学アダプテッド体育・スポーツ学研究室主催「障害者の健康増進活動推進を目的としたポールウォーキング活動」指導 (2016年3月～2017年3月, 延べ15回)

5. 公共機関、企業等からの委託業務 (1. 研究業績の“c-5”以外のもの)

巡回相談 (つくば市立久保台小学校) 2016年7月7日.

校内研修会 講師 (茨城県立美浦特別支援学校) 2016年7月.

巡回相談 (龍ヶ崎市立八原小学校) 2016年7月.

校内研修会 講師 (埼玉県立騎西特別支援学校) 2016年7月.

小学部部内研究会 講師 (千葉県立富里特別支援学校) 2016年7月13日.

校内研修 (茨城県立つくば特別支援学校) 2016年7月14日.

自立活動に関する授業改善研修 (茨城県立つくば特別支援学校) 2016年7月19日.

校内研修会 講師 (つくば市立久保台小学校) 2016年8月.

巡回相談 (つくば市立久保台小学校) 2016年9月.

巡回相談 (福島大学附属特別支援学校) 2016年9月.

巡回相談 (つくば市立紫峰学園田井小学校) 2016年9月15日.

校内研修会 講師 (千葉県立富里特別支援学校) 2016年10月.

巡回相談 (福島大学附属特別支援学校) 2016年10月.

巡回相談 (龍ヶ崎市立八原小学校) 2016年10月.

校内研修 (茨城県立つくば特別支援学校) 2016年10月25日.

第55回全国高等学校体育研究大会福島大会 第11分科会特別支援学校・指導助言 (公益財団法人日本学校体育研究連合会) 2016年11月11日.

平成28年度茨城県特別支援学校体育連盟体育研究会 講師 (茨城県教育委員会) 2016年12月16日.

研究授業 (茨城県立つくば特別支援学校) 2017年1月.

巡回相談 (つくば市立紫峰学園田井小学校) 2017年2月.

巡回相談 (龍ヶ崎市立八原小学校) 2017年2月.

巡回相談 (つくば市立久保台小学校) 2017年2月.

校内研修 (茨城県立伊奈特別支援学校) 2017年2月.

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Barse, A.P., *Takahashi, Y.: Partnership Conditions in a Sport Related Cause Marketing Relationship. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 32-43, 2016-10.

Shi, Z., *Takahashi, Y., Geisler, G.: The Training Systems of Football Youth Prospects in China and Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 106-114, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

塚本拓也, 吉野次郎, 藤村慎也, *高橋義雄: 国際的なスポーツマネジメント人材を育成する大学院プログラムの差異及び競争戦略に関する研究. *スポーツ産業学研究*, 27(1), 17-30, 2017年1月.

a-1-3. その他の外国語のもの

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

高橋義雄: スポーツイベントを地域の活性化につなげるためには. *住民行政の窓*, 433: 2-8, 2016年10月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

塚本拓也, 岡部恭英, 金子史弥, 高橋義雄: 国際スポーツ組織で働こう!. 日経BP, 2016年12月.

高橋義雄: スポーツビジネスの周辺知識. 最新スポーツビジネスの基礎 スポーツ産業の健全な発展を目指して, 同文館出版, 201-206, 2016年12月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「第2回上川総合振興局管内スポーツ合宿誘致推進協議会 スポーツによる地域振興と魅せるスポーツイベントとは?」: 北海道・網走市: 2016年2月5日.

「公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会第16回シンポジウム スポーツ庁への期待」: 東京都・千代田区: 2016年3月3日.

「平成28年運動部活動テクニカルサポート事業 指導者講習会 スポーツ学からみたこれからの運動部活動」: 秋田県・秋田市: 2016年7月3日.

「第4回JSTAセミナー in 静岡県 スポーツツーリズムによる地域活性化」: 静岡県・静岡市: 2016年7月15日.

「多摩大学グローバルスタディーズ学部FD研修 スポーツツーリズムとは?」: 神奈川県・藤沢市: 2016年7月21日.

「2016年度第5回JSTAセミナー 地域活性化とスポーツツーリズム」: 東京都・江東区2016年8月2日.

「日中韓スポーツ大臣会合 日中韓スポーツ産業フォーラム」: 韓国・ピョンチャン: 2016年9月23日.

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

『『もしもし, 矢野ですけど』(矢野きよ実の朝は矢野流)』, 東海ラジオ (2016年4月～毎週火曜日)

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学男子ソフトボール部長

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

スポーツの産業化促進議員連盟アドバイザーボードメンバー（2016年～）

スポーツ庁スポーツ未来開拓会議委員（2016年～）

スポーツ庁スポーツ経営人材プラットフォーム協議会座長（2016年～）

スポーツ庁大学スポーツの振興に関する検討会議タスクフォース委員（2016年～）

スポーツ庁平成28年度スポーツ政策調査研究事業選定委員会委員（2016年）

経済産業省産業構造審議会臨時委員（2016年～）

秋田県スポーツ推進審議会委員（2016年～）

豊田市スポーツ推進審議会会長（2015年～2016年）

日本体育協会総合企画委員会企画部会部員（2016年～）

日本体育協会東京オリンピック・パラリンピック支援室プロジェクト委員（2016年～）

日本卓球協会評議員（2016年～）

日本スポーツツーリズム推進機構理事（2012年～）

日本スポーツ産業学会理事（2016年～）

日本体育・スポーツ政策学会理事（2016年～）

アリーナスポーツ協議会理事（2015年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

FLVチアゲームス2017ゲスト審査員：東京都・渋谷区：2017年3月18日

准教授 仲 澤 眞

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Nakazawa, M., Yoshida, M., Gordon, B.S.: Antecedents and Consequences of Sponsor-Stadium Fit: Empirical Evidence from a Non-Historic Stadium Context in Japan. *Sport, Business, and Management: An International Journal*, 6(4), 407-423, 2016.-

Yoshida, M., Nakazawa, M.: Innovative sport consumption experience: An empirical test in spectator and participant sports. *Journal of Applied Sport Management*, 8(1), 1-21, 2016.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

仲澤眞，吉岡那於子：現地調査。日本スポーツマスターズ2016大会報告書，136-139，公益財団法人日本体育協会，2017年3月24日。

仲澤眞（監修）：Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート，公益社団法人日本プロサッカーリーグ，1-64，2016年2月18日。

仲澤眞（監修）：*Jリーグスタジアム観戦者調査2016サマリーレポート*，公益社団法人日本プロサッカーリーグ，1-64，2017年2月15日。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

吉田政幸，押見大地，加藤清孝，仲澤眞：スポーツマネジメント研究の本質と研究公開の促進．日本スポーツマネジメント学会第9回大会，大阪，2016年12月20日。

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「FMPORTスポーツスペシャル・リアルアルビ」，新潟県民エフエム，2017年3月10日。

c-4. 研究成果による受賞

平成28年度日本スポーツマネジメント学会学会賞（受賞論文：仲澤眞，吉田政幸：ファンコミュニティの絆：プロスポーツにおけるファンコミュニティ・アイデンティフィケーションの先行要因および結果要因の検証．*スポーツマネジメント研究*，7(1)：23-38，2016年12月20日。）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）
「プロサッカーの観戦行動に関する調査研究」（(公社)日本プロサッカーリーグ）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

(独)日本スポーツ振興センター・スポーツ振興基金助成審査委員会委員（2003年～）

(公財)日本体育協会・公認スポーツ指導者養成講師（スポーツと社会）（2005年～）

(公財)日本体育協会・生涯スポーツ推進専門委員会委員（2015年～）

(公財)日本体育協会・日本スポーツマスターズ委員会委員（2015年～）

(公財)日本体育協会・日本スポーツマスターズ委員会ワーキンググループ座長（2015年～）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

「日本スポーツマスターズの大会のあり方」に対するワーキング（公財日本体育協会）2015年～

准教授 長谷川 悦 示

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Hasegawa, E.: Combining the tactical games approach, cooperative learning, and the sport education model for elementary school physical education in Japan. 6th International TGfU Conference, Deutsche Sporthochschule Köln, 2016-7.

c-1-1-4. ポスター発表

Hasegawa, E.: Application development to analyze the teaching-learning process in physical education

lessons. 2016 AIESEP International Conference, Wyoming, 2016-6.

Hasegawa, E., Kiuchi, A., Kawato, Y., & Kajita, K.: Analyzing and visualizing teaching-learning process to improve PE classes and teacher education. The 2016 International Conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy, Taipei, 2016-12.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

長谷川悦示, 中川宏美, 川戸湧也: 戦術学習モデルによるボール運動授業における有効な学習指導方略の検討: 「きょうだいチーム制」と「スポーツ教育モデル」の適用. 日本スポーツ教育学会第37回大会, 和歌山, 2016年10月.

川戸湧也, *長谷川悦示, 木内敦詞, 梶田和宏: 大学体育における柔道授業の現状に関する探索的研究: 国公立大学のシラバス分析から. 日本スポーツ教育学会第37回大会, 和歌山, 2016年10月.

川戸湧也, 梶田和宏, *長谷川悦示, 木内敦詞: 大学体育における柔道授業の実施状況と課題. 第5回大学体育研究フォーラム, 沖縄, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

川戸湧也, *長谷川悦示: 中学校体育におけるマット運動授業と連結した柔道単元の授業実践の成果と課題. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）
「大学等との連携による体育の活性化事業」（茨城県北茨城市教育委員会）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「東京都葛飾区立松上小学校体育科研究会」年間講師（東京都葛飾区, 2016年4月～2017年2月, 延べ7日間）

「東京都江東区立豊洲西小学校体育科研究会」年間講師（東京都江東区, 2016年6月～11月, 延べ5日間）

「東京都江東区立東砂小学校体育科研究会」年間講師（東京都江東区, 2016年5月～11月, 延べ6日間）

「北茨城市教育委員会保健体育授業研究会」講師（北茨城市, 2016年5月～2017年2月, 延べ9日間）

「長野県佐久体育同好会」講師（佐久市, 2016年11月24日）

「東京都葛飾区小学校体育研究会」講師（東京都葛飾区, 2016年11月9日, 12月8日）

「東京都江東区保幼少中実技研修会」講師（東京都江東区, 2017年1月18日）

「埼玉県行田市立北小学校体育科研究会」講師（行田市, 2017年1月26日）

「葛飾区立西亀有小学校体育科研究会」講師（東京都葛飾区, 2017年2月9日）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学男子・女子アイスホッケー部顧問

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ教育学会理事（2000年～）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

深澤浩洋：スポーツにおける拡大経験の意味づけ—知覚・感覚論と自他の関係性をめぐって—。体育・スポーツ哲学研究，38（2）：117-132，2016年12月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

深澤浩洋：第7章 運動文化論。電気通信大学健康・スポーツ科学部会（編），大学生のための「健康」論—健康・運動・スポーツの基礎知識，道和書院，133-148，2016年3月1日。

深澤浩洋：第2章 体育原理はどのような学問か。友添秀則・岡出美則（編著），教養としての体育原理 新版—現代の体育・スポーツを考えるために，大修館書店，8-13，2016年7月20日。

深澤浩洋：第I部2 フェアプレイの精神とは何か。友添秀則（編），よくわかるスポーツ倫理学，ミネルヴァ書房，20-33，2017年3月31日。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

深澤浩洋：コーチ育成に向けたモデル・コア・カリキュラムにみるコーチングの理念・哲学。日本体育学会体育哲学専門領域箱根夏期合宿研究会，箱根，2016年7月。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会指導者育成・資格特別委員会 委員（2015年～）

日本体育学会 代議員（2013年～），IJSHS 編集委員会 委員（2013年～）

日本体育学会体育哲学専門領域運営委員会 委員長（2013年～）

日本体育・スポーツ哲学会 理事（2006年～）

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

三木ひろみ：「多様な動きをつくる運動（遊び）」の動きの評価について。第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月。

c-1-2-4. ポスター発表

河野禎之・三木ひろみ：の女子中高生の理系進路選択支援の取組みと課題～筑波大学とつくば女性研究

者支援協議会の事例から～．平成28年度男女共同参画推進フォーラム，埼玉，2016年8月．
三木ひろみ：バスケットボール授業における中学生の思考力・判断力の向上．第36回日本スポーツ教育学会大会，和歌山，2016年10月．
鈴木司，**三木ひろみ**：Harter (1982)の4下位尺度の観点から考える体育授業における有能感の検討－現職教員へのインタビューから．第36回日本スポーツ教育学会大会，和歌山，2016年10月．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育科教育学会理事（2009年～）

日本スポーツ教育学会理事（2009年～）

茨城体育学会理事（2015年～）

日本体育学会評議員（2015年～）

「体育科教育学研究」編集委員会委員長（2015年4月～2017年3月）

平成27年度全国体力・運動能力，運動習慣調査に関する検討会委員（2015年5月～2016年3月）

文部科学省委託事業「地域を活用した学校丸ごと子供の体力向上推進事業」いばキラっ子ゆめ・元気アップコンソーシアム企画委員会委員（2015年6月～2016年3月）

高等学校学習指導要領実施状況調査結果分析委員会委員（2016年1月～2016年3月）

d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

理系女性研究者と交流リケジョサイエンス女子中高生120人が合宿（常陽新聞，8月5日）

准教授 三田部 勇

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

三田部勇：保健体育科の教員採用状況と今後の教員養成・採用についての一考察．筑波大学体育系紀要，40：57-64，2017年3月．

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

三田部勇：保健体育科の教員養成制度．柳沢和雄，清水紀宏，中西純司（編著），よくわかるスポーツマネジメント，ミネルヴァ書房，196-197，2017年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

三田部勇：保健体育科教員の養成・採用・育成の一貫性についての検討．第36回スポーツ教育学会，和歌山，2016年10月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「つくば市体育・保健体育研究部研修会」指導（つくば市，2016年1月15日）

「体育・保健体育授業づくりのための研修会：体づくり運動」指導（愛媛県，2016年7月29日）

「茨城県学校体育実技指導者講習会：ゴール型」指導（水戸市，2016年8月2日）

「巨摩夏季教育研究会体育研究会（体育実技研修会）」指導（山梨県，2016年8月5日）

「ひたちなか市体育・保健体育研究部夏季体育実研修会：体づくり運動」指導（ひたちなか市，2016年8月9日）

「夏季校内研修：体育科」指導（東海村，2016年8月9日）

「体育・保健体育授業づくり講習会：体づくり運動」指導（高知県，2016年8月17日）

「印西市教育センター 小・中学校体育科理論研修会」指導（千葉県，2016年8月30日）

「つくば市体育・保健体育研究部研修会」指導（つくば市，2016年10月20日）

「体育授業アドバイザー派遣事業：体づくり運動」指導（古河市，2016年11月17日）

「体育授業アドバイザー派遣事業：体づくり運動」指導（日立市，2016年11月18日）

「体育授業アドバイザー派遣事業：体づくり運動」指導（ひたちなか市，2016年11月21日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」

「教員採用試験に向けた勉強会」（2016年4月～2017年3月，延べ36回）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城県学校体育推進委員会委員（2016年5月～2017年3月）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

戦略的の二国間スポーツ国際貢献事業「体育教育・スポーツコンテンツ輸出・展開（チェラロンコン大学連携・ナコンバトム：ラジャバット大学現職教員研修）に対する助言指導（独立行政法人日本スポーツ振興センター）2016年11月8～11日。

SFT再委託事業「カンボジア王国中学校体育科教育の指導要領作成支援」事業に対する助言指導（特定非営利活動法人ハートオブ・ゴールド）2016年6月5～11日，9月11～15日。

「コスタリカ国在外研修（野球）指導者派遣」における助言指導（独立行政法人国際協力機構JICA）2017年2月11～19日。

准教授 宮崎明世

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

宮崎明世：高等学校の体育理論におけるアンチ・ドーピング授業の検討－JADAアンチ・ドーピングテキストを活用して－. 筑波大学体育系紀要，40：43-55，2017年3月。

西村三郎，*宮崎明世，小林育斗，岡出美則：一般男子高校生の短距離疾走能力に応じた技術的課題の検討：中間疾走の疾走動作の比較から. スポーツ教育学研究，36(2)：1-14，2016年11月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

宮崎明世：オリンピック・パラリンピック教育とは．体育科教育，大修館書店，2016年4月1日．

宮崎明世：世界のオリンピック・パラリンピック教育．体育科教育，大修館書店，2016年6月1日．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Sanada, H., Naruse, K., Aramaki, A., Obayashi, T., **Miyazaki, A.**: Spreading Olympic Education for Tokyo 2020. 2nd International Colloquium of Olympic Studies and Research Centres, Port Alegre, 2016-8.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

宮崎明世：ロンドンオリンピック・パラリンピックにおける教育プログラムの展開と現在－実践校のインタビューから．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

宮崎明世：学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の課題の検討－オアオリンピック・パラリンピック教育授業づくりワークショップの成果から－．日本スポーツ教育学会第36回大会，和歌山，2016年10月．

c-1-2-4. ポスター発表

西島直希，宮崎明世：体育授業における主運動とのつながりを考慮した準備運動の検討－球技の3つの方を題材として－．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「筑波大学体育専門学群の学びを知ろう－2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて」（竹園高等学校，つくば市，2016年11月14日）

「パラリンピックに義足の選手が参加することについて考える」（都立武蔵高等学校，武蔵野市，2016年6月22日，29日）

大子町スポーツ少年団本部研修会講師（大子町，2017年1月22日）

JAAFアスリート発掘育成プロジェクト U-13クリニック（陸上教室） 秋田会場（秋田市，2016年11月6日）

JAAFアスリート発掘育成プロジェクト U-13クリニック（陸上教室） 山梨会場（甲府市，2017年3月20日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本陸上競技連盟普及育成委員（1998年～）

日本スポーツ教育学会理事（2011年～）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業（スポーツ庁）

推進校教員セミナーにおける指導助言（福岡市2016年8月29日，京都市2016年9月16日，水戸市2016年10月7日）
地域コンソーシアムにおける進行，助言（京都市2016年12月8日，福岡市2016年12月21日，2017年2月20日）
市民フォーラムにおける指導助言（仙台市2017年1月29日，福岡市2017年2月4日，京都市2017年2月11日）
ワークショップにおける指導助言（京都市2017年2月10日，仙台市2017年2月16日，水戸市2017年2月23日，福岡市2017年2月24日）

准教授 リラス アレキシス

1. 研究業績

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-1. 英文のもの

Lyras, A. Welty Peachey, J.: The Conception, Development, and Application of Sport-for-Development Theory. Routledge Handbook of Theory in Sport Management, Eds: Cunningham, G., Fink, J. & Doherty, A., Routledge, Taylor and Francis Group, 131-142, 2016.

Lyras, A.: Olympism, Peace, Development and Social Justice. Nonprofit Recreation and Sport Organizations: Principle and Practices in Leadership and Management, Eds: Gary Bernstein Sentia Publishing, 500-527. 2016-7.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-1. 基調講演

Lyras, A.: Human-centered Olympiad Ecology: Building a Sustainable Society. The 13th Joint international session for presidents and directors of National Olympic Academies and Officials of National Olympic Committees, Ancient Olympia, Greece, 2016-5-7-14.

c-1-1-2. 特別・招待講演

Lyras, A.: Applied Olympic Education and Student Engagement. Brazilian Olympism for Humanity Praxis Symposium on Restoration and Entrepreneurship, Sao Paulo, Brazil, 2016-9.

Lyras, A.: Hellenic and Japanese Heritage in the Modern Olympic Restoration Movement. The Modern Greek Studies Program, Department of Classics, Washington D.C., USA, 2017-2.

Lyras, A.: Olympic Values, Dual Athlete Careers and Social Responsibility. Coaching Methodologies and Applied Olympism Conference. Netaji Subhas National Institute of Sports, Patiala, India, 2017-2.

Lyras, A.: Physical Education, Olympic Values and Social Innovation. Olympism for Humanity Praxis: The Indian Project, Panjab, India, 2017-2.

Lyras, A.: Applied Olympism in Society. Federation of Indian Chambers of Commerce and Industry, Delhi, India, 2017-2.

Lyras, A., Kumar, P., Gupta, B.: Applied Olympism for Humanity and Sustainable Programming.

- Olympism for Humanity Restoration Enterprise International Conference, Delhi, India, 2017-2.
- Lyras, A.:** Olympism for Humanity and Sustainable Academic Innovation Legacies: Global Vision and Strategy. Olympism for Humanity Restoration Enterprise International Conference, Delhi, India, 2017-2.
- Lyras, A.:** Shared Vision and Cooperation on Applied Olympic Education and Research: University of Tsukuba and MRIU – India and Japan. INDO JAPANESE CONCLAVE III, “Olympism for Humanity Restoration Enterprise: Academic Legacy Goals, Scope and Foundation Towards Tokyo 2020”, Faridabad, India, 2017-2-13-14.
- Lyras, A.:** Chaired and moderated a panel of world leading sport for development and peace scholars. International Sport for Peace and Development Conference: Forming Partnerships and Linkages in Sport for Development and Peace, Illinois, USA, 2017-3.
- Lyras, A.:** Sport for Development and Peace: Partnerships with professional/corporate sport sector. International Sport for Peace and Development Conference: Forming Partnerships and Linkages in Sport for Development and Peace, Illinois, USA, 2017-3.

助 教 金 子 史 弥

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

金子史弥：2012年ロンドンオリンピックとイギリススポーツ政策の変容。筑波大学体育系紀要，40：29-42，2017年3月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

金子史弥：日本の新たな挑戦としてのTIASの狙いと役割。つくば国際スポーツアカデミー・アソシエーション（編），国際スポーツ組織で働こう！—世界の最先端スポーツ大学院でマネジメントを学ぶ，日経BP社，222-241，2016年12月20日。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スポーツ社会学会電子ジャーナル委員会ワーキンググループ委員（2016年4月～2017年3月）

助 教 國 部 雅 大

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Ando, S., Komiyama, T., **Kokubu, M.**, Sudo, M., Kiyonaga, A., Tanaka, H., Higaki, Y.: Slowed response to

peripheral visual stimuli during strenuous exercise. *Physiology & Behavior*, 161: 33-37, 2016-4.

a-1-2. 和文のもの

菊政俊平, ***國部雅大**: 野球の捕手におけるフィールドでの状況判断能力に関する認知的要因の検討.
いばらき健康・スポーツ科学, 32: 1-10, 2016年3月.

内田遼介, 釘原直樹, 手塚洋介, **國部雅大**, 土屋裕睦: スポーツ集団内における集合的効力感の評価形成過程: 成員の課題遂行能力に着目した検討. *実験社会心理学研究*, 56(1): 33-43, 2016年10月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Kokubu, M., Mieda, T., Saito, M.: Spatial trajectories and accuracy of goal-directed stepping response to auditory stimuli in football players. The 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11-12.

c-1-1-4. ポスター発表

Oki, Y., **Kokubu, M.**, Nakagomi, S.: Influence of attentional focus on long-distance throwing with dominant and non-dominant hands. The 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11-13.

Mieda, T., **Kokubu, M.**, Saito, M.: A study on auditory reaction time and auditory localization accuracy in football players. The 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11-13.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

國部雅大: 運動パフォーマンスの遂行における両眼眼球運動の貢献. 第8回日本スポーツ視覚研究会, 東京, 2016年8月27日.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

菊政俊平, 大木雄太, **國部雅大**: 野球の捕手におけるプレー指示場面での状況判断過程—判断のタイミング・注視パターン・注意配分に着目して—. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 北海道, 2016年11月5日.

c-1-2-4. ポスター発表

國部雅大: ボールを追従する運動課題中の両眼眼球運動の対称性. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24日.

大木雄太, **國部雅大**, 中込四郎: 注意の焦点づけが遠投パフォーマンスに与える影響. 日本スポーツ心理学会第43回大会, 北海道, 2016年11月5日.

c-4. 研究成果による受賞

Young Investigators Award (Oral Presentation) (Title: Spatial trajectories and accuracy of goal-directed stepping response to auditory stimuli in football players., The 7th Asia Conference on Kinesiology, 2016-11-13.)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本スポーツ心理学会理事 (2016年～)

日本体育学会若手研究者特別委員会委員 (2016年～)

助 教 成 瀬 和 弥

1. 研究業績

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

真田久，成瀬和弥，荒牧亜衣，村上祐介，大林太朗：オリンピック・パラリンピックまるごと大百科，学研出版，2017年2月13日。

助 教 山 口 拓

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Takahashi, M., Musah, W., Rodriguez, L., Tsuchiya, S., Soysa, L., Yamaguchi, T., Shimizu, S.: Preliminary findings for empowering girls through table tennis in Mathare, Kenya. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1: 150-157, 2016-10.

Haggis, DP., de Soysa, L, Yamaguchi, T.: Using the Olympic and Paralympic Values as a Means of Facilitating Communication in Sport. *Proceedings of the 10th International Conference Language, Culture, Civilization, University Politehnica of Bucharest*, Politehnica Press, 183-189, 2017-3.

a-1-2. 和文のもの

鈴木聡，内田雄三，近藤智靖，山口拓：体育科授業研究組織の教員及び研究成果をつなぐネットワーク構築のための実証的研究．*体育科教育学研究*，32：45，2016年4月．

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

山口拓，鈴木聡：発展途上国の体育開発におけるミドルリーダー育成の現状．*体育科教育*，大修館書店，64：68-70，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Yamaguchi T.: Social development through sport. JRIPEC (Joint Research Institute for International Peace and Culture) International Symposium on Promoting culture diversity through sport for future generation, Tokyo, 2016-1.

Yamaguchi, T.: Power of Sport in Local Community Development - A Case Study of Cambodia. The 3rd Indo-Japanese Conclave on Health and Sports Sciences, Faridabad, 2017-2.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

山口拓：スポーツ国際開発における内発的発展と翻訳的適応 —カンボジア王国における前時代の体育ス

ポーツ支援に着目して一、第67回日本体育学会、大阪、2016年8月。

c-4. 研究成果による受賞

The Kings order of Monisaraphon Grand Cross (Accreditation of long time contribution to Cambodia for PE and Sport development/ academic research/ policy recommendation, Phnom Penh, 2016-12.)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

Kingdom of Cambodia, Ministry of Education Youth and Sport: Advisor of General Directorate of Sport (2016年～)

つくば市国際都市つくばを考える懇話委員会 委員 (2016年～)

スポーツ・フォー・トゥモロー事務局 顧問 (2014年～)

認定NPOハート・オブ・ゴールド 顧問 (2012年～)

National Olympic committee of Cambodia, Advisor of Secretary General (2012年～)

学生団体WorldFut Tsukuba 顧問 (2012年～)

つくばワールドフットサル大会運営委員 委員 (2012年～)

一般財団法人嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター 外部委員 (2012年～)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

つくばワールドフットサル大会の企画・運営：茨城県・つくば市：11月26日

霞ヶ浦マラソン・ハート・オブ・ゴールド ブース管理：茨城県・かすみがうら市：4月17日

c-4. その他（詳しくお書きください）

短期学生ボランティア派遣帯同：カンボジア：3月4日～21日

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

The 20th UNOSDP Youth Leadership Camp, 協力業務（嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター）2016年3月2～12日。

プラススポーツのためのワークショップ，ファシリテーター（嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター）2017年1月29日。

JICA課題別研修（学校体育・本邦研修），委託業務（JICA筑波国際センター）2016年8月29日～9月9日。

助 教 李 燦 雨

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

村井友樹，李燦雨：大日本体育会道府県支部の設置に関する研究－茨城県体育会の組織と運営方針を中心として－，*スポーツ史研究*，30：1-14，2017年3月

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

李燦雨，岡村拓，村井友樹，大熊明子：千葉県市原市戸田小学校の体育資料に関する調査報告．筑波大

学体育系紀要, 39: 43-45, 2016年3月.

李燦雨: 日韓の身体運動文化交流史の残像—朝鮮通信使伝来の駟馬神事をめぐって—. *JFE21世紀財団アジア歴史研究報告書*, 2016年3月

李燦雨: 朝鮮半島から日本に渡った「武」文化に関する研究—朝鮮通信使が伝えた馬上才と弓術—②. *三菱財団研究・事業報告書*, 2016年7月

李燦雨: 日本の遊戯史における『戸外遊戯法: 一名戸外運動法』(1885)出版の意義に関する研究. *人間と遊び-財団レポート2015-*, 中山隼雄科学技術文化財団, 2016年8月

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Goka, T., *Chanwoo, L.: Acculturation of Shooting Method in Kyudo During its Modernization Process -Through a Study on Dai Nippon Kyudo Kai-. the 2016 International Society for the History of Physical Education and Sport Congress, 2016-6.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

李燦雨: 江戸時代の馬上才を掘る-その二: 図像史料からの読み取り. 筑波大学体育史研究会平成27年度研究集会, つくば, 2016年1月.

五賀友継, *李燦雨: 武道近代化における「体育」としての弓道—大日本弓道会の事業に着目して—. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

五賀友継, *李燦雨: 明治神宮鎮座祭における弓道奉納演武に関する一考察—戦前期における弓道団体乱立を視座として—. 日本武道学会49回大会, 伊勢, 2016年9月.

李燦雨: 16～18世紀における日朝武文化交流について. 筑波大学体育史研究会平成28年度研究集会, つくば, 2017年1月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「学園スポーツもう変えよう」, 韓国中央日報, 2016年2月22日.

「国技というソフトパワー—韓国のテコンドー—」, 朝日新聞グローブ, 2016年8月7日.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「日本の遊戯史における『戸外遊戯法: 一名戸外遊戯法』(1885)出版の意義に関する研究」(公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団)

「江戸時代における渡来武術に関する研究—瀬戸内海に伝わる近世朝鮮武術に着目して—」(公益財団法人稲盛財団)

「享楽的競技弓術「便射」から読み解く軍事と遊戯文化の狭間」(公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

東北アジア体育・スポーツ史学会理事 (2015年～)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

平成27年度日韓交流学生剣道親善試合 (関東学生剣道連盟・韓国大学剣道連盟) 通訳: 茨城県・つくば市: 7月9日～10日

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

荒牧亜衣：日本におけるオリンピック・パラリンピック教育の現状と課題. *オリンピックスポーツ文化研究*, 2: 99-104, 2017年3月.

荒牧亜衣：オリンピック・レガシーを問う. *体育哲学研究*, 47: 67-70, 2017年3月.

荒牧亜衣：オリンピックにおける文化イベント, *現代スポーツ評論*, 35: 128-133, 2016年11月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

荒牧亜衣:オリンピック・レガシー. JOAオリンピック小辞典, 日本オリンピック・アカデミー（編著）, メディアパル, 66-67, 2016年6月23日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Sanada, H., Miyazaki, A., **Aramaki, A.**, Obayashi, T.: Spreading Olympic Education for Tokyo 2020. International Colloquium of Olympic Study and Research Centers, Porto Alegre, 2016-8.

c-1-1-4. ポスター発表

Sanada, H., Naruse, K., Miyazaki, A., **Aramaki, A.**, Obayashi, T., Ishikuma, T., Egami, I., Nakatsuka, Y., Nagaoka, T., Fujiwara, R.: Research Project for Olympic and Paralympic Movement in Japan. International Colloquium of Olympic Study and Research Centers, Porto Alegre, 2016-8.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

荒牧亜衣：オリンピック・レガシーを問う. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

Aramaki, A.: Potential for Olympian: Perspective from a more expected of Olympic Education in Japan. スポーツ哲学セミナー, 東京, 2016年9月.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

荒牧亜衣：聖火それはどのように語られているか. 特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー第39回JOAセッション（コーディネーター）, 東京, 2016年12月.

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書, 副教材等

荒牧亜衣ほか：オリンピック・パラリンピックまるごと大百科. 真田久（監修）, CORE（責任編集）, 学研プラス, 2017年2月24日.

c. 学外の教育活動

「日本オリンピック・アカデミー第4回ユースセッションinつくば」講師（つくば市, 2016年12月23日～25日）

「パナソニックセンター東京主催Active Learning Campワークショップ」講師（江東区, 2016年6月5日他, 延べ5日間）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

特定非営利活動法人日本オリンピック・アカデミー幹事（2012年～）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

「平成28年度オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」（スポーツ庁委託事業）
2016年

特任助教 笠野英弘

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

笠野英弘：スポーツ行為者の性格構造形成に影響を及ぼすスポーツ組織研究-国際比較を踏まえて-，科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）「若手研究（B）」平成25年度～平成27年度研究成果報告書（研究課題番号：25750284），2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

中西健一郎，笠野英弘，加藤勇之助：デンマークサッカー協会におけるU12年代選手の活動指針に関する調査．日本フットボール学会 13th Congress，東京，2016年3月13日．

特任助教 下竹亮志

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

下竹亮志：運動部活動における「伝統」と「自主性」の隠れた関係．現代スポーツ評論，創文企画，156-161，2016年11月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Shimotake, R.: Fundamental study on discourses of extracurricular sport activities. Human High Performance International Forum 2016, Tsukuba, 2016-3.

特任助教 松 畑 尚 子

特任助教 村 上 祐 介

4. 社会貢献活動

c. ボランティア活動

c-1. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

下妻市親子サークル「ひまわり」：1月から12月（毎月1回）

健康体力学分野

教授 阿江通良

教授 大森肇

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Ra, SG., Choi, Y., Akazawa, N., **Ohmori, H.**, Maeda, S.: Taurine supplementation attenuates delayed increase in exercise-induced arterial stiffness. *Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism*, 41(6): 618-623, 2016-6.

Sugasawa, T., Mukai, N., Tamura, K., Tamba, T., Mori, S., Miyashiro, Y., Yamaguchi, M., Nissato, S., Ra, SG., Yoshida, Y., Hoshino, M., **Ohmori, H.**, Kawakami, Y., Takekoshi, K.: Effects of cold stimulation on mitochondrial activity and VEGF expression in vitro. *International Journal of Sports Medicine*, 37(10): 766-778, 2016-9.

a-1-2. 和文のもの

石倉恵介, 中村祐介, 辻明宏, 宮崎照雄, 宮川俊平, **大森肇**: トレーニングと食事制限下のタウリン投与が体重, 骨格筋湿重量および骨格筋アミノ酸濃度変化に及ぼす影響. *タウリンリサーチ*, 2: 45-49, 2016年9月.

a-2. その他の論文

海老名慧, 山本大介, 石倉恵介, 小峰昇一, 宮崎照雄, 大野貴弘, 宮川俊平, ***大森肇**: 肥満マウスの白色脂肪組織におけるタウリン濃度の低下は持久性トレーニングで抑制されるか. *タウリンリサーチ*, 2: 31-33, 2016年9月.

羅成圭, 崔英珠, 赤澤暢彦, **大森肇**, 前田清司: タウリンと血管内皮機能. *タウリンリサーチ*, 2: 40-42, 2016年9月.

中村優歩, 宮崎照雄, 大野貴弘, 羅成圭, 海老名慧, 菅澤威仁, 竹越一博, 宮川俊平, 本多彰, 松崎靖司, ***大森肇**: 高強度持久性運動による骨格筋N-アセチルタウリンの増加. *タウリンリサーチ*, 2: 43-44, 2016年9月.

Tokinoya, K., Ra, SG., Yoshida, K., Yoshida, Y., Matsumura, M., Takekoshi, K., ***Ohmori, H.**: Relationship of inflammation and algescic substance in repeated bout effect for muscle soreness and damage after high intensity eccentric exercise. (*The Proceedings of the 24th Annual Meeting of Japan Society of Exercise and Sports Physiology, July 23-24, 2016, Kumamoto, Japan*) *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 22(4): 94, 2016-12.

Miyazaki, T., Ra, SG., Ebina, K., Takekoshi, K., Miyakawa, S., **Ohmori, H.**: *Physiological role of taurine on acetate metabolism after endurance exercise. (The Proceedings of the 24th Annual Meeting of Japan Society of Exercise and Sports Physiology, July 23-24, 2016, Kumamoto, Japan) Advances in Exercise and Sports Physiology*, 22(4): 100, 2016-12.

Shiromoto, J., Watanabe, D., ***Ohmori, H.**, Wada, M.: Effect of increased muscle glycogen on the expression of Ca²⁺-ATPase in the sarcoplasmic reticulum of rat skeletal muscle. (*Proceedings of the 71st Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, September 23-25, 2016, Iwate, Japan*) *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5(6): 438, 2016-12.

- Tokinoya, K., Ishikura, K., Ra, SG., Yoshida, Y., Shiromoto, J., Aoki, K., Morita, S., Aoyagi, A., Nabekura, Y., Takekoshi, K., ***Ohmori, H.**: Chronological change in muscle damage and inflammation in early onset muscle soreness during prolonged exercise. (*Proceedings of the 71st Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, September 23-25, 2016, Iwate, Japan*) *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5(6): 441, 2016-12.
- Miyazaki, T., Ra, SG., Ishikura, K., Miyakawa, S., Matsuzaki, Y., Honda, A., **Ohmori, H.**: Effect of pre-exercise BCAA intake on serum 3HMB level. (*Proceedings of the 71st Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, September 23-25, 2016, Iwate, Japan*) *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5(6): 459, 2016-12.
- Ebina K, Yamamoto D, Ishikura K, Komine S, Miyazaki T, Ohno T, Miyakawa S, ***Ohmori H**: Are reduced taurine levels in the white adipose tissue of obese mice improved by endurance training? (*Proceedings of the 71st Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, September 23-25, 2016, Iwate, Japan*) *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5(6): 470, 2016-12.
- Ohmori, H.**, Ohno, T., Ebina, K., Tokinoya, K., Miyazaki, T., Suzuki, T., Nishimura, A., Miyakawa, S.: Effects of L-citrulline intake on running performance. (*Proceedings of the 71st Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine, September 23-25, 2016, Iwate, Japan*) *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5(6): 471, 2016-12.
- Ohmori, H.**: Effect of taurine and BCAA intake on muscle damage after exercise. Planned Symposium 12 (Joint Symposium with Society for Taurine Research) “Diverse physiological actions of taurine” . (*Proceedings of the 94th Annual Meeting of the Physiological Society of Japan, Mar.28 -30, 2017, Hamamatsu, Japan*) *The Journal of Physiological Sciences*, 67(Supplement 1): S20, 2017-3.
- c. その他
- c-1. 研究発表
- c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）
- c-1-1-3. 一般口述発表
- Ohmori, H.**, Yamamoto, D., Ebina, K., Ishikura, K., Komine, S., Miyazaki, T., Ono, T., Miyakawa, S.: Is the lower taurine levels in the white adipose tissue of the obese mice ameliorated by endurance training? The 20th International Taurine meeting, Seoul, Korea, 2016-5.
- Miyazaki, T., Nakamura, Y., Ebina, K., Mizushima, T., Ra, SG., Ishikura, K., Matsuzaki, Y., **Ohmori, H.**, Honda, A.: The role of N-acetyltaurine on the normalization of energy metabolism balance in the skeletal muscle after endurance exercise. The 20th International Taurine meeting, Seoul, Korea, 2016-5.
- c-1-1-4. ポスター発表
- Ohmori, H.**, Yamamoto, D., Ebina, K., Ishikura, K., Komine, S., Miyazaki, T., Ono, T., Miyakawa, S.: Is the lowering of taurine levels in the white adipose tissue of the obese mice improved by endurance training? Human High Performance International Forum 2016, Tsukuba, Japan, 2016-3.
- Mizushima, T., Miyazaki, T., Ebina, K., Ishikura, K., Ono, T., Komine, S., Nakamura, Y., Tokinoya, K., Yamamoto, D., Honda, A., Matsuzaki, Y., Miyakawa, S., **Ohmori, H.**: The effect of taurine

supplementation on beta-oxidation in skeletal muscle during prolonged exercise -examination using serum acetyl-carnitine- The 20th International Taurine meeting, Seoul, Korea, 2016-5.

Tokinoya, K., Ishikura, K., Ebina, K., Kawaguchi, Y., Mizushima, T., Miyakawa, S., Nabekura, Y., **Ohmori, H.**: Dynamics of skeletal muscle damage markers in the blood and characteristics associated with full marathon-induced immediate onset muscle soreness. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, Austria, 2016-7.

Ohmori, H., Mizushima, T., Yamamoto, D., Ishikura, K., Ebina, K., Komine, S., Miyazaki, T., Miyakawa, S.: Is the decreased taurine synthesis in the white adipose tissue of the obese mice restored by exercise training? ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, Japan, 2017-3.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-1. 基調講演

大森肇 (座長): <高橋英幸: 基調講演2「最先端MRSを用いた栄養・コンディショニング: ヒト筋グリコーゲンのモニタリング法」>. ARIHHPヒューマン・ハイ・パフォーマンスフォーラム 2017-意欲とパフォーマンス-, つくば, 2017年3月.

c-1-2-2. 特別・招待講演

Ohmori, H.: Effects of amino acids supplementation on sports performance. Biomaterials Mini Symposium, Tsukuba, Japan, 2016-1.

大森肇: 運動とタウリン. <シンポジウム「タウリンの多彩な生理作用と産業・医療への新展開」>, 日本農芸化学会2016年度大会, 札幌, 2016年3月.

大森肇 (シンポジウム司会): 運動時の代謝と臓器連関. <専門領域企画 運動生理学シンポジウム>, 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

大森肇: 高強度運動により出現する疲労をシトルリン投与が抑制する機序. <専門領域企画 運動生理学シンポジウム「運動時の代謝と臓器連関」>, 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

大森肇: 運動時の疲労に抗うサプリメントの効果. <学術セッションII「健康・長寿を実現するためのからだづくり」>, 第21回静岡健康・長寿学術フォーラム, 静岡, 2016年11月.

大森肇: タウリンとBCAAの摂取が運動後の筋損傷に及ぼす影響. <企画シンポジウム12「タウリンの多彩な生理機能」>, 第94回日本生理学会大会, 浜松, 2017年3月.

c-1-2-3. 一般口述発表

海老名慧, 山本大介, 石倉恵介, 小峰昇一, 宮崎照雄, 大野貴弘, 宮川俊平, **大森肇**: 肥満マウスの白色脂肪組織におけるタウリン濃度の低下は持久性トレーニングで抑制されるか. 第2回国際タウリン研究会日本部会, 福井, 2016年3月.

羅成圭, 崔英珠, 赤澤暢彦, **大森肇**, 前田清司: タウリンと血管内皮機能. 第2回国際タウリン研究会日本部会, 福井, 2016年3月.

中村優歩, 宮崎照雄, 大野貴弘, 羅成圭, 海老名慧, 菅澤威仁, 竹越一博, 宮川俊平, 本多彰, 松崎靖司, **大森肇**: 高強度持久性運動による骨格筋N-アセチルタウリンの増加. 第2回国際タウリン研究会日本部会, 福井, 2016年3月.

石倉恵介, 中村祐介, 辻明宏, 宮崎照雄, 宮川俊平, **大森肇**: トレーニングと食事制限下のタウリン投与が体重, 骨格筋湿重量および骨格筋アミノ酸濃度変化に及ぼす影響. 第2回国際タウリン研究会日本部会, 福井, 2016年3月.

時野谷勝幸, 羅成圭, 吉田一也, 吉田保子, 松村正隆, 竹越一博, **大森肇**: 高強度伸張性運動後の筋痛・筋損傷に対する繰り返し効果と炎症・発痛物質の関与. 第24回日本運動生理学会大会, 熊本,

2016年7月.

宮崎照雄, 羅成圭, 海老名慧, 竹越一博, 宮川俊平, **大森肇**: 持久性運動後の酢酸に対するタウリンの生理的役割. 第24回日本運動生理学会大会, 熊本, 2016年7月.

大森肇 (座長): スポーツ生化学など. 第24回日本運動生理学会大会, 熊本, 2016年7月.

海老名慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井崇, 羅成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森肇**: 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序 - 肝糖新生に着目して -. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

Morita, S., Komine, S., Kurita, S., Tokinoya, K., Shiromoto, J., Sugasawa, T., Nanmoku, T., Takekoshi, K., Kogo, Y., Sakamoto, A., **Ohmori, H.** (Poster Teaser): Does a fitness training class make mood states in university students better? -An assessment by using the Profile of Mood States and salivary chromogranin A-. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

水島隆規, 宮崎照雄, 海老名慧, 石倉恵介, 大野貴弘, 小峰昇一, 中村優歩, 時野谷勝幸, 山本大介, 本多彰, 松崎靖司, 宮川俊平, **大森肇**: タウリン投与が長時間運動時の骨格筋におけるβ酸化に及ぼす影響 - 血中アセチルカルニチンによる検討 -. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

大森肇 (フラッシュトーク): 筑波大学体育系運動生化学大森研究室紹介. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

青木海, **大森肇**: サプリメントと運動による筋萎縮の予防, 栄養学若手研究者の集い・第50回サマーセミナー, 東京, 2016年8月.

時野谷勝幸, 石倉恵介, 羅成圭, 吉田保子, 城本淳, 青木海, 森田将平, 青柳篤, 鍋倉賢治, 竹越一博, **大森肇**: 長距離走中の早発性筋痛における筋損傷と炎症の経時的变化. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

城本淳, 渡邊大輝, **大森肇**, 和田正信: 筋グリコーゲン量の増加が筋小胞体Ca²⁺-ATPaseのタンパク量に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

海老名慧, 山本大介, 石倉恵介, 小峰昇一, 宮崎照雄, 大野貴弘, 宮川俊平, **大森肇**: マウスの白色脂肪組織中タウリン濃度に及ぼす肥満と持久性トレーニングの影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

大森肇, 大野貴弘, 海老名慧, 時野谷勝幸, 宮崎照雄, 鈴木貴視, 西村明仁, 宮川俊平: L-シトルリン投与が高強度走運動パフォーマンスに及ぼす効果. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

大森肇 (座長): 代謝④. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

海老名慧, 小峰昇一, 宮崎照雄, 青木海, 城本淳, 宮川俊平, **大森肇**: 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序 - ピルビン酸負荷試験による糖新生能の検討 -. 第3回国際タウリン研究会日本部会, つくば, 2017年2月.

石倉恵介, 宮川俊平, 竹越一博, **大森肇**: ヒトへのタウリン投与が長時間運動時の血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響. 第3回国際タウリン研究会日本部会, つくば, 2017年2月.

平修, 川崎安都紗, 小野鮎子, 前川昭, 伊藤崇志, 宮崎照雄, 城本淳, 小林春輝, **大森肇**, 片野肇, 村上茂: イメージング質量分析による筋肉部位のタウリン局在解析. 第3回国際タウリン研究会日本部会, つくば, 2017年2月.

大森肇 (座長): セッション1 運動・体力科学. 第3回国際タウリン研究会日本部会, つくば, 2017年2月.

c-1-2-4. ポスター発表

Ohmori, H., Yamamoto, D., Ebina, K., Ishikura, K., Komine, S., Miyazaki, T., Ono, T., Miyakawa, S.: Is

the lowering of taurine levels in the white adipose tissue of the obese mice improved by endurance training? 筑波大学体育系ヒューマン・ハイ・パフォーマンス先端研究センター (ARIHHP) 設置記念フォーラム, つくば, 2016年3月.

海老名慧, 小峰昇一, 大野貴弘, 時野谷勝幸, 石倉恵介, 松井崇, 羅成圭, 宮崎照雄, 宮川俊平, 征矢英昭, **大森肇**: 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序—肝糖新生に着目して—. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

Morita, S., Komine, S., Kurita, S., Tokinoya, K., Shiromoto, J., Sugasawa, T., Nanmoku, T., Takekoshi, K., Kogo, Y., Sakamoto, A., **Ohmori, H.**: Does a fitness training class make mood states in university students better? -An assessment by using the Profile of Mood States and salivary chromogranin A-. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

水島隆規, 宮崎照雄, 海老名慧, 石倉恵介, 大野貴弘, 小峰昇一, 中村優歩, 時野谷勝幸, 山本大介, 本多彰, 松崎靖司, 宮川俊平, **大森肇**: タウリン投与が長時間運動時の骨格筋における β 酸化に及ぼす影響—血中アセチルカルニチンによる検討—. 第7回生命機能研究会, 京都, 2016年8月.

時野谷勝幸, 石倉恵介, 菅澤威仁, 羅成圭, 吉田保子, 城本淳, 青木海, 森田将平, 青柳篤, 鍋倉賢治, 竹越一博, **大森肇**: 長距離走中の酸化ストレスマーカーおよび抗酸化力の経時的変化. 第69回日本酸化ストレス学会学術集会, 仙台, 2016年8月.

宮崎照雄, 羅成圭, 石倉恵介, 宮川俊平, 松崎靖司, 本多彰, **大森肇**: 分岐鎖アミノ酸 (BCAA) 摂取後の運動による血中 β -hydroxy- β -methylbutyrate(3HMB)濃度の上昇. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

Morita, S., Komine, S., Kurita, S., Tokinoya, K., Sugasawa, T., Shiromoto, J., Nanmoku, T., Takekoshi, K., Kogo, Y., Sakamoto, A., **Ohmori, H.**: Does a fitness training class make mood states in university students better? - An assessment by using Profile of Mood State and salivary chromogranin A -. 第21回静岡健康・長寿学術フォーラム, 静岡, 2016年11月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「生老病死の秘密」, 韓国放送公社 (KBSTV), 2016年10月26日.

c-4. 研究成果による受賞

第3回国際タウリン研究会日本部会研究奨励賞 (受賞発表: 海老名慧, 小峰昇一, 宮崎照雄, 青木海, 城本淳, 宮川俊平, **大森肇**: 長時間運動時の血糖低下をタウリン投与が抑制する機序—ピルビン酸負荷試験による糖新生能の検討—. つくば, 2017年2月.)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等

「シトルリンとアルギニンの併用投与がラットの走運動パフォーマンスに及ぼす影響」(平成28年度研究助成: 筑波大学研究基盤総合センター)

「L-シトルリンおよびL-アルギニン摂取が運動パフォーマンスに及ぼす影響の検討」(平成26~28年度共同研究: 協和発酵バイオ株式会社)

「肥満で低下する白色脂肪組織のタウリン生成は運動により回復するか?」(平成28年度研究プロジェクト助成: 筑波大学ARIHHPセンター)

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「公益財団法人マナーキッズ®プロジェクト マナーキッズ大使事前研修」指導 (柏市, 2016年5月7日~8日)

「東京都立小石川中等教育学校 キャリア教育 大学研究室訪問」指導 (つくば市, 2016年11月21日)

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

- 大森肇，内藤景：第14回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，2016年1月19日
＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Naito, H.: The 14th Orientation for Users of Training Room 1 & 2
in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.1.19)
- 大森肇，岡野憲一，坂谷充：第15回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，2016
年4月15日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Sakatani, M: The 15th Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.4.15)
- 大森肇，岡野憲一，坂谷充：臨時第1回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，
2016年4月22日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Sakatani, M: The 1st Extra Orientation
for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.4.22)
- 大森肇，岡野憲一，坂谷充：第16回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，2016
年4月26日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Sakatani, M: The 16th Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.4.26)
- 大森肇，岡野憲一，坂谷充：第17回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，2016
年4月27日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Sakatani, M: The 17th Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.4.27)
- 大森肇，岡野憲一，坂谷充：第19回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，2016
年6月28日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Sakatani, M: The 19th Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.6.28)
- 大森肇，岡野憲一，小野卓志：第20回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，
2016年7月19日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Ono, T: The 20th Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.7.19)
- 大森肇，岡野憲一，小野卓志：第22回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，
2016年10月11日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Ono, T: The 22nd Orientation for Users
of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.10.11)
- 大森肇，岡野憲一，柏倉秀徳：第24回筑波大学中央体育館第1・第2トレーニング場利用者講習会，
2016年12月13日＜日本語・英語＞（Ohmori, H. Okano, K. Kashiwakura, H: The 24th Orientation
for Users of Training Room 1 & 2 in Central Gymnasium, Univ. of Tsukuba, 2016.12.13)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本運動生理学会 評議員（1993年～）

日本体力医学会 評議員（1995年～）

日本健康行動科学会 評議員（2002年～）

文部科学大臣杯マナーキッズ[®]ショートテニス全国小学生団体戦 マナーキッズ大使選考委員（2011年～）

東京都杉並区三谷小学校学校運営協議会 顧問（2013年～）

公益社団法人マナーキッズ[®]プロジェクト 理事（2014年～）

「マナーキッズ[®]」調べ表彰者発表会 審査員（2014年～）

国際タウリン研究会 理事（2014年～）

日本運動生理学会 理事（2015年～）

日本運動生理学会 学会賞選考委員（2015年～）

日本運動生理学会 評議員選考委員（2015年～）

教授 木塚朝博

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

吉田雄大，板谷厚，高橋信二，*木塚朝博：競技特性と個人差が20m シャトルランテストのターンにおよぼす影響．*体育測定評価研究*，15：25-32，2015年3月．

木塚朝博，大田穂，飯嶋裕美，岩見雅人，小野誠司：リフティング技能の評価に用いる不安定面の有用性．*バイオメカニズム*，23：55-65，2016年8月．

小野誠司，木塚朝博，岡田守彦：滑動性追跡眼球運動におけるヒトのタイミング適応の特性．*バイオメカニズム*，23：87-95，2016年8月．

大田穂，岩間圭祐，*木塚朝博：ランナーの状況判断を伴うゴロ捕球時の視覚探索．*バイオメカニズム*，23：173-182，2016年8月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

木塚朝博：体力・運動能力テストの温故知新．*体育の科学*，66：546-548，2016年8月．

木塚朝博：敏捷性テストとしての反復横とびを整理する．*体育の科学*，66：574-581，2016年8月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Ono, S., Kizuka, T., Mustari, MJ.: Visual motion processing in cortical neurons for smooth pursuit adaptation. 15th Annual Molecular and cellular cognition society (MCCS), San Diego, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

木塚朝博：デュアルタスクを利用したスポーツスキルの測定評価．日本体育測定評価学会第15回大会，東京，2016年3月．

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

小野誠司，木塚朝博：滑動性追跡眼球運動のゲイン適応が急速眼球運動に及ぼす影響．第11回JAXA「空間認知と運動制御」研究会，京都，2016年3月．

小野誠司，岩間圭祐，木塚朝博：球技系競技者における眼球運動の特性．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

大田穂，木塚朝博：ソフトボールにおいて速いゴロが捕球できる選手の特徴．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

三田沙織，岡出美則，木塚朝博，澤江幸則，杉山文乃，斉藤拓真，土井畑幸一郎，古内孝明：小学校4年生における対人協働能力向上のための運動プログラムの効果の検証．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

澤江幸則，木塚朝博，杉山文乃，三田沙織：身体性コンピテンスからみた子ども理解（1）．日本教育心

理学会第58回総会，香川，2016年10月。

岩間圭祐，大田穂，小野誠司，**木塚朝博**：さまざまな視角条件が一致タイミング能力に及ぼす影響。第37回バイオメカニズム学術講演会，富山，2016年10月。

小野誠司，**木塚朝博**，和田佳郎：走高跳競技者における頭部傾斜時の重力感受性。第12回JAXA「空間認知と運動制御」研究会，東京，2017年2月。

c-1-2-4. ポスター発表

早川志音，岩間圭祐，澤江幸則，中込四郎，**木塚朝博**：中学生の道具操作能力と教師の主観的評価の関連性。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

木塚朝博，岩間圭祐；小野誠司，澤江幸則：子ども用の狙準運動測定法の試作と測定結果の縦断的推移，日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

岩間圭祐，**木塚朝博**，小野誠司，澤江幸則：動作の大きさが子どもの一致タイミングに及ぼす影響。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

木塚朝博：新・中学保健体育。学研，146-157，171-173，2015年1月20日。

c. 学外の教育活動

「尚恵学園リーダー研修会 今時の若者との効果的な相互交流」(土浦市，2016年5月11日)

「神奈川県立深沢高等学校 一年生特別講義 部活動で競い合う意味」(鎌倉市，2016年7月11日)

「つくば市総合教育研究所 体づくり運動研修講座 デュアルタスク系運動遊びの実践」(つくば市，2016年7月27日)

「北茨城市教育委員会学校教育課 体育・保健体育実技夏季研修会 デュアルタスクを活用した子どもの体づくり」(北茨城市，2016年8月3日)

「長野県立屋代高等学校 屋代ミニ大学 スポーツスキルの向上に資する動き作り」(千曲市，2016年9月10日)

「岩手県立石巻高等学校 高大連携事業出前講義 スポーツスキルの向上につながる無駄の少ない体の動き」(釜石市，2016年9月12日)

「茨城県県南地区高等学校PTA指導者研修会 未来の子どもの育ちをどう考えどう支援するか」(土浦市，2016年9月23日)

「茨城県総合健診協会健康運動研修会 青少年の成長発達と運動指導」(水戸市，2016年10月17日)

「茨城県土浦市福祉連合会 教育講演 ゆとり世代を理解しよう」(土浦市，2016年12月5日)

「高校野球研究会 特別講演 見ながら動く考えながら動く」(東京都渋谷区，2016年12月11日)

「インターリハ研修会 デルシス筋電計測活用セミナー」(東京都北区，2016年12月17日)

「日本Gボール協会 第6回発育発達に応じたGボール活用セミナー 巧みな動きを身につけるためのキッズ・ジュニア向けGボール運動プログラム」(東京都北区，2017年1月29日)

「びわこ成蹊スポーツ大学 雪上実習」指導(妙高市，2017年2月，延べ6日間)

「神奈川県立光陵高等学校 卒業生によるキャリアガイダンス 大学で体育を学ぶ意義」(横浜市，2017年3月4日)

「松戸市松戸高等学校 教員研修会 運動指導におけるリテラシーの位置づけとデュアルタスクの重要性」(松戸市，2017年3月14日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体力医学会評議員（2002年～）
茨城体育学会理事（2003年～）
日本体育学会代議員（2005年～）
日本武道学会評議員（2011年～）
バイオメカニズム学会常任理事（2012年～）
体育の科学編集委員（2013年～）
日本Gボール協会副理事長（2004年～）
茨城県つくば市立吾妻小学校評議員（2010年～）
社会福祉法人尚恵学園評議員（2011年～）
茨城県つくば市立吾妻中学校評議員（2013年～）

教授 久野 譜也

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Bang, E., Tanabe, K., Yokoyama, N., Chijiki, S., ***Kuno, S.**: Relationship between thigh intermuscular adipose tissue accumulation and number of metabolic syndrome risk factors in middle-aged and older Japanese adults. *Experimental Gerontology (EXP Gerontol)*, 79: 26-30, 2016-3.
Noguchi, K., Kai, H., Zempo, H., Mizuno, F., Hagiwara, M., Morito, N., Usui, J., Saito, C., **Kuno, S.**, Yamagata, K.: Both Diet and Exercise Are Necessary for Obese CKD Patients: A Pilot Prospective Randomized Controlled Study. *OJ Neph*, 6: 43-54, 2016-6.
Yoshizawa, Y., Kim, J., ***Kuno, S.**: Effects of a lifestyle-based physical activity intervention on medical expenditure in Japanese adults: A community-based retrospective study. *BioMed*, 2016: 7530105, 2016-6.

a-1-2. 和文のもの

江原義智，田辺解，白木仁，***久野譜也**：日本人男性プロゴルファーにおけるクラブヘッドスピードと体力要因との関連．*日本臨床スポーツ医学会誌*，25：68-74，2017年1月．

a-1-3. その他の外国語のもの

Kuno, K.: Regional Revitalization Through Health Promotion of “People” & “Cities”. *Japan SPOTLIGHT · March / April*, 24-27, 2016年4月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

久野譜也：「人」と「都市」の健康づくりによる地方創生-Smart Wellness Cityの創造-．*区画整理*3月号，6-9，2016年3月．

久野譜也，方恩知：健康寿命の延伸とサルコペニア予防．*介護福祉・健康づくり*，3：19-23，2016年3月．

久野譜也，吉澤裕世：Smart Wellness Cityの推進における公園緑地の役割．*公園緑地*，4：14-15，2016年4月．

久野譜也：健康長寿社会構築のためには「人の健康」に加えて「都市の健康」づくりを．*住民行政の窓*

5月号, 428:2-8, 2016年5月.

久野譜也:健康スポーツを必要とする真のターゲットを引き出す仕組み. *臨床スポーツ医学*, 34:24-28, 2017年1月.

久野譜也:スマートウェルネス社会の実現に向けて. *住まいとでんき*, 2:1-2, 2017年2月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件:50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Bang, E., Tanabe, K., Yokoyama, N., Chijiki, S., **Kuno S.**: The relationship between the accumulation of thigh intermuscular adipose tissue and the number of metabolic syndrome risk factors in normal weight and obese individuals. The 7th Asia Conference on Kinesiology 2016, Songdo, 2016-11.

Tsukao, A., **Kuno, S.**: Development of government innovators capable of promoting measures for wellness cities. The 7th Asia Conference on Kinesiology 2016, Songdo, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

久野譜也:健康長寿社会達成のためのプラットフォームの構築. 第58回日本老年医学会学術集会シンポジウム, 金沢, 2016年6月.

久野譜也:健康長寿社会を可能とする地域社会システムにおける医学の役割と限界. 第61回日本集中治療医学会近畿地方会, 大阪, 2016年7月.

江原義智, 久野譜也:プロゴルフで求められるエビデンスと研究を実施する際の問題点. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

久野譜也:健康長寿社会形成のためのSmart Wellness CityとSmart Wellness Communityの戦略. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 柏, 2016年11月.

久野譜也:運動で健幸になる秘訣～自ら延ばす, 健康寿命!～. いせ健幸ポイント事業応援講演会, 伊勢, 2017年1月.

久野譜也:スマートウェルネスシティの取り組みを通じた健康無関心層の行動変容. 木津川市 第1回健幸づくり研究会, 木津川, 2017年1月.

久野譜也:科学的根拠に基づく健康づくり～社会システムで実現する健康(幸)長寿社会～. 健康日本21推進全国連絡協議会「平成28年度第2回分科会」, 東京, 2017年1月.

久野譜也:岡山市に住むと自然と健康になるまちづくりとは. 岡山発!健康で元気に輝き続けるまちシンポジウム, 岡山, 2017年2月.

久野譜也:人の健康づくりで政策効果を得るためには都市の健康づくりも重要～無関心層対策のためにはインセンティブや公共交通の充実などの総合的な政策推進が求められる～. 宇都宮市職員対象健康まちづくり研修会, 宇都宮, 2017年2月.

久野譜也:2025年高齢化問題の解決を目指すSmart Wellness Cityの取り組み. 第7回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会特別講演, つくば, 2017年2月.

久野譜也:ICTが日本の高齢社会を救う処方箋の方向性. 情報サービス産業協会講演, 東京, 2017年2月.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

塚尾晶子, 久野譜也:Smart Wellness City構想推進の有無が住民の身体活動量に及ぼす影響—SWCプロジェクト40—. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

千々木祥子, 田辺解, 横山典子, 加藤直子, 塚尾晶子, **久野譜也**: インセンティブ付健康事業への参加動機に影響を与える要因の検討-SWCプロジェクト41-. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

田辺解, 横山典子, 千々木祥子, 塚尾晶子, **久野譜也**: 9ヶ月間にわたるインセンティブを用いた健康増進モデル実証の成果-SWCプロジェクト(42)-. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

横山典子, 田辺解, 塚尾晶子, 千々木祥子, **久野譜也**: 9インセンティブ付健康事業参加者における健康意識と行動変容の関係性-SWCプロジェクト45-. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

方恩知, 田辺解, 横山典子, 千々木祥子, 塚尾晶子, 海老原隼紀, 鶴園卓也, **久野譜也**: 加齢や身体活動による大腿部の筋間・筋内脂肪の経年的変化. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

c-1-2-4. ポスター発表

塚尾晶子, 安田光佑, 宮本雄司, **久野譜也**: 健康都市施策での生活習慣病医療費に影響する要因分析-SWCプロジェクト(43)-. 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016年10月.

安田光佑, 宮本雄司, 塚尾晶子, **久野譜也**: 生活習慣病・ロコモティブ症候群医療費の抑制効果検証-SWCプロジェクト(44)-. 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016年10月.

千々木祥子, 田辺解, 横山典子, 加藤直子, 塚尾晶子, **久野譜也**: インセンティブ付健康づくり事業に参加した住民の特徴-SWCプロジェクト46-. 日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会, 柏, 2016年11月.

方恩知, 田辺解, 横山典子, 千々木祥子, 塚尾晶子, **久野譜也**: 身体活動量の相違が加齢による筋間・筋内脂肪の蓄積に及ぼす影響. 日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会, 柏, 2016年11月.

宮本雄司, 安田光佑, 室谷歩, 大瀧雅世, 塚尾晶子, **久野譜也**: 医療レセプトと介護保険データの紐づけ分析による要介護リスクの検討. 日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会, 柏, 2016年11月.

岡本翔平, 駒村康平, 田辺解, 横山典子, 千々木祥子, **久野譜也**: インセンティブ付き運動プログラム参加者のうち, 誰が運動を継続できないか. 日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会, 柏, 2016年11月.

室谷歩, 塚尾晶子, 鶴園卓也, 宮田真一, 田辺解, 横山典子, 千々木祥子, **久野譜也**: 3年間における健幸ポイント参加者の生活習慣病抑制効果. 日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会, 柏, 2016年11月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「なないろ日和り!」, テレビ東京, 2016年6月7日.

「体重利用し大きな筋肉鍛える」, 日本経済新聞, 2016年6月11日.

「健康無関心層の取り込みへ」, 国保新聞, 2016年9月1日.

「筋肉の質が低下 脂肪筋に」, 日本経済新聞, 2016年10月8日.

「健康づくりに特典 医療費抑制」, 読売新聞, 2017年1月15日.

「メタボ・肥満に無関心 やる気引き出す“ニンジン作戦”」, 産経新聞・産経ニュース, 2017年1月17日.

「おはよう日本」ダイジェスト版, NHKテレビ, 2017年1月28日.

「運動して商品券 効果あり」, 読売新聞, 2017年1月29日.

「東京五輪・パラに向け 健康増進を進める全国組織発足へ」, NHK NEWS WEB, 2017年2月15日.

「健康づくりで80都市連合 さいたまや岐阜, 取り組み事例共有」, 日本経済新聞web版, 2017年2月20日.

「インセンティブで行動変容を促す」, 月刊事業構想, 2017年2月20日.

- c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
 「健幸長寿社会を創造するスマートウエルネスシティ総合特区の施策効果の検証」(つくばウエルネスリサーチ)
 「中高齢女性における機能性シューズによる歩行矯正運動が足部形状, 下肢機能, 及び歩行能力に及ぼす影響」(ファイブリング株式会社)
 「新 e-wellness システムの運動プログラム開発に関する研究」(つくばウエルネスリサーチ)
 「スポーツ庁原資 6市連携健幸ポイントプロジェクトに係る調査業務」(つくばウエルネスリサーチ)
 「総務省原資 インセンティブ付き IoT健康サービスの有料化挑戦事業」(つくばウエルネスリサーチ)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 日本体育学会会員 (1985年～)
 アメリカ生理医学会会員 (1994年～)
 日本体力医学会会員 評議員 (1996年～)
 Smart Wellness City 首長研究会 事務局長 (2009年～)
 公益財団法人 国際交通安全学会 H2421「天下の公道」と生活道路に関する研究調査プロジェクト会員 (2012年～)
 公益社団法人 日本フィットネス協会 理事 (2012年～)
 奈良県トレーニングセンター構想検討委員会 委員 (2014年～2016年)
 スマートウエルネスコミュニティ協議会 副会長 (2014年～)
 日本介護福祉・健康づくり学会 副会長 (2013年～)
 内閣官房地方創生推進室 環境未来都市推進委員会 委員 (2015年～2017年)
 文部科学省 スポーツ庁の創設に向けた検討会議 委員 (2015年～2016年)
 総務省 クラウド時代の医療ICTの在り方に関する懇談会 構成員 (2015年～2016年)
 一般社団法人 健康・省エネ住宅を推進する国民会議 健康・省エネ住宅推進委員会 委員 (2015年～2016年)
 独立行政法人 日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員及び 国際事業員会書面審査員 書面評価員及び 国際事業員会書面審査員 書面評価員 (2015年～2016年)
 独立行政法人 日本スポーツ振興センター情報・国際室外部専門員 (2016年～2017年)

教授 白木 仁

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

江原義智, 田辺解, *白木仁, 久野譜也: 日本人プロゴルファーにおけるクラブヘッドスピードと体力要因との関連. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 25: 68-74, 2017年1月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

丸山将史，栗原大輔，犬塚健太，可西泰修，澤井朱美，藁科侑希，**白木仁**：荷重による足部形態変化。
第169回日本体力医学会関東地方会，東京，2017年3月。

c-1-2-4. ポスター発表

犬塚健太，丸山将史，藤尾司，可西泰修，真下苑子，藁科侑希，**白木仁**：伸縮性シューレースが足底圧
および足背圧に及ぼす影響。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

廣田真也，**白木仁**，福田崇：大学テニス選手の筋機能に着目した筋痙攣の検討。第71回日本体力医学会
大会，岩手，2016年9月。

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ（上級Ⅰ）」（2016年5月・6月，延べ9日間）

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ中（初級）」（2016年6月・7月，延べ7日間）

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ（中級）」（2016年8月・9月，延べ7日間）

筑波大学公開講座 スポーツ教室「ゴルフ（上級Ⅱ）」（2016年10月・11月，延べ9日間）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部 シニアディレクター（2015年度～）

日本ゴルフ協会アンチドーピング普及委員（2011年度～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（ゴルフ）（2011年度～）

日本ゴルフ協会競技者育成強化推進本部医科学 副部長（2013年度～）

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部強化委員会委員（2013年度～）

日本ゴルフ協会オリンピックゴルフ競技対策本部医科学部会 副本部長（2013年度～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

ワールドレディースチャンピオンシップサロンパスカップでのメディカルサポート：茨城県・つくばみ
らい市：2016年5月5日～8日。

NEC軽井沢72ゴルフトーナメントでのメディカルサポート：長野県・軽井沢町：8月12日～14日。

日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯でのメディカルサポート：北海道・登別市：9月8日
～11日。

日本女子オープンゴルフ選手権競技でのメディカルサポート：栃木県・那須烏山市：9月29日～10月2日。

日本オープンゴルフ選手権競技でのメディカルサポート：埼玉県・狭山市：10月13日～16日。

教授 征矢英昭

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付きProceedingsも含む）

a-1-1. 英文のもの

Nishijima, T., Torres-Aleman, I., ***Soya, H.**: Chapter 11 - Exercise and cerebrovascular plasticity.

Progress in Brain Research, 225: 243-268, 2016-4.

- Llorens-Martín, M., Teixeira, CM., Jurado-Arjona, J., Rakwal, R., Shibato, J., *Soya, H., Ávila, J.: Retroviral induction of GSK-3 β expression blocks the stimulatory action of physical exercise on the maturation of newborn neurons. *Cellular and Molecular Life Sciences*, 73-18: 3569-3582, 2016-9.
- Budde, H., Wegner, M., *Soya, H., Voelcker-Rehage, C., McMorris, T.: Neuroscience of Exercise: Neuroplasticity and Its Behavioral Consequences. *Neural Plasticity*, 3643879, 2016-10.
- Byun, K., Hyodo, K., Suwabe, K., Fukuie, T., *Soya H.: Possible neurophysiological mechanisms for mild-exercise-enhanced executive function: An fNIRS neuroimaging study. *The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5-5: 361-367, 2016-11.
- Yook, JS., Shibato, J., Rakwal, R., *Soya, H.: DNA microarray-based experimental strategy for trustworthy expression profiling of the hippocampal genes by astaxanthin supplementation in adult mouse. *Genomics Data*, 7: 32-37, 2016-11.
- Shima, T., Jesmin, S., Matsui, T., Soya, M., *Soya, H.: Differential effects of type 2 diabetes on brain glycometabolism in rats: focus on glycogen and monocarboxylate transporter 2. *The Journal of Physiological Sciences*, 2016-12. doi:10.1007/s12576-016-0508-6.
- Jang, Y., Koo, JH., Kwon, I., Kang, EB., Um, HS., *Soya, H., Lee, Y., Cho, JY.: Neuroprotective effects of endurance exercise against neuroinflammation in MPTP-induced Parkinson's disease mice. *Brain Research*, 1655: 186-193. 2017-1.
- Fernandez, AM., Hernandez-Garzón, E., Perez-Domper, P., Perez-Alvarez, A., Mederos, S., Matsui, T., Santi, A., Trueba-Saiz, A., García-Guerra, L., Pose-Utrilla, J., Fielitz, J., Olson, EN., Fernandez de la Rosa, R., Garcia Garcia, L., Pozo, MA., Iglesias, T., Araque, A., *Soya, H., Perea, G., Martin, ED., Torres Aleman, I.: Insulin regulates astrocytic glucose handling through cooperation with IGF-I. *Diabetes*, 66-1: 64-74. 2017-1.
- Suwabe, K., Hyodo, K., Byun, K., Ochi, G., Yassa, MA., *Soya, H.: Acute moderate exercise improves mnemonic discrimination in young adults. *Hippocampus*, 27-3: 229-234, 2017-3.
- Shima, T., Matsui, T., Jesmin, S., Okamoto, M., Soya, M., Inoue, K., Liu, YF., Torres-Aleman, I., McEwen, BS., *Soya, H.: Moderate exercise ameliorates dysregulated hippocampal glycometabolism and memory function in a rat model of type 2 diabetes. *Diabetologia*, 60: 597-606, 2017-3.
- a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）
- 征矢英昭，三好耕太，岡本正洋：海馬の可塑性を高める軽運動。 *Medical Science Digest*, 42(1)：17-20，2016年1月。
- 征矢英昭：認知症や転倒を予防 フリフリグッパ―体操で脳も体もスッキリ！。 *健康*，3月号：90-115，2016年2月。
- 征矢英昭：機能的画像法の凡例：筋出力と認知能力の解析。 *体育の科学*，66-4月号：242-244，2016年4月。
- 征矢英昭：エイジングとランニング1 脳フィットネス。 *ランニングマガジン・クリール*，5月号：10-15，2016年5月。
- 陸彰洙，小泉光，松井崇，*征矢英昭：カロテノイド—天然由来のアスタキサンチン。 *臨床栄養臨時創刊号*，128-6：835-840，2016年5月。
- 征矢英昭：からだを動かし脳を鍛える 楽しくできる軽い運動が認知症予防につながる。 *週刊朝日ムツ*

クすべてがわかる認知症2016, 38-41, 2016年7月.

諏訪部和也, 福家健宗, 小泉光, 小原沢明彦, ***征矢英昭**: 脳科学からみた発育発達研究の課題～身心の統合的発達を促す運動効果を踏まえて～. 子どもと発育発達, 14-2: 92-100, 2016年7月.

菊池章人, ***征矢英昭**: 被災地の子どもに“SPARTS体操”を. 体育科教育, 2016年9月号: 40-43, 2016年8月.

島孟留, ***征矢英昭**: 身体運動に伴う生体機能適応を支える分子機構 7-5脳機能. 身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～, 191-200, 2016年8月.

島孟留, 諏訪部和也, ***征矢英昭**: 認知機能を高める運動効果と抗加齢. 日本臨牀, 74-9 (通巻第1105号): 1577-1582, 2016年9月.

征矢英昭: 1日10分で活性化! 「ユル体操」のすすめ. *PRESIDENT*, 2016年10月3日号: 68-69, 2016年10月.

征矢英昭: 低酸素に対する細胞応答とHIF (低酸素誘導性因子). 体育の科学, 66-12月号: 850-853, 2016年12月.

越智元太, ***征矢英昭**: 一過性の低酸素運動による認知疲労とその脳内機構. 体育の科学, 66-12月号: 891-896, 2016年12月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

征矢英昭, 坂入洋右: たくましい心とかしこい体 – 身心統合のスポーツサイエンス –. 株式会社大修館書店, 2016年7月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-1. 基調講演

Yook, JS., ***Soya H**: A novel effect of astaxanthin on adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. 韓国栄養学会春季学術大会2016, ソウル, 2016-5-27.

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Maeda, Y., ***Soya, H**: Elite kendo player exhibits a higher executive function. European College of Sport Science 2016, Vienna, 2016-7-7.

c-1-1-4. ポスター発表

Matsui, T., Torres-Aleman, I., ***Soya, H**: Dopaminergic activity-dependent astrocytic glycogenolysis in exercising rat hippocampus. Neuroscience 2016, San Diego, 2016-11-13.

Ochi, G., Hyodo, K., Suwabe, K., ***Soya, H**: Exercise-induced cognitive fatigue and its brain mechanism nomobaric hypoxia: Aneuroimaging study. Neuroscience 2016, San Diego, 2016-11-16.

Soya, M., Shima, T., Matsui, T., ***Soya, H**: Hyper-Hippocampal glycogen deposit induced by preloading of exercise and high carbohydrate diet: A possible strategy to enhance function. Neuroscience 2016, San Diego, 2016-11-16.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

征矢英昭: 長時間運動時の脳のグリコーゲン代謝に着目して. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月24日.

c-1-2-2. 特別・招待講演

- 征矢英昭：運動と脳。公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 認知機能低下予防運動コース，東京，2016年1月16日。
- 征矢英昭：運動と脳。公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 認知機能低下予防運動コース，大阪，2016年1月23日。
- 征矢英昭：子どもの体力向上とSPARTSプログラムについて。三重郡学校保健会講演会，三重，2016年2月4日。
- 征矢英昭：糖尿病，筋肉及び腸と脳の相関。AstaReal Symposium 2016，東京，2016年2月13日。
- 征矢英昭：みんなと楽しむフリフリグッパ～認知機能を高めよう～。介護予防総合講座，東京，2016年2月15日。
- 征矢英昭：今日よりも明日を健康で元気に生きるには！。船橋市生活学校運動推進協議会，千葉，2016年2月25日。
- 征矢英昭：JAF National Camp 2016 特別講座2. 国立オリンピック記念青少年総合センター，東京，2016年3月5日。
- 征矢英昭：第51回もの忘れ予防講座。利根フリフリボランティア研修会，茨城，2016年3月23日。
- 征矢英昭：シンポジウム11 運動の抗加齢効果とそのエビデンス「認知予備能力を高める楽しい軽運動効果：橋渡し研究による成果」。第16回日本抗加齢医学会総会，神奈川，2016年6月10日。
- 征矢英昭：アスタキサンチンと海馬の可塑性。第53回日本リハビリテーション医学会学術集会，京都，2016年6月11日。
- 征矢英昭，菊池章人：フランカーテスト体験および実技指導，全教員対象SPARTS体操の指導方法講習。三重県菰野町立千種小学校，三重，2016年6月13～14日。
- 征矢英昭：ゴルフ生理学。日本プロゴルフ協会 ティーチングプロB級講習会後期1学期，静岡，2016年7月15日。
- 征矢英昭：ヒューマン・ハイ・パフォーマンスを支援するコンディショニング：慢性ストレスへの対処法。アスタリール スポーツシンポジウム2016，東京，2016年7月26日。
- 征矢英昭：スポーツと“ひと・社会”－融合と進歩の先に－「運動による高意志力（Will-power）とパフォーマンス」。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月24～26日。
- 征矢英昭：楽しい軽運動で高める脳フィットネス。名古屋市立大学最新医学講座オープンカレッジ，愛知，2016年9月2日。
- 征矢英昭：脳フィットネスを高める楽しい軽運動：認知症予防体操。第10回とちぎ県民健康フォーラム，栃木，2016年9月11日。
- 征矢英昭：脳フィットネスを高めるスローエアロビック。平成28年度スローエアロビック講習会，群馬，2016年10月15日。
- 征矢英昭：脳フィットネス効果を高める運動効果～遺伝子から行動までの視点で～。第5回奥伊勢フォーラム，三重，2016年10月21日。
- 征矢英昭：筑波大学体育系ヒューマン・ハイパフォーマンス先端研究センター（ARIHHP）設立と展望。第5回奥伊勢フォーラム，三重，2016年10月21日。
- 征矢英昭，諏訪部和也：脳フィットネス実践講座～フリフリグッパ体操～。第5回奥伊勢フォーラム，三重，2016年10月22日。
- 征矢英昭：脳フィットネスを高める楽しい軽運動プログラム-SPARTS-。アメリカスポーツ医学会CECセミナー2016，神奈川，2016年10月27日。
- 征矢英昭：脳フィットネスを高める運動とカルテノイドによるアンチエイジング効果。第34回コロイド

界面・技術シンポジウム日本化学会，東京，2017年1月27日。

征矢英昭：認知と持久能を共に高める運動効果と海馬機能。第62回脳の医学・生物学研究会，愛知，2017年2月11日。

征矢英昭：利根フリフリグッパ交流会及び利根フリフリクラブボランティア研修会，茨城，2017年3月10日。

征矢英昭：高意欲と認知機能を共に高める運動効果。第31回日本体力医学会近畿地方会，和歌山，2017年3月18日。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

高橋佳那子，島孟留，征矢茉莉子，陸彰洙，小泉光，岡本正洋，**征矢英昭**：運動時のストレス応答への視床下部性AVPとCRHの関与：選択的拮抗薬による検討。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月23日。

征矢英昭，三好耕太：c-Fos発現からみた海馬神経細胞を活性化できる最低ロコモーション速度の決定：超低強度運動の根拠。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月24日。

島孟留，高橋佳那子，征矢茉莉子，小原沢明彦，松井崇，**征矢英昭**：2型糖尿病で低下する空間記憶機能は強度運動でも改善する。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月24日。

天谷友紀，小泉光，島孟留，**征矢英昭**：恐怖記憶の消去に有効な習慣的低強度運動。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月24日。

陸暲洙，**征矢英昭**：アスタキサンチン摂取は海馬機能への低強度運動効果を相乗的に高めるか？。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月24日。

陸暲洙，**征矢英昭**：運動とアスタキサンチン摂取で高める海馬機能：脳フィットネス効果の最大化を目指して。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月25日。

越智元太，兵頭和樹，諏訪部和也，**征矢英昭**：低酸素運動による認知疲労とその脳機構。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月25日。

c-1-2-4. ポスター発表

ジェスミンサブリーナ，Rahman Md. Arifur，小倉かさね，島孟留，松石雄二郎，下條信威，河野了，**征矢英昭**：バングラデシュにおける習慣的な歩行プログラムによる低HDL改善効果。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月23日。

征矢茉莉子，島孟留，松井崇，**征矢英昭**：海馬グリコゲンローディングには疲労困憊運動が必須である。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月25日。

板谷厚，菊池章人，**征矢英昭**：短時間の高強度体操は積雪寒冷期間における幼児の運動発達遅滞を予防する。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月25日。

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

征矢英昭：「運動10分すると記憶力アップ？ 筑波大など研究 脳の機能活性化の可能性」朝日新聞夕刊，2016年2月7日。

征矢英昭：「運動不足がち 被災3県の児童震災後体力低下」朝日新聞朝刊，2016年3月4日。

征矢英昭：「思考能力向上に軽めの運動」読売新聞夕刊，2016年3月17日。

征矢英昭：「WBS 疲れた体にムチ 運動で疲労回復 限界に挑戦「鬼トレ」時代到来か？」テレビ東京，2016年3月18日。

征矢英昭：「アスタリールシンポジウム特集『海馬神経の新生とアスタキサンチンの関係』」予防医学，2016年4月1日。

征矢英昭：「アスタリールシンポジウム2016『海馬神経の新生とアスタキサンチンの関係』」MEDICAMENT NEWS，2016年4月15日。

征矢英昭：「持久力向上による『脳フィットネス』のススメ」IKUEI NEWS, vol.74, 電通育英会, 2016年4月20日.

征矢英昭：「森本毅郎・スタンバイ！現場にアタックコーナー『10分間の運動で記憶力が向上するって本当!?!』」TBSラジオ, 2017年2月27日.

c-4. 研究成果による受賞

韓国栄養学会春季学術大会2016 口頭発表部門・優秀発表賞（受賞発表：Yook, JS., Soya, H.: A novel effect of astaxanthin on adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. 2016年5月27日.）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）

「フルスルチアミン投与が運動時中枢性疲労に及ぼす効果：脳グリコゲン代謝に着目して」（武田薬品工業株式会社）

「脳内グリコゲン等を指標とした運動パフォーマンスや集中力の向上に関する生理機能に寄与する食品成分の有効性確認と作用機序の解明」（キリン株式会社）

「運動が心身の美と健康に及ぼす影響」（資生堂株式会社）

「アスタキサンチン摂取で高まる認知機能の増進効果の解明」（アスタリール株式会社）

「運動前のアラニンとプロリン併用摂取による筋・肝・脳グリコゲンおよび運動持久性に及ぼす効果」（味の素株式会社）

教授 田 神 一 美

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

田神一美, 体表面の薄い水分層は放射熱吸収を促し, 蓄熱量を増大させる. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月23～25日.

田神一美, Victor B. Meyer-Rochow: ヤンバルトサカヤスデ *Chamberlinius hualinensis* (Paradoxosomatidae, Diplopoda) を利用するヒゲダニについて, 第25回日本ダニ学会大会, 札幌, 2016年10月14～16日.

c-4. 研究成果による受賞

第43回岩谷直治記念賞（公益財団法人岩谷直治記念財団, 2017年3月）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）

「ミネラル摂取改善に伴うスポーツ関連疾患等の防止・軽減効果観察」（株式会社ぬちまーす）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Yamane, M., ***Takeda, F.**: Mental and Physical Health of Participants in the Masters Ski Tournament: Correlation between Status of Activities and Psychosocial Factors. *The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba*, 39: 81-88, 2016-3.

Monma, T., ***Takeda, F.**, Noguchi, H., Tamiya, N.: Age and Sex Differences of Risk Factors of Activity Limitations in Japanese Older Adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 16: 670-678, 2016-6.

Monma, T., ***Takeda, F.**, Noguchi, H., Takahashi, H., Tamiya, N.: The Impact of Leisure and Social Activities on Activities of Daily Living of Middle-aged Adults: Evidence from a National Longitudinal Survey in Japan. *PLOS ONE*, 11: e0165106, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

木田春代, ***武田文**, 荒川義人: 幼稚園における野菜栽培活動が幼児の偏食に及ぼす影響. *栄養学雑誌*, 74: 20-28, 2016年1月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

武田文, 門間貴史, 田宮菜奈子: 中高年の余暇活動・社会活動が精神健康にもたらす効果—中高年縦断調査による検討—. 厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））「地域包括ケア実現のためのヘルスサービスリサーチ—二次データ活用システム構築による多角的エビデンス創出拠点—」平成27年度 総括・分担研究報告書, 93-100, 2016年3月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

武田文, 門間貴史: 第3部8-4 高齢者の心の健康と運動・スポーツ, 第3部8-5 高齢者の健康と社会環境. (編著) 柳沢和雄, 清水紀宏, 中西純司, よくわかるスポーツマネジメント, ミネルヴァ書房, 136-139, 2017年3月31日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Ozawa, S., **Takeda, F.**, Shitara, S., Monma, T., Abe, M., Furutani, N., Kikuchi, A., Soya, H.: The Impact of exercise programs on work performance of company employees. *Human High Performance International Forum 2016, Ibaraki*, 2016-3.

Ozawa, S., **Takeda, F.**, Monma, T., Shitara, S., Abe, M., Kishi, K., Furutani, N.: Relationship between work performance and sense of coherence among Japanese employees. *The 31st International Congress of Psychology, Kanagawa*, 2016-7.

Monma, T., **Takeda, F.**, Kishi, K., Ozawa, S.: Effect of exercise with others on SOC among community-dwelling older adults. *The 31st International Congress of Psychology, Kanagawa*, 2016-7.

Kishi, K., **Takeda, F.**, Monma, T., Ozawa, S.: Predictors of recidivism among Japanese male criminals

at offender Rehabilitation facilities. The 31st International Congress of Psychology, Kanagawa, 2016-7.

Shitara, S., Monma, T., Ozawa, S., Furutani, N., **Takeda, F.**: Development of the workplace bullying scale. The 31st International Congress of Psychology, Kanagawa, 2016-7.

Monma, T., **Takeda, F.**, Noguchi, H., Takahashi, H., Tamiya, N.: Leisure activities effect on ADL of middle-aged adults in Japan. The 4th International Conference on Global Aging Tsukuba, Ibaraki, 2016-9.

Ozawa, S., Monma, T., Shitara, S., Abe, M., Furutani, N., **Takeda, F.**: The relationship between work engagement and job demands-resources among company employees: From the perspective of aging. The 4th International Conference on Global Aging Tsukuba, Ibaraki, 2016-9.

Yamane, M., **Takeda, F.**: Health status of Japanese masters skiers - comparison with the general population in Japan -. 7th International Congress on Science and Skiing, Tirol, 2016-12.

Monma, T., **Takeda, F.**, Miyazawa, T., Takeda, S., Ebine, N., Yoshitake, Y., Tokuyama, K.: The prevalence and associated factors of sleep disorders among Japanese collegiate athletes. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Ibaraki, 2017-3.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

山根真紀, **武田文**: マスターズスキー参加者の身心健康に関する研究—活動状況と心理社会要因との関連—. 第26回日本スキー学会, 山形, 2016年3月.

門間貴史, **武田文**, 小澤咲子, 安部美恵子: 育児休業中の就労女性における産後の精神健康不良の継続を予測する心理社会的要因. 第89回日本産業衛生学会, 福島, 2016年5月.

山根真紀, **武田文**: マスターズスキー参加者の傷害状況. 第27回日本スキー学会, 北海道, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

小澤咲子, **武田文**, 門間貴史, 設楽紗英子, 安部美恵子, 古谷紀子: 企業従業員のワーク・エンゲイジメントとその心理社会的要因. 第89回日本産業衛生学会, 福島, 2016年5月.

安部美恵子, **武田文**, 小澤咲子, 門間貴史: リワーク（復職支援プログラム）デイケアにおける運動プログラムの運動種類別による身体活動量・強度と心理的効果. 第89回日本産業衛生学会, 福島, 2016年5月.

山根真紀, **武田文**, 門間貴史, 木村健太郎: ラージボール卓球実施者の健康と体力に関する検討. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

安藤啓, 門間貴史, **武田文**, 徳山薫平, 佐藤誠: 重量系学生アスリートにおけるSDBの実態調査. 第8回日本臨床睡眠医学会学術集会, 兵庫, 2016年8月.

浅沼徹, 朴峠周子, 木村健太郎, 門間貴史, **武田文**: 小学校高学年児童の首尾一貫感覚と運動スポーツ実施状況・ソーシャルサポートとの関連. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

門間貴史, **武田文**, 野口晴子, 高橋秀人, 田宮菜奈子: 高齢者の活動制限に関連する要因—健康寿命の長い地域と短い地域の相違. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

小澤咲子, **武田文**, 門間貴史, 設楽紗英子, 安部美恵子: 企業従業員におけるワーク・エンゲイジメントの関連要因の性別・雇用形態別の相違. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

鈴木淳子, **武田文**, 門間貴史: 都市在住の中年期女性のソーシャル・キャピタルに関連する要因. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

山根真紀, **武田文**, 門間貴史, 木村健太郎: ラージボール卓球を実施する中高齢者における心身健康の関連要因. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

木村健太郎，朴峠周子，浅沼徹，門間貴史，**武田文**：小学校高学年児童の運動・スポーツと首尾一貫感覚との関連．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016年10月．

朴峠周子，木村健太郎，浅沼徹，門間貴史，**武田文**：高学年児童のストレス対処力および精神健康とソーシャルサポートの互恵性との関連．第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016年10月．

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「仲間と体を動かすことが中年者のメンタルヘルスに効果的」，医療福祉生協情報誌comcom，2016年4月4日．

「仲間と一緒に運動すると『心』も健康に!!」，エーザイ株式会社情報誌She-So，2016年5月9日．

「仲間とワイワイが大事」，薬事日報，2016年11月21日．

「『誰かと一緒に』運動やスポーツ 中高年の身体能力維持に効果がある」，エイジングスタイル，2016年11月22日．

「卓球をしている人は若い 筑波大研究グループが発表」，日刊スポーツ，2016年11月30日．

「運動は『誰かといっしょ』だと効果的 日常生活動作のリスクを低下」，健康運動ニュース，2016年12月2日．

「運動は『誰かといっしょ』だと効果的 日常生活動作を向上する運動」，糖尿病ネットワーク，2016年12月2日．

「『仲間と運動』で効果 筑波大 将来の健康リスク低減」，毎日新聞，2016年12月3日．

「卓球をしている人は若い 筑波大学研究グループが発表」，Nittaku News，2016年12月12日．

c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学，所属学会，協会等によるもの）

「ラージボール卓球を実施する高齢者は健康と体力の水準が高い ～茨城県卓球連盟ラージボール部登録者に関する解析～」（筑波大学，2016年9月29日）

「中年者の日常生活動作の保持には人と一緒に運動・スポーツが有効！ ～全国ビッグデータ解析によるエビデンス～」（筑波大学，2016年10月28日）

c-4. 研究成果による受賞

第75回日本公衆衛生学会総会ポスター賞（受賞発表：浅沼徹，朴峠周子，木村健太郎，門間貴史，**武田文**：小学校高学年児童の首尾一貫感覚と運動スポーツ実施状況・ソーシャルサポートとの関連．第75回日本公衆衛生学会総会，2016年10月28日）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「労働者の健康とパフォーマンスに関する研究」（株式会社クオレ・シー・キューブ）

「企業従業員の健康ビッグデータ解析研究」（東京海上日動リスクコンサルティング株式会社）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

講演「超高齢社会を「健康」に生きる」株式会社リーディング・イノベーション（2016年10月22日）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kitaoka, Y., Takeda, K., Tamura, Y., Fujimaki, S., **Takemasa, T.**, Hatta, H.: Nrf2 deficiency does not affect denervation-induced alterations in mitochondrial fission and fusion proteins in skeletal muscle. *Physiol Rep*, 4-24. e13064. 2016-12-30.

Miyazaki, M., **Takemasa, T.**: TSC2/Rheb signaling mediates ERK-dependent regulation of mTORC1 activity in C2C12 myoblasts. *FEBS Open Bio*, 7-3: 424-433, 2017-1-25.

Aoki, Y., Ozawa, T., **Takemasa, T.**, Numata O: Black tea high-molecular-weight polyphenol-rich fraction promotes hypertrophy during functional overload in mice. *Molecules*, 22-4, E548, 2017-3-29.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Suzuki, K., Shirai, T., Numata, O., **Takemasa, T.**: Effects of citrulline on muscle hypertrophy induced by functional-overload through synergists ablation. *Ergogenic Aids and Nutritional Supplements for Health and Sports*, Khon Kaen, 2016-1-20-23.

Takeda, K., Ozawa, T., Numata, O., **Takemasa, T.**: Effect of high-molecular-weight polyphenol on the respiration of C2C12 cultured muscle cells. *Ergogenic Aids and Nutritional Supplements for Health and Sports*, Khon Kaen, 2016-1-20-23.

Fujimaki, S., Kuwabara, T., **Takemasa, T.**: Running-induced Activation of Satellite Cells in Diabetic Mice. *Ergogenic Aids and Nutritional Supplements for Health and Sports*, Khon Kaen, 2016-1-20-23.

Yamanaka, Y., Kitaoka, Y., **Takemasa, T.**: Effects of coffee ingestion on denervation-induced loss of mitochondria in skeletal muscle. *Ergogenic Aids and Nutritional Supplements for Health and Sports*, Khon Kaen, 2016-1-20-23.

Shirai, T., **Takemasa, T.**: The effect of the order of concurrent training on muscle hypertrophy. *European College of Sport Science*, Vienna, 2016-7-6-9.

Aoki, Y., Ozawa, T., **Takemasa, T.**, Numata, O.: Effect of black tea derived high-molecular-weight polyphenol on functional overload in mice. *European College of Sport Science*, Vienna, 2016-7-6-9.

Kitaoka, Y., Takeda, K., Tamura, Y., Fujimaki, S., **Takemasa, Y.**, Hatta, H.: Nrf2 deficiency aggravates denervation-induced oxidative stress but not atrophy in skeletal muscle. *The Integrative Biology of Exercise*, Arizona, 2016-11-2-4.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

北岡祐，武田紘平，田村優樹，**武政徹**，八田秀雄：乳酸が骨格筋ミトコンドリアに及ぼす影響。第24回日本運動生理学会，熊本，2016年7月23～24日。

武田紘平, **武政徹**: 4週間のランニングホイール走がマウス骨格筋初代培養細胞のミトコンドリア呼吸能に及ぼす影響. 第24回日本運動生理学会, 熊本, 2016年7月23～24日.

徳永祐一, 武田紘平, 白井隆長, **武政徹**: テーパーによる運動パフォーマンスと骨格筋の解糖系代謝能向上のメカニズム. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23～25日.

白井隆長, 藤巻慎, **武政徹**: 電気刺激が骨格筋の肥大系分子シグナルに与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23～25日.

武田紘平, 鈴木雄斗, 北岡祐, 渡部厚一, 宮川俊平, **武政徹**: EPAが骨格筋のミトコンドリア呼吸に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23～25日.

北岡祐, 武田紘平, 田村優樹, 藤巻慎, **武政徹**, 八田秀雄: Nrf2欠損マウスにおける骨格筋ミトコンドリアダイナミクス. 第71回日本体力医学会大会, 岩手県, 2016年9月23～25日.

白井隆長, **武政徹**: コンカレントトレーニングを構成するトレーニングの順序がミトコンドリア呼吸鎖複合体に与える影響. 第169回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2017年3月18日.

c-1-2-4. ポスター発表

Takeda, K., Ozawa, T., Numata, O., **Takemasa, T.**: Effect of high-molecular-weight polyphenol MAF on the respiration of C2C12 cultured muscle cells. 第4回骨格筋生物学研究会, 松本, 2016年3月4～6日.

鈴木雄斗, **武政徹**: EPAの慢性投与がマウス骨格筋の肥大シグナルに及ぼす影響. 第4回骨格筋生物学研究会, 松本, 2016年3月4～6日.

白井隆長, **武政徹**: コンカレントトレーニングによる骨格筋の適応. 第4回骨格筋生物学研究会, 松本, 2016年3月4～6日.

仙石泰雄, 徳永祐一, 武田紘平, **武政徹**: 一過性のシトルリン摂取が競泳インターバルトレーニング中の泳パフォーマンスに及ぼす効果. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23～25日.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
「HMB摂取が骨格筋損傷後の再生に及ぼす影響」(協和発酵バイオ株式会社)

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績 (自身の受賞を含む)

2016スイムマラソン 男子5000m 50歳以上部門 3位 (1時間21分55秒35), 2016年10月10日.

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

パワーリフティング&ボディビルディング部 (筑波大学) 顧問

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本運動生理学会監事 (2009年～)

日本体力医学会理事 (2012年～)

日本体育学会代議員 (2008年～)

c. ボランティア活動

c-1. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

筑波大学教職員スイミングクラブ「筑泳会」幹事長

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Jung, S., Yabushita, N., Seino, S., Nemoto, M., Osuka, Y., Okubo, Y., Figueroa, R., *Tanaka, K.: Obesity and muscle weakness as risk factors for mobility limitation in community-dwelling older Japanese women: A two-year follow-up investigation. *The Journal of Nutrition, Health & Aging*, 20-1: 28-34, 2016-1.

Okubo, Y., Osuka, Y., Jung, S., Figueroa, R., Tsujimoto, T., Aiba, T., Kim, T., *Tanaka, K.: Walking can be more effective than balance training in fall prevention among community-dwelling older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 16-1: 118-125, 2016-1.

Kumagai, H., Zempo-Miyaki, A., Yoshikawa, T., Tsujimoto, T., *Tanaka, K., Maeda, S.: Increased physical activity has a greater effect than reduced energy intake on lifestyle modification-induced increase in testosterone. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 58-1: 84-89, 2016-1.

Sawano, Y., Zempo-Miyaki, A., Akazawa, N., Kosaki, K., So, R., *Tanaka, K., Maeda, S.: Effect of static squat exercise with whole body vibration on arterial stiffness in older women. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 22: 13-17, 2016-4.

Zhao, X., Tsujimoto, T., Kim, B., Katayama, Y., Wakaba, K., Wang, Z., *Tanaka, K.: Effects of increasing physical activity on foot structure and ankle muscle strength in adults with obesity. *Journal of Physical Therapy Science*, 28-8: 2332-2336, 2016-8.

Okubo, Y., Jung, S., Osuka, Y., Shigematsu, R., Seino, S., Kobayashi, H., Miyachi, M., Takenaka, K., *Tanaka, K.: Effect of post-exercise class mailing program on long-term exercise adherence among community-dwelling older adults: A study design for a randomized controlled trial. *Japanese Journal of Health Promotion*, 18-2: 43-53, 2016-9.

Oh, S., So, R., Shida, T., Matsuo, T., Kim, B., Akiyama, K., Isobe, T., Okamoto, Y., *Tanaka, K., Shoda, J.: High-Intensity Aerobic Exercise Improves Both Hepatic Fat Content and Stiffness in Sedentary Obese Men with Nonalcoholic Fatty Liver Disease. *Scientific Reports*, 22-7: 43029, 2017-2.

a-1-2. 和文のもの

若葉京良, 片山靖富, 笹井浩行, *田中喜代次: 日本の成人男女が減量支援プログラムに対して抱くニーズ～インターネット調査の結果を用いた記述的研究～. *肥満研究*, 22-3:195-206, 2016年12月.

田中喜代次, 笹井浩行: 熟練ボウラーにおけるスコアの左右差の経年変化～ 単一事例デザイン～. *大学体育研究*, 39: 63-68, 2017年3月.

田中喜代次, 笹井浩行, 花本正登: プロボウラーとの競争と熟練ボウラーのスコアの関連～ 単一事例デザイン～. *筑波大学体育系紀要*, 40: 21-27, 2017年3月.

飯田路佳, 江藤幹, 大須賀洋祐, 辻本健彦, 清野諭, 大久保善郎, 大山下圭悟, 田中喜代次: リズム系運動の習慣者における健康体力水準～肥満者及び一般の非肥満者との比較から～. *日本女子体育連盟学術研究*, 33: 19-27, 2017年3月.

大須賀洋祐, 鄭松伊, 金泰浩, 大久保善郎, 金ウンビ, 田中喜代次: 高齢期における配偶者との運動教室

参加が夫婦の関係満足度に及ぼす影響. *体育学研究*, 2017年3月. doi.org/10.5432/jjpehss. 16093.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

大須賀洋祐, 鄭松伊, ***田中喜代次**: 高齢夫婦の運動教室参加による長期的な運動実践率および体力医学的効果の検証. *公益財団法人ユニバーサル財団研究助成報告書*, 2016年3月.

田中喜代次, 大須賀洋祐, 鄭松伊, 北濃成樹, 藤田聡: 栄養強化ミルクの飲用効果を高める運動プログラムの作成—高齢者の筋量・筋力に着目して—. *一般社団法人Jミルク 平成27年度牛乳乳製品健康科学学術研究報告書*, 2016年3月.

根本みゆき, ***田中喜代次**: サルコペニアの定義. *介護福祉・健康づくり*, 3-1, 5-10, 2016年6月.

辻本健彦, ***田中喜代次**: 活動量計による客観的な身体活動量指標を用いた全身持久力の推定. *いばらき健康・スポーツ科学*, 33: 53-59, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

田中喜代次, 根本みゆき: 第5章—3 QoL・心理的健康. *身体活動・座位行動の科学~疫学・分子生物学から探る健康~*, 杏林書院, 127-135, 2016年9月.

田中喜代次, 小貫栄一: *スマート脳トレ*, 株式会社騒人社, 2017年2月.

田中喜代次, 根本みゆき: 第8章—1 高齢者のQoLと運動・スポーツ. *よくわかるスポーツマネジメント*, ミネルヴァ書房, 130-131, 2017年3月.

田中喜代次, 小澤多賀子: 第8章—2 サクセスフル・エイジングの促進. *よくわかるスポーツマネジメント*, ミネルヴァ書房, 132-133, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Tanaka, K.: Exercise, diet, weight loss, and visceral adipose tissue. 2016 International Congress on Obesity and Metabolic Syndrome, Seoul, Korea, 2016-9.

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Tsujimoto, T., So, R., Kim, B., **Tanaka, K.**: Influence of reallocating time to sedentary and physical activity on cardiometabolic risk factors in Japanese men. ACSM's 63rd Annual Meeting, Boston, Massachusetts, 2016-5.

Myoenzono, T., Yoshikawa, T., Kumagai, H., Tsujimoto, T., **Tanaka, K.**, Maeda, S.: The effects of aerobic exercise training on plasma amino acid concentrations in overweight and obese men. European College of Sport Science 21st Annual Congress 2016 (ECSS 2016), Vienna, 2016-7.

Osuka, Y., Jung, S., Kim, T., Okubo, Y., Kim, E., **Tanaka, K.**. Effects of exercise intervention targeting older married couples on exercise adherence: a 1-year follow-up study. World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, 2016-7

Okubo, Y., Nemoto, M., Osuka, Y., Jung, S., Seino, S., Figueroa, R., Vinyes, G., Offord, E., Shevlyakova, M., Arigoni, F., Breuille, D., **Tanaka, K.**: Development and feasibility of the Nutrition and Functionality Assessment (NFA) among Japanese community-dwelling older adults. World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, 2016-7.

Jung, S., Okubo, Y., Osuka, Y., Seino, S., Park, J., Nho, H., **Tanaka, K.**: Comparisons of physical function and habitual exercise among Japanese and Korean community-dwelling older adults.

World Congress on Active Ageing 2016, Melbourne, 2016-7.

Zhao, X., Tsujimoto, T., Kim, B., Katayama, Y., **Tanaka, K.**: The effect of obesity on foot structure and ankle muscle strength. The 6th Conference of Asia Society of Sports Biomechanics, Ningbo, 2016-10.

Kumagai, H., Yoshikawa, T., Myoenzono, K., Kaneko, T., Zempo-Miyaki, A., Tsujimoto, T., **Tanaka, K.** Maeda, S.: Habitual aerobic exercise increases serum testosterone levels in overweight and obese men. APS American Physiological Society The integrative Biology of Exercise VII. Arizona, 2016-11.

c-1-1-4. ポスター発表

Yoshikawa, T., Kumagai, H., Myoenzono, K., Tsujimoto, T., **Tanaka, K.**, Maeda, S.: Aerobic exercise training improves response of central blood pressure to oral glucose loading in overweight/obese men. European College of Sport Science 21st Annual Congress 2016 (ECSS 2016), Vienna, 2016-7.

Nemoto, M., Yabushita, N., Tsuchiya, K., Hotta, K., Fujita, Y., Kim, T., Hamasaki, A., Tsujimoto, T., **Tanaka, K.**: Effect of the exercise for visuospatial ability in frail older adults. World congress on active ageing 2016. Melbourne, 2016-6.

Oh, S., So, R., **Tanaka, K.**, Shoda, J.: Comparison of Resistance Training and Aerobic Training Effects on Hepatic Fat Content and Stiffness in Obese Men With Non-Alcoholic Fatty Liver Disease: A Randomized Controlled Study. 2016 International Congress on Obesity and Metabolic Syndrome in conjunction with the 45th Annual Scientific Meeting of KSSO, Seoul, 2016-9.

Kim, B., Tsujimoto, T., So, R., Zhao, X., **Tanaka, K.**: Weight loss does not induce an undesirable decrease in muscle mass, muscle strength, or physical performance in obese men: A one-year follow-up study. 2016 International Congress on Obesity and Metabolic Syndrome in conjunction with the 45th Annual Scientific Meeting of KSSO, Seoul, 2016-9.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

田中喜代次：運動普及の実際から学ぶ～国民の健幸華齡 (successful aging) を祈念して～. 第64回日本教育医学会大会, 三重, 2016年8月.

笹井浩行, ***田中喜代次**：健康華齡 (successful aging) のためのエクササイズの意義. 第35回日本臨床運動療法学会, 神奈川, 2016年9月.

c-1-2-2. 特別・招待講演

Tanaka, K.: Exercise and sports for the prevention of lifestyle-related diseases and physical frailty. The 5th Invited Seminar Specialized Knowledge of Sports Science, Yongin, Korea, 2016-5.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

薛載勳, 阿部巧, 大須賀洋祐, 北濃成樹, 前田清司, **田中喜代次**, 大藏倫博：地域在住高齢者における身体活動量の日間変動と抹消動脈疾患との関連. 第17回日本健康支援学会年次学術大会, 愛知, 2016年2月.

水島諒子, 笹井浩行, 中田由夫, ***田中喜代次**：住民主導による健康減量教室の実行可能性の検証と課題抽出. 第17回健康支援学会年次学術大会, 愛知, 2016年2月.

蘇リナ, 松尾知明, 金甫建, ***田中喜代次**：運動が腹部脂肪体積やVO₂peakに及ぼす効果：運動の様式や量が異なる介入法の比較. 第17回健康支援学会年次学術大会, 愛知, 2016年2月.

片山靖富, 若葉京良, 長尾陽子, ***田中喜代次**：減量指導期間と減量効果, 脱落率との関係. 第17回健

康支援学会年次学術大会，愛知，2016年2月。

石原瑞穂，呉世昶，志田隆史，辻本健彦，*田中喜代次，正田純一：骨格筋率と非アルコール性脂肪性肝疾患の病態因子との関連性についての検討，第17回日本健康支援学会年次学術大会，名古屋，2016年2月

蘇リナ，志田隆史，呉世昶，金甫建，松尾智明，*田中喜代次，正田純一：非アルコール性脂肪性肝疾患に効果的な運動プログラムの検討～前向きランダム化比較試験より．第52回日本肝臓学会総会，千葉，2016年5月。

妙圓園香苗，吉川徹，熊谷仁，蘇リナ，辻本健彦，*田中喜代次，前田清司：肥満男性における生活習慣改善が血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響．第176回日本体力医学会関東地方会，東京，2016年7月。

辻本健彦，若葉京良，熊谷仁，吉川徹，妙圓園香苗，前田清司，*田中喜代次：行動変容技法を用いた低頻度の運動教室が身体活動量に及ぼす影響．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

水島諒子，笹井浩行，中田由夫，前田清司，*田中喜代次：質的分析により抽出した課題を考慮した住民主導による健康減量教室の成果検証．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

染谷典子，呉世旭，志田隆史，石原瑞穂，*田中喜代次，正田純一：長期間にわたる3次元加速度訓練(AT)の実施が非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)に与える改善効果．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

吉川徹，立原美彩，熊谷仁，妙圓園香苗，辻本健彦，*田中喜代次，前田清司：減量にともなう筋量の変化に睡眠質が及ぼす影響．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

金子萌子，熊谷仁，吉川徹，妙圓園香苗，辻本健彦，*田中喜代次，前田清司：成人肥満男性における12週間の定期的な有酸素性運動がエストロゲン/テストステロン比に及ぼす影響．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

熊谷仁，吉川徹，膳法亜沙子，妙圓園香苗，辻本健彦，*田中喜代次，前田清司：肥満男性における有酸素性運動と食習慣改善が血中テストステロン濃度に及ぼす影響—有酸素性運動と食習慣改善の比較—．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

竹下えり子，熊谷仁，吉川徹，妙圓園香苗，辻本健彦，*田中喜代次，前田清司：肥満男性における定期的な有酸素性運動が免疫機能に及ぼす影響．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

呉世旭，石原瑞穂，志田隆史，辻本健彦，*田中喜代次，正田純一：非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)の肝病態改善における運動の効果．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

染谷典子，呉世昶，志田隆史，石原瑞穂，*田中喜代次，正田純一：長期間にわたる3次元加速度訓練(AT)の実施が非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)に与える改善効果，第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

薛載勲，藤井悠也，北濃成樹，大須賀洋祐，*田中喜代次，大藏倫博：身体活動の実践時間帯が高齢者の睡眠に及ぼす影響．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

水島諒子，笹井浩行，中田由夫，前田清司，*田中喜代次：減量支援を担う住民ボランティアの体重と食行動の変化．第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会，千葉，2016年11月。

呉世昶，*田中喜代次，正田純一：非アルコール性脂肪性肝疾患の肝病態改善における運動療法の治療効果：食事療法との比較，第41回日本肝臓学会東部会（ワークショップ），東京，2016年12月。

c-1-2-4. ポスター発表

奥松功基，*田中喜代次，辻本健彦，北川瞳，山内英子：運動習慣の有無による乳がん患者の体重および体力に関する検討．第34回日本肥満症治療学会学術集会，東京，2016年7月。

辻本健彦，若葉京良，趙暁光，王震男，谷口亮介，奥松功基，*田中喜代次：減量教室の出席状況と体重変化との関連—成人女性を対象とした検討—．第64回日本教育医学会大会，三重，2016年8月。

大須賀洋祐, 鄭松伊, 金泰浩, 大久保善郎, 金ウンビ, *田中喜代次: 高齢夫婦向けの運動教室が夫婦関係に及ぼす影響. 第64回日本教育医学会大会, 三重, 2016年8月.

鄭松伊, 大久保善郎, 大須賀洋祐, 笹井浩行, *田中喜代次: 運動教室終了後の郵送支援が高齢者の抑うつに及ぼす影響. 第64回日本教育医学会大会, 三重, 2016年8月.

若葉京良, 辻本健彦, 趙暁光, 王震男, 谷口亮介, 奥松功基, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 前田清司, *田中喜代次: 集団型減量支援プログラムにおける減量効果と社会的支援の関係. 第64回日本教育医学会大会, 三重, 2016年8月.

妙圓園香苗, 吉川徹, 熊谷仁, 辻本健彦, *田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における有酸素運動トレーニングが血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響~網羅的解析による検討~. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

辻本健彦, 笹井浩行, *田中喜代次: 複数種目のスポーツ実践と主観的健康感との関連: スポーツライフ・データ 2012. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 千葉, 2016年11月.

金泰浩, 大須賀洋祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 金ウンビ, *田中喜代次: 高齢者における痛みの部位数と痛み対処方略との関連. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 千葉, 2016年11月.

重松良祐, 鄭松伊, 大久保善郎, 大須賀洋祐, *田中喜代次: 介護予防教室終了後の運動継続を促す郵送支援の意義. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 千葉, 2016年11月.

王震男, 辻本健彦, 笹井浩行, *田中喜代次: 運動種目と主観的健康感の関連: スポーツライフ・データ 2012. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 千葉, 2016年11月.

若葉京良, 辻本健彦, 谷口亮介, 奥松功基, *田中喜代次: 運動教室への参加による首尾一貫感覚の変化が抑うつ傾向に及ぼす影響. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016年11月.

金子萌子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 若葉京良, 辻本健彦, *田中喜代次, 前田清司: 閉経が食習慣改善による内臓脂肪面積の低下に及ぼす影響. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016年11月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「おはよう日本: 乳がん 運動などでホルモン療法の副作用緩和を研究」, NHK, 2016年10月3日.

c-3. 研究成果に関するプレスリリース (筑波大学, 所属学会, 協会等によるもの)

「内臓脂肪体積を非侵襲的に推定・評価可能なシステムを開発 ~家庭用体組成計に初めて搭載へ~」 (筑波大学, 2016年11月16日)

「運動プログラムにより非アルコール性脂肪肝の脂肪蓄積と硬さの両方が改善 ~臨床試験による効果的なトレーニング方法の検討~」, (筑波大学, 2017年2月27日)

c-4. 研究成果による受賞

第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会最優秀賞 (受賞発表: 減量支援を担う住民ボランティアの体重と食行動の変化. 2016年11月.)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「内分泌療法中の乳がん患者における食習慣改善および運動実践の併用プログラムが内分泌療法の副作用に及ぼす影響の検討」 (聖路加国際病院)

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績 (自身の受賞を含む)

日本プロボウリング協会や日本ボウリング場協会公認のボウリング大会に出場

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

筑波大学ボウリングクラブ部長

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本肥満学会 理事（2012年～）
日本体力医学会 理事（2002年～），編集委員長（1978年～）
日本体育学会 評議員（1977年～）
日本教育医学会常任 理事（1986年～）
日本運動生理学会 評議員（2000年～）
日本健康支援学会 理事長（2009年～）
医療体育研究会 監事（2008年～）
日本運動療法学会 評議員（2013年～）
日本介護福祉健康づくり学会 副会長（2012年～）
日本肥満症治療学会 理事（2013年～）
日本メディカルフィットネス研究会 会長（2012～2016年）
国際スポーツロジック学会 評議員（2010年～）
アメリカスポーツ医学会 評議員（1997年～）
加齢と身体活動に関する国際学会 理事（1998年～）
茨城県立健康プラザ スーパーバイザー（1994年～）
茨城県循環器系疾患予防対策委員会 委員（2007年～）
日立市 健康づくりスーパーバイザー（1996年～）
行方市 健康づくり計画「なめがたメディカルフィットネスまちづくり」委員長（2008年～）
袖ヶ浦市 健康づくり運営委員会 委員（2007年～）
大子町 健康づくり運営委員会 委員（2009年～）
筑西市 生活習慣改善指導運営委員会 委員（2010年～）
（公財）日本体育協会 スポーツ医・科学委員会 委員（2002年～）
（公財）健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成検討委員会 委員（2004年～）
（公財）健康・体力づくり事業財団 健康運動指導研究助成選考委員会 委員（2015年～）
（公財）体力づくり指導協会 理事（2007年～）
（公社）日本プロボウリング協会 理事（2008年～）
日本学術振興会 審査委員（2007年～）
株式会社THF筑波大学発研究成果活用企業 代表取締役社長（2005年～）
学術誌編集・査読委員 国際誌3件 国内誌6件

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

東取手運動教室での指導・茨城県・取手市：2016年度以前より継続（毎週1回）

c-4. その他（詳しくお書きください）

全国長寿ボウラーボウリング大会オーバー 80's・90's 体力測定会：東京都・墨田区：2016年9月19日。
野田市健康フェスティバル 体力測定会：千葉県・野田市：2016年10月16日。
福島県会津美里町 体力測定会：福島県・会津美里町2016年10月25日～27日。
土浦市市民公開講座「正しいダイエットで健幸華齢」：茨城県・土浦市：2016年6月11日。

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

「二次予防高齢者事業（通所型）」（茨城県八千代町）2016年6月16日～2017年3月23日。

教授 徳山 薫 平

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

- Ogata, H., Kobayashi, F., Hibi, M., Tanaka, S., **Tokuyama, K.**: A novel approach to calculating the thermic effect of food in a metabolic chamber. *Physiol Rep.* 4: e12717, 2016-2.
- Obata, A., Kubota, N., Kubota, T., Iwamoto, M., Sato, H., Sakurai, Y., Takamoto, I., Katsuyama, H., Suzuki, Y., Fukazawa, M., Ikeda, D., Iwayama, K., **Tokuyama, K.**, Ueki, K., Kadowaki, T.: Tofogliflozin improves insulin resistance in skeletal muscle and accelerates lipolysis in adipose tissue in male mice. *Endocrinology*, 157: 1029-1042, 2016-3.
- Sato, H., Kubota, N., Kubota, T., Takamoto, I., Iwayama, K., **Tokuyama, K.**, Moroi, M., Sugi, K., Nakaya, K., Goto, M., Jomori, T., Kadowaki, T.: Anagliptin increases insulin-induced skeletal muscle glucose uptake via an NO-dependent mechanism in mice. *Diabetologia*, 59: 2426-2434, 2016-11.
- Misu, H., Takayama, H., Saito, Y., Mita, Y., Kikuchi, A., Ishii, K., Chikamoto, K., Kanamori, T., Tajima, N., Lan, F., Takeshita, Y., Honda, M., Tanaka, M., Kato, S., Matsuyama, N., Yoshioka, Y., Iwayama, K., **Tokuyama, K.**, Akazawa, N., Maeda, S., Takekoshi, K., Matsugo, S., Noguchi, N., Kaneko, S., Takamura, T.: Deficiency of the hepatokine selenoprotein P increases responsiveness to exercise in mice through upregulation of ROS and AMPK in muscle. *Nature Medicine*, 23-4: 508-516, 2017-2.

教授 鍋倉 賢 治

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

- Nakamura, K., Sengoku, Y., Ogata, H., Watanabe, K., Shirai, Y., **Nabekura, Y.**: Blood Glucose and Lactate Kinetics during an Incremental Running Test in Endurance Runners. *Int J Sport Health Sci*, 14: 11-20, 2016-5.
- Tanji, F., Shirai, Y., Tsuji, T., Shimazu, W., ***Nabekura, Y.**: Relation between 1,500-m running performance and running economy during high-intensity running in well-trained distance runners. *J Phys Fitness Sports Med*, 6: 41-48, 2017-1.

a-1-2. 和文のもの

- 森寿仁, **鍋倉賢治**, 山本正嘉: 市民マラソンの成績を推定する上でどのような回帰式が妥当か? 一年齢, 体格, 経験, 練習量を指標として-. *ランニング学研究*, 27: 11-20, 2016年2月.
- 丹治史弥, 関慶太郎, 榎本靖士, ***鍋倉賢治**: 高強度走行中のランニングフォームと経済性. *ランニング学研究*, 27: 21-35, 2016年2月.
- 吉岡利貢, 森健一, 白井祐介, 品田貴恵子, **鍋倉賢治**: 疲労困憊に至る高強度ペダリング運動における

姿勢および回転数の相違が大腿部筋活動に及ぼす影響. ランニング学研究, 27: 37-46, 2016年2月.

高山史徳, 平田浩祐, 森寿仁, *鍋倉賢治, 宮本直和: 大学生市民ランナーのマラソンレースが筋損傷指標と有酸素能力に与える影響. ランニング学研究, 27: 47-58, 2016年2月.

高山史徳, 森寿仁, 齊藤和人, *鍋倉賢治: 初心者ランナーにおけるマラソンレースが2日後の左心室機能に及ぼす影響. ランニング学研究, 28: 19-26, 2016年9月.

山地啓司, 高山史徳, 鍋倉賢治: ノーズクリップを用いた呼吸筋トレーニングが有酸素性の生理的応答やパフォーマンスに与える影響. スポーツパフォーマンス研究, 8: 375-387, 2016年10月.

白井祐介, 鍋倉賢治: ローイング時の酸素需要量の推定方法に関する検討. 体育測定評価研究, 15: 11-23, 2016年10月.

丹治史弥, 津田修也, 小林優史, *鍋倉賢治: 学生トップランナーの走パフォーマンスに関連する生理学的変数の効果的な向上戦略. 陸上競技研究, 107: 22-29, 2016年12月.

白井祐介, 丹治史弥, 高山史徳, 鍋倉賢治: ローイング時の内的仕事に対するエネルギー消費量の定量方法. バイオメカニズム学会誌, 40: 195-203, 2017年1月.

丹治史弥, *鍋倉賢治: 大学生ランナーにおける3年間の有酸素能力と走パフォーマンスの変化の関係. ランニング学研究, 28: 17-28, 2017年2月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

鍋倉賢治: マラニックの生理学—安全に楽しく走るために—. ランニングの世界, 21: 104-112, 2016年4月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

鍋倉賢治: マラソンの科学 (監修). 洋泉社, 2017年2月2日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Simazu, W., Tanji, F., Takayama, F., *Nabekura, Y.: Tapering strategies for 20-kilometer running- Practical case of Japanese university male distance runners, 21st annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7-6.

Tanji, F., Shimazu, W., Tsuji, T., Enomoto, Y., *Nabekura, Y.: Relationships in 800 meter running performance and aerobic and anaerobic running capacities in homogeneous middle-distance runners, 21st annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7-6.

c-1-1-4. ポスター発表

Tanji, F., Yokota, M., Shimazu, W., Tsuji, T., Enomoto, Y., *Nabekura, Y.: Five weeks of hypoxic exposure in a top Japanese 800 metre runner: a case study on changes in physiological variables during the pre-competitive season. 5th NSCA International Conference, Chiba, 2017-1-28.

Takayama, F., Aoyagi, A., Shimazu, W., Tsuji, T., *Nabekura, Y.: Maximal oxygen uptake, ventilatory threshold, and running economy during a treadmill running test predict marathon time in recreational runners. 5th NSCA International Conference, Chiba, 2017-1-28.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

鍋倉賢治：ランニング習慣の獲得による心身の健康への効果．第28回ランニング学会，岡山，2016年3月12日．

鍋倉賢治：AVRCとランニングの普及．第29回ランニング学会大会，福岡，2017年3月19日．

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

青柳篤，藤田幸雄，鍋倉賢治：自転車ペダリング運動におけるケイデンスの選択がその後の3000m走パフォーマンスに与える影響．第5回JTUトライアスロン研究会，東京，2016年1月11日．

岡部正明，鍋倉賢治：ハンドボール競技者におけるサーキット運動が方向変換走能力に及ぼす影響．第4回日本ハンドボール学会，東京，2016年2月27日．

嶋津航，辻俊樹，鍋倉賢治：マラソンレースにおける心拍数及びペース変動 生理学的指標からの評価．第67回日本体育学会，大阪，2016年8月26日．

辻俊樹，*鍋倉賢治：中長距離走パフォーマンスと総合的な体力要因の関係．第67回日本体育学会，大阪，2016年8月．

岡部正明，濱谷奎介，鍋倉賢治，會田宏：高校生ハンドボール選手におけるRepeated Sprint Abilityと体力テストの関係．第67回日本体育学会，大阪，2016年8月26日．

濱谷奎介，岡部正明，辻俊樹，鍋倉賢治：ハンドボール選手におけるボディコンタクトがショートスプリント能力に及ぼす影響．第67回日本体育学会，大阪，2016年8月26日．

岡部正明，濱谷奎介，藤本元，鍋倉賢治：高強度インターバルトレーニングの負荷特性～運動様式の違いに着目して～．第71回日本体力医学会，盛岡，2016年9月23日．

時野谷勝幸，石倉恵介，羅成圭，吉田保子，城本淳，青木海，森田将平，青柳篤，鍋倉賢治，竹越一博，大森肇：長距離走中の早発性筋痛における筋損傷と炎症の経時的变化．第71回日本体力医学会，盛岡，2016年9月24日．

青柳篤，高橋啓悟，鍋倉賢治：自転車ペダリング及び走運動の有酸素性能力とトライアスロン競技成績との関係．第6回JTUトライアスロン研究会，東京，2017年1月9日．

高橋啓悟，鍋倉賢治，磨井祥夫：Running Economyと走動作．第6回JTUトライアスロン研究会，東京，2017年1月9日．

岡部正明，鍋倉賢治：高校生ハンドボール競技者における高強度インターバルサーキットトレーニングの効果．第5回日本ハンドボール学会，東京，2017年3月5日．

森寿仁，鍋倉賢治，山本正嘉：市民ランナーにおけるレース中の歩行・立ち止まりと傷害発生状況の関係．第29回ランニング学会，福岡，2017年3月20日．

丹治史弥，嶋津航，辻俊樹，鍋倉賢治：800mランナーの試合期における生理学的変数と走パフォーマンスの縦断的变化．第29回ランニング学会，福岡，2017年3月20日．

嶋津航，丹治史弥，高山史徳，青柳篤，辻俊樹，鍋倉賢治：マラソンレースにおけるCardiovascular driftとパフォーマンスとの関係．第29回ランニング学会大会，福岡，2017年3月20日．

辻俊樹，丹治史弥，嶋津航，鍋倉賢治：最大酸素摂取量強度における走速度及び生理学的指標の変化とその関係．第29回ランニング学会大会，福岡，2017年3月20日．

大森由香子，番場愛，関慶太郎，征矢英昭，鍋倉賢治，榎本靖士：女子中長距離選手における年間のトレーニング負荷とコンディションの変化．第29回ランニング学会大会，福岡，2017年3月20日．

c-1-2-4. ポスター発表

丹治史弥，関慶太郎，榎本靖士，鍋倉賢治：高強度走行中のランニングフォームと経済性．第28回ランニング学会，岡山，2016年3月12日．

中村和照，白井祐介，品田貴恵子，大庭恵一，半田佑之介，鍋倉賢治：長距離走後のエネルギーコスト

を変化させる要因. 第28回ランニング学会, 岡山, 2016年3月12日.

岩山海渡, 栗原玲子, 川渕良輔, 朴寅成, 小川彩音, 小林優史, 丹治史弥, 緒形ひとみ, 麻見直美, 山本公平, **鍋倉賢治**, 徳山薫平: 朝食前の運動が24時間の脂質酸化量に及ぼす影響. 第28回ランニング学会, 岡山, 2016年3月12日.

石倉恵介, 小峰昇一, 羅成圭, 時野谷勝幸, 菅澤威仁, **鍋倉賢治**, 吉岡利貢, 宮崎照雄, 竹越一博, 宮川俊平, 大森 肇: マラソン誘発性筋損傷と炎症に対する分岐鎖アミノ酸投与の抑制効果. 第28回ランニング学会, 岡山, 2016年3月12日.

小磯透, 長野敏晴, 中村功樹, 溝口洋樹, 大崎正和, 中西純, 平田佳弘, 西嶋尚彦, 岡出美則, **鍋倉賢治**: 小中高生の持久走・長距離走に対する態度. 第28回ランニング学会, 岡山, 2016年3月12日.

森寿仁, **鍋倉賢治**, 山本正嘉: 市民マラソンの成績を推定する上でどのような回帰式が妥当か? ~年齢, 体格, 経験, 練習量を指標として~. 第28回ランニング学会, 岡山, 2016年3月12日.

青柳篤, 辻俊樹, **鍋倉賢治**: 大学生トライアスリートにおける有酸素性作業能力の種目間比較. 第67回日本体育学会, 大阪, 2016年8月25日.

鍋倉賢治, 小井土正亮, 青柳篤, 岡部正明, 辻俊樹, 濱谷奎介: プロサッカー選手の持久性体力 年齢やポジション別特徴など. 第67回日本体育学会, 大阪, 2016年8月25日.

中村和照, **鍋倉賢治**: 漸増負荷走時の血糖値と血中乳酸値の動態の変化とフルマラソンの走速度との関係 男性市民ランナー1名の事例報告. 第67回日本体育学会, 大阪, 2016年8月25日.

高山史徳, **鍋倉賢治**: マラソンレース後における筋痛の経日変化. 第29回ランニング学会大会, 福岡, 2017年3月20日.

青柳篤, 高橋啓悟, 辻俊樹, **鍋倉賢治**: トライアスロンのラン種目におけるペース変動とパフォーマンス. 第29回ランニング学会大会, 福岡, 2017年3月20日.

小磯透, 長野敏晴, 中村功樹, 溝口洋樹, 大野雅友, 大崎正和, 小山浩, 平野延行, 中西純, 平田佳弘, 中野貴博, 西嶋尚彦, 岡出美則, **鍋倉賢治**: 小中高生の持久走・長距離走に対する態度構造とその変化. 第29回ランニング学会大会, 福岡, 2017年3月20日.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「誌上ランニングラボ 普段のジョギングで重りを背負えば速くなる・・・は真実!」ランナーズ, 532, 21-23, 2016年8月.

「マラソン序盤 ペース挙げて大丈夫? 心拍数に相談だ」日本経済新聞, 2016年9月29日.

「最新GARMINなら全部データで分かります」ランナーズ, 534, 44-45, 2016年10月.

「誌上ランニングラボ 『1kg瘦せれば3分速くなる』・・・は真実!」ランナーズ, 538, 48-49, 2017年2月.

「ランスマ『ランニングを科学する!~“ガチ・ユル走”で持久力アップ~』」NHK-BS1, 2017年2月18日.

「痩せる走り方には、ワケがある。9つのエビデンス!」Tarzan, 712, 18-23, 2017年3月.

c-4. 研究成果による受賞

2016年度ランニング学会奨励賞(受賞論文: 高強度走行中のランニングフォームと経済性. ランニング学研究, 27: 21-35, 2017年3月)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等(科研費を除く)

「プロサッカー選手の体力とコンディショニングに関する研究」(柏レイソル)

「ランニングにおける体力に関する研究」(株式会社 JR東日本)

「自転車選手の体力とパフォーマンスに関する研究」(茨城県)

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「つくば市スポーツ教室 トレイルランニング指導」(つくば市, 5～6月, 延べ4日間)

「日本ノルディックウォーキング協会 上級インストラクター講習」(東京, 2016年6月25日)

「つくばマラソン大会 つくばマラソン練習会指導」(つくば市, 9～11月, 延べ4日間)

「第36回つくばマラソン大会 前夜祭 明日のレースに向けたワンポイントアドバイス」(つくば市, 2016年11月19日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「盛況マラソン大会」毎日新聞, (2016年4月12日)

「億劫なトレーニングには福がある」ランナーズ, 529, 31, 2016年5月

「仕事の悩みも解消!? 瞑想ランニングのすすめ」Tarzan, 705, 44, 2016年10月

「トレーニングの伝承～ランニング学会備忘録, 坂を走る身体負荷と技術①, 福岡国際マラソン観戦記, 楽しく走ってステップアップ講座」JogNote, <http://www.jognote.com/>, 2016年4月, 2016年12月

「サンタが街を走ってる」常陽新聞, (2016年12月24日)

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

陸上競技部顧問

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体力医学会評議員(1998年～)

ランニング学会副理事長(2011年～)

日本ノルディックウォーキング協会理事(2011年～)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

つくばマラソン組織委員会: 大会運営(茨城県・つくば市: 2016年1月～2016年12月, 年6回)

つくば市リレーマラソン大会実行委員会(茨城県・つくば市: 2016年6月～10月, 年3回)

教授 西嶋尚彦

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文(国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

小林優希, 安藤梢, 増地克之, *西嶋尚彦: 中学校保健体育の柔道における技能の目標に準拠した評価のための学習ノートの構成. *身体運動文化研究*, 21: 37-46, 2016年3月.

a-2. その他の論文(査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

松岡弘樹, 見汐翔太, 猶本光, *西嶋尚彦: サッカーゲームにおける守備戦術パフォーマンスの計量, *スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会, 統計数理研究所共同研究レポート*,

363:109-116, 2016年3月.

松岡弘樹, 田原康寛, 中村環, 猶本光, 安藤梢, 見汐翔太, 山守杏奈, ***西嶋尚彦**: サッカーのトラッキングデータからの守備戦術プレーの達成度評価. スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会, 統計数理研究所共同研究レポート, 380:95-104, 2016年3月.

田原康寛, 松岡弘樹, 中村環, ***西嶋尚彦**: プロ野球のゲームデータからのチーム打撃力の達成度評価. スポーツデータ解析における理論と事例に関する研究集会, 統計数理研究所共同研究レポート, 380:9-16, 2017年3月.

西嶋尚彦, 安藤梢: 思春期アスリートの運動能力を引き出すテクニック. 思春期学, 34-1:142-147, 2016年3月.

西嶋尚彦: 「平成27年度全国体力・運動能力, 運動習慣等調査」から浮かび上がった成果と課題. データで読む教育の今, 教室の窓, 48:28-29, 2016年5月.

西嶋尚彦: 子どもの体力・運動能力の発達特性と環境要因. みんなのスポーツ, 38-5:12-14, 2016年5月.

西嶋尚彦: 全国体力・運動能力, 運動習慣等調査報告からみた児童生徒の体力・運動能力の引き出し方. 信濃教育, 1556:1-13, 2016年7月.

西嶋尚彦: スポーツテストから新体力テストへの変遷過程. 体育の科学, 66-8:549-561, 2016年8月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Matsuoka, H., Mishio, S., Naomoto, H., Kumagai, S., Ando, K., **Nishijima, T.**: Scaling on soccer defensive tactical skill in game performance. The 21st Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS) Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

松岡弘樹, 猶本光, 田原康寛, 見汐翔太, 安藤梢, **西嶋尚彦**: サッカートラッキングデータから守備戦術技能を測る. 部科学省科学技術試験研究委託事業, 数学・数理科学と諸科学・産業との協働によるイノベーション創出のための研究促進プログラムによる数学協働プログラム・ワークショップ, 統計科学の新展開と産業界・社会への応用, スポーツアナリティクスの広がり, 2016年度統計関連学会連合大会, 金沢, 2016年9月.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

松岡弘樹, 田原康寛, 中村環, 山守杏奈, 猶本光, 安藤梢, 見汐翔太, **西嶋尚彦**: サッカーのトラッキングデータからの守備戦術プレーの達成度評価. 日本統計学会, 第6回スポーツデータ解析コンペティション, サッカー部門, 東京, 2017年1月.

田原康寛, 松岡弘樹, 中村環, **西嶋尚彦**: プロ野球のゲームデータからのチーム打撃力の達成度評価. 日本統計学会, 第6回スポーツデータ解析コンペティション, 野球部門, 東京, 2017年1月.

横尾智治, 徐広孝, 合田浩二, 加藤勇之助, **西嶋尚彦**: 高等学校体育における主体的問題解決能力育成プロセスの検討. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

c-1-2-4. ポスター発表

松岡弘樹, 田原康寛, 中村環, 山守杏奈, 猶本光, 安藤梢, 見汐翔太, **西嶋尚彦**: サッカーのトラッキングデータからの守備戦術プレーの達成度評価. 第2回SAPスポーツアナリティクス甲子園, ス

ポーツアナリティクスジャパン2016, 東京, 2016年12月.

田原康寛, 松岡弘樹, 中村環, **西嶋尚彦**: プロ野球のゲームデータからのチーム打撃力の達成度評価.
第2回SAPスポーツアナリティクス甲子園, スポーツアナリティクスジャパン2016, 東京,
2016年12月.

c-4. 研究成果による受賞

優秀口頭発表賞 (受賞論文: 高等学校体育における主体的問題解決能力育成プロセスの検討. 日本体育学会第67回大会, 測定評価専門領域, 2016年8月)

日本スポーツアナリスト協会賞 (受賞論文: サッカーのトラッキングデータからの守備戦術プレーの達成度評価, 第2回SAPスポーツアナリティクス甲子園, スポーツアナリティクスジャパン2016, 東京, 2016年12月)

SEM因果分析特別賞 (受賞論文: サッカーのトラッキングデータからの守備戦術プレーの達成度評価. 日本統計学会, 第6回スポーツデータ解析コンペティション, 東京, 2017年1月)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
「子供の体力向上課題対策プロジェクト」(スポーツ庁)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

つくばアスリートラボプロジェクト代表

女子サッカー国際大会ラ・マンガカップ2016 (U-23サッカー女子日本代表), 2016年3月1-8日.
猶本光, 出場.

女子サッカー国際大会アルガルベカップ2016 (サッカー女子日本代表), 2016年3月1-11日.
熊谷紗希, 9位.

欧州女子サッカーチャンピオンズリーグ (オリンピック・リヨン), フランス, 2016年5月23日.
熊谷紗希, 優勝, MVP.

FIFA U-20女子ワールドカップ2016パプアニューギニア大会 (U-20サッカー女子日本代表), 2016年12月9日. 水谷有希, 3位.

女子サッカー国際大会ラ・マンガカップ2017 (U-23サッカー女子日本代表), 2017年3月1-8日.
猶本光, 山守杏奈, 出場.

女子サッカー国際大会アルガルベカップ2017 (サッカー女子日本代表), 2017年3月1-11日
熊谷紗希, 5位.

教授 西平賀昭

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

黒岩一雄, **西平賀昭**, 福本寛之, 碓井外幸: 局所的な高強度運動が運動抑制過程に及ぼす影響. 日本運動生理学雑誌, 23 (1): 1-9, 2016年2月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本運動生理学会 理事長 (2012年～)

日本臨床神経生理学会 評議員 (2005年～)

日本体力医学会 理事・評議員・編集委員会委員 (2008年～)

日本体力医学会 副理事長 (2015年～)

大学機関別認証評価委員会専門委員 (2016年～)

教授 西保 岳

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Amano, T., Gerrett, N., Inoue, Y., **Nishiyasu, T.**, Havenith, G., Kondo, N.: Determination of the maximum rate of eccrine sweat glands'ion reabsorption using the galvanic skin conductance to local sweat rate relationship. *Eur J Appl Physiol*, 116-2: 281-290, 2016-2.

Tsuji, B., Hayashi, K., Kondo, N., ***Nishiyasu, T.**: Characteristics of hyperthermia-induced hyperventilation in humans. *Temperature (Austin)*, 3-1: 146-160. 2016-2.

Amano, T., Ichinose, M., Inoue, Y., **Nishiyasu, T.**, Koga, S., Kenny, GP., Kondo, N.: Influence of forearm muscle metaboreceptor activation on sweating and cutaneous vascular responses during dynamic exercise. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 310-11: R1332-R1339, 2016-6.

Tsuji, B., Honda, Y., Kondo, N., ***Nishiyasu T.**: Diurnal variation in the control of ventilation in response to rising body temperature during exercise in the heat. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 311-2: R401-R409, 2016-8.

Fujimoto, T., Sasaki, Y., Wakabayashi, H., Sengoku, Y., Tsubakimoto, S, ***Nishiyasu T.**: Maximal workload but not peak oxygen uptake is decreased during immersed incremental exercise at cooler temperatures. *Eur J Appl Physiol*, 116-9: 1819-1827, 2016-9.

Amano, T., Ishitobi, M., Ogura, Y., Inoue, Y., Koga, S., **Nishiyasu, T.**, Kondo, N.: Effect of stride frequency on thermoregulatory responses during endurance running in distance runners. *J Therm Biol*, 61: 61-66, 2016-10.

Fujii, N., Louie, JC., McNeely, BD., Amano, T., **Nishiyasu, T.**, Kenny, GP.: Mechanisms of nicotine-induced cutaneous vasodilation and sweating in young adults: roles for KCa, KATP, and KV channels, nitric oxide, and prostanoids. *Appl Physiol Nutr Metab*, 22: 1-9, 2017-3 doi: 10.1139/apnm-2016-0615.

Fujii, N., McNeely, BD., **Nishiyasu, T.**, Kenny, GP.: Prostacyclin does not affect sweating but induces skin vasodilatation to a greater extent in older versus younger women: roles of NO and KCa channels. *Exp Physiol*, 2017-3. doi: 10.1113/EP086297.

Fujii, N., Nikawa, T., Tsuji, B., Kondo, N., Kenny, GP., ***Nishiyasu, T.**: Wearing graduated compression stockings augments cutaneous vasodilation in heat-stressed resting humans. *Eur J Appl Physiol*, 2017-3. doi: 10.1007/s00421-017-3581-5.

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Nishiyasu, T., Tsuji, B., Fujii, N., Honda, Y., Kondo, N.: Characteristics of heat-induced hyperventilation at rest and during exercise in humans. The 6th International Sports Science Network Forum in Nagano 2016, The 4th International Symposium of Institute for Biomedical Sciences – Promotion of Health and Welfare by Sports Medical Sciences in the Aging Society –, Matsumoto, 2016-11-11.

c-1-1-4. ポスター発表

Ichinose, M., Ichinose, T., **Nishiyasu, T.**: Dynamic Modulation of Spontaneous Cardiac Baroreflex Sensitivity to Changes in Workloads in Humans, 2016 American College of Sports Medicine Annual Meeting, 2016-6-2.

Sasaki, Y., Takagi, H., Yoshida, H., Tsubakimoto, S., **Nishiyasu, T.**: Cardiorespiratory responses during eggbeater kick with or without arm-sculling and cycling in water polo players. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3-7.

Cao, Y., Ichikawa, Y., Sasaki, Y., Ogawa, T., Hiroshima, T., Enomoto, Y., Fujii, N., **Nishiyasu, T.**: Effect of expiratory flow limitation on ventilation, oxygen uptake, and lung volume during incremental running under moderate hypobaric hypoxic condition in competitive endurance runners. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3-7.

Fujimoto, T., Watanabe, K., Wakabayashi, H., Sengoku, Y., **Nishiyasu, T.**: Low intensity exercise delays shivering response to cool water immersion. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3-7.

Ogawa, T., Nagao, M., Tetsuguchi, M., **Nishiyasu, T.**: The effect of the inspiratory muscle training on respiratory responses and VO_{2max} in acute hypoxia. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

西保岳：東京オリンピック・パラリンピックへの支援状況。第30回運動と体温の研究会，岩手，2016年9月22日。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

藤本知臣，渡邊和仁，辻文，若林斉，仙石泰雄，**西保岳**：低強度運動が冷水浸水時の体温調節反応に及ぼす影響—ふるえの深部体温閾値および感受性に着目して—。第30回運動と体温の研究会，岩手，2016年9月22日。

奥山道陽，藤本知臣，渡邊和仁，辻文，**西保岳**：暑熱下における高強度間欠的運動時の呼吸代謝応答及びパフォーマンス—ラグビーの競技特性に着目して—。第30回運動と体温の研究会，岩手，2016年9月22日。

一之瀬真志，一之瀬智子，**西保岳**：非定常負荷運動に対す動脈圧受容器反射感受性の応答。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月23日。

藤本知臣，鏡味卓也，渡邊和仁，**西保岳**：間欠的な息止めを伴う高強度運動時の呼吸代謝および循環応答—息止め時間および頻度に着目して—。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月23日。

辻文，鎮田頼宣，本田靖，近藤徳彦，**西保岳**：冷気吸入が暑熱下運動時における深部体温，換気及び脳

血流反応に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月24日.
奥山道陽, 藤本知臣, 渡辺和仁, 辻文, **西保岳**: 暑熱下における高強度間欠的運動時の呼吸代謝応答及びパフォーマンス—ラグビーの競技特性に着目して—. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月24日.

佐々木洋輔, 高木英樹, 吉田浩基, 椿本昇三, **西保岳**: 立ち泳ぎ時の呼吸循環応答の特性: 上肢の補助運動による影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月25日.

土橋康平, 鈴木俊洋, 木越清信, 谷川聡, **西保岳**: 運動前のウォーミングアップや下肢阻血が短時間高強度運動時の呼吸代謝応答及びパフォーマンスに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月25日.

葺石育美, 天野達郎, 白本愛, 古賀俊策, 井上芳光, **西保岳**, 近藤徳彦: 精神性ストレスが安静温熱負荷時の体温—発汗量関係に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月25日.

天野達郎, 葺石育美, 白本愛, 井上芳光, **西保岳**, 近藤徳彦: 精神性ストレスが筋代謝受容器活動時の熱放散反応に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月25日.

c-1-2-4. ポスター発表

小川剛司, 花圓晃洋, **西保岳**: ヘリウム酸素吸入が漸増負荷運動時呼吸筋活動と酸素摂取量に及ぼす影響の性差. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月23日.

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

・筑波大学カヌークラブ (レーシング) 部長

リオジャネイロパラリンピック, 200m, 2016年9月15日

瀬立モニカ, 8位入賞.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

European Journal of Applied Physiology, Editorial Board

Frontiers in Exercise physiology, Associate Editor

体力科学 編集員

文部科学省大学設置分科会専門員委員会 体育学専門委員会主査

5. 公共機関, 企業等からの委託業務 (1.研究業績の“c-5”以外のもの)

次世代室内空調システムと運動と内部環境及び外部環境の試験・評価 (富士医科産業株式会社) 2016～2018年

教授 野津有司

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

野津有司, 片岡千恵: 学校教育における臓器移植に関する指導—保健学習を中心として—. *肝胆膵*, 72(3): 427-432, 2016年3月.

野津有司：変化の激しい時代を見据えた保健教育－養護教諭への期待－. 健, 45(10):4-5, 2017年1月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

野津有司：保健教育. 平成28年度版学校保健の動向, 119-122, 2016年11月.

公益財団法人日本学校保健会保健学習推進委員会（渡部基，野津有司ほか）：保健学習推進委員会報告書－第3回全国調査の結果－. 2017年2月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

野津有司：これからの保健教育の改善・充実に向けて－中央教育審議会教育課程部会「総則・評価特別部会」等での議論を基に－. 日本体育学会第67回大会保健専門領域キーノートレクチャー, 大阪, 2016年8月.

野津有司：青少年危険行動研究の成果と課題. 一般社団法人日本学校保健学会第63回学術大会学会長講演, 茨城, 2016年11月.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

片岡千恵，野津有司，谷口志緒里，工藤晶子，知念莉子，國井恒太郎，久保元芳：我が国の青少年における危険行動の複数出現とSmall Screen Timeとの関連. 第13回日本教育保健学会, 茨城, 2016年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

知念莉子，野津有司，片岡千恵，泉彩夏，久保元芳：学校における食に関するメディア・リテラシーの文献的検討－保健学習での授業実践の充実に向けて－. 第25回日本健康教育学会学術大会, 沖縄, 2016年6月.

岩田英樹，野津有司，片岡千恵，久保元芳：アクティブ・ラーニングの活用に関する研究－保健学習及び他教科における授業実践の文献的検討から－. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

片岡千恵，野津有司，泉彩夏，知念莉子，長岡樹，関野智史，久保元芳，岩田英樹：臓器移植の知識および意識の状況－中学生を対象とした質問紙調査より－. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

小山浩，國川聖子，道幸玲奈，野津有司，片岡千恵，泉彩夏，知念莉子，久保元芳，岩田英樹：中学生における臓器移植に関する知識と意識との関連. 一般社団法人日本学校保健学会第63回学術大会, 茨城, 2016年11月.

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

戸田芳雄，野津有司ほか：新編新しい保健体育. 東京書籍, 2016年2月.

戸田芳雄，野津有司ほか：新編3・4新しいほけん. 東京書籍, 2017年2月.

戸田芳雄，野津有司ほか：新編5・6新しい保健. 東京書籍, 2017年2月.

c. 学外の教育活動

「独立行政法人教員研修センター 平成28年度体力向上指導者養成研修」(水戸市, 2016年5月18～19日)

「文部科学省 他 平成27年度全国養護教諭研究大会」(大津市, 2016年8月4～5日)

「公益社団法人日本学校保健会 他 第61回中国地区学校保健研究協議会」(鳥取市, 2016年8月18日)

「スポーツ庁 他 第55回全国学校体育研究大会」(福島市, 2016年11月10～11日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

(一社) 日本学校保健学会常任理事 (2013年～)

日本公衆衛生学会評議員 (2014年～)

教員養成系大学保健協議会幹事長 (2014年～)

中央教育審議会専門委員 (初等中等教育分科会 教育課程部会) (2015年～)

中央教育審議会臨時委員 (初等中等教育分科会 学校安全部会) (2016年～)

文部科学省「がん教育」の在り方に関する検討会協力者 (2014年～)

国立教育政策研究所「学習指導要領実施状況調査分析委員 (高等学校保健)」(2014年～)

厚生科学審議会専門委員 (2016年～)

(公財) 日本学校保健会「保健学習推進委員会」委員 (1999年～)

(公財) 日本学校保健会「保健教育推進委員会」委員長 (2016年～)

(公財) 日本学校保健会「学校保健情報提供委員会・統括委員会」委員 (2011年～)

教授 藤井 範久

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Miura-Hoga, K., Ae, M., **Fujii, N.**, Yokozawa, T.: Kinetic analysis of the function of the upper body for elite race walkers during official men 20 km walking race. *The Journal of Sports Medicine and Physical Fitness*, 56-10: 1147-1155, 2016-11.

Miura-Hoga, K., Ae, M., **Fujii, N.**, Yokozawa, T.: A three-dimensional kinematic analysis of men's 20-km walking races using an inverted pendulum model. *Gazzetta Medica Italiana Archivio per Le Scienze Mediche*, 175: 297-307, 2016-7.

Kobayashi, Y., Ae, M., Miyazaki, A., **Fujii, N.**, Iiboshi, A., Nakatani, H.: Kinetics of throwing arm joints during a distance throw by skilled Japanese elementary school boys. *Sports Biomechanics*, 15-3: 314-328, 2016-9.

a-1-2. 和文のもの

大島雄治, **藤井範久**: 水平面における下胴の動きに着目した疾走動作の三次元動力学. *体育学研究*, 61: 115-131, 2016年6月.

宮崎彰吾, **藤井範久**: 弾性床サーフェス上への着地動作に関するバイオメカニクス的研究. *バイオメカニズム* 23, 11-19, 2016年7月.

木下まどか, **藤井範久**: テコンドーの前回し蹴り動作における素早さとは. *バイオメカニズム* 23, 155-160, 2016年7月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

宮崎彰吾, **藤井範久**: 日本体育学会茨城支部研究奨励金報告「後方宙返りの着地動作のバイオメカニクス的研究」. *いばらき健康・スポーツ科学*, 32: 41-44, 2016年3月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

藤井範久：「第2章 力学と数学の基礎」，「第8章 流体力：空気や水による力」．宮西智久（編著），岡田英孝，藤井範久（著）「はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ・スポーツバイオメカニクス」，化学同人，京都，17-40，179-188，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Ae, K., Koike, S., **Fujii, N.**, Ae, M.: Lower body simulation analysis on increasing rotational velocity of lower trunk in baseball tee batting. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Kinoshita, M., **Fujii, N.**: How to get postural stability in taekwondo. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

c-1-1-4. ポスター発表

Ohshima, Y., **Fujii, N.**: Length of series elastic element and contract element during vertical jump: comparison of static optimization and dynamic optimization. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Takami, Y., **Fujii, N.**, Otsu, T.: Course analysis of approach techniques of 3/4cut in water ski jump. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Numazu, N., **Fujii, N.**, Nakayama, M., Koido, M.: Game performance analysis of soccer goalkeepers comparison between saving motion and other motions. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Ishii, T., Ae, M., Koshida, S., **Fujii, N.**: The centre of mass kinematics for elite women judo athletes in seoi-nage. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Kobayashi, Y., Ae, M., Miyazaki, A., **Fujii, N.**, Iiboshi, A., Nakatani, H.: Change in the overarm throwing technique due to practice in japanese elementary school girls. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

Funabashi, Y. **Fujii, N.**: Biomechanical analysis of movement transformation by the knee supporter wearing. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7-18-22.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Fujii N.:34th International Conference on Biomechanics in Sports, Organizing Committee and Scientific Committee University of Tsukuba, Japan. 2016-7-18-22. 参加者人数：421名，参加国数：30カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

沼津直樹，藤井範久，浅井武，中山雅雄：大学生男子サッカーにおけるゴールキーパーのゲーム分析-試合中におけるゴールキーパーのプレーの分類-．日本フットボール学会13th Congress，東京，2016年3月．

海津陽一，藤井範久：野球の投球動作におけるボール軌道の実態及びボール速度との関連性調査．第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月．

阿江数通, 小池関也, **藤井範久**, 阿江通良: 野球打撃動作におけるバット・ヘッドスピード増大に有効なスウィング動作の探索. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

海津陽一, **藤井範久**: 野球の投球動作におけるボールリリース前後の手指筋活動の分析. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

高見裕大, 大津卓也, **藤井範久**: 水上スキー競技ジャンプ種目における助走局面に関するバイオメカニクスの研究. 日本海洋人間学会第5回学会大会, 東京, 2016年9月.

沼津直樹, **藤井範久**, 來海郁: ゴールキーパーのダイビング動作におけるシュート高さの判断に関するバイオメカニクスの研究. 第14回フットボール学会, 福岡, 2016年10月.

藤井範久: トレイルランニングレースにおける走動作のキネマティクスの特徴 -異なる路面状態での走動作の比較-. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年11月.

木村健作, **藤井範久**: トレッドミル上における長距離走行に伴う足部内側縦アーチについて. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年11月.

渡邊由佳, **藤井範久**: ヒール靴の足囲サイズの違いが歩行動作に与える影響. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年11月.

木下まどか, **藤井範久**: テコンドーにおける前回し蹴りを相手に当てるための技術. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年11月.

c-1-2-4. ポスター発表

村田宗紀, **藤井範久**: サーブにおけるラケットとボールの運動エネルギーの関係. 第28回日本テニス学会, 岩手, 2016年6月.

沼津直樹, **藤井範久**: ゴールキーパーのダイビング動作中における体幹に対する下肢の役割. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

渡邊由佳, **藤井範久**: 足幅サイズの異なるヒール靴着用時の歩容について. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

木村健作, **藤井範久**: 長距離走行中の足部内側縦アーチ高の変化について. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

大島雄治, **藤井範久**: クラウチングスタートからの一歩目支持期における下腿三頭筋の収縮要素と直列弾性要素の長さについて-筋骨格モデルを用いたシミュレーションからの検討-. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

木下まどか, **藤井範久**: テコンドーにおける「素早さ」の主観的パラメータ評価法の検討. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

村田宗紀, **藤井範久**: ボールの運動エネルギーによる硬式テニスサーブの技術評価. 第67回日本体育学会大会, 大阪, 2016年8月.

大津卓也, 小池関也, **藤井範久**: テニスのフォアハンド・グラウンドストロークにおける至適動作生成-ラケット軌道入力による関節負荷シミュレーション-. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

沼津直樹, **藤井範久**: サッカーゴールキーパーにおける異なる高さへのダイビング動作に関するバイオメカニクスの研究. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

木下まどか, **藤井範久**: テコンドーにおける感覚的な「素早さ」の数値化. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

大島雄治, **藤井範久**: 直列弾性要素の弾性がクラウチングスタートからの1歩目支持期における下腿三頭筋の長さ変化に与える影響-筋骨格モデルを用いたシミュレーションからの検討-. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

木村健作, 藤井範久: トレッドミル上における長距離走行中の足部内側縦アーチの動態. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

宮崎彰吾, 藤井範久: 弾性床へのドロップ着地における競技特性による着地方略の差異-体操競技者と他種目競技者の比較-. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 滋賀, 2016年9月.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
「ハイパフォーマンスサポート事業研究開発プロジェクト」(スポーツ庁)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

バイオメカニクス学会理事 (2009年~)

日本オリンピック委員会選手強化本部委員 (2013年~)

日本オリエンテーリング協会理事 (2009年~), 業務執行理事 (2012年~)

教授 本田 靖

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Kashima, S., Yorifuji, T., Bae, S., **Honda, Y.**, Lim, Y-H., Hong, Y-C.: Asian dust effect on cause-specific mortality in five cities across South Korea and Japan. *Atmospheric Environment*, 128: 20-27, 2016-1.

Kim, J., Shin, J., Lim, YH., **Honda, Y.**, Hashizume, M., Guo, YL., Kan, H., Yi, S., Kim, H.: Comprehensive approach to understand the association between diurnal temperature range and mortality in East Asia. *Sci Total Environ*, 539: 313-321, 2016-1.

Kim, Y., Kim, H., **Honda, Y.**, Guo, YL., Chen, BY., Woo, JM., Ebi, KL.: Suicide and Ambient Temperature in East Asian Countries: A Time-Stratified Case-Crossover Analysis. *Environ Health Perspect*, 124-1: 75-80, 2016-1.

Dang, TN., Seposo, XT., Duc, NH., Thang, TB., An, DD., Hang, LTM., Long, TT., Loan, BTH., ***Honda, Y.**: Characterizing the relationship between temperature and mortality in tropical and subtropical cities: a distributed lag non-linear model analysis in Hue, Viet Nam, 2009-2013. *Glob Health Action*, 9: 28738, 2016-1.

Park, JW., Cheong, HK., **Honda, Y.**, Ha, M., Kim, H., Kolam, J., Inape, K., Mueller, I.: Time trend of malaria in relation to climate variability in Papua New Guinea. *Environ Health Toxicol*, 31: e2016003, 2016-2.

Imai, C., Barnett, AG., Hashizume, M., **Honda, Y.**: The Role of Influenza in the Delay between Low Temperature and Ischemic Heart Disease: Evidence from Simulation and Mortality Data from Japan. *Int J Environ Res Public Health*, 13-5: E454, 2016-4.

Gasparrini, A., Guo, Y., Hashizume, M., Lavigne, E., Tobias, A., Zanobetti, A., Schwartz, JD., Leone, M., Michelozzi, P., Kan, H., Tong, S., **Honda, Y.**, Kim, H., Armstrong, BG.: Changes in Susceptibility to Heat During the Summer: A Multicountry Analysis. *Am J Epidemiol*, 183-11:

1027-1036, 2016-6.

Ng, CFS., Boeckmann, M., Ueda, K., Zeeb, H., Nitta, H., Watanabe, C., **Honda, Y.**: Heat-related mortality: Effect modification and adaptation in Japan from 1972 to 2010. *Global Environmental Change*, 39: 234-243, 2016-6.

Seposo, XT., Dang, TN., ***Honda, Y.**: Effect modification in the temperature extremes by mortality subgroups among the tropical cities of the Philippines. *Glob Health Action*, 9: 31500, 2016-6.

Imai, C., Cheong, HK., Kim, H., **Honda, Y.**, Eum, JH., Kim, CT., Kim, JS., Kim, Y., Behera, SK., Hassan, MN., Nealon, J., Chung, H., Hashizume, M.: Associations between malaria and local and global climate variability in five regions in Papua New Guinea. *Trop Med Health*, 44: 23, 2016-8.

Chen, BY., Chen, CH., Chuang, YC., Kim, H., **Honda, Y.**, Chiang, HC., Guo, YL.: Schoolchildren's antioxidation genotypes are susceptible factors for reduced lung function and airway inflammation caused by air pollution. *Environ Res*, 149: 145-150, 2016-8.

Tsuji, B., **Honda, Y.**, Kondo, N., Nishiyasu, T.: Diurnal variation in the control of ventilation in response to rising body temperature during exercise in the heat. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 311-2: R401-R409, 2016-8.

Guo, Y., Gasparrini, A., Armstrong, BG., Tawatsupa, B., Tobias, A., Lavigne, E., Coelho, MS., Pan, X., Kim, H., Hashizume, M., **Honda, Y.**, Guo, YL., Wu, CF., Zanobetti, A., Schwartz, JD., Bell, ML., Overcenco, A., Punnasiri, K., Li, S., Tian, L., Saldiva, P., Williams, G., Tong, S.: Temperature Variability and Mortality: A Multi-Country Study. *Environ Health Perspect*, 124-10: 1554-1559, 2016-10.

McIver, L., Kim, R., Woodward, A., Hales, S., Spickett, J., Katscherian, D., Hashizume, M., **Honda, Y.**, Kim, H., Iddings, S., Naicker, J., Bambrick, H., McMichael, AJ., Ebi, KL.: Health Impacts of Climate Change in Pacific Island Countries: A Regional Assessment of Vulnerabilities and Adaptation Priorities. *Environ Health Perspect*, 124-11: 1707-1714, 2016-11.

Kim, SE., **Honda, Y.**, Hashizume, M., Kan, H., Lim, Y., Lee, H., Kim, CT., Yi, S., Kim, H.: Seasonal analysis of the short-term effects of air pollution on daily mortality in Northeast Asia. *Sci Total Environ*, 576: 850-857, 2017-1.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Honda, Y.: Heat-related mortality: Impact and adaptation. 10th ASIAHORCs General Meeting and 8th Joint Symposium, Muntinlupa, 2016-9.

Honda, Y.: Heat-related mortality: Impact of climate change and Adaptation. CWB-APCC Workshop on Climate Service for Health, Taipei, 2016-10.

Honda, Y.: New aspect of climate change impact on heat-related mortality. Dasan Conference, Jeju, 2016-11.

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Honda, Y.: Is adaptation to a warming world effective? - Difficulty in implementing heat-health warning system even in developed countries. Adaptation Futures 2016, Rotterdam, 2016-5.

Honda, Y., Seposo, XT., Dang, TN.: Difference between the cold effect and the heat effect in evaluating the short-term weather-mortality relation. Conference of International Society for Environmental Epidemiology and International Society of Exposure Science Asia Chapter 2016, Sapporo, 2016-6.

Guo, Y., Gasparrini, A., Armstrong, B., Tawatsupa, B., Tobias, A., Lavigne, E., Coelho, MS., Pan, X., Kim, H., Hashizume, M., **Honda, Y.**, Guo, YL., Wu, CF., Zanobetti, A., Schwartz, JD., Bell, ML., Overcenco, A., Punnasiri, K., Li, S., Tian, L., Saldiva, P., Williams, G., Tong, S.: The association between temperature variability and mortality: an international collaborative study. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Gasparrini, A., Guo, Y., Sera, F., Khare, S., Heaviside, C., Tobias, A., Hashizume, M., Lavigne, E., Zanobetti, A., Schwartz, J., Astrom, DO., Forsberg, B., Michelozzi, P., Scortichini, M., Seposo, X., Guo, YL., Wu, CF., Kan, H., Dang, TN., Dung, DV., Coelho, MS., Saldiva, P., Tong, S., **Honda, Y.**, Kim, H., Vardoulakis, S., Hajat, S., Armstrong, B.: Projections of temperature-attributed mortality under climate change scenarios: an analysis of 395 locations in 15 countries. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

c-1-1-4. ポスター発表

Honda, Y., Seposo, X., Ngoc, DT., Hashizume, M., Kim, H.: Negative risk of cold on lag 0 day in distributed lag pattern can be due to preceding mortality peak before the temperature trough. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Kim, ES., Kim, H., Bell, M., Hashizume, M., **Honda, Y.**, Kan, H.: Associating respiratory mortality with prolonged high PM10 events in Northeast Asia. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Kim, Y., Sheng Ng, CF., Kim, H., **Honda, Y.**, Guo, YL., Lim, HY., Chen, BY., Hashizume, M.: Air Pollution and Suicide in Seoul, Tokyo, and Taipei: A Time-Stratified Case-Crossover Analysis. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Dang, TN., Van, DQ., Seposo, TX., Kusaka, H., **Honda, Y.**: Attributable deaths due to urban heat island effect in a mega city of Vietnam: an application of dynamic downscaling weather model. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Seposo, X., Dang, TN., Sheng Ng, CF., Mahiyuddin, WR., Sahani, M., Hashizume, M., **Honda, Y.**: Estimating the Effects of Mean, Inter-, and Intra-day temperature variations on mortality among 7 Tropical and Subtropical Cities of Southeast Asian Countries. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

Sheng Ng, CF., Seposo, XT., Dang, TN., Kim, Y., Mahiyuddin, WR., Sahani, M., **Honda, Y.**, Hashizume, M.: Heat waves and mortality in tropical climate: a multi-city analysis in Southeast Asia. Twenty-Eighth Conference of the International Society for Environmental Epidemiology, Rome, 2016-9.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

本田靖：熱関連死亡の将来予測と適応策．第31回日本国際保健医療学会，久留米，2016年12月．

本田靖：温暖化の健康影響－評価法の精緻化と対応策の構築．日本地理学会2017年春季学術大会シンポジウムS16「暑熱分野における気候変動影響と適応技術の社会実装」，つくば，2017年3月．

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

本田靖．気温と死亡の関連に関するシミュレーション－季節要因による影響の評価－．第81回日本民族衛生学会総会，東京，2016年11月．

c-4. 研究成果による受賞

ISEE Best Environmental Epidemiology Paper 2016 award（受賞論文：Gasparrini et al. Mortality risk attributable to high and low ambient temperature: a multicountry observational study, *Lancet*, 2015.）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）
「気候変動に対する地球規模の適応策の費用便益分析」（環境省）
「環境保健サーベイランス解析手法に関する研究」（環境情報科学研究所）
「Health risk assessment of climate change and air pollution」（National Research Foundation of Korea）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

環境保健サーベイランス・局地的大気汚染健康影響検討会委員（1996年～）

環境保健サーベイランス検討会委員（1996年～）

IPCC国内連絡委員会・幹事会メンバー（2011年～）

国立研究開発法人国立環境研究所 医学研究倫理審査委員会委員（2015年～）

教授 前田清司

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kumagai, H., Zempo-Miyaki, A., Yoshikawa, T., Tsujimoto, T., Tanaka, K., *Maeda, S.: Increased physical activity has a greater effect than reduced energy intake on lifestyle modification-induced increase in testosterone. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 58: 84-89, 2016-1.

Sawano, Y., Zempo-Miyaki, A., Akazawa, N., Kosaki, K., So, R., Tanaka, K., *Maeda, S.: Effect of static squat exercise with whole body vibration on arterial stiffness in older women. *Advances in Exercise and Sports Physiology*, 22: 13-17, 2016-4.

Ra, SG., Choi, Y., Akazawa, N., Ohmori, H., *Maeda, S.: Taurine supplementation attenuates delayed increase in exercise-induced arterial stiffness. *Applied Physiology, Nutrition, and Metabolism*, 41: 618-623, 2016-6.

Otsuki, T., Shimizu, K., Zempo-Miyaki, A., Maeda, S.: Changes in salivary flow rate following

Chlorella-derived multicomponent supplementation. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 59: 45-48, 2016-7.

Choi, Y., Akazawa, N., Zempo-Miyaki, A., Ra, SG., Shiraki, H., Ajisaka, R., ***Maeda, S.**: Acute effect of high-intensity eccentric exercise on vascular endothelial function in young men. *Journal of Strength & Conditioning Research*, 30: 2279-2285, 2016-8.

Zempo-Miyaki, A., Fujie, S., Sato, K., Hasegawa, N., Sanada, K., **Maeda, S.**, Hamaoka, T., Iemitsu, M.: Elevated pentraxin 3 level at the early stage of exercise training is associated with reduction of arterial stiffness in middle-aged and older adults. *Journal of Human Hypertension*, 30: 521-526, 2016-9.

Tomoto, T., ***Maeda, S.**, Sugawara, J.: Influence of blood flow velocity on arterial distensibility of carotid artery in healthy men. *The Journal of Physiological Sciences*, 67: 191-196, 2017-1.

a-1-2. 和文のもの

荒井宏和, 清水和弘, 大槻毅, 花岡裕吉, **前田清司**, 渡部厚一: 唾液SIgAによるライフセーバーのコンディション評価. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24: 84-92, 2016年1月.

相原利恵, 熊谷仁, 栃木悠里子, 澤井朱美, 高橋あかり, 白木仁, 目崎登, ***前田清司**: 若年女性における月経周期がバランス能力に及ぼす影響 — 卵胞期と月経期における検討. *体育の科学*, 67: 65-69, 2017年1月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

前田清司: ハイリスク者への運動指導. *健康づくり*, 460: 20, 2016年8月.

羅成圭, 崔英珠, 赤澤暢彦, 大森肇, ***前田清司**: タウリンと血管内皮機能. *タウリンリサーチ*, 2: 40-42, 2016年9月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

前田清司: たくましい心とかしこい体, 征矢英昭, 坂入洋右 (編著), 102-117, 大修館書店, 東京, 2016年7月30日.

前田清司: 透析運動療法 ~健康長寿を実現するために~, 西澤良記 (監修), 125-134, 医薬ジャーナル社, 大阪, 2016年10月15日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Maeda, S., Choi, Y.: Regular exercise and arterial stiffness. The 7th Asia Conference on Kinesiology, Incheon, 2016-11.

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Myouenzono, K., Yoshikawa, T., Kumagai, H., Tsujimoto, T., Tanaka, K., **Maeda, S.**: The effect of aerobic exercise training on plasma amino acids concentrations in overweight and obese men. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Vienna, 2016-6.

Tagawa, K., Ra, SG., Sawano, Y., Yamamoto, K., Yoshikawa, T., **Maeda, S.**: Body height affects increase in arterial stiffness following acute resistance exercise. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Vienna, 2016-6.

c-1-1-4. ポスター発表

- Tomoto, T., Imai, T., Ogoh, S., **Maeda, S.**, Sugawara, J.: The effect of left ventricular-central artery coupling on cerebrovascular hemodynamics: insights from lower body negative pressure. Experimental Biology 2016, San Diego, 2016-4.
- Kumagai, H., Zempo-Miyaki, A., Myoenzono, K., **Maeda, S.**: Aerobic exercise training increases testosterone production in the testis in OLETF rat. Experimental Biology 2016, San Diego, 2016-4.
- Tanahashi, K., Kosaki, K., Sawano, Y., Akazawa, N., Yoshikawa, T., Tagawa, K., Matsubara, T., Myoenzono, K., Tochigi, Y., **Maeda, S.**: Aerobic exercise training changes in brachial artery shear patterns in middle aged and older adults. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Vienna, 2016-6.
- Yoshikawa, T., Kumagai, H., Myoenzono, K., Tsujimoto, T., Tanaka, K., **Maeda, S.**: Aerobic exercise training improves response of central blood pressure to oral glucose loading in overweight/obese men. 20th Annual Congress of the European College of Sport Science (ECSS), Vienna, 2016-6.
- Kumagai, H., Yoshikawa, T., Myoenzono, K., Kaneko, T., Zempo-Miyaki, A., Tsujimoto, T., Tanaka, K., **Maeda, S.**: Habitual aerobic exercise increases serum testosterone levels in overweight and obese men. American Physiological Society-Integrative Biology of Exercise VII, Arizona, 2016-11.
- Tagawa, K., Ra, SG., Kumagai, H., Akazawa, N., Sawano, Y., Yamamoto, K., Yoshikawa, T., Yoshida, Y., Takekoshi, K., **Maeda, S.**: The effect of resistance training on central arterial compliance and angiotensin II in young men. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

- 前田清司：高吸収クルクミンによる「抗動脈硬化」作用および「抗筋疲労」効果。第16回日本抗加齢医学学会総会，横浜，2016年6月。
- 前田清司：運動とクルクミンによる抗動脈硬化作用。第63回日本食品科学工学会，名古屋，2016年8月。
- 前田清司：運動療法による動脈硬化の改善。第35回日本臨床運動療法学会学術集会，横浜，2016年9月。
- 前田清司：健康に過ごすための運動による動脈硬化予防。第5回NSCA国際カンファレンス，千葉，2017年1月。
- 前田清司：急性運動による腎血流量の減少とその機序。第7回日本腎臓リハビリテーション学会，つくば，2017年2月。
- 小崎恵生，前田清司：定期的な運動が中高齢者の腎臓に及ぼす影響－腎内血行動態に着目して－。第7回日本腎臓リハビリテーション学会，つくば，2017年2月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

- 薛載勲，阿部巧，大須賀洋祐，北濃成樹，前田清司，田中喜代次，大藏倫博：地域在住高齢者における身体活動量の日間変動と動脈硬化指標との関連。第17回日本健康支援学会年次学術大会，名古屋。2016年2月。
- 小崎恵生，菅谷健，棚橋嵩一郎，澤野友里子，赤澤暢彦，羅成圭，前田清司：中高齢者における定期的な運動がもたらす腎保護作用－尿中L型脂肪酸結合蛋白に着目して－。第6回日本腎臓リハビリテーション学会，岡山，2016年3月。

- 妙圓園香苗, 吉川徹, 熊谷仁, 蘇リナ, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満男性における生活習慣改善が血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響. 第166回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2016年3月.
- 東本翼, **前田清司**, 菅原順: 有酸素性運動能力に対する近位大動脈スティフネスの影響. 第16回臨床血圧脈波研究会, 東京, 2016年6月.
- 佐藤智仁, 赤澤暢彦, 重野明恵, 棚橋嵩一郎, **前田清司**: 剣道選手における強化合宿中の睡眠質が唾液中分泌型免疫グロブリンAに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 西村真琴, 崔英珠, 赤澤暢彦, 東本翼, 棚橋嵩一郎, 中村優希, 小崎恵生, **前田清司**: 中高齢者における有酸素性運動トレーニングが実行機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 辻本健彦, 若葉京良, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, **前田清司**, 田中喜代次: 行動変容技法を用いた低頻度の運動教室が身体活動量に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 東本翼, 今井智子, 小河繁彦, **前田清司**, 菅原順: 持久性鍛錬者における下肢陰圧負荷解放が中心および脳循環に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 竹下えり子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満男性における定期的な有酸素性運動が免疫機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 水島諒子, 笹井浩行, 中田由夫, **前田清司**, 田中喜代次: 質的分析により抽出した課題を考慮した住民主導による健康減量教室の成果検証. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 山本皓策, 崔英珠, 田口直樹, 鈴木大介, 宮川俊平, **前田清司**: 高反発マットレスが寝姿勢時の体圧分布に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 吉川徹, 立原美彩, 熊谷仁, 妙圓園香苗, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 減量にともなう筋量の変化に睡眠質が及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 金子萌子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 成人肥満男性における12週間の定期的な有酸素性運動がエストラジオール/テストステロン比に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.
- 小崎恵生, 池森(上條)敦子, 菅谷健, 棚橋嵩一郎, 熊谷仁, 澤野友里子, 大須賀洋祐, 田中喜代次, 木村健二郎, 柴垣有吾, **前田清司**: 中高齢者における握力と腎内血管抵抗指数(RRI)の関連性. 第7回日本腎臓リハビリテーション学会, つくば, 2017年2月.
- 水島諒子, 笹井浩行, 中田由夫, **前田清司**, 田中喜代次: 住民主導による健康減量教室の質的分析による課題抽出. 第18回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2017年3月.
- 西村真琴, 笹井浩行, 中田由夫, **前田清司**: 座位行動に対する即時フィードバックの探索的有効性-研究デザイン-. 第18回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2017年3月.
- c-1-2-4. ポスター発表**
- 熊谷仁, 吉川徹, 膳法亜沙子, 妙圓園香苗, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 定期的な有酸素性運動が血中テストステロン濃度に及ぼす影響: 肥満男性と非肥満男性における検討. 第24回日本運動生理学会, 熊本, 2016年7月.
- 赤澤暢彦, 重野明恵, 佐藤智仁, **前田清司**: 剣道選手における唾液中分泌型免疫グロブリンAが認知機能に及ぼす影響. 第24回日本運動生理学会, 熊本, 2016年7月.
- 若葉京良, 辻本健彦, 趙暁光, 王震男, 谷口亮介, 奥松功基, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, **前田清司**, 田中喜代次: 集団型減量支援プログラムにおける減量効果と社会的支援の関係. 第64回日本教育医学会大会, 三重, 2016年8月.
- 崔英珠, 牧田瑞穂, 山本皓策, 中村優希, 奈良隆章, 川村卓, 福田英宏, 片野秀樹, 宮川俊平, **前田清司**: アスリートにおける睡眠時のリカバリーウェア着用がコンディションに及ぼす影響 —高強度ト

レーニング期間中における検討一. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

熊谷仁, 吉川徹, 膳法亜沙子, 妙圓園香苗, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満男性における有酸素性運動と食習慣改善が血中テストステロン濃度に及ぼす影響 —有酸素性運動と食習慣改善の比較—. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

赤澤暢彦, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 羅成圭, 松原朋子, 崔英珠, 膳法亜沙子, 澤野友里子, 熊谷仁, **前田清司**: 有酸素性トレーニングが一過性の有酸素性運動後の脳血流拍動性に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

妙圓園香苗, 吉川徹, 熊谷仁, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 肥満男性における有酸素性運動トレーニングが血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響 ~網羅的解析による検討~. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

澤野友里子, 膳法亜沙子, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 赤澤暢彦, **前田清司**: 閉経後女性における骨代謝とAIの関連性 -運動トレーニングの影響-. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

棚橋嵩一郎, 奥幸那, 小崎恵生, 山本皓策, **前田清司**: 上肢および下肢の局所温熱がバドミントンパフォーマンスに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 金子萌子, **前田清司**: 成人男性における運動能力と勃起機能の関連. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016年11月.

水島諒子, 笹井浩行, 中田由夫, **前田清司**, 田中喜代次: 減量支援を担う住民ボランティアの体重と食行動の変化. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016年11月.

金子萌子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 若葉京良, 辻本健彦, 田中喜代次, **前田清司**: 閉経が食習慣改善による内臓脂肪面積の低下に及ぼす影響. 第4回日本介護福祉・健康づくり学会, 千葉, 2016年11月.

赤澤暢彦, 熊谷仁, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 吉川徹, 妙圓園香苗, 羅成圭, 田川要, 松原朋子, 崔英珠, **前田清司**: 中高齢者における有酸素性運動能力が脳血流拍動性に及ぼす影響. 第5回NSCA国際カンファレンス, 千葉, 2017年1月.

c-3. 研究成果に関するプレスリリース (筑波大学, 所属学会, 協会等によるもの)

「Testosterone Levels Improve in Overweight, Obese Men after 12-Week Exercise Program」
(*American Physiological Society-Integrative Biology of Exercise VII*, 2016-11-4)

c-4. 研究成果による受賞

第4回日本介護福祉・健康づくり学会若手最優秀賞 (共同研究者) (2016年11月)

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「『ラクトトリペプチド』摂取が血管機能および脳血流に及ぼす影響に関する研究」(アサヒグループホールディングス株式会社)

「イミダゾールジペプチドの摂取が睡眠およびパフォーマンスに及ぼす影響」(日本ハム株式会社)

「中高齢者における慢性腎臓病の予防法の確立～運動と尿中L-FABPに着目して～」(シミックホールディングス株式会社)

「虚血プレコンディショニングに関する研究」(株式会社 ライフサポート)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体育学会理事 (2015年～)

日本運動生理学会理事 (2012年～)

日本体力医学会評議員 (2000年～)

日本運動生理学会評議員（2009年～）

「International Journal of Sport and Health Science」編集委員会委員長（2015年～）

「体力科学」編集委員会委員（2015年～）

「The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine」編集委員会委員（2015年～）

教授 水上勝義

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Takahashi, S., **Mizukami K.**, Arai, T., Ogawa, R., Kikuchi, N., Hattori, S., Darby, D., Asada, T.: Ventilatory response to hypercapnia predicts dementia with Lewy bodies in late-onset major depressive disorder. *J Alzheimers Dis*, 50-3: 751-758, 2016-2.

Kida, J., Nemoto, K., Ikejima, C., Bun, S., Kakuma, T., **Mizukami, K.**, Asada, T.: Impact of Depressive Symptoms on Conversion from Mild Cognitive Impairment Subtypes to Alzheimer's Disease: A Community-Based Longitudinal Study. *J Alzheimers Dis*, 51-2: 405-415, 2016-3.

Mizukami, K., Akatsu, H., Abrahamson, EE., Mi, Z., Ikonovic, MD.: Immunohistochemical analysis of hippocampal butyrylcholinesterase: Implications for regional vulnerability in Alzheimer's disease. *Neuropathology*, 36-2: 135-145, 2016-4.

Manabe, T., ***Mizukami, K.**, Akatsu, H., Teramoto, S., Yamaoka, K., Nakamura, S., Ohkubo, T., Kudo, K., Hizawa, N.: Influence of pneumonia complications on the prognosis of patients with autopsy-confirmed Alzheimer's disease, dementia with Lewy bodies, and vascular dementia. *Psychogeriatrics*, 16-5: 305-314, 2016-9.

Kojima, T., **Mizukami, K.**, Tomita, N., Arai, H., Ohru, T., Eto, M., Takeya, Y., Isaka, Y., Rakugi, H., Sudo, N., Arai, H., Aoki, H., Horie, S., Ishii, S., Iwasaki, K., Takayama, S., Suzuki, Y., Matsui, T., Mizokami, F., Furuta, K., Toba, K., Akishita, M., Working Group on Guidelines for Medical Treatment its Safety in the Elderly.: Screening Tool for Older Persons' Appropriate Prescriptions in Japanese: Report of the Japan Geriatrics Society Working Group on "Guidelines for medical treatment and its safety in the elderly". *Geriatr Gerontol Int*, 16-9: 983-1001, 2016-9.

Manabe, T., ***Mizukami, K.**, Akatsu, H., Hashizume, Y., Teramoto, S., Nakamura, S., Kudo, K., Hizawa, N.: Prognostic factors of dementia with Lewy bodies complicated with pneumonia: An autopsy study. *Intern Med*, 55-19: 2771-2776, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

水上勝義: 認知症とうつ病. *精神科治療学*, 31: 345-349, 2016-3.

高橋晶, **水上勝義**: レビー小体型認知症と精神疾患の鑑別診断. *老年精神医学*, 27 (増刊): 103-108, 2016-4.

水上勝義: レビー小体型認知症の臨床診断. *認知症の最新医療*, 6-3: 106-110, 2016-7.

中村誠司, ***水上勝義**: 保育士・介護士コンピテンシー尺度の提唱. *未来の保育と教育*, 東京未来大学・教職センター紀要, 3: 53-60, 2016-10.

久芳尚子, ***水上勝義**: 働く障害者のストレスに関する研究: 就労支援の視点から. *文理シナジー*, 20-2: 103-112, 2016-10.

水上勝義: 高齢者の精神疾患における薬物療法の注意点. *Aging & Health*, 77: 20-23, 2016-4.

水上勝義: 高齢者の薬物療法ガイドラインシリーズ: 精神症状: BPSD, 不眠, うつ. *Pharmaceutical and Medical Device Regulatory Science*, 47-10: 730-735, 2016-10.

水上勝義: 日本老年医学会「高齢者の安全な薬物療法2015」からみえてくるもの. *精神神経誌*, 118-11: 841-843, 2016-11.

村上真, 橋本佐由理, ***水上勝義**: 就労者に対するヨガ療法介入のストレス反応 水準別効果検討. *ストレス科学*, 31-3: 245-252, 2017-3.

水上勝義: レビー小体型認知症と自律神経障害. *自律神経*, 54-1: 9-12, 2017-3.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

馬場元, 天野直二, **水上勝義**: うつ病診療の Update QA. *Depression Journal*, 4: 11-15, 2016-4.

水上勝義: BPSD・不眠症・うつ病診療における Polypharmacy 対策. *日本医事新報*, 4822: C1-C4, 2016-9.

舟木彩乃, ***水上勝義**: 精神科医に求められる役割とメンタルヘルス ストレスチェック制度義務化から半年を迎えて. *新薬と臨床*, 65-6: 847-850, 2016-6.

水上勝義: 高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015. *日本臨床内科医会会誌*, 31-5: 693-696, 2017-3.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-1. 英文のもの

Mizukami, K.: Chapter 15. Ventilatory Response to Hypercapnia in Dementia with Lewy Bodies
Dementia with Lewy Bodies. *Clinical and Biological Aspects*, Kosaka, Kenji (Ed.), Springer
Japan, 205-211, 2016-9.

b-2. 和文のもの

水上勝義: うつ病・認知症. 高齢者のポリファーマシー —多剤併用を整理する知恵とコツ—, (編著)
秋下雅弘, 南山堂, 153-160, 2016-4.

水上勝義: 年齢による物忘れと認知症. 介護予防のためのベストケアリング. (編集) 松田ひとみ, 水
上勝義, 柳久子, 岡本紀子, *メジカルビュー*, 79-92, 2016-9.

水上勝義: レビー小体型認知症の診断と治療. もの忘れ外来, (編集) 荒木信夫, 丸木雄一, *メジカル
ビュー*, 162-173, 2016-9.

水上勝義: BPSDと漢方. 今日の精神疾患治療指針, (編集) 樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田隆,
中込和幸, 医学書院, 386-388, 2016-10.

水上勝義: 抗がん剤による精神症状. 今日の精神疾患治療指針, (編集) 樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信,
朝田隆, 中込和幸, 医学書院, 490-493, 2016-10.

石井映美, **水上勝義**: 抗結核薬による精神症状. 今日の精神疾患治療指針, (編集) 樋口輝彦, 市川宏伸,
神庭重信, 朝田隆, 中込和幸, 医学書院, 500-503, 2016-10.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Nakajo, S., **Mizukami, K.**: Self-care acupuncture treatment for sleep improvement in a healthy subject:

a preliminary study, WFAS Tokyo/Tsukuba, Tsukuba, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

水上勝義：BPSDは誰が診るのか，診られるのか．第112回日本精神神経学会，千葉，2016年6月2日．

水上勝義：レビー小体型認知症の診断と治療～最新の知見もふくめて～．第29回山陰認知症ケア研究会，米子，2016年6月4日．

水上勝義：認知症と高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015．平成28年度精神科薬物療法認定薬剤師講習会，神戸，2016年6月12日．

水上勝義：レビー小体型認知症とうつ．第31回日本老年精神医学会，金沢，2016年6月24日．

水上勝義：認知症のBPSD，うつ，不眠症の慎重投与薬．第6回日本認知症予防学会，仙台，2016年9月25日．

水上勝義：認知症の診断と治療．北海道鍼灸師学術講演会，札幌，2016年10月2日．

水上勝義：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン2015，第30回日本臨床内科学会，東京，2016年10月10日．

水上勝義：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン—高齢者の精神疾患の治療から—．第36回日本臨床麻酔学会，高知，2016年11月3日．

水上勝義：高齢者の安全な薬物療法ガイドライン．第34回日本神経治療学会，米子，2016年11月3日．

水上勝義：レビー小体型認知症と自律神経障害．第69回日本自律神経学会，熊本，2016年11月11日．

水上勝義：地域医療の中で薬物療法を安全につなぐ．第24回病診病病連携学術集談会，神戸，2016年8月25日．

水上勝義：認知症予防のエビデンス．第4回日本介護福祉・健康づくり学会，柏，2016年11月4日．

水上勝義：認知症の睡眠障害に対する漢方薬の応用について，第28回日本臨床精神神経薬理学会，大分，2016年11月7日．

水上勝義：診断基準に基づく臨床診断．第35回日本認知症学会 シンポジウム12「レビー小体型認知症の診断」，東京，2016年12月2日．

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「熊本地震．認知症相談8割『悪化』」，毎日新聞，2016年6月11日．

「非専門医のBPSD抗精神病薬治療，特に慎重に」，m3.com臨床ニュース，2016年6月14日．

「認知症治療における漢方薬の効果とは．すべてがわかる認知症2016」，週刊朝日Mook，120，2016年7月．

c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学，所属学会，協会等によるもの）

「筑波大学とビクトリア大学（オーストラリア）による国際的な産学連携が始動」（筑波大学，2016年12月19日）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「ダイエットプログラム参加者の心理的变化に関する研究」（RIZAP株式会社）

「高齢者の歩行改善と転倒予防に関する研究」（グローバルブリッジ株式会社）

「コンピューターゲームによるストレス改善に関する研究」（株式会社ネットワーク21）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「平成28年度教員免許状更新講習」（つくば市，2016年6月26日）

「平成28年度理療科教員免許状更新講習」（東京都文京区，2016年7月22日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本認知症学会理事（2016年～）

日本老年薬学会理事（2016年～）

日本高齢者ケアリング研究会理事（2016年～）

文理シナジー学会歩行・認知・健康促進研究会代表（2016年～）

DLBサポートネットワーク茨城顧問（2015年～）

日本認知症予防学会評議員（2016年～）

日本老年精神医学会評議員（2008年～）

日本うつ病学会評議員（2006年～）

日本老年医学会高齢者の安全な薬物療法ガイドライン委員（2013年～）

日本神経学会認知症疾患治療ガイドライン（2014年～）

日本精神神経学会認知症特別委員会委員（2015年～）

d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「漢方薬15人の名医」（週刊文春，2016年11月3日）

「うつ病，漢方薬が向く人も」（日刊ゲンダイ，2017年3月8日）

「暮らし ストレス緩和 漢方薬も有効 理解深めたい「うつ病」対策」（苫小牧新聞，2017年3月8日）

「くらし 慢性的ストレスを緩和 漢方薬早期に有効 新生活に伴う「うつ病」対策」（上毛新聞，2017年3月13日）

「生活 うつ病予防漢方で」（愛媛新聞，2017年3月14日）

「コラム メンタルヘルスのこと」（Healthy Aging，幻冬舎，112-113，2017年3月15日）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

「高齢者の心の健康に関する研修会」（松本地域精神保健福祉協議会，長野県松本保健福祉事務所）2017年2月22日

6. 特許，実用新案

「換気応答測定システム」特許出願 第2017-04115122号，2017年3月3日

教授 宮川俊平

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Takaki, S., Kaneoka, K., Okubo, Y., Otsuka, S., Tatsumura, M., Shiina, I., **Miyakawa, S.**: Analysis of muscle activity during active pelvic tilting in sagittal plane. *Physical Therapy Research*, 19-1: 50-57, 2016-4.

a-1-2. 和文のもの

松井康，今井智子，永井智，小林直行，渡邊昌宏，近藤宏，**宮川俊平**：運動前のタウリン摂取が筋疲労に及ぼす影響. *理学療法科学*，31-3：389-393，2016-4.

切刀峻, 増成暁彦, 吉田成仁, **宮川俊平**: 慢性足関節不安定症を有する大学サッカー選手の前方着地時における姿勢安定化時間の遅延～ Cumberland Ankle Instability Tool 日本語版による評価をもとにして～. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24: 407-414, 2016年8月.

有吉晃平, 辰見康剛, **宮川俊平**: スタティックストレッチングによって生じる筋力低下とその回復期間. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2: 220-225, 2016年4月.

眞下苑子, 藁科侑希, 白木仁, **宮川俊平**: 大学女子ハンドボールチームにおける外傷・障害および疼痛発生の実態. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2, 244-253, 2016年4月.

柵木聖也, 金森章浩, 白木仁, **宮川俊平**: 回転円盤型下腿回旋測定器“RotorMeter”を用いた下腿の回旋可動域の測定. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2, 261-267, 2016年4月.

山元勇樹, 加藤基, 福田崇, 大垣亮, **宮川俊平**: 大学新入生アスリートの大腿部肉離れの既往における整形外科受診の有無. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2, 289-299, 2016年4月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Masegi, S., Shiraki, H., **Miyakawa, S.**: Evaluation of reliability and validity of new device to measure knee rotation. 63th ACSM annualmeeting, Boston, 2016-6.

Kunugi, S., Masunari, A., **Miyakawa, S.**: Changes in lower limb muscle activity in soccer players with Functional Ankle Instability during a diagonal single-leg drop landing. 21th annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE, Vienna, 2016-7.

Masunari, A., Kunugi, S., Yoshida, N., **Miyakawa, S.**: The aggravation of functional ankle instability reduced the jump performance 21th annual Congress of the EUROPEAN COLLEGE OF SPORT SCIENCE, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

福田崇, 山元勇樹, 小池関也, **宮川俊平**, 藤谷博人, 松元剛: 大学アメリカンフットボール選手の衝突時における頭部作用力の測定. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

山本皓策, 崔英珠, 田口直樹, 鈴木大介, **宮川俊平**, 前田清司: 高反発マットレスが寝姿勢時の体圧分布に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

金多充, 西田智, **宮川俊平**, 福田崇, 竹村雅裕: 内反膝の有無と肢位の違いが腸脛靭帯の硬度に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

野津將時郎, 竹村雅裕, 岩渕慎也, **宮川俊平**: Star Excursion Balance Testのリーチ距離に影響を与える要因の検討. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

c-1-2-4. ポスター発表

海老名慧, 山本大介, 石倉恵介, 小峰昇一, 宮崎照雄, 大野貴弘, **宮川俊平**, 大森肇: マウスの白色脂肪組織中タウリン濃度に及ぼす肥満と持久性トレーニングの影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

大森肇, 大野貴弘, 海老名慧, 時野谷勝幸, 宮崎照雄, 鈴木貴視, 西村明仁, **宮川俊平**: L-シトルリン投与が高強度走運動パフォーマンスに及ぼす効果. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

崔英珠, 牧田瑞穂, 山本皓策, 中村優希, 奈良隆章, 川村卓, 福田英宏, 片野秀樹, **宮川俊平**, 前田清司:

高強度トレーニング期間中における睡眠時のリカバリウェア着用がコンディションに及ぼす影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

河村崇史，増成暁彦，切刀峻，宮川俊平：足関節不安定性の有無がスクワット動作に与える影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

西田智，前原淳，東本翼，福田崇，宮川俊平：一過性の低強度伸張性運動がピークトルク発揮時の関節角度に及ぼす影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

都賀裕喜，中島幸則，砂川憲彦，宮川俊平：聴覚障害者サッカー日本代表における傷害調査。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

遠藤悠介，竹村雅裕，門間正彦，金森章浩，宮川俊平：MRIを用いた脛骨後方傾斜角度の測定方法の検討。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

菊元孝則，古川勝弥，竹田典弘，宮川俊平：股関節外転筋力が膝関節アライメントに及ぼす影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

切刀峻，増成暁彦，吉田成仁，宮川俊平：機能的足関節不安定症を有する大学サッカー選手の下肢筋活動特性。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

増成暁彦，切刀峻，吉田成仁，小林直行，宮川俊平：足関節機能的不安定症を有する大学サッカー選手のCalf rise時下腿筋活動特性。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

宮崎照雄，羅成圭，石倉恵介，宮川俊平，松崎靖司，本多彰，大森肇：分岐アミノ酸（BCCA）摂取後の運動による血中 β -hydroxy- β -methlbutyrate(3HMB)濃度の上昇。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

武田紘平，鈴木雄斗，北岡祐，渡部厚一，宮川俊平：EPAが骨格筋のミトコンドリア呼吸に与える影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

原口文菜，宮川俊平，福田崇：大学アメリカンフットボール選手における試合時の頭部衝撃が認知機能テストに及ぼす影響。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

吉田一也，鈴木啓太，宮川俊平，福田崇，竹村雅裕：超音波画像診断装置による肩甲骨周囲筋群の筋厚評価の再現性の検討。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

c-1-2-4. ポスター発表

西田雄亮，金森章浩，田中健太，山元勇樹，梶原将也，菊池直哉，西野衆文，山崎正志，宮川俊平：アスリートの難治性膝蓋腱炎における治療前MRI所見と体外衝撃波の治療効果との関係。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉，2016年11月。

梶原将也，田中健太，金森章浩，山崎正志，山元勇樹，宮川俊平，平野篤，谷口悠，青戸克哉：難治性第五中足骨基部骨折に対する体外衝撃波治療の経験。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉，2016年11月。

飯島光博，竹村雅裕，宮川俊平：腰椎分離症患者におけるX線学的不安定性評価の検討。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，幕張，2016年11月。

田中健太，金森章浩，山元勇樹，梶原将也，西田雄亮，菊池直哉，山崎正志，宮川俊平：アスリートの有痛生分裂膝蓋骨に対する体外衝撃波の治療経験。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉，2016年11月。

都丸洋平，鎌田浩史，塚越祐太，田中健太，中川将吾，宮川俊平，山崎正志：運動器検診におけるマークシートを用いた問診票（T-CLOSS）の有用性。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉，2016年11月。

小林直行，吉田成仁，伊藤新，増成暁彦，宮川俊平：男子大学体操選手の有鉤骨鉤骨折の発生頻度—“ソコマメ”との関連性—。第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会，千葉，2016年11月。

澁谷泉, 竹村雅裕, 永井智, 大垣亮, 宮川俊平: 大学女子バスケットボール選手の慢性的な疼痛の発生状況について. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016年11月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本サッカー協会医学委員会委員 (1987年~)

日本体育協会AT部会部会員 (2004年~)

つくばマラソン医療部会 (2003年~)

教授 ヤッサ マイケル

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Leal, SL., Noche, JA., Murray, EA., **Yassa, MA.**: Age-related individual variability in memory performance is associated with amygdala-hippocampal circuit function and emotional pattern separation. *Neurobiology of Aging*, 49: 9-19, 2016-8.

Wisse, LE., Daugherty, AM., Olsen, RK., Berron, D., Carr, VA., Stark, CE., Amaral, RS., Amunts, K., Augustinack, JC., Bender, AR., Bernstein, JD., Boccardi, M., Bocchetta, M., Burggren, A., Chakravarty, MM., Chupin, M., Ekstrom, A., de Flores, R., Insausti, R., Kanel, P., Kedo, O., Kennedy, KM., Kerchner, GA., LaRocque, KF., Liu, X., Maass, A., Malykhin, N., Mueller, SG., Ofen, N., Palombo, DJ., Parekh, MB., Pluta, JB., Pruessner, JC., Raz, N., Rodrigue, KM., Schoemaker, D., Shafer, AT., Steve, TA., Suthana, N., Wang, L., Winterburn, JL., **Yassa, MA.**, Yushkevich, PA., la Joie, R. for the Hippocampal Subfield Group (HSG): A harmonized segmentation protocol for hippocampal and parahippocampal subregions: why do we need one and what are the key goals? *Hippocampus*, 27-1: 3-11, 2016-11.

Reagh, ZM., Murray, EA., **Yassa, MA.**: Repetition reveals ups and downs of hippocampal, thalamic, and neocortical engagement during mnemonic decisions. *Hippocampus*, 27-2: 169-183, 2017-1.

Zheng, J., Anderson, KL., Riley, JD., Leal, SL., Shestyuk, A., Gulsen, G., Vadera, S., **Yassa, MA.**, Knight, RT., Lin, JJ.: Basolateral amygdala and hippocampal dynamics during processing of fearful faces. *Nature Communications*, 8:14413, 2017-2.

Snigdha, S., **Yassa, MA.**, Rivera C., Milgram, NW., Cotman, CW.: Pattern separation and goal directed behavior in the aged canine. *Learning and Memory*, 24-3: 123-131, 2017-2.

Leal, SL., Noche, JA., Murray, EA., **Yassa, MA.**: High-resolution fMRI of amygdala and hippocampal subfields in older adults with depressive symptoms. *Hippocampus*, 27: 464-476, 2017-2.

Suwabe, K., Hyodo, K., Byun, K., Ochi, G., **Yassa, MA.**, Soya, H.: Acute moderate exercise improves mnemonic discrimination in young adults. *Hippocampus*, 27(3): 229-234, 2017-3.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-1. 英文のもの

Schwab, E., **Yassa, MA.**, Weiner, M., Vidal, R.: Using Automatic HARDI Feature Selection,

Registration, and Atlas Building to Characterize the Neuroanatomy of A β Pathology. Fuster A., Ghosh A., Kaden E., Rathi Y., Reisert M., eds, Computational Diffusion MRI. Mathematics and Visualization, Springer, Cham, 207-218, 2016-4.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-1. 基調講演

Yassa, MA.: Episodic Memory: How It Works, How It Breaks, and How to Improve It. National Academy of Neuropsychology, Seattle, WA, 2016-10.

c-1-1-2. 特別・招待講演

Yassa, MA.: Functional Architecture of Episodic Memory and Translational Applications to Psychiatric and Neurodegenerative disorders. University of Alabama, Birmingham, AL, 2016-4.

Yassa, MA.: Establishing Hippocampal-Neocortical Traces for Discrimination and Recognition Memory. Functional Architecture of Memory Meeting, Magdeburg, Germany, 2016-5.

Yassa, MA.: Functional Architecture of Episodic Memory and Translational Applications to Aging and Dementia. Pfizer, Inc., Cambridge MA, 2016-7.

Yassa, MA.: Functional Architecture of Episodic Memory and Translational Applications to Aging and Dementia. Rotman Research Institute, University of Toronto and Baycrest Hospital, Toronto ON, 2016-7.

Yassa, MA.: Translational Neurobiology: From rat to man and back again. Minority Science Program, University of California, Irvine, 2016-8.

Yassa, MA.: Mechanisms of episodic memory and modifiable biomarkers for age-related cognitive changes. Global Initiative on Sports Neuroscience Symposium, Ibaraki, Japan, 2017-2.

c-1-1-4. ポスター発表

Reagh, Z., Ho, H., Noche, J., Chun, A., Leal, S., Murray, EA., **Yassa, MA.**: Mnemonic discrimination of object and spatial information as early indices of age-related neurocognitive decline. Cognitive Neuroscience Society, 2016-4-4.

Leal, SL., Cunningham, T., **Yassa, MA.**, Payne, JD.: Stress enhances mnemonic discrimination of negative objects. Cognitive Neuroscience Society, 2016-4-5.

Montchal, ME., **Yassa, MA.**: Differences in temporal memory precision in the anterior and posterior medial temporal lobes. Cognitive Neuroscience Society, 2016-4-5.

Roberts, JM., Kernodle, KA., Noche, JA., Murray, EA., **Yassa, MA.**: Sequential Priming Influences Mnemonic Discrimination of Similar Objects in a Directionally Dependent Manner. Cognitive Neuroscience Society, 2016-4-5.

Roberts, JM., Holbrook, A., Tustison, N., Stone, J., Avants, B., Cook, P., Gillen, D., **Yassa, MA.**: Lateral Entorhinal Cortical Thinning Predicts Cognitive Decline in the ADNI Sample. Alzheimer's Association International Conference, 2016-7-27.

Reagh, Z., Stevenson, RF., Chun, AP., Murray, EA., **Yassa, MA.**: Distinct and complementary contributions of hippocampal subfields and neocortical regions to source memory and item-level pattern separation. Society for Neuroscience Nanosymposium, 2016-11-12.

Wisse, L., Daugherty, AM., Olsen, RK., Amaral, RSC., Berron, D., Carr, VA., Ekstrom, A., Kanel, P.,

Kerchner, GA., Mueller, SG., Pluta, JB., Stark, CE., Steve, TA., Wang, L., **Yassa, MA.**, Yushkevich, P., La Joie, R.: A harmonized protocol for In vivo human medial temporal lobe subfield segmentation: initial results of the 3 tesla protocol for the hippocampal body. Society for Neuroscience Nanosymposium, 2016-11-12.

Stevenson, RF., Zheng, J., Leal, SL., Chun, AP., Vadera, S., Knight, RT., Lin, JJ., **Yassa, MA.**: High-frequency band activity in human hippocampal CA1 predicts the precision of spatial memory retrieval. Society for Neuroscience. 2016-11-14.

Montchal, ME., **Yassa, MA.**: Hippocampal-cortical networks for temporal memory precision. Society for Neuroscience, 2016-11-14.

Zheng, J., Stevenson, RF., Erkol, H., **Yassa, MA.**, Knight, RT., Lin, JJ.: Category specific phase encoding for facial expressions in the orbitofrontal cortex. Society for Neuroscience, 2016-11-14.

Roberts, JM., Holbrook, AJ., Tustison, N., Stone, J., Gillen, D., **Yassa, MA.**: Entorhinal cortical thickness predicts cognitive decline in MCI in the ADNI sample. Society for Neuroscience, 2016-11-14.

准教授 足立和隆

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Adachi, K., Ishimoto, A., Honda, N.: Markerless 3D Motion Analysis System (using 3 Kinect v1 sensors), *Symposium Proceedings of XIV International Symposium on 3D Analysis of Human Movement*, Taipei, 206-209, 2016-7.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

足立和隆：プロメテウス解剖学アトラス（解剖学総論／運動器系）（第3版）（翻訳）。医学書院，2017年1月1日。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Adachi, K., Ishimoto, A., Honda, N.: Markerless 3D Motion Analysis System (using 3 Kinect v1 sensors), XIV International Symposium on 3D Analysis of Human Movement, Taipei, 2016-7-19.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

足立和隆：マーカーレス3次元動作計測装置（Anakin System 2）。第70回日本人類学会大会，新潟，2016年10月。

足立和隆, 石本明生, 本多信夫: マーカーレス3次元動作計測装置 (Anakin System) の精度検定. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年11月.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)
KINECTを活用した簡易動作計測装置に関する研究 (株HALデザイン研究所)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

ラヂオつくば相談役 (2008年~)

准教授 榎本靖士

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Seki, K., Numazu, N., Ohyama Byun, K., **Enomoto, Y.**: EFFECT OF A BIOMECHANICAL FACTOR ON ENERGY EXPENDITURE BY DISTANCE RUNNERS DURING REPEATED VERTICAL JUMPS. International Society of Biomechanics Conference Proceedings, 34-1: 941-944, 2016-7.

Otanil, Y., Aibara, T., **Enomoto, Y.**: EVALUATION OF RUNNING MECHANICS USING MOTION SENSOR FOR DISTANCE RUNNERS. International Society of Biomechanics Conference Proceedings, 34-1: 1224-1227, 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

丹治史弥, 関慶太郎, **榎本靖士**: 高強度走行中のランニングフォームと経済性. ランニング学研究, 27: 21-35, 2016年2月.

山中亮, 松林武生, 佐伯徹郎, **榎本靖士**, 山崎一彦, 杉田正明: 高校トップレベル男子長距離走者のパフォーマンスと大腰筋の筋横断面積および最大酸素摂取量の関係. 体力科学, 65: 307-313, 2016年6月.

鈴木雄太, 竹中俊輔, **榎本靖士**, 田内健二: 競技場の特徴点を利用したカメラパラメータ算出法に関する研究. バイオメカニクス研究, 20: 2-9, 2016年9月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

榎本靖士: 第5章 中長距離走における持久性体力の評価. 八田秀雄 (編) 乳酸をどう活かすかII, 杏林書院, 62-75, 2016年2月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Seki, K., Numazu, N., Ohyama Byun, K., **Enomoto, Y.**: EFFECT OF A BIOMECHANICAL FACTOR ON ENERGY EXPENDITURE BY DISTANCE RUNNERS DURING REPEATED VERTICAL

JUMPS. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, Japan. 2016-7.
Otanil, Y., Aibara, T., **Enomoto, Y.**: EVALUATION OF RUNNING MECHANICS USING MOTION
SENSOR FOR DISTANCE RUNNERS. 34th International Conference on Biomechanics in
Sports, Tsukuba, Japan. 2016-7.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Enomoto, Y. (Secretary General): 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba,
Japan. 2016-7-18 to 22. 参加者人数：422名，参加国数：31カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

榎本靖士，関慶太郎，大森由香子，相原岳浩，大谷勇治：長距離選手のトレッドミルランニングにおけ
る身体動揺と酸素摂取量との関係. 第24回日本バイオメカニクス学会大会，滋賀，2016年9月.
関慶太郎，沼津直樹，大山下圭悟，**榎本靖士**：傾斜条件の違いが連続ジャンプの運動効率に及ぼす影響.
第24回日本バイオメカニクス学会大会，滋賀，2016年9月.

c-1-2-4. ポスター発表

大森由香子，**榎本靖士**，関慶太郎：大学女子中長距離走者におけるピッチと上下動がランニングエコノ
ミーに及ぼす影響. 第67回日本体育学会大会，大阪，2016年8月.
杉本和那美，**榎本靖士**，関慶太郎：異なる台高と水平距離におけるドロップジャンプのキネティック的
特徴. 第24回日本バイオメカニクス学会大会，滋賀，2016年9月.
大森由香子，番場愛，関慶太郎，征矢英昭，鍋倉賢治，**榎本靖士**：女子中長距離選手における年間のトレ
ニング負荷とコンディションの変化. 第29回ランニング学会大会，福岡. 2017年3月.
関慶太郎，杉本和那美，Kyröläinen Heikki，**榎本靖士**：傾斜条件を用いたランニングのエネルギーコ
ストに影響を及ぼすバイオメカニクスの要因の検討. 第29回ランニング学会大会，福岡. 2017
年3月.

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

つくばツインピークス「小学生陸上競技教室」（2016年5月～12月，計20回）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

- ・陸上競技部コーチ
- ・日本陸上競技選手権，名古屋，2016年6月24日～26日.
女子800m 8位，平野綾子.
女子400m 4位，松本菜奈子.
- ・国民体育大会陸上競技，岩手，2016年10月6日～11日.
女子800m 7位，平野綾子.
女子400m 3位，松本菜奈子.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

- 日本オリンピック委員会強化スタッフ（医科学スタッフ）（2001年～）
- 日本陸上競技連盟科学委員会・副委員長（2012年～）

日本陸上競技連盟強化委員会中距離委員（2008年～）

ランニング学会理事（2010年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

つくばマラソン大会役員：茨城県・つくば市：2016年11月20日.

c-4. その他（詳しくお書きください）

JOC韓国日本交流事業韓国研修合宿 コーチ：大邱・韓国：2016年12月15日～22日

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

中距離選手の学術指導契約（セレスポ）

6. 特許，実用新案

「運動支援装置及び運動支援方法，運動支援プログラム」，特願2016-140876，2016年7月15日

准教授 大 藏 倫 博

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Soma, Y., Tsunoda, K., Kitano, N., Jindo, T., Tsuji, T., Saghadzadeh, M., *Okura, T.: The relationship between built environment attributes and physical function in Japanese community-dwelling older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 17: 382-390, 2016-1.

Tsuji, T., Yoon, J., Kitano, N., Okura, T., Tanaka, K.: Effects of N-acetyl glucosamine and chondroitin sulfate supplementation on knee pain and self-reported knee function in middle-aged and older Japanese adults: a randomized, double-blinded, placebo-controlled trial. *Aging Clinical and Experimental Research*, 28-2: 197-205, 2016-1.

Tsuji, T., Yoon, J., Tsunoda, K., Kanamori, A., *Okura, T.: Ground reaction force in sit-to-stand movement reflects lower limb function in middle-aged and older women with knee pain. *Human Performance Measurement*, 13: 11-19, 2016-2.

Jindo, T., Kitano, N., Tsunoda, K., Kusuda, M., Hotta, K., *Okura, T.: Daily life physical activity modulates the effects of an exercise program on lower-extremity physical function in Japanese older adults. *Journal of Geriatric Physical Therapy*, 39-2: 83-88, 2016-4.

Koda, M., Kitamura, I., Okura, T., Otsuka, R., Ando, F., Shimokata, H.: The associations between smoking habits and serum triglyceride or hemoglobin A1c levels differ according to visceral fat accumulation. *Journal of Epidemiology*, 26-4: 208-215, 2016-4.

Abe, T., Tsuji, T., Soma, Y., Shen, S., *Okura, T.: Composite variable of lower extremity muscle strength and balance ability for evaluating risks of mobility limitation and falls in community-dwelling older adults. *Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 5-3: 257-266, 2016-6.

Jindo, T., Fujii, K., Tsunoda, K., Fujii, Y., Sriramatr, S., *Okura, T.: Effect of increased daily physical

activity on lower-extremity physical function during an exercise program for older adults. *Journal of Physical Education and Sport*, 16-3: 816-822, 2016-9.

*Okura, T., Tsuji, T., Tsunoda, K., Kitano, N., Yoon, JY., Saghazadeh, M., Soma, Y., Yoon, J., Kim, M., Jindo, T., Shen, S., Abe, T., Sato, T., Kunika, K., Fujii, K., Sugahara, H., Yano, M., Mitsuishi, Y.: Study protocol and overview of the Kasama Study: Creating a comprehensive, community-based system for preventive nursing care and supporting successful aging. *Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, 6-1: 49-57, 2016-11.

a-1-2. 和文のもの

神藤隆志, 辻本健彦, 大藏倫博, 田中喜代次: テニスを習慣化する中高年女性の活力年齢. *体育の科学*, 66-2: 149-154, 2016年2月.

神藤隆志, 藤井啓介, 北濃成樹, 角田憲治, *大藏倫博: 地域在住高齢者の運動教室におけるスクエアステップの達成度が体力変化に与える影響. *厚生の指標*, 63-2: 33-39, 2016年2月.

阿部巧, 北濃成樹, 辻大士, 相馬優樹, 金美珍, 尹之恩, *大藏倫博: ロコチェックと身体パフォーマンスとの関連. *体育測定評価研究*, 16: 27-34, 2016年3月.

金美珍, 相馬優樹, 辻大士, 阿部巧, 佐藤文音, 藤井啓介, 國香想子, *大藏倫博: 高齢者における筋量・筋力と起居移動動作能力および転倒との関連性 - SarcopeniaとDynapeniaに着目した検討-. *体力科学*, 65-5: 491-501, 2016年8月.

相馬優樹, 阿部巧, 尹之恩, *大藏倫博: 立位姿勢保持課題時の足圧中心動揺パラメータを用いた中高年齢者の認知機能の評価に関する検討. *日本認知症予防学会誌*, 5-1: 25-33, 2016年8月.

重松良祐, 鎌田真光, 岡田真平, 佐藤文音, 大藏倫博, 中垣内真樹, 北湯口純, 鈴木玲子: 身体活動を促進するポピュレーションアプローチの評価方法: 改変型RE-AIMモデル: PAIREM. *運動疫学研究*, 18-2: 76-87. 2016年9月.

佐藤文音, 神藤隆志, 藤井啓介, 辻大士, 北濃成樹, 堀田和司, *大藏倫博: 高齢ボランティアが運営する運動サークルへの参加が地域在住女性高齢者の身体機能に与える影響—自治体主催の専門家による運動教室修了後の検討—. *日本プライマリ・ケア連合学会誌*, 40-1: 9-15, 2016年9月.

藤井啓介, 北濃成樹, 神藤隆志, 佐藤文音, 國香想子, 藤井悠也, *大藏倫博: 独居高齢者における地域活動への参加と抑うつとの関連性. *理学療法科学*, 32-1: 105-110, 2016年10月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

大藏倫博: 脳とからだ元気になる! ロコモティブシンドローム対策の最前線 ~運動とアミノ酸摂取がもたらす影響について~. *アミノ酸研究*, 10-1: 23-27, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

大藏倫博: スクエアステップエクササイズ. 身体活動・座位行動の科学~疫学・分子生物学から探る健康~, 熊谷秋三, 田中茂穂, 藤井宣晴 (編集), 杏林書院, 217-225, 2016年10月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-2. 特別・招待講演

Okura, T.: The current situation of aging Japanese population with a focus on physical activity and physical function. 28th International sport science congress -In commemoration of the 1988 Seoul Olympic games-, Seoul, 2016-8.

Tsunoda, K., Tsuji, T., Yoon, J., **Okura, T.**: The importance of physical activity in promoting health and way to encourage physical activity in older population. 28th International sport science congress -In commemoration of the 1988 Seoul Olympic games-, Seoul, 2016-8.

Tsuji, T., Kondo, K., Tsunoda, K., Yoon, J., **Okura, T.**: Evaluation of physical function in older adults at individual and community levels. 28th International sport science congress -In commemoration of the 1988 Seoul Olympic games-, Seoul, 2016-8.

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Yoon, J., **Okura, T.**, Tsuji, T., Tsunoda, K.: Whole-body vibration training with maslinic acid on knee function and muscle strength in older adults with knee pain: A randomized double-blind placebo controlled trial. 28th International sport science congress -In commemoration of the 1988 Seoul Olympic games-, Seoul, 2016-8.

c-1-1-4. ポスター発表

Fujii, Y., Fujii, K., Yoon, JY., Sugahara, H., Kitano, N., **Okura, T.**: The effects of low-intensity exercise on depressive symptoms in socially-isolated older adults. American College of Sports Medicine's 63rd Annual Meeting, Boston, 2016-5.

Abe, T., Tsuji, T., **Okura, T.**: Association between muscular function, muscular endurance and cognitive function in community-dwelling older adults. American College of Sports Medicine's 63rd Annual Meeting, Boston, 2016-5.

Jindo, T., Fujii, K., Tsunoda, K., Fujii, Y., Sakaida, K., Sriramatr, S., **Okura, T.**: Effect of increased daily physical activity on lower-extremity physical function in older adults. American College of Sports Medicine's 63rd Annual Meeting, Boston, 2016-5.

Abe, T., Soma, Y., Kunika, S., **Okura, T.**: The relationship between changes in physical and cognitive functions during exercise training in community-dwelling older adults. 6th International Congress on Physical Activity and Public Health, Bangkok, 2016-11.

Seol, JH., Fuji, Y., Kitano, N., Osuka, Y., Tanaka, K., **Okura, T.**: Association between the quality of sleep and the timing of habitual physical activity in older adults. 7th The Asia Conference on Kinesiology 2016, Incheon, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

大藏倫博：脳とからだ元気になる！ロコモティブシンドローム対策の最前線 ～運動とアミノ酸摂取がもたらす影響について～. 日本アミノ酸学会10周年記念大会，東京，2016年9月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

辻大士，阿部巧，長嶺由衣子，亀田義人，**大藏倫博**，近藤克則：高齢者のメタボリックシンドロームは要支援・要介護認定を予測するか？ 第17回日本健康支援学会年次学術集会，愛知，2016年2月。

薛載勲，阿部巧，大須賀洋祐，北濃成樹，前田清司，田中喜代次，**大藏倫博**：地域在住高齢者における身体活動量の日間変動と末梢動脈疾患との関連。第17回日本健康支援学会年次学術集会，愛知，2016年2月。

相馬優樹，**大藏倫博**：身体機能低下予防を目的としたセーフティマップの作成に関する検討。第17回日本健康支援学会年次学術集会，愛知，2016年2月。

神藤隆志，角田憲治，藤井啓介，國香想子，藤井悠也，北濃成樹，**大藏倫博**：地域在住高齢者における運動仲間の存在と抑うつとの関連性。第17回日本健康支援学会年次学術集会，愛知，2016年2月。

金美珍，相馬優樹，辻大士，阿部巧，佐藤文音，國香想子，**大藏倫博**：高齢者における筋量・筋力と起

居移動動作能力および転倒との関連性－低筋量と低筋力の視点からの検討－. 第17回日本健康支援学会年次学術集会, 愛知, 2016年2月.

國香想子, 神藤隆志, 北濃成樹, 阿部巧, **大藏倫博**: 男性限定の介護予防運動教室および運動サークルの設立経緯－茨城県笠間市「からだづくり男塾」の事例－. 第17回日本健康支援学会年次学術集会, 愛知, 2016年2月.

辻大士, 阿部巧, 長嶺由衣子, 亀田義人, **大藏倫博**, 近藤克則: 高齢者のメタボリックシンドロームは要支援・要介護認定を予測するか? 第17回日本健康支援学会年次学術集会, 愛知, 2016年2月.

阿部巧, **大藏倫博**: 地域在住高齢者の椅子立ち上がり動作時の地面反力における“意味のある変化”. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

金美珍, 神藤隆志, 阿部巧, 辻大士, **大藏倫博**: 高齢者における筋量と筋力が身体機能の変化に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

薛載勲, 藤井悠也, 北濃成樹, 大須賀洋祐, 田中喜代次, **大藏倫博**: 身体活動の実践時間帯が高齢者の睡眠に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

阿部巧, 藤井啓介, 國香想子, 兵頭和樹, **大藏倫博**: 座位運動が高齢者の認知機能に与える一過性の効果: 座位歩行, 座位体操, 手指を使った運動の比較. 第6回日本認知症予防学会学術集会, 宮城, 2016年9月.

藤井啓介, 佐藤文音, 藤井悠也, 堀田和司, **大藏倫博**: 独居高齢者における地域活動への参加の有無と抑うつとの関連性. 第50回日本作業療法学会, 札幌, 2016年9月.

本嶋秀子, 尹之恩, **大藏倫博**, 磯田博子: 変形性膝関節症及び膝痛を有する女性に対する全身振動運動とオリーブ果実エキス摂取による改善・緩和効果の検討. 第89回日本生化学大会, 仙台, 2016年9月.

阿部巧, 薛載勲, 城寶佳也, **大藏倫博**: 下肢の筋持久力は認知機能と関連するか? 第16回日本体育測定評価学会, 大分, 2017年3月.

尹之恩, 尹智暎, 本嶋秀子, 神津博幸, 磯田博子, **大藏倫博**: 脳活性化運動プログラムと抗酸化物質の摂取が高齢者の認知機能及び心身機能に与える影響. 第18回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2017年3月.

城寶佳也, 薛載勲, 藤井悠也, 藤井啓介, 阿部巧, **大藏倫博**: 地域在住高齢者におけるストレッチングの実践習慣と認知機能との関連性. 第18回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

阿部巧, **大藏倫博**: 地域在住高齢者を対象とした片手および両手での巧緻性動作と認知機能との関連. 第15回大会日本体育測定評価学会, 東京, 2016年2月.

城寶佳也, 周園, 藤井啓介, 阿部巧, **大藏倫博**: ストレッチング習慣のある地域高齢者の健康関連指標の特性に関する検討～身体・認知機能, 抑うつ度, 睡眠, 身体活動量に着目して～. 第17回日本健康支援学会年次学術集会, 愛知, 2016年2月.

周園, 藤井啓介, 城寶佳也, 相馬優樹, 角田憲治, **大藏倫博**: 地域在住高齢者の身体活動量と自律神経活性状態との関連. 第17回日本健康支援学会年次学術集会, 愛知, 2016年2月.

大藏倫博, 周園, 藤井啓介, 城寶佳也: 体力向上と脳賦活を企図した介護予防運動“スクエアステップ”の効果: 体力に関する検討. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

佐藤文音, 北濃成樹, 國香想子, 藤井啓介, **大藏倫博**: 長期的なステップエクササイズの実践が女性高齢者の身体機能に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

城寶佳也, 藤井啓介, 薛載勲, 阿部巧, **大藏倫博**: ストレッチング習慣および柔軟性能力は高齢者の下肢機能と関連するか? 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

慎少帥，深山知子，馬せい字，辻大士，阿部巧，**大藏倫博**：自己の体力に合わせて実践するホームエクササイズが高齢者の下肢機能へ与える効果。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

神藤隆志，阿部巧，佐藤文音，楠田美嬉子，**大藏倫博**：介護予防運動“スクエアステップ”の主観的運動強度とその関連要因。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

周園，藤井啓介，城寶佳也，**大藏倫博**：体力向上と脳賦活を企図した介護予防運動“スクエアステップ”の効果：認知機能に関する検討。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

藤井悠也，宮部研人，北濃成樹，薛載勲，藤井啓介，**大藏倫博**：高齢者における睡眠時間と抑うつとの関連—個人が理想とする睡眠時間に着目した検討—。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

藤井啓介，磯野香代子，周園，城寶佳也，**大藏倫博**：短時間のピラティス実践が成人女性の気分を与える一過性効果。第71回日本体力医学会大会，盛岡，2016年9月。

佐藤文音，藤井啓介，**大藏倫博**：運動ボランティア・スキルチェック表の作成—活動年数とスキルとの関連性—。第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016年10月。

藤井啓介，神藤隆志，**大藏倫博**，大塚礼，安藤富士子，下方浩史：非肥満者の代謝異常の改善と関連する身体活動の検討。第75回日本公衆衛生学会総会，大阪，2016年10月。

角田憲治，阿部巧，城寶佳也，神藤隆志，薛載勲，**大藏倫博**：高齢者におけるストレッチングと血管弾性指標との関連。第78回日本体力医学会中国・四国地方大会，山口，2016年11月。

c-4. 研究成果による受賞

第15回日本体育測定評価学会 学会賞（受賞論文：高齢者の認知機能を評価する新パフォーマンステスト“トレイルメイキングペグテスト”の提案。東京，2016年2月。）

第17回日本健康支援学会 優秀論文賞（受賞論文：効果検証された運動プログラムを地域に普及させるボランティア活動の評価。名古屋，2016年2月。）

第16回日本体育測定評価学会 奨励賞（受賞論文：地域在住高齢者における Sarcopenia，Dynapenia と身体機能との関連性。大分，2017年3月。）

第16回日本体育測定評価学会 優秀発表（受賞発表：下肢の筋持久力は認知機能と関連するか？ 大分，2017年3月。）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「文部科学省 COI STREAM —食と健康の達人拠点—」（文部科学省）

「厚生労働科学研究費補助金—非肥満者に対する保健指導方法の開発に関する研究—」（厚生労働省）

「筑波大学産学連携推進プロジェクト共同研究—世界初の卓越した健康度評価・改善システムを内蔵する体重計開発—」（筑波大学）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

International Journal of Sport and Health Science 編集委員（2015年～）

Journal of Physical Fitness and Sport Medicine 編集委員（2016年～）

スポーツ庁「運動・スポーツガイドライン」作業部会委員（2016年～）

茨城県笠間市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定委員長（2016年～）

茨城県かすみがうら市健康増進計画策定委員会副委員長（2016年～）

日本体育測定評価学会理事（2009年～）

日本健康支援学会理事（2013年～）

特定非営利活動法人スクエアステップ協会理事長（2007年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

スクエアステップ運動リーダー養成講習会：茨城県・笠間市（2回）：5月から6月および8月から9月（それぞれ毎週1回：全5回）

元気いきいき教室：茨城県・笠間市（3回）：10月から12月（2回）および1月から3月（1回）（それぞれ毎週1回：全11回）

認知機能低下の可能性のある高齢者を対象としたMCI教室：茨城県・笠間市：1月から3月（毎週1回：全11回）

男性のからだづくり運動教室：茨城県・笠間市：5月から7月（毎週1回：全11回）

准教授 小野 誠 司

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Fleuriet, J., Wolton, MM., **Ono, S.**, Mustari, MJ.: Electrical microstimulation of the superior colliculus in strabismic monkeys. *Investigative Ophthalmology & Visual Science*, 57-7: 3168-3180, 2016-6.

Ono, S., Mustari, MJ.: Response Properties of MST Parafoveal Neurons during Smooth Pursuit Adaptation. *Journal of Neurophysiology*, 116: 210-217, 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

小野誠司, 木塚朝博, 岡田守彦: 滑動性追跡眼球運動におけるヒトのタイミング適応の特性. *バイオメカニズム* 23: 87-95, 2016年8月.

木塚朝博, 大田穂, 飯嶋裕美, 岩見雅人, **小野誠司**: リフティング技能の評価に用いる不安定面の有用性. *バイオメカニズム* 23: 55-65, 2016年8月

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

小野誠司: 単眼視における滑動性追跡眼球運動の適応. *電子通信学会技術研究報告 IEICE Technical Report*, 116-229: 57-60, 2016年9月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Ono, S., Kizuka, T., Mustari, MJ.: Visual motion processing in cortical neurons for smooth pursuit adaptation. 15th Annual Molecular and cellular cognition society (MCCS), San Diego, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

小野誠司: 視運動情報の脳内処理と眼球運動指令構築. 産業技術総合研究所人間情報研究部門主催講演会, つくば, 2016年1月.

小野誠司: 滑動性追跡眼球運動の神経メカニズム. 愛知県主催ドライバ状態モニタのための眼球運動解積研究会, 愛知, 2016年2月.

小野誠司：眼球運動を指標としたスポーツにおける視覚探索方略の特性。知の拠点あいち重点研究プロジェクト公開シンポジウム「眼球運動の神経基盤と社会実装」，愛知，2017年3月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

小野誠司，木塚朝博：滑動性追跡眼球運動のゲイン適応が急速眼球運動に及ぼす影響。第11回JAXA「空間認知と運動制御」研究会，京都，2016年3月。

工藤大介，平塚義宗，村上晶，内田雄介，小野誠司：水平方向動体視力と眼球運動の関連の検討。第120回日本眼科学会，宮城，2016年4月。

小野誠司，岩間圭祐，木塚朝博：球技系競技者における眼球運動の特性。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

小野誠司：単眼視における滑動性追跡眼球運動の適応。ヒューマン情報処理研究会2016，奈良，2016年9月。

岩間圭祐，大田穂，小野誠司，木塚朝博：さまざまな視角条件が一致タイミング能力に及ぼす影響。第37回バイオメカニズム学術講演会，富山，2016年11月。

小野誠司，木塚朝博，和田佳郎：走高跳競技者における頭部傾斜時の重力感受性。第12回JAXA「空間認知と運動制御」研究会，東京，2017年2月。

工藤大介，小野誠司：水平方向動体視力のトレーニング効果と眼球運動の方向の関連についての検討。第12回JAXA「空間認知と運動制御」研究会，東京，2017年3月。

c-1-2-4. ポスター発表

岩間圭祐，木塚朝博，小野誠司，澤江幸則：動作の大きさが子どもの一致タイミングに及ぼす影響。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

木塚朝博，岩間圭祐；小野誠司，澤江幸則：子ども用の狙準運動測定法の試作と測定結果の縦断的推移，日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

c-4. 研究成果による受賞

第30回筑波大学河本体育科学研究奨励賞（受賞論文：Effects of visual error timing on smooth pursuit gain adaptation in humans. *Journal of Motor Behavior*, Epub 2016-8.）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

バイオメカニズム学会編集委員（2016年～）

准教授 麻見直美

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Aikawa, Y., Agata, U., Kakutani, Y., Kato, S., Noma, Y., Hattori, S., Ogata, H., Ezawa, I., *Omi, N.: The Preventive Effect of Calcium Supplementation on Weak Bones Caused by the Interaction of Exercise and Food Restriction in Young Female Rats. *Calcified Tissue International*, 98:1: 94-103, 2016-1.

a-1-2. 和文のもの

相川悠貴, 勝田茂, 川島紫乃, ***麻見直美**: 国内最高齢マスタース世界記録保持者の栄養素等摂取状況. *日本栄養・食糧学会誌*, 69-5: 257-263, 2016年6月.

麻見直美, 緒形ひとみ, 赤野史典, 小泉奈央, 玄海嗣生, 堀部秀俊: 大規模災害発生時に消防隊員が食べる活動食の必要要件の検討. *日本災害食学会*, 4-2: 47-54, 2017年3月.

緒形ひとみ, 赤野史典, 小泉奈央, 玄海嗣生, ***麻見直美**: 警察・自衛隊と比較して考える災害現場で活動する消防官の備蓄食の現状. *日本災害食学会*, 4-2: 61-67, 2017年3月.

小泉奈央, 赤野史典, 緒形ひとみ, 玄海嗣生, ***麻見直美**: 災害救助現場で活動する消防隊員の備蓄食の変化とその問題点. *日本災害食学会*, 4-2: 55-59, 2017年3月.

a-2. その他の論文

麻見直美: 骨密度を測る: DXA (dual-energy X-ray absorptiometry). *体育の科学*, 66-4: 252-255, 2016年4月.

麻見直美: ランニングが骨におよぼす影響. *Clinical Calcium*, 27-1: 55-65, 2017年1月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

麻見直美: VII骨・関節疾患 1. 骨粗鬆症 2. くる病・骨軟化症. 栄養食事療法の実習 (第11版) 栄養ケアマネジメント, (編集) 本田佳子, 医歯薬出版, 193-200, 2016年3月.

麻見直美: 第1部理論 3. ライフステージ 2シニア期. スポーツを楽しむための栄養・食事計画 理論と実践, (編著) 川野因, 田中茂穂, 目加田優子, 光生館, 60-65, 2016年8月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Aoyama, T., Hikiyama, Y., Watanabe, M., Wakabayashi, H., Hanawa, S., **Omi, N.**, Tanaka, S.: Association between birth weight and body composition in Japanese children. 5th Developmental Origins of Health and Disease Research, Tokyo, 2016-7-24.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

小泉奈央, 赤野史典, 玄海嗣生, 緒形ひとみ, **麻見直美**: 消防本部の備蓄食における現状調査および今後の課題. 日本災害食学会第4回研究発表会, 新潟, 2016年8月27日.

緒形ひとみ, 赤野史典, 小泉奈央, 玄海嗣生, **麻見直美**: 消防機関における望ましい災害備蓄食のメニューー類似機関の調査を踏まえてー. 日本災害食学会第4回研究発表会, 新潟, 2016年8月27日.

角谷雄哉, 神家さおり, 和田有史, **麻見直美**: 身体活動と健康な食物選択動機との関連 -女子学生を対象とした横断的検討-. 日本健康教育学会第25回学術大会, 沖縄, 2016年6月11, 12日.

鍋倉賢治, 岩山海渡, 丹治史弥, 小川彩音, 朴寅成, 緒形ひとみ, 山本公平, 徳山薫平, 栗原玲子, 川淵良輔, 小林優史, **麻見直美**: 朝食前の運動が24時間の脂質酸化量に及ぼす影響. 第28回ランニング学会大会, 岡山, 2016年3月12, 13日.

c-1-2-4. ポスター発表

青山友子, 引原有輝, 渡邊将司, 若林斉, 埜智史, **麻見直美**: 乳幼児期の運動発達と児童期の体脂肪率との関係. 日本発育発達学会第15回大会, 岐阜, 2017年3月17, 18日.

麻見直美, 緒形ひとみ, 赤野史典, 小泉奈央, 玄海嗣生, 堀部秀俊: 大規模災害発生時に消防隊員が食

べる活動食の必要要件の検討。日本災害食学会第4回研究発表会，新潟，2016年8月27日。

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等

「大規模災害発生時における隊員の活動食と補給食の実用化に向けた検証」（総務省，消防防災科学技術研究推進制度）

「大規模災害発生時における隊員の活動食と補給食の研究開発」（東京消防庁）

「運動部に所属する学生のコンディショニング・栄養摂取状況の実態調査」

「発育期スポーツ選手における効果的な栄養サポートプログラムに関する研究」

「メープルシロップのスポーツ現場での有用性の検討」

「サケに含まれる栄養成分の摂取が筋肉疲労に及ぼす効果に関する研究」

「子どもを対象とした食育評価に関する研究」

「高強度の身体活動を伴う救援活動における“消防・警察・自衛隊”の災害備蓄食の現状調査およびメニュー提案」（ARIHHP研究プロジェクト）

「骨強度に対するコラーゲン摂取の有効性に関する研究」

「スポーツドリンクの効果に関する研究」

「発展型食育『からだ学び食育プログラム』に関する研究」

「スポーツ栄養に関する学術指導」

「水分補給，スポーツ栄養およびスポーツ科学に関わる学術指導」

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「日本女子大学附属中学校キャリア教室『スポーツ・運動と栄養の仕事-スポーツ栄養は仕事になる?!-』」（川崎市，2016年2月13日）

「(旧) 杉並区立永福南小学校講座（杉並区NPO支援基金助成事業）『しっかりとした骨のあるスポーツ好きな子ども達や選手を育てる 第1回：食生活バランスチェック』」（東京都杉並区，2016年2月6日）

「(旧) 杉並区立永福南小学校講座（杉並区NPO支援基金助成事業）『しっかりとした骨のあるスポーツ好きな子ども達や選手を育てる 第2回：選手対象 栄養セミナー』」（東京都杉並区，2016年2月13日）

「つくば市立さくら学園桜中学校家庭教育学級講座『部活メシ，成長メシ ～いつ何をどう食べるか，どう飲むか』」（つくば市，2016年6月8日）

「平成28年いばらき子ども大学『なりたい自分になるために！何をいつどう食べる？』」（つくば市，2016年7月16日）

「食生活の自立を目指す健康，スポーツ栄養講座（NPO法人図書館サービスフロンティア主催）『骨あるスポーツ好きな生徒や部活選手を育てる 第1回』」（東京都杉並区，2016年8月27日），

「食生活の自立を目指す健康，スポーツ栄養講座（NPO法人図書館サービスフロンティア主催）『骨あるスポーツ好きな生徒や部活選手を育てる 第2回ワークショップ 食生活バランスチェック』」（東京都杉並区，2016年9月3日）

「アスレティックトレーナー養成講習会（学校法人杏文学園東京柔道整復専門学校主催）『スポーツ栄養学』（2016年9月4日）

「体育・スポーツ講演会（北茨城市教育委員会主催）『スポーツと食事』（北茨城市，2016年10月2日）

「H28年度チームいばらきサポート事業（水泳競技）（第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部主催）『平成31年茨城国体に向けた水泳競技の強化選手を対象とした栄養講習会』（水戸市，2016

年12月23日)

「つくば市立吉沼小学校家庭教育学級講座『食べることは生きること ～食べることと、力（体力・知力・生きる力・・・）～』」（つくば市，2017年1月20日）

「日本女子大学附属中学校キャリア教室『スポーツ・運動栄養に関わる仕事ってどんな仕事？スポーツ栄養学，運動栄養学は全ての人のためになる学びです.』」（川崎市，2017年2月18日）

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「メープルは最高のランナー食 – 「天然100%の万能食材」で18人が初フル完走–」ランナース，41-2：38-39，2016年2月.

「子どもたちの「自立・自律」を促す食生活サポート」食育フォーラム，16-181：6-19，2016年5月.

「“アミノ酸スコア”ってなんだ？」ターザン，709：32-39，2016年12月.

f. 学内で自主的に実施している「教室」

栄養相談室（随時）

4. 社会貢献活動

a. 社会貢献活動による受賞

平成28年度 筑波大学 Best Faculty Member Award（SS評価教員（教育・社会貢献領域））

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本栄養改善学会 評議員（2010年～）

日本体力医学会 男女共同参画推進委員会委員（2012年～）

日本体力医学会 評議員（2013年～）

チームいばらきサポート事業コアメンバー（茨城県競技力向上対策本部）（2013年準備委員会～）

茨城体育学会 理事（2015年～）

一般財団法人YS市庭コミュニティ財団 理事（2013年～）

一般財団法人飯田財団 理事（2015年～）

日本学校保健学会第63回学術大会実行委員（2016年）

准教授 小池 関也

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Koike, S., Mimura, K.: Effective timing of exerting joint torques to obtain baseball bat head speed. *Proceedings of the 34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

Koike, S., Sudo, S.: Main contributors to hip joint motion in swing leg during maximal velocity phase in sprint. *Proceedings of the 34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

Ae, K., **Koike, S.**, Fujii, N., Ae, M.: Lower body simulation analysis on increasing rotational velocity of lower trunk in baseball tee batting. *Proceedings of the 34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

Sakai, S., **Koike, S.**, Takeda, T., Takagi, H.: Kinetic analysis of start motion on starting block in competitive swimming. *Proceedings of the 34th International Conference on Biomechanics in*

Sports, 2016-7.

Koike, S., Mimura, K.: Contributions of joint torques, motion-dependent term and gravity to the generation of baseball bat head speed. *Procedia Engineering*, 147: 191-196, 2016-7.

Koike, S., Mimura, K.: Main contributors to the baseball bat head speed considering the generating factor of motion-dependent term. *Procedia Engineering*, 147: 197-202, 2016-7.

Christensen, J., Rasmussen, J., Halkon, B., **Koike, S.**: The development of a methodology to determine the relationship in grip size and pressure to racket head speed in a tennis forehand stroke. *Procedia Engineering*, 147: 787-792, 2016-7.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

小池関也, 見邨康平: 野球打撃動作における下胴角速度生成メカニズム. 日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2016 講演論文集 USB, 2016年8月.

小池関也, 永井悠樹: スプリント加速走における支持脚関節機能の距離による変化. 日本機械学会 2016 年度年次大会講演論文集 USB, 2016年9月.

小池関也, 見邨康平: 野球打撃動作における身体関節トルクの累積の効果. 日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2016 講演論文集 USB, 2016年11月.

小池関也, 見邨康平: 野球投動作の動力学的分析（系のモデル化および貢献式の導出）. 日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2016 講演論文集 USB, 2016年11月.

小池関也, 太田映: バドミントンラケットの性能予測（ストリングスの静的変形シミュレーション）. 日本機械学会スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2016 講演論文集 USB, 2016年11月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Koike, S.: Force and moment exerted by each hand on an instrumented golf club. Applied session: Biomechanics of golf for bridging the gap. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Koike, S., Mimura, K.: Effective timing of exerting joint torques to obtain baseball bat head speed. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Koike, S., Sudo, S.: Main contributors to hip joint motion in swing leg during maximal velocity phase in sprint. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Ae, K., **Koike, S.**, Fujii, N., Ae, M.: Lower body simulation analysis on increasing rotational velocity of lower trunk in baseball tee batting. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Sakai, S., **Koike, S.**, Takeda, T., Takagi, H.: Kinetic analysis of start motion on starting block in competitive swimming. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Koike, S., Mimura, K.: Contributions of joint torques, motion-dependent term and gravity to the generation of baseball bat head speed. The 11th conference of the International Sports Engineering Association, Delft, 2016-7.

Koike, S., Mimura, K.: Main contributors to the baseball bat head speed considering the generating

factor of motion-dependent term. The 11th conference of the International Sports Engineering Association, Delft, 2016-7.

Christensen, J., Rasmunssen, J., Halkon, B., **Koike, S.**: The development of a methodology to determine the relationship in grip size and pressure to racket head speed in a tennis forehand stroke. The 11th conference of the International Sports Engineering Association, Delft, 2016-7.

c-1-1-4. ポスター発表

Koike, S., Mimura, K.: Main contributors to the baseball bat head speed considering the generating factor of motion-dependent term. The 11th conference of the International Sports Engineering Association, Delft, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

小池関也, 見邨康平: 野球打撃動作における下胴角速度生成メカニズム. 日本機械学会 Dynamics and Design Conference 2016 講演会, 山口, 2016年8月.

小池関也, 永井悠樹: スプリント加速走における支持脚関節機能の距離による変化. 日本機械学会2016年度年次大会, 福岡, 2016年9月.

見邨康平, **小池関也**: 野球打撃動作における左右下肢の動力的な役割. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 草津, 2016年9月.

小池関也, 鶴澤大樹: 野球投動作の動力的分析（系のモデル化および貢献式の導出）. 日本機械学会 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2016講演会, 山形, 2016年11月.

小池関也, 見邨康平: 野球打撃動作における身体関節トルクの累積的效果. 日本機械学会 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2016講演会, 山形, 2016年11月.

小池関也, 太田映: バドミントンラケットの性能予測（ストリングスの静的変形シミュレーション）. 日本機械学会 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス2016講演会, 山形, 2016年11月.

小池関也, 阿江数通, 白木仁: ゴルフスウィングにおけるヘッドスピード獲得メカニズムの定量化. 第37回バイオメカニクス学術講演会, 富山, 2016年12月.

c-1-2-4. ポスター発表

太田映, **小池関也**: バドミントンラケットの性能予測（ストリングスおよびシャフトの弾性を考慮したモデル化について）. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 草津, 2016年9月.

鶴澤大樹, **小池関也**: 野球投動作の動力的分析（投球腕によるボール角速度生成についての検討）. 第24回日本バイオメカニクス学会大会, 草津, 2016年9月.

見邨康平, **小池関也**: 一度振り始めたバットの軌道はどこまでなら調整できるのか. 第4回野球科学研究会, 東京, 2016年12月.

鶴澤大樹, **小池関也**: 投球時の示指および中指におけるボール作用力の推定. 第4回野球科学研究会, 東京, 2016年12月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体育学会 代議員（2009年～）

日本バイオメカニクス学会 理事（2003年～）

バイオメカニクス学会 編集委員（2013年～2017年）

日本機械学会 スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス部門 運営委員（2014年～）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Harada, K., **Shibata, A.**, Lee, E., Oka, K., Nakamura, Y.: Sources of strength-training information and strength-training behavior among Japanese older adults. *Health Promotion International*, 31-1: 5-12, 2016-3.

Shibata, A., Oka, K., Sugiyama, T., Salmon, JO., Dunstan, DW., Owen, N.: Physical activity, television viewing time, and 12-year changes in waist circumference. *Med Sci Sports Exerc*, 48-4: 633-640, 2016-4.

Mitsutake, S., **Shibata, A.**, Ishii, K., Oka, K.: Associations of eHealth literacy with health behavior among adult Internet users. *J Med Internet Res*, 18-7: e192, 2016-7.

Liao, Y., **Shibata, A.**, Ishii, K., Oka, K.: Independent and combined associations of physical activity and sedentary behavior with depressive symptoms among Japanese adults. *Int J Behav Med*, 23-4: 402-409, 2016-8.

Aoyagi, K., Ishii, K., **Shibata, A.**, Arai, H., Fukamachi, H., Oka, K.: Cooperative coaching: Benefits to students in extracurricular school sports. *Journal of Physical Education and Sport*, 16-3: 806-815, 2016-9.

Ishii, K., **Shibata, A.**, Adachi, M., Oka, K.: Association of physical activity and sedentary behavior with psychological well-being among Japanese children: A two-year longitudinal study. *Perceptual and motor skills*, 123-2: 445-459, 2016-10.

Liao, Y., Sugiyama, T., **Shibata, A.**, Ishii, K., Inoue, S., Koohsari, MJ., Owen, N., Oka, K.: Associations of perceived and objectively measured neighborhood environmental attributes with leisure-time sitting for transport. *J Phys Act Health*, 13-12: 1372-1377, 2016-12.

Koohsari, MJ., Sugiyama, T, **Shibata, A.**, Ishii, K., Liao, Y., Hanibuchi, T., Owen, N., Oka, K.: Associations of street layout with walking and sedentary behaviors in an urban and a rural area of Japan. *Health Place*, 45: 64-69, 2017-3-10.

a-1-2. 和文のもの

江尻愛美, **柴田愛**, 石井香織, 仲貴子, 岡浩一朗: 地域在住高齢者における腰痛, 運動習慣と抑うつ症状の関連. *運動疫学研究*, 18-2: 67-75, 2016年9月.

宮脇梨奈, 石井香織, **柴田愛**, 岡浩一朗: 新聞に掲載されたがん予防関連記事の内容分析. *日本公衆衛生雑誌*, 64-2: 85-94, 2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

長澤康弘, ***柴田愛**, 岡浩一朗: 【スポーツ・運動療法は患者治療にどこまで有効か】腰痛・膝痛と運動療法. *成人病と生活習慣病*, 46-6: 767-770, 2016年6月.

石井香織, **柴田愛**, 岡浩一朗: 日本人成人におけるスクリーンタイムの座位行動に関連する社会人口統計学的要因および身体的特徴: 地域住民を対象とした横断研究 (Journal of Epidemiologyに掲載された英語論文の日本語による二次出版). *運動疫学研究*, 18-2: 113-121, 2016年9月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

柴田愛：運動・身体活動のエビデンス 112【就業時間におけるワークステーションを用いた長時間座位行動の中断は，過体重・肥満就業者の疲労度，腰部不快感の改善および生産性の維持に有用である】．月刊「健康づくり」，健康・体力づくり事業財団，462：24，2016年10月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Shibata, A., Oka, K., Ishii, K.: Association between objectively-measured sedentary behavior and skeletal muscle mass. World Congress on Active Aging 2016, Melbourne, 2016-6.

Shibata, A., Oka, K., Ishii, K.: Association between objectively-measured sedentary behavior and percent body fat. 6th International Congress of Physical Activity and Public Health, Bangkok, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

柴田愛，石井香織，岡浩一朗：Isotemporal Substitution Modelを用いた高齢者の骨格筋量および体脂肪率に対する座位行動から身体活動への置き換え効果．第19回日本運動疫学会学術総会，東京，2016年6月．

柴田愛，石井香織，岡浩一朗：高齢者の運動機能に対する座位行動および身体活動の影響－Isotemporal substitution modelによる置き換え効果の検討－．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

4. 社会貢献活動

d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

続・元気のひけつ：ゴムチューブ運動（朝日新聞 be on Sunday，2016年7月16日）

准教授 竹村 雅 裕

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Ogaki, R., Takemura, M., Shimasaki, T., Nariai, M., Nagai, S., Imoo, Y., Takaki, S., Furukawa, T., Miyakawa, S.: Preseason muscle strength tests in the assessment of shoulder injury risk in collegiate rugby union players. *Football Science*, 13: 36-43, 2016-10.

Iwamoto, K., Mizukami, M., Asakawa Y., Yoshio, M., Ogaki, R., Takemura, M.: Effects of friction massage of the popliteal fossa on dynamic changes in muscle oxygenation and ankle flexibility. *Journal of Physical Therapy Science*, 28-10: 2713-2716, 2016-10.

a-1-2. 和文のもの

澁谷泉美，*竹村雅裕，永井智，大高敏弘，宮川俊平：大学女子バスケットボール選手の運動器に発生

した疼痛の実態. *バスケットボール研究*, 2: 55-62, 2016年11月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Kim, D., Miyakawa, S., Fukuda, T., **Takemura, M.**: The association of alignment in lower extremity and strain of iliotibial band. 7th Asian Conference of Kinesiology, Incheon, 2016-11.

Shibata, S., **Takemura, M.**, Miyakawa, S.: The influence of the femoral anteversion on knee valgus angle during unanticipated side-step cutting. 7th Asian Conference of Kinesiology, Incheon, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

金多允, 西田智, 宮川俊平, 福田崇, **竹村雅裕**: 内反膝の有無と肢位の違いが腸脛靭帯の硬度に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

野津将時郎, **竹村雅裕**, 岩渕慎也, 宮川俊平: Star Excursion Balance Testのリーチ距離に影響を与える要因の検討. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

武内孝祐, 中村雅俊, 佃文子, **竹村雅裕**: 3種類の warm-up が足関節の柔軟性と等尺性能力に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

c-1-2-4. ポスター発表

武内孝祐, 中村雅俊, 佃文子, 北條達也, 宮川俊平, **竹村雅裕**: active warm-up と passive warm-up が足関節背屈可動域および底屈トルクの発揮に及ぼす影響. 第51回日本理学療法学会大会, 札幌, 2016年5月.

遠藤悠介, **竹村雅裕**, 門間正彦, 金森章浩, 宮川俊平: MRIを用いた脛骨後方傾斜角度の測定方法の検討. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

吉田一也, 鈴木啓太, 宮川俊平, 福田崇, **竹村雅裕**: 音波画像診断装置による肩甲骨周囲筋群筋厚評価の再現性の検討. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

飯島光博, **竹村雅裕**, 宮川俊平: 腰椎分離症患者における X線学的不安定性評価の検討. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 幕張, 2016年11月.

澁谷泉美, **竹村雅裕**, 氷井智, 大垣亮, 宮川俊平: 大学女子バスケットボール選手の慢性的な疼痛の発生状況について. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 幕張, 2016年11月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本理学療法士協会 (1993年~)

日本体育学会 (2004年~)

日本体力医学会 (2004年~)

日本臨床スポーツ医学会 (2005年~)

日本フットボール学会 (2008年~)

日本アスレティックトレーニング学会 代議員 (2012年~)

日本整形外科スポーツ医学会 (2014年~)

日本ラグビーフットボール協会メディカル委員会トレーナー部門委員 (2004年~)

日本体育協会公認アスレティックトレーナー連絡会議茨城県代表委員（2009年～）
日本体育協会公認アスレティックトレーナー専門科目検定試験委員（2011年～）
日本ラグビーフットボール協会トップリーグ事業部メディカルコントロール部会委員（2012年～）
茨城県体育協会スポーツ医・科学委員会（2013年～）
茨城県アスレティックトレーナー協議会代表（2015年～）
いばらきスポーツ・健康づくり歯学協議会委員（2017年～）

准教授 橋本 佐由理

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

橋本佐由理：子育てストレス軽減のためのストレスマネジメント法. *日本保健医療行動科学会雑誌*, 30-2: 37-44, 2016年1月.

林哲也, *橋本佐由理：不登校を経た高校中退者の認識世界に関する一考察—災害ボランティアへの「参加」の語りから—. *語りの地平—ライフストーリー研究—創刊号*, 1: 71-88, 2016年12月.

橋本佐由理：気質理解によるメンタルヘルス不調の予防と人間関係ストレスの軽減. *情報科学と技術*, 67-3: 98-103, 2017年3月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

橋本佐由理他筆：子ども・子育て支援法. 保健と健康の心理学標準テキスト「保健医療・福祉領域で働く心理職のための法律と倫理」, (編著) 山崎久美子, 津田彰, 島井哲志, ナカニシヤ出版, 158-159, 2016年8月20日.

橋本佐由理：理不尽に「攻撃してくる人」から自分の身を守るスキルの身につけ方. ぱる出版, 1-223, 2016年10月26日.

橋本佐由理：ファミリーマート社員手帳（監修）, 2016年

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

橋本佐由理：愉しむ子育てを支援する—調査研究による仮説モデル構築と介入研究による検証—. 第50回Amos研究会記念講演, 東京, 2016年3月19日.

c-1-2-2. 特別・招待講演

橋本佐由理：親子の笑顔が輝く条件. 第12回すこやかキッズ支援全国セミナー, 千葉, 2016年2月13日.

橋本佐由理, 樋口倫子：気づきを支え動機を高めるテクニック. 第98回日本保健医療行動科学会東京支部, 東京, 2016年9月4日.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

向笠京子, 酒井喜美子, 橋本佐由理：食事を中心とした子どもの生活習慣に関する調査研究. 第12回すこやかキッズ支援全国セミナー, 千葉, 2016年2月13日.

橋本佐由理, 眞崎由香：母親の抑うつと育児をめぐる心理社会的要因—母親の自己イメージや支援認知,

- 育児への認知との関連－. 日本幼少児健康教育学会第34回大会, 東京, 2016年3月11日.
- 眞崎由香, **橋本佐由理**: 母親の抑うつと育児をめぐる心理社会的要因－母親の属性や気質, 妊娠・出産期イメージとの関連－. 日本幼少児健康教育学会第34回大会, 東京, 2016年3月11日.
- 橋本佐由理**, 樋口倫子, 浜本幸江, 豊田正美, 舟岡実華, 武藤郁子, 中島茂, 長谷川利希子, 秋山芳子, 渡部恵理, 石川雅: 糖尿病患者の心理特性と不健康行動を促す行動感覚や生活習慣との関連. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月21日.
- 星野伸明, 樋口倫子, 杉浦雄策, **橋本佐由理**: 大学生のWell-beingとキャリア成熟. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月25日.
- 磯田恭子, **橋本佐由理**: 聴覚障害学生支援活動の継続要因に関する予備的検討. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月25日.
- 福田佳奈子, 蓮井貴子, 眞崎由香, **橋本佐由理**: 更年期女性における更年期症状と心理的健康および心理特性の関連. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 橋本佐由理**, 福田佳奈子, 蓮井貴子, 伊藤千春, 眞崎由香, 向笠京子, 樋口倫子: 女性糖尿病患者の心理特性や不健康な行動感覚に関する研究－40歳代から60歳代の更年期症状のない女性との比較から－. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 竹下美貴代, **橋本佐由理**: 生活習慣病予防における夫婦の関係性と精神健康に関する文献研究. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 井出宣子, **橋本佐由理**: 食行動と感情制御に関する文献研究. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 村上真, **橋本佐由理**: 職業性ストレスとマインドフルネスとの関連. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 高間薫, **橋本佐由理**: 運動部活動におけるストレスに関する文献検討. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.
- 小林好信, 山口香, 松田基子, 岡田弘隆, **橋本佐由理**: 大学柔道選手のスポーツ傷害とストレス反応. 競技特性不安との関連について, 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.
- 住野幾哉, 山口香, 小林好信, **橋本佐由理**: スポーツ選手がエンパワーメントされる言葉に関する研究 学生アマチュアキックボクシング選手に対するインタビュー. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.
- 村上真, **橋本佐由理**, 水上勝義: 質問紙調査と脳波計測によるヨガ療法のストレスマネジメント効果検討. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.
- 橋本佐由理**: 40歳代から60歳代の女性糖尿病患者の心理特性の特徴. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.
- 福田佳奈子, **橋本佐由理**: 更年期女性の更年期症状や生活習慣および支援認知に関する心理特性. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.
- 橋本佐由理**, 眞崎由香, 奥富庸一: 育児中の母親のメンタルヘルスにかかわる要因に関するモデル構築. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【秋季:大阪大会】, 大阪, 2016年9月18-19日.
- 眞崎由香, **橋本佐由理**: 母親の不適切な養育態度と育児をめぐる心理社会的要因との関連. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【秋季:大阪大会】, 大阪, 2016年9月18-19日.
- 井出宣子, **橋本佐由理**: 肥満度に影響を与える食行動と心理社会的要因の検討. 第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2016年10月8-9日.
- 向笠京子, 蓮井貴子, **橋本佐由理**: 女子学生の食行動と心理社会的要因及び母親の表情認知に関する調査研究. 第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2016年10月8-9日.

樋口倫子, 眞崎由香, **橋本佐由理**: 更年期女性のWell-beingと, 自己イメージや更年期症状との関連.
第23回日本未病システム学会学術総会, 福岡, 2016年11月5-6日.

眞崎由香, **橋本佐由理**: 乳幼児の母親や妊婦に対する気質コーチングによる支援法の検討. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京, 2017年3月5日.

橋本佐由理, 眞崎由香: 育児中の母親に対するイメージ法による支援法の検討. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京, 2017年3月5日.

山田優, 畔上ゆみか, **橋本佐由理**: 大学生アスリートにおけるストレスマネジメント力向上のための支援—気質の観点から—. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京(日本体育大学), 2017年3月5日.

魏燕, **橋本佐由理**: 中国の学生のメンタルヘルスに関する文献的検討. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京, 2017年3月5日.

謝優璇, **橋本佐由理**: 中国における保育士のメンタルヘルスと心理社会的要因に関する文献検討. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京, 2017年3月5日.

畔上ゆみか, 山田優, **橋本佐由理**: 指導者の表情や態度が選手のメンタルヘルスにもたらす影響—高校野球選手を対象とした調査—. 日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季: 世田谷大会】, 東京, 2017年3月5日.

c-1-2-4. ポスター発表

浜本幸江, 井上美保, 鈴木美和子, 中島茂, 樋口倫子, **橋本佐由理**: 料理教室を通じた糖尿病患者への支援—レストランスタイルの試食会—. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月19日.

樋口倫子, ***橋本佐由理**, 中島茂, 浜本幸江, 豊田正美, 舟岡実華, 鈴木美和子, 武藤郁子, 秋山芳子, 長谷川利希子, 渡部恵理, 石川雅: 糖尿病患者の心理特性と自己効力感や生活習慣との関連. 第59回日本糖尿病学会年次学術集会, 京都, 2016年5月20日.

宮入京子, **橋本佐由理**: 薬剤師の職業性ストレスとその緩衝要因における文献検討. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.

中村洸太, **橋本佐由理**: 日本におけるセクシュアルマイノリティのメンタルヘルス研究—メンタルヘルス改善のための介入可能性—. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.

眞崎由香, **橋本佐由理**: 母親の育児不安と育児をめぐる心理社会的要因—母親の自己イメージや気質, 支援認知, 育児への認知との関連—. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.

小林好信, **橋本佐由理**: 大学柔道選手のスポーツ傷害発生に関わる要因について—傷害歴の有無と心理社会的要因からの検討—. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.

樋口倫子, 杉浦雄策, 星野伸明, **橋本佐由理**: Mobile端末によるWell-being支援プログラム内容の検討. 第31回日本保健医療行動科学学会学術大会, 北海道, 2016年6月26日.

磯田恭子, **橋本佐由理**: 聴覚障害学生への情報保障支援を担う学生の精神健康に関連する要因の検討. 日本特殊教育学会第54回大会(2016新潟大会), 新潟, 2016年9月17-19日.

宮入京子, **橋本佐由理**: 薬剤師の職業性ストレスとストレス緩衝効果・バーンアウトとの関連について. 第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2016年10月8-9日.

磯田恭子, **橋本佐由理**: 聴覚障害学生への情報保障支援を担う学生の精神健康と自己イメージに関する検討. 第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会, 千葉, 2016年10月8-9日.

住野幾哉, **橋本佐由理**: スポーツ選手がエンパワーメントされる言葉に関する研究—学生アマチュアキッ

クボクシング選手に対するインタビュー．第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2016年10月8-9日．

竹下美貴代，橋本佐由理：生活習慣病予防における夫婦を対象とした支援を考える．第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2016年10月8-9日．

中村真弓，橋本佐由理：労働者のワーク・エンゲイジメントに関する研究．第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2016年10月8-9日．

高間薫，橋本佐由理：高校球児のメンタルストレスについて～選手と指導者の関係から．第23回ヘルスカウンセリング学会学術大会，千葉，2016年10月8-9日．

眞崎由香，樋口倫子，*橋本佐由理：中年期にある女性の更年期症状と母親役割および心理特性との関連．第23回日本未病システム学会学術総会，福岡，2016年11月5-6日．

橋本佐由理，眞崎由香，樋口倫子：女性糖尿病患者における心理特性や不健康な行動感覚の特徴．第23回日本未病システム学会学術総会，福岡，2016年11月5-6日．

小林好信，*橋本佐由理：スポーツ傷害を抱える高校野球選手のストレスやメンタルヘルスに関する研究．日本幼少児健康教育学会第35回大会【春季：世田谷大会】，東京，2017年3月4日．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「コストコ女性管理職勉強会講演 自分と相手の性格を知り，コミュニケーションに活かそう」（つくば市，2016年2月3日）

「神奈川県学校における食育推進研修講座 自分と相手の性格を知り，より良いコミュニケーションと健康について考える」（藤沢市，2016年2月5日）

「茨城県高等学校教育研究会養護部研究発表会講演 対人援助におけるストレスマネジメントスキル」（水戸市，2016年2月8日）

「荃崎高校わたしの生き方講座講演 自分の良さを活かし弱点をセルフケアしながら生きる」（つくば市，2016年2月19日）

「ニチイ学館労働組合 えんじょいらいふセミナー」（東京都，2016年4月23日，岐阜市，2016年4月30日，東京都，2016年5月14日，仙台市，2016年6月11日）

「教員免許状更新講習 ストレスマネジメントスキル」（つくば市，2016年6月19日）

「松戸市母子保健推進員研修会講演 聴き上手になるコミュニケーション術」（松戸市，2016年6月23日）

「ヘルスカウンセリング学会SATカウンセラー・セラピスト研修 問題解決（BASIC）」（福岡市，2016年7月2日，3日）

「田水山小学校家庭教育学級講演 ココロが軽くなる親子円満のコツ」（つくば市，2016年7月8日）

「大学図書館職員長期研修講演 対人ストレスマネジメントとしてのヒューマン・リレーションスキル」（つくば市，2016年7月15日）

「水戸市学校保健会養護教諭会夏季研修会講演 ストレスマネジメントに関する研修」（水戸市，2016年7月26日）

「三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会講演 教育方法2～コーチング法について～」（津市，2016年7月28日）

「ピア・カウンセラー研修講座講演 安定した気持ちで日々を過ごすためのヘルスカウンセリング」（宇都宮市，2016年8月6日～7日）

「谷田部乳幼児家庭教育学級講演 心が軽くなるファミリー円満のコツについて」（つくば市，2016年9月8日，15日）

- 「栗原乳幼児家庭教育学級講演 親子の笑顔と笑い声が輝く条件」(つくば市, 2016年9月9日, 16日)
- 「生産システム懇談会講演 家族円満・夫婦円満・人間関係円満のコツ」(東京都, 2016年9月17日)
- 「茨城県市町村保健師連絡協議会日立ブロック専門研究会講演 自分と相手の性格タイプを知って面接技術に生かそう」(常陸太田市, 2016年9月26日)
- 「筑波幼稚園家庭教育学級講演 ファミリー円満の秘訣」(つくば市, 2016年9月27日)
- 「竹園学園竹園西小学校家庭教育学級講演 夫婦円満・親子円満のコツ」(つくば市, 2016年10月5日)
- 「高齢者体力づくり支援士講習会講演 健康支援につながるコミュニケーション～気質コーチングスキル～」(横浜市, 2016年10月16日)
- 「日立地区保健師業務研究会研修会講演 保健指導に活かすための対象者の気質に合わせたコミュニケーション技術」(日立市, 2016年11月21日)
- 「荃崎高校 わたしの生き方講座講演 自分の良さを活かし弱点をセルフケアしながら生きる」(つくば市, 2017年1月20日)
- 「高齢者体力づくり支援士資格講習会講演 高齢者の心理と運動」(横浜市, 2017年3月14日)
- 「土浦調停協会・矢車会共催研修会講演 気質理解による家族への支援」(土浦市, 2017年3月16日)
- f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)**
- 筑波大学統計研修会「Amos 初心者研修会」(2016年8月12日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

- 日本幼少児健康教育学会理事 (2006年～)
- 日本保健医療行動科学会理事 (1998年～)
- ヘルスカウンセリング学会理事 (2003年～)
- 日本未病システム学会評議員 (2007年～)

准教授 向井直樹

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

向井直樹：【成長期スポーツ外傷・障害予防への取り組み】陸上 短距離走選手における肉離れとその予防. *臨床スポーツ医学*, 33(11)：1094-1098, 2016年11月.

菅澤威仁, **向井直樹**, 丹波泰子, 田村京子, 吉田保子, 星野雅也, 竹越一博：異なる温度の冷却刺激が細胞のカタラーゼ活性に及ぼす影響. *理療*, 46(1)：79-85, 2016年5月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-2. 特別・招待講演

向井直樹：競技力向上とスポーツ医・科学サポート ジュニアからトップアスリートへの道 競技者育成に必要なスポーツ医学の知識. 第71回日本体力医学会大会, 盛岡, 2016年9月.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

鎌田浩史, 山澤文裕, 鳥居俊, 櫻庭景植, **向井直樹**, 前澤克彦, 金子晴香, 真鍋知宏, 難波聡：陸上競

技ジュニア選手のスポーツ外傷・障害調査(第3報) 全国高校駅伝出場選手. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016年11月.

廣野準一, 森慎太郎, 速水達也, **向井直樹**: 高等学校および大学の剣道競技における外傷および障害の発生要因に関する検討. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016年11月.

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

チームドクター, 2016年世界ハーフマラソン選手権, イギリス(カーディフ), 2016年3月26日.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟医事委員(1998年~)

日本オリンピック委員会情報・医・科学専門部会医学サポート部門員(2004年~)

日本体育協会国民体育大会委員会医事部会員(2004年~)

日本体育協会アンチドーピング部会員(2014年~)

茨城県競技力向上対策本部普及強化委員(2014年~)

茨城県体育協会スポーツ医・科学委員会総括副委員長(2012年~)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

水戸招待陸上医務員: 茨城県・水戸市: 5月5日

茨城県陸上競技選手権医務員: 茨城県・ひたちなか市: 7月1日

准教授 渡部厚一

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文(国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Hanaoka, Y., Shimizu, K., **Watanabe, K.**, Akama, T., Miyamoto, T.: Effect of acupuncture stimulation on salivary human beta-defensin 2 after a single strenuous exercise in young male subjects. *Japanese Acupuncture and Moxibustion*, 12-1: 1-8, 2016-3.

Murase, Y., Shimizu, K., Tanimura, Y., Hanaoka, Y., **Watanabe, K.**, Kono, I., Miyakawa, S.: Salivary extracellular heat shock protein 70 (eHSP70) levels increase after 59 min of intense exercise and correlate with resting salivary secretory immunoglobulin A (SIgA) levels at rest. *Cell Stress & Chaperones*, 21-2: 261-269, 2016-3.

Nakamura, K., Sengoku, Y., Ogata, H., **Watanabe, K.**, Shirai, Y., Nabekura, Y.: Blood Glucose and Lactate Kinetics during an Incremental Running Test in Endurance Runners. *Int J Sport Health Sci*, 14: 11-20, 2016-5.

a-1-2. 和文のもの

荒井宏和, 清水和弘, 大槻毅, 花岡裕吉, 前田清司, **渡部厚一**: 唾液SIgAによるライフセーバーのコンディション評価. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-1: 84-92, 2016年1月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

渡部厚一：【スポーツドクターに必要なドーピング禁止物質の知識】呼吸器疾患治療におけるドーピング禁止物質. *臨床スポーツ医学*, 33-2:146-154, 2016年2月.

渡部厚一：2020年に向けたアンチ・ドーピング OTC医薬品・サプリメントの問題点. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2:203-205, 2016年4月.

渡部厚一：いまのスポーツ医学が求められるもの. *臨床スポーツ医学*, 33-9:892-894, 2016年9月.

渡部厚一：【スポーツ現場における危機管理】チームにおける冬の感染症対策. *体育の科学*, 67-2:94-100, 2017年2月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

渡部厚一：夏に負けない「夏場のスポーツシーンで注意したい疾病とその予防」. スポーティライフ 2016-04, 食品化学新聞社, 12-15, 2016年7月1日.

渡部厚一：解説“ドーピングはスポーツにどのような影響を与えてきたか”. 映画「疑惑のチャンピオン」(松竹), ロングライド, 15-16, 2016年7月2日.

渡部厚一：速さを生み出す魔法の呼吸術「自転車における呼吸とは」. サイクルスポーツ 2016-10, 八重洲出版, 74-77, 2016年8月20日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Imai, T., **Watanabe, K.**: The Relationship between Lung Function and Physical Fitness Parameters. 21th annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

Sawai, A., Tochigi, Y., Warashina, Y., Shiraki, H., **Watanabe, K.**: Change of the fluid component in calf and athletic performance in a menstrual cycle. 21th annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

渡部厚一：水泳日本代表チームへのメディカルサポート体制の歴史と現状－1964から2020へ－水泳日本代表チームへのメディカルサポート体制構築の歴史. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016-11.

c-1-2-4. ポスター発表

武田紘平, 鈴木雄斗, 北岡祐, **渡部厚一**, 宮川俊平, 武政徹：EPAが骨格筋のミトコンドリア呼吸に与える影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016-9.

曾根良太, 松葉開, **渡部厚一**：高強度運動後の唾液中一酸化窒素の応答. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016-9.

黒木崇子, **渡部厚一**：S県の競泳競技会における疾病発生状況調査. 第27回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 千葉, 2016-11.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

東京YMCA社会体育・保育専門学校（「健康管理とスポーツ医学」15時間：2017年3月）

筑波総合福祉専門学校（「発達と老化の理解」30時間：2016年09月～2016年12月）

首都大学東京（「身体運動演習」5時間：2016年5月）

流通経済大学スポーツ健康科学部（「健康管理学(論)」2単位：2016年09月～2017年01月）

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「NHK BS プレミアム フランケンシュタインの誘惑 科学史闇の事件簿#3『汚れた金メダル，国家ドーピング計画』」，NHK（2016年6月30日放送）

「科学の森：ドーピングが多様化」，毎日新聞（2016年6月9日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学重点公開講座「生きるためのアンチ・ドーピング」（2016年7月，延べ1日間）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会アンチ・ドーピング委員（2007年～）

日本オリンピック委員会情報・医・科学委員会医学サポート部会員（2007年～）

日本水泳連盟医事委員（2002年～）

日本水泳連盟アンチ・ドーピング委員（2009年～）

日本水泳連盟国際委員（2010年～）

日本アンチ・ドーピング機構TUE委員会（副委員長）（2009年～）

茨城県体育協会医・科学委員会委員・アンチ・ドーピング委員長（2003年～）

国立スポーツ科学センタースポーツクリニック非常勤医師（2005年～）

日本プロゴルフ協会学術委員（2008年～）

熱中症声かけプロジェクト実行委員（2011年～）

茨城県検診協会読影委員（2002年～）

日本結核病学会代議員（2013年～）

日本臨床スポーツ医学会評議員（2013年～）

c. ボランティア活動

c-4. その他（詳しくお書きください）

全日本空道連盟アンチ・ドーピング活動

助 教 赤 澤 暢 彦

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Sawano, Y., Zempo-Miyaki, A., **Akazawa, N.**, Kosaki, K., So, R., Tanaka, K., Maeda, S.: Effect of static squat exercise with whole body vibration on arterial stiffness in older women. *Advance Exerc Sports Physiol*, 22(1): 13-17, 2016-4.

Ra, SG., Choi, Y., **Akazawa, N.**, Omori, H., Maeda, S.: Taurine supplementation attenuates delayed increase in exercise-induced arterial stiffness. *Appl Physiol Nutr Metab*, 41(6): 618-623, 2016-6.

Choi, Y., **Akazawa, N.**, Miyaki, A., Ra, SG., Shiraki, H., Ajisaka, R., Maeda, S.: Acute effect of high-intensity eccentric exercise on vascular endothelial function in young men. *J Strength Condi Res*, 30(8): 2279-2285, 2016-8.

a-1-2. 和文のもの

羅成圭, 崔英珠, **赤澤暢彦**, 大森肇, 前田清司: タウリンと血管内皮機能. *タウリンリサーチ*, 2: 40-42, 2016年9月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Tanahashi, K., Kosaki, K., Sawano, Y., **Akazawa, N.**, Yoshikawa, T., Tagawa, K., Matsubara, T., Myoenzono, K., Tochigi, Y., Maeda, S.: Aerobic exercise training changes in brachial artery shear patterns in middle aged and older adults. 21th Annual Congress of the European College of Sports Science, Vienna, 2016-5.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

佐藤智仁, **赤澤暢彦**, 重野明恵, 棚橋嵩一郎, 前田清司: 剣道選手における強化合宿中の睡眠質が唾液中免疫グロブリンAに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 盛岡, 2016年9月.

西村真琴, 崔英珠, **赤澤暢彦**, 棚橋嵩一郎, 東本翼, 中村優希, 前田清司: 中高齢者における有酸素性運動トレーニングが実行機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 盛岡, 2016年9月.

澤野友里子, 膳法亜沙子, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, **赤澤暢彦**, 前田清司: 閉経後女性における骨代謝とAIの関連性-運動トレーニングが及ぼす影響-. 第71回日本体力医学会, 盛岡, 2016年9月.

c-1-2-4. ポスター発表

赤澤暢彦, 重野明恵, 佐藤智仁, 前田清司: 剣道選手における唾液中分泌型免疫グロブリンAが認知機能に及ぼす影響. 第24回日本運動生理学会大会. 熊本, 2016年7月.

赤澤暢彦, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 羅成圭, 松原朋子, 崔英珠, 膳法亜沙子, 前田清司: 中高齢者における有酸素性トレーニングが一過性の有酸素性運動後の脳血流拍動性に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 盛岡, 2016年9月.

赤澤暢彦, 熊谷仁, 棚橋嵩一郎, 小崎恵生, 濱崎愛, 吉川徹, 妙圓園香苗, 羅成圭, 田川要, 松原朋子, 崔英珠, 前田清司: 中高齢者における有酸素性運動能力が脳血流拍動性に及ぼす影響. 第5回NSCA国際カンファレンス, 千葉, 2017年1月.

助 教 岡 本 正 洋

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Pereira, AC., Gray, JD., Kogan, JF., Davidson, RL., Rubin, TG., **Okamoto, M.**, Morrison, JH., McEwen, BS.: Age and Alzheimer's disease gene expression profiles reversed by the glutamate

modulator riluzole. *Mol Psychiatry*, 22: 296-305, 2017-2.

Shima, T., Matsui, T., Jesmin, S., **Okamoto, M.**, Soya, M., Inoue, K., Liu, Y., Torres-Aleman, I., McEwen, BS., Soya, H.: Moderate exercise ameliorates dysregulated hippocampal glycometabolism and memory function in a rat model of type 2 diabetes. *Diabetologia*, 60: 597-606, 2017-3.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Okamoto, M.: Effects of mild exercise on learning and memory. American Association for the Advancement of Science (AAAS) 2016, Washington, 2016-2.

Okamoto, M.: Importance of glutamate homeostasis for the beneficial exercise effects on depression and memory. Global Initiative for Sports Neuroscience, Tsukuba, 2017-2.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Okamoto, M.: Global Initiative for Sports Neuroscience 2017. Tsukuba, 2017-2-27. 参加者人数：75名，参加国数：3カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

高橋佳那子，島孟留，征矢茉莉子，陸彰洙，小泉光，**岡本正洋**，征矢英昭：運動時のストレス応答への視床下部性AVPとCRHの関与：選択的拮抗薬による検討．第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月．

助 教 片 岡 千 恵

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

野津有司，**片岡千恵**：学校教育における臓器移植に関する指導－保健学習を中心として－. *肝胆膵*, 72(3): 427-432, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

片岡千恵，野津有司，谷口志緒里，工藤晶子，知念莉子，國井恒太朗，久保元芳：我が国の青少年における危険行動の複数出現とSmall Screen Timeとの関連．第13回日本教育保健学会，茨城，2016年3月．

杉崎弘周，**片岡千恵**，岩田英樹，山田浩平，棟方百熊，物部博文：保健科教育学への道．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

c-1-2-4. ポスター発表

知念莉子，野津有司，**片岡千恵**，泉彩夏，久保元芳：学校における食に関するメディア・リテラシーの

文献的検討－保健学習での授業実践の充実に向けて－. 第25回日本健康教育学会学術大会, 沖縄, 2016年6月.

岩田英樹, 野津有司, **片岡千恵**, 久保元芳: アクティブ・ラーニングの活用に関する研究－保健学習及び他教科における授業実践の文献的検討から－. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

片岡千恵, 野津有司, 泉彩夏, 知念莉子, 長岡樹, 関野智史, 久保元芳, 岩田英樹: 臓器移植の知識および意識の状況－中学生を対象とした質問紙調査より－. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

小山浩, 國川聖子, 道幸玲奈, 野津有司, **片岡千恵**, 泉彩夏, 知念莉子, 久保元芳, 岩田英樹: 中学生における臓器移植に関する知識と意識との関連. 一般社団法人日本学校保健学会第63回学術大会, 茨城, 2016年11月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

一般社団法人日本学校保健学会第63回学術大会役員

一般社団法人日本体育学会保健専門領域理事 (2012年～)

教員養成系大学保健協議会役員 (2014年～)

助 教 ビョンギョンホ

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Hyodo, K., Dan, I., Kyutoku, Y., Suwabe, K., **Byun, K.**, Ochi, G., Soya, H.: The association between aerobic fitness and cognitive function in older men mediated by frontal lateralization. *Neuroimage*, 125: 291-300, 2016-1.

Suwabe, K., Hyodo, K., **Byun, K.**, Ochi, G., Yassa, MA., Soya, H.: Acute moderate exercise improves mnemonic discrimination in young adults. *Hippocampus*, 27-3: 229-234, 2017-3.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

Byun, K., Hyodo, K., Suwabe, K., Fukuie, T., Soya, H.: Possible neurophysiological mechanism for mild-exercise-enhanced executive function: An fNIRS neuroimaging study. *JPFMS*, 5-5: 361-367, 2016-11.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Byun, K.: Acute mild exercise improves mnemonic discrimination performance by increased pattern separation-related DG/CA3 connectivity in young adults, GISN symposium, Tsukuba, 2017-2.

c-1-1-4. ポスター発表

Byun, K., Suwabe, K., Reagh, ZM., Roberts, JM., Matsushita, A., Saotome, K., Yassa, MA., Soya, H.:

Mild exercise improves discrimination memory by boosting pattern separation-related DG/CA3 connectivity in young adults, Symposium on Physical Exercise and Brain Health, University of California, Irvine, 2017-3.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

『運動10分すると記憶力アップ？ 筑波大など研究』脳の機能活性化の可能性」朝日新聞 夕刊 全国版, 2017年2月7日

助 教 福 田 崇

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

福田崇, 坂本昭裕, 齊藤まゆみ, 澤江幸則, 春名純: 共通体育「トリム運動」での障害学生における体力向上の可能性～脊髄損傷者のトレーニング効果について～. *大学体育研究*, 38:21-28, 2016年3月.

山元勇樹, 加藤基, 福田崇, 大垣亮, 宮川俊平: 大学新入生アスリートの大腿部肉離れ既往における整形外科受診の有無. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24(2):289-299, 2016年3月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

福田崇: 不整地ランは痛みに悩む全ランナーに必要!. *月刊ランナーズ*, 41(9):40-41, 2016年9月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Fukuda, T., Koike, S., Miyakawa, S., Fujiya, H., Yamamoto, Y.: Measurement of Head Impact with a Real-time Six Degrees of Freedom Device in University American Football Players. 7th Asia Conference on Kinesiology, 2016, Incheon, 2016-11.

Fukuda, T.: Qualification system and current status of Athletic Trainers in Japan. 7th Asia Conference on Kinesiology, 2016, Incheon, 2016-11.

Fukuda, T.: Certification symposium (1):Certificates of ACSM, NSCA, and NATA. 7th Asia Conference on Kinesiology, 2016, Incheon, 2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

福田崇, 野澤大輔, 山崎正志, 宮川俊平: MD・PT・ATのコラボレーション; 足関節脱臼骨折後のアスレティックリハビリテーション. 第42回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 札幌, 2016年9月.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

福田崇, 小池関也, 松元剛, 宮川俊平, 山元勇樹: 大学アメリカンフットボール選手の衝突時における頭部作用. 第71回日本体力医学会, 岩手, 2016年9月.

原口文菜, 宮川俊平, 福田崇: 大学アメリカンフットボール選手における試合時の頭部衝撃が認知機能

テストに及ぼす影響。第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月。

c-1-2-4. ポスター発表

廣田真也，白木仁，**福田崇**：大学テニス選手における筋痙攣の実態と予防トレーニングの検討～身体機能とテニス動作に着目して～。第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月。

金多允，西田智，宮川俊平，**福田崇**，竹村雅裕：内反膝の有無と肢位の違いが腸脛靭帯の硬度に与える影響。第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月。

西田智，前原淳，東本翼，**福田崇**，宮川俊平：一過性の低強度伸張性運動がピークトルク発揮時の関節角度におよぼす影響。第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月。

吉田一也，鈴木啓太，宮川俊平，**福田崇**，竹村雅裕：超音波画像診断装置による肩甲骨周囲筋の筋厚評価の再現性の検討。第71回日本体力医学会，岩手，2016年9月。

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「茗溪学園大学入試説明会」（つくば市，2016年12月21日）

国立スポーツ科学センタートレーニング指導員（東京都北区，年間，週1回）

第19回日本アメリカンフットボール医科学研究会「酷暑環境におけるトレーニングの工夫」（2016年2月22日）

茨城県アスレティックトレーナーアドバンスド講習会「競技特性を考慮したプログラムの考え方」（2016年6月11日）

関東大学アメリカンフットボール協会2016年度指導者安全対策クリニック「夏季練習におけるトレーニング指導の工夫」（2016年7月11日）

第11回メディカルサポートBANKセミナー「大学アメリカンフットボール選手の衝突時における頭部作用」（2016年7月18日）

茨城県アスレティックトレーナーベーシック講習会「CPR・搬送法および応急処置」（2016年10月2日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

トレーナークリニック（年間）

アメリカンフットボール部（年間）

TSAトレーナー（年間）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スケート連盟医科学委員（2004年～）

関東アメリカンフットボール協会メディカル委員（2007年～）

JOC強化スタッフ（2004年～）

日本アスレティックトレーニング学会企画委員会委員（2016年～）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

- Fujii, N.**, Meade, RD., Alexander, LM., Akbari, P., Foudil-Bey, I., Louie, JC., Boulay, P., Kenny, GP.: iNOS-dependent sweating and eNOS-dependent cutaneous vasodilation are evident in younger adults, but are diminished in older adults exercising in the heat. *J Appl Physiol*, 120: 318-327, 2016-2.
- Meade, RD., Louie, JC., Poirier, MP., McGinn, R., **Fujii, N.**, Kenny, GP.: Exploring the mechanisms underpinning sweating: the development of a specialized ventilated capsule for use with intradermal microdialysis. *Physiol Rep*, 4-6: e12738, 2016-3.
- Fujii, N.**, Singh, MS., Halili, L., Boulay, P., Sigal, RJ., Kenny, GP.: Cutaneous vascular and sweating responses to intradermal administration of prostaglandin E1 and E2 in young and older adults: a role for nitric oxide? *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 310: R1064-R1072, 2016-6.
- Fujii, N.**, Meade, RD., Minson, CT., Brunt, VE., Boulay, P., Sigal, RJ., Kenny, GP.: Cutaneous blood flow during intradermal NO administration in young and older adults: roles for calcium-activated potassium channels and cyclooxygenase? *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 310: R1081-R1087, 2016-6.
- Halili, L., Singh, MS., **Fujii, N.**, Alexander, LM., Kenny, GP.: Endothelin-1 modulates methacholine-induced cutaneous vasodilation but not sweating in young human skin. *J Physiol*, 594-12: 3439-3452, 2016-6.
- Louie, JC., **Fujii, N.**, Meade, RD., Kenny, GP.: The interactive contributions of Na⁺/K⁺-ATPase and nitric oxide synthase to sweating and cutaneous vasodilation during exercise in the heat. *J Physiol*, 594-12: 3453-3462, 2016-6.
- Fujii, N.**, Louie, JC., McNeely, BD., Zhang, SY., Tran, MA., Kenny, GP.: K⁺ channel mechanisms underlying cholinergic cutaneous vasodilation and sweating in young humans: roles of KCa, KATP, and KV channels? *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 311-3: R600-R606, 2016-9.
- Fujii, N.**, Notley, SR., Minson, CT., Kenny, GP.: Administration of prostacyclin modulates cutaneous blood flow but not sweating in young and older males: roles for nitric oxide and calcium-activated potassium channels. *J Physiol*, 594-21: 6419-6429, 2016-11.
- Louie, JC., **Fujii, N.**, Meade, RD., Kenny, GP.: The Roles of the Na⁺/K⁺-ATPase, NKCC, and K⁺ Channels in Regulating Local Sweating and Cutaneous Blood Flow during Exercise in Humans in vivo. *Physiol Rep*, 4-22: e13024, 2016-11.
- Fujii, N.**, Halili, L., Singh, MS., Meade, RD., Kenny, GP.: The effect of endothelin A and B receptor blockade on cutaneous vascular and sweating responses in young males during and following exercise in the heat. *J Appl Physiol*, 121-6: 1379-1387, 2016-12.
- Fujii, N.**, Dervis, S., Sigal, RJ., Kenny, GP.: Type 1 diabetes modulates cyclooxygenase- and nitric oxide-dependent mechanisms governing sweating but not cutaneous vasodilation during exercising in the heat. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 311-6: R1076-R1084, 2016-12.

- Fujii, N.**, McNeely, BD., Kenny, GP.: Nitric oxide synthase and cyclooxygenase modulate β -adrenergic cutaneous vasodilatation and sweating in young men. *J Physiol*, 594-21: 6419-6429, 2017-2.
- Fujii, N.**, Louie, JC., McNeely, BD., Zhang, SY., Tran, MA., Kenny, GP.: Nicotinic receptor activation augments muscarinic receptor-mediated eccrine sweating but not cutaneous vasodilatation in young males. *Exp Physiol*, 102-2: 245-254, 2017-2.
- Fujii, N.**, Amano, T., Halili, L., Louie, JC., Zhang, SY., McNeely, BD., Kenny, GP.: Intradermal administration of endothelin-1 attenuates endothelium-dependent and -independent cutaneous vasodilation via Rho kinase in young adults. *Am J Physiol Regul Integr Comp Physiol*, 12-1: R23-R30, 2017-2.
- Fujii, N.**, McNeely, BD., Zhang, SY., Abdellaoui, YC., Danquah, MO., Kenny, GP.: Activation of protease-activated receptor 2 mediates cutaneous vasodilatation but not sweating: roles of nitric oxide synthase and cyclo-oxygenase. *Exp Physiol*, 102-2: 265-272, 2017-2.
- Haqani, B., **Fujii, N.**, Kondo, N., Kenny, GP.: The mechanisms underlying the muscle metaboreflex modulation of sweating and cutaneous blood flow in passively heated humans. *Physiol Rep*, 5-3: e13123, 2017-2.
- Amano, T., **Fujii, N.**, Louie, JC., Meade, RD., Kenny, GP.: Individual variations in nitric oxide synthase-dependent sweating in young and older males during exercise in the heat: role of aerobic power. *Physiol Rep*, 5-6: e13208, 2017-3.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Fujii, N.: Mini-workshop for trainees - Intradermal microdialysis: A tool to elucidate mechanisms underlying the heat loss responses of cutaneous vasodilation and sweating. Experimental Biology, San Diego, 2016-4.

Fujii, N.: An aging population in a changing climate: An integrated look at physiological and behavioral temperature regulation in the elderly. - Aging and temperature regulation during heat stress: from local to whole-body heat loss responses. 6th International Symposium on Physiology and Pharmacology of Temperature Regulation, Ljubljana, Slovenia, 2016-12.

Fujii, N.: Type 1 diabetes modulates cyclooxygenase- and nitric oxide-dependent mechanisms governing sweating but not cutaneous vasodilation during exercising in the heat. ARIHHP Human High Performance International Forum 2017 “Sport Science for Olympic and Paralympic Games”, Tsukuba, Japan, 2017-3.

c-1-1-4. ポスター発表

Haqani, B., **Fujii, N.**, Paull, G., Kenny, GP.: The mechanisms underlying the muscle metaboreflex modulation of sweating and cutaneous blood flow in passively heated humans. Experimental Biology, San Diego, 2016-4.

Foudil-bey, I., **Fujii, N.**, Dervis, S., Kenny, GP.: A role for cyclooxygenase and nitric oxide synthase in sweating and skin blood flow during exercise in the heat in young individuals with type 1 diabetes. Experimental Biology, San Diego, 2016-4.

Halili, L., Singh, MS., **Fujii, N.**, Alexander, LM., Kenny, GP.: Endothelin-1 modulates methacholine-

induced cutaneous vasodilation but not sweating in young human skin. *Experimental Biology*, San Diego, 2016-4.

Singh, MS., Halili, L., **Fujii, N.**, Kenny, GP.: The effect of ETA and ETB receptor inhibition on heat loss responses of cutaneous vasodilation and sweating in young males during rest and exercise. *Experimental Biology*, San Diego, 2016-4.

Akbari, P., Foudil-bey, I., **Fujii, N.**, Meade, RD., Kenny, GP.: Role of P2 receptors in sweating response during intermittent exercise in the heat in young and older adults. *Experimental Biology*, San Diego, 2016-4.

Fujii, N., Singh, MS., Minson, CT., Brunt, VE., Boulay, P., Sigal, RJ., Kenny, GP.: Cutaneous blood flow during intradermal exogenous nitric oxide administration in young and older adults: roles for cyclooxygenase and calcium-activated potassium channels? *Experimental Biology*, San Diego, 2016-4.

Fujii, N., Singh, MS., Halili, L., Boulay, P., Sigal, RJ., Kenny, GP.: Cutaneous vascular and sweating responses to intradermal administration of prostaglandin E1 and E2 in young and older adults: a role for nitric oxide? *Experimental Biology*, San Diego, 2016-4.

Fujii, N., Louie, JC., Meade, RD., Kenny, GP.: The Roles of the Na⁺/K⁺-ATPase, NKCC, and K⁺ Channel in the Regulation of Local Sweating and Cutaneous Vasodilation during Exercise in Humans in vivo. 6th International Symposium on Physiology and Pharmacology of Temperature Regulation, Ljubljana, 2016-12.

助 教 松 井 崇

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Yook, JS., Okamoto, M., Rakwal, R., Shibato, J., Lee, MC., **Matsui, T.**, Chang, H., Cho, JY., Soya, H.: Astaxanthin supplementation enhances adult hippocampal neurogenesis and spatial memory in mice. *Mol Nutr Food Res*, 60: 589-599, 2016-3.

Shima, T., Jesmin, S., **Matsui, T.**, Soya, M., Soya, H.: Differential effects of type 2 diabetes on brain glycometabolism in rats: focus on glycogen and monocarboxylate transporter 2. *J Physiol Sci*, 2016-12. doi: 10.1007/s12576-016-0508-6.

Fernandez, AM., Hernandez-Garzón, E., Perez-Domper, P., Perez-Alvarez, A., Mederos, S., **Matsui, T.**, Santi, A., Trueba-Saiz, A., García-Guerra, L., Pose-Utrilla, J., Fielitz, J., Olson, EN., Fernandez de la Rosa, R., Garcia Garcia, L., Pozo, MA., Iglesias, T., Araque, A., Soya, H., Perea, G., Martin, ED., Torres Aleman, I.: Insulin Regulates Astrocytic Glucose Handling Through Cooperation With IGF-I. *Diabetes*, 66: 64-74, 2017-1.

Shima, T., **Matsui, T.**, Jesmin, S., Okamoto, M., Soya, M., Inoue, K., Liu, YF., Torres-Aleman, I., McEwen, BS., Soya, H.: Moderate exercise ameliorates dysregulated hippocampal glycometabolism and memory function in a rat model of type 2 diabetes. *Diabetologia*, 60: 597-606, 2017-3.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

陸彰洙, 小泉光, 松井崇, 征矢英昭: カロテノイド - 天然由来のアスタキサンチン. 脳腸相関と食品臨床栄養臨時創刊号, 128: 835-840, 2016年5月.

松井崇: 運動が高めるヒューマン・パフォーマンスと脳グリコーゲン. 愛知県理学療法学会誌, 28: 3-9, 2016年6月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

松井崇: パフォーマンスのスポーツ神経科学: 柔道競技力における脳の役割を探る. (編集) 小俣幸嗣, 実践柔道論. メディアパル社, 182-200, 2017年3月15日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Matsui, T., Torres-Aleman, I., Soya, H.: Dopamine D2 receptor-mediated astrocytic glycogenolysis in the exercising rat hippocampus. 3rd Forum in Global Initiative for Sports Neuroscience 2017, Global Collaboration II. The Cajal Institute, Tsukuba, 2017-2.

c-1-1-4. ポスター発表

Soya, M., *Matsui, T., Shima, T., Soya, H.: Hyper-hippocampal glycogen induced by preloading of exercises and high carbohydrate diet: A possible strategy to enhance memory function. Neuroscience 2016, San Diego, 2016-11.

Matsui, T., Torres-Aleman, I., Soya, H.: Dopaminergic activity-dependent astrocytic glycogenolysis in the exercising rat hippocampus. Neuroscience 2016, San Diego, 2016-11.

Soya, M., *Matsui, T., Shima, T., Soya, H.: Preloading of exercises and high carbohydrate diet elevate hippocampal glycogen levels: a potential sports conditioning enhancing memory function. 3rd Forum in Global Initiative for Sports Neuroscience 2017, Global Collaboration II. The Cajal Institute, Tsukuba, 2017-2.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Matsui, T.: Human High Performance International Forum 2016: Sport Science for Olympic and Paralympic Games. Tsukuba, 2016-3-3. 参加者人数: 105名, 参加国数: 7カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

松井崇, 征矢英昭: 運動時の脳内糖代謝と認知機能. 第24回運動生理学会大会, シンポジウム2, 熊本, 2016年7月

c-4. 研究成果による受賞

平成28年度筑波大学若手教員奨励賞, 2017年1月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

全日本柔道連盟強化委員会科学研究部委員 (2017年~)

特任助教 久保大輔

特任助教 高林俊幸

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会 強化スタッフ（2015年～）

公益社団法人全日本アーチェリー連盟 強化部専門委員（2015年～）

公益社団法人全日本陸上競技連盟連盟 強化委員会 情報部 委員（2015年～）

特任助教 辻本健彦

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Okubo, Y., Osuka, Y., Jung, S., Figueroa, R., **Tsujimoto, T.**, Aiba, T., Kim, T., Tanaka, K.: Walking can be more effective than balance training in fall prevention among community-dwelling older adults. *Geriatrics & Gerontology International*, 16-1: 118-125, 2016-1.

Kumagai, H., Zempo-Miyaki, A., Yoshikawa, T., **Tsujimoto, T.**, Tanaka, K., Maeda, S.: Increased physical activity has a greater effect than reduced energy intake on lifestyle modification-induced increase in testosterone. *Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition*, 58-1: 84-89, 2016-1.

Zhao, X., **Tsujimoto, T.**, Kim, B., Katayama, Y., Wakaba, K., Wang, Z., Tanaka, K.: Effects of increasing physical activity on foot structure and ankle muscle strength in adults with obesity. *Journal of Physical Therapy Science*, 28-8: 2332-2336, 2016-8.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

辻本健彦，田中喜代次：活動量計による客観的な身体活動量指標を用いた全身持久力の推定. *いばらき健康・スポーツ科学*, 33: 53-59, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Tsujimoto, T., So, R., Kim, B., Tanaka, K.: Influence of reallocating time to sedentary and physical activity on cardiometabolic risk factors in Japanese men. ACSM's 63rd Annual Meeting, Boston Massachusetts, 2016-5.

Myoenzono, T., Yoshikawa, T., Kumagai, H., **Tsujimoto, T.**, Tanaka, K., Maeda, S.: The effects of aerobic exercise training on plasma amino acid concentrations in overweight and obese men. European College of Sport Science 21st Annual Congress 2016 (ECSS 2016), Vienna, 2016-7.

Zhao, X., **Tsujimoto, T.**, Kim, B., Katayama, Y., Tanaka, K.: The effect of obesity on foot structure and ankle muscle strength. The 6th Conference of Asia Society of Sports Biomechanics, Ningbo, 2016-10.

Kumagai, H., Yoshikawa, T., Myoenzono, K., Kaneko, T., Zempo-Miyaki, A., **Tsujimoto, T.**, Tanaka, K., Maeda, S.: Habitual aerobic exercise increases serum testosterone levels in overweight and obese men. APS American Physiological Society The integrative Biology of Exercise VII. Arizona, 2016-11.

c-1-1-4. ポスター発表

Yoshikawa, T., Kumagai, H., Myoenzono, K., **Tsujimoto, T.**, Tanaka, K., Maeda, S.: Aerobic exercise training improves response of central blood pressure to oral glucose loading in overweight/obese men. European College of Sport Science 21st Annual Congress 2016 (ECSS 2016), Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

妙圓園香苗, 吉川徹, 熊谷仁, 蘇リナ, **辻本健彦**, 田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における生活習慣改善が血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響. 第176回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2016年7月.

辻本健彦, 若葉京良, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, 前田清司, 田中喜代次: 行動変容技法を用いた低頻度の運動教室が身体活動量に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

中田由夫, 笹井浩行, **辻本健彦**, 小林裕幸, 上田啓輔, 三本木千秋, 池上秀二. アミノ酸混合物の体脂肪低減効果を評価する用量設定試験. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

吉川徹, 立原美彩, 熊谷仁, 妙圓園香苗, **辻本健彦**, 田中喜代次, 前田清司: 減量にともなう筋量の変化に睡眠質が及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

金子萌子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, **辻本健彦**, 田中喜代次, 前田清司: 成人肥満男性における12週間の定期的な有酸素性運動がエストラジオール/テストステロン比に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

熊谷仁, 吉川徹, 膳法亜沙子, 妙圓園香苗, **辻本健彦**, 田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における有酸素性運動と食習慣改善が血中テストステロン濃度に及ぼす影響—有酸素性運動と食習慣改善の比較—. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

竹下えり子, 熊谷仁, 吉川徹, 妙圓園香苗, **辻本健彦**, 田中喜代次, 前田清司: 肥満男性における定期的な有酸素性運動が免疫機能に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

呉世旭, 石原瑞穂, 志田隆史, **辻本健彦**, 田中喜代次, 正田純一: 非アルコール性脂肪性肝疾患 (NAFLD) の肝病態改善における運動の効果. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

辻本健彦, 西連地利己, 入江ふじこ, 磯博康, 山岸良匡, 渡辺宏, 小橋元, 田中喜代次, 大田仁史: 笑いの頻度が高血圧発症に及ぼす影響: 茨城県健康研究. 第75回日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016年10月.

中田由夫, **辻本健彦**, 笹井浩行, 上田啓輔, 三本木千秋, 池上秀二: リストバンド型活動量計を用いた身体活動介入の実施可能性. 第18回日本健康支援学会年次学術大会, 東京, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

中田由夫, **辻本健彦**, 笹井浩行, 宮脇梨奈, 石井香織, 柴田愛, 田中茂穂, 井上茂, 岡浩一郎: 国際標準化身体活動質問票および世界標準化身体活動質問票の妥当性および比較可能性. 第26回日本疫学会学術総会, 鳥取, 2016年1月.

奥松功基, 田中喜代次, **辻本健彦**, 北川瞳, 山内英子: 運動習慣の有無による乳がん患者の体重および

体力に関する検討。第34回日本肥満症治療学会学術集会，東京，2016年7月。

辻本健彦，若葉京良，趙曉光，王震男，谷口亮介，奥松功基，田中喜代次：減量教室の出席状況と体重変化との関連—成人女性を対象とした検討—。第64回日本教育医学会大会，三重，2016年8月。

若葉京良，**辻本健彦**，趙曉光，王震男，谷口亮介，奥松功基，熊谷仁，吉川徹，妙圓園香苗，前田清司，田中喜代次：集団型減量支援プログラムにおける減量効果と社会的支援の関係。第64回日本教育医学会大会，三重，2016年8月。

妙圓園香苗，吉川徹，熊谷仁，**辻本健彦**，田中喜代次，前田清司：肥満男性における有酸素運動トレーニングが血漿アミノ酸濃度に及ぼす影響～網羅的解析による検討～。第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月。

辻本健彦，笹井浩行，田中喜代次：複数種目のスポーツ実践と主観的健康感との関連：スポーツライフ・データ 2012。第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会，千葉，2016年11月。

王震男，**辻本健彦**，笹井浩行，田中喜代次：運動種目と主観的健康感の関連：スポーツライフ・データ 2012。第4回日本介護福祉・健康づくり学会大会，千葉，2016年11月。

若葉京良，**辻本健彦**，谷口亮介，奥松功基，田中喜代次：運動教室への参加による首尾一貫感覚の変化が抑うつ傾向に及ぼす影響。第4回日本介護福祉・健康づくり学会，千葉，2016年11月。

金子萌子，熊谷仁，吉川徹，妙圓園香苗，若葉京良，**辻本健彦**，田中喜代次，前田清司：閉経が食習慣改善による内臓脂肪面積の低下に及ぼす影響。第4回日本介護福祉・健康づくり学会，千葉，2016年11月。

4. 社会貢献活動

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

東取手運動教室での指導・茨城県・取手市：2016年度以前より継続（毎週1回）

特任助教 横山典子

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Bang, E., Tanabe, K., **Yokoyama, N.**, Chijiki, S., Kuno, S.: Relationship between thigh intermuscular adipose tissue accumulation and number of metabolic syndrome risk factors in middle-aged and older Japanese adults. *Experimental Gerontology*, 79: 26-30, 2016-3.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Bang, E., Tanabe, K., **Yokoyama, N.**, Chijiki, S., Kuno, S.: The relationship between the accumulation of thigh intermuscular adipose tissue and the number of metabolic syndrome risk factors in normal weight and obese individuals. The 7th Asia Conference on Kinesiology 2016, Songdo,

2016-11.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

横山典子，田辺解，千々木祥子，塚尾晶子，久野譜也：インセンティブ付健康事業参加者における健康意識と行動変容の関係性-SWCプロジェクト45-．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

田辺解，横山典子，千々木祥子，塚尾晶子，久野譜也：9ヶ月間にわたるインセンティブを用いた健康増進モデル実証の成果-SWCプロジェクト42-．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

千々木祥子，田辺解，横山典子，加藤直子，塚尾晶子，久野譜也：インセンティブ付健康事業への参加動機の類型化とその特徴-SWCプロジェクト41-．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

c-1-2-4. ポスター発表

千々木祥子，田辺解，横山典子，加藤直子，塚尾晶子，久野譜也：インセンティブ付健康づくり事業に参加した住民の特徴-SWCプロジェクト46-．日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会，千葉，2016年11月．

方恩知，田辺解，横山典子，千々木祥子，塚尾晶子，久野譜也：身体活動量の相違が加齢による筋間・筋内脂肪の蓄積に及ぼす影響．日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会，千葉，2016年11月．

岡本翔平，駒村康平，田辺解，横山典子，千々木祥子，久野譜也：インセンティブ付き運動プログラム参加者のうち，誰が運動を継続できないか．日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会，千葉，2016年11月．

室谷歩，塚尾晶子，鶴園卓也，宮田真一，田辺解，横山典子，千々木祥子，久野譜也：3年間における健幸ポイント参加者の生活習慣病抑制効果．日本介護福祉・健康づくり学会第4回大会，千葉，2016年11月．

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績（自身の受賞を含む）

第26回全国社会人躰道優勝大会 団体法形 3位，2016年9月22日．

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

茨城県躰道協会理事長

拓殖大学躰道部コーチ

日本躰道協会指導局次長

4. 社会貢献活動

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくば躰道道場の指導責任者：茨城県・つくば市：4月から12月（毎週1回）

拓殖大学躰道部のコーチ：東京都・八王子市：4月から12月（毎月1回）

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

日本躰道協会の各種全国大会の審判：静岡県・静岡市：7月31日，東京都・足立区：10月8日，東京都・江東区：11月13日

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

眞下苑子, 藁科侑希, 白木仁, 宮川俊平: 大学女子ハンドボールチームにおける外傷・障害および疼痛発生の実態. *日本臨床スポーツ医学会誌*, 24-2: 244-253, 2016年4月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

藁科侑希: 実技指導研修会報告 バドミントン. *大学体育*, 43-1: 88-89, 2016年6月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Sawai, A., Tochigi, Y., Warashina, Y., Shiraki, H., Watanabe, K.: Change of the fluid component in calf and athletic performance in a menstrual cycle. 21st European College of Sport Science, Austria, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

丸山将史, 栗原大祐, 犬塚健太, 可西泰修, 澤井朱美, 藁科侑希, 白木仁: 荷重による足部形態変化. 第169回日本体力医学会関東地方会, 東京, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

犬塚健太, 丸山将史, 藤尾司, 可西泰修, 藁科侑希, 白木仁: 伸縮性シューレースが足底圧および足背圧に及ぼす影響. 第71回日本体力医学会大会, 岩手, 2016年9月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「千葉県バドミントン協会主催 バドミントン指導者講習会兼公益財団法人日本体育協会公認バドミントン指導員資格更新のための義務研修会」講師（千葉市, 2016年1月31日）

「千葉県バドミントン協会主催 公益財団法人日本体育協会公認バドミントン指導員（4級）養成講習会」講師（千葉市, 2016年11月6日）

公益社団法人全国大学体育連合 第7回大学体育指導者養成研修会 バドミントン 記録（野田市, 2016年3月5,6日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学 Tsukuba Sports Association 「TSA トレーナー養成チーム」（年間）

筑波大学 トレーナークリニック（年間）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学体育会バドミントン部 ヘッドアスレティックトレーナー兼障がい者部門コーチ（年間）

第1回日本障がい者バドミントン選手権大会 男子シングルス（SL3）下肢障がいの部, 福岡, 2016年

2月6日

藤原大輔，優勝。

2016年度 関東大学バドミントン春季リーグ戦 女子一部 優勝 東京，2016年4月29日-5月5日

2016年度 関東大学バドミントン秋季リーグ戦 女子一部 優勝・男子二部 優勝，東京，2016年8月27日-9月4日

2016年度 全日本学生バドミントン選手権大会 女子団体 優勝・女子シングルス，千葉，2016年10月14-20日

大久保敦美，3位。

一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟 強化スタッフ・アスレティックトレーナー兼立位コーチ（年間）

3rd Indonesia Para Badminton International 2016，インドネシア，2016年8月1-9日

Asian Para-Badminton Championships 2016，中国，2016年11月22-28日

1st Colombia Para Badminton International，コロンビア，2016年12月4-9日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

一般社団法人日本体力医学会（2009年～）

日本運動疫学会（2012年～）

日本アスレティックトレーニング学会（2013年～）

一般社団法人日本臨床スポーツ医学会（2014年～）

日本スポーツパフォーマンス学会（2015年～）

茨城県アスレティックトレーナー協議会（2015年～）

筑波大学トレーナークリニック アスレティックトレーナー（2015年～）

筑波大学体育会バドミントン部 ヘッドアスレティックトレーナー兼障がい者部門コーチ（2015年～）

一般社団法人日本障がい者バドミントン連盟 強化スタッフ・国際情報スタッフ・医事部スタッフ（アスレティックトレーナー）・立位コーチ兼務（2015年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

バドミントンクラブ外部コーチ：茨城県・つくば市：1月から12月（毎月1回）

コーチング学分野

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

松木優也, *會田宏: ハンドボール競技における防御および速攻の戦術指導に関する事例報告. コーチング学研究, 29-2: 209-220, 2016年3月.

宗宮悠子, 寺山由美, 會田宏: 卓越したダンス指導者のコーチングフィロソフィーの構造に関する質的研究—18歳以上のダンサーの指導に実績のある指導者に着目して—. コーチング学研究, 29-2: 169-180, 2016年3月.

船木浩斗, *會田宏: ハンドボールにおける1対1の突破阻止に関する実践知—国際レベルで活躍した防御プレイヤーの語りを手がかりに—. コーチング学研究, 30-1: 43-54, 2016年10月.

吉兼練, 加納明帆, ネメシュローランド, *會田宏: ハンドボール女子「2020ターゲットエイジ」における攻撃の現状と課題. ハンドボールリサーチ, 5: 1-12, 2016年12月21日.

日比敦史, 永野翔大, 藤本元, *會田宏: 大学男子ハンドボールチームにおける情報分析活動の改善に関する事例報告: 筑波大学男子ハンドボール部の2015年の活動を対象に. ハンドボールリサーチ, 5: 25-34, 2016年12月21日.

仙波慎平, 藤本元, 山田永子, *會田宏: 中学男子ハンドボール競技における大会使用球の変更がゲーム様相に与える影響. ハンドボールリサーチ, 5: 35-42, 2016年12月21日.

永野翔大, 藤本元, *會田宏: 男子ハンドボール競技におけるバックコートプレイヤーの有効的なフェイントプレー—日本代表選手と韓国代表選手とを比較して—. 大学体育研究, 39: 19-28, 2017年3月.

仙波慎平, 小俣貴洋, 藤本元, *會田宏: 大学女子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での有効な防御方法. いばらき健康・スポーツ科学, 33: 9-16, 2017年3月.

伊東裕希, 山田永子, *會田宏: 男子ハンドボール競技における世界トップレベルのセンタープレイヤーのシュートプレーの特徴: N.カラバティッチ (フランス代表) とD.ドゥデアール (スウェーデン代表) の2選手に着目して. いばらき健康・スポーツ科学, 33: 29-38, 2017年3月.

永野翔大, ネメシュローランド, 藤本元, *會田宏: ハンドボール競技における強豪国と日本の一貫指導プログラムに関する比較研究. コーチング学研究, 30-2, 109-123, 2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

會田宏: 私の考えるコーチング論. コーチング学研究, 29 (増刊号): 79-84, 2016年3月.

會田宏: スポーツ科学はコーチング実践に役立っているのか (日本ハンドボール学会第4回大会報告). ハンドボールリサーチ, 5: 83-87, 2016年12月21日.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

小俣貴洋, 福田丈, 日比敦史, 會田宏: ゴールキーピングの歴史. ハンドボールリサーチ, 5: 47-57, 2016年12月21日.

中山紗織, 會田宏: ドイツにおける子どものハンドボールの実施規則—試合構造を統一させるための解説と情報 2015/16年版—. 公益財団法人日本ハンドボール協会, 全文15頁, 2016年10月12日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-1. 基調講演

會田宏：スポーツ科学はコーチング実践に役立っているのか。日本ハンドボール学会第4回大会，東京，2016年2月27日。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

福田丈，會田宏：国際レベルの女子ハンドボール競技におけるバックプレイヤーのポストプレイヤーへのアシストパスプレーに関する研究。日本ハンドボール学会第5回大会，東京，2017年3月5日。

永野翔大，Nemes Roland，藤本元，會田宏：日本とドイツにおけるハンドボールの一貫指導プログラムに関する比較研究。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月26日。

田代智紀，會田宏：ハンドボール指導者の指導観の変化をもたらす要因に関する事例研究。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月26日。

下拂翔，永野翔大，山田永子，會田宏：ハンドボール競技における若手コーチの省察を深める方法に関する事例報告。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月26日。

岡部正明，濱谷奎介，鍋倉賢治，會田宏：高校生ハンドボール選手における Repeated Sprint Ability と体力テストの関係。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月26日。

加納明帆，會田宏：大学女子ハンドボール競技のセットディフェンスにおける有効な1対1防御プレー方法。日本ハンドボール学会第4回大会，東京，2016年2月27日。

橋本真一，會田宏：2014年男子ヨーロッパ選手権で見られた三次速攻の特徴。日本ハンドボール学会第4回大会，東京，2016年2月27日。

c-4. 研究成果による受賞

日本ハンドボール学会大会賞（受賞論文：ハンドボールにおける卓越した指導者の指導力の熟達化に関する事例研究：高校・大学において全国大会で17回優勝している監督の語りを手がかりに。ハンドボールリサーチ，4：11-19，2016年2月28日）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

・男子ハンドボール部部長として

関東学生ハンドボール春季リーグ戦，第5位，2016年5月21日。

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦，優勝，2016年9月24日。

全日本学生ハンドボール選手権大会，ベスト8，2016年11月21日。

・女子ハンドボール部部長として

関東学生ハンドボール春季リーグ戦，第2位，2016年5月22日。

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦，第2位，2016年9月25日。

全日本学生ハンドボール選手権大会，第3位，2016年11月23日。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員（平成28年度だけでなく，それ以前からの継続中のものも含む）

つくば市ハンドボール協会 理事（2010年4月～）

茨城県ハンドボール協会 副理事長（2015年4月～2017年3月）

日本スポーツ運動学会 理事（1998年4月～）

日本ハンドボール学会 理事長（2012年11月～）

日本コーチング学会 理事 (2013年4月～)

日本体育学会「体育学研究」編集委員 (2013年4月～2017年3月)

c. ボランティア活動

c-1. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

近隣小学校 (つくば市立松代小学校ほか8校) における体育授業 (ハンドボール) への指導者派遣 (2016年9月～2017年3月, 延べ59日間)

近隣中学校 (つくば市立手代木中学校ほか) ハンドボール部への指導者派遣 (通年, 毎週)

筑波学園ハンドボールクラブ (小学生ハンドボールチーム) への指導者派遣 (通年, 毎週)

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

つくば市ハンドボール協会主催つくば市総合ハンドボール大会への運営者派遣: 茨城県・つくば市:
2016年6月25日

つくば市ハンドボール協会主催つくば学園オープンハンドボール大会への運営者派遣: 茨城県・つくば市:
2017年1月28日

つくば市ハンドボール協会主催小学生ハンドボールスクールへの指導者派遣: 茨城県・つくば市: 2016年7月31日, 2017年3月18日

教授 浅井 武

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Hong, S., Nobori, R., Sakamoto, K., Koido, M., Nakayama, M., **Asai, T.**: Experiment of aerodynamic force on a rotating soccer ball. *Procedia Engineering*, 147: 56-61, 2016-6.

Sakamoto, K., Numazu, N., Hong, S., **Asai, T.**: Kinetics analysis of instep and side-foot kick in female soccer players. *Procedia Engineering*, 147: 214-219, 2016-6.

Goff, J. E., Hobson, C. M., **Asai, T.**, Hong, S.: Wind-tunnel experiments and trajectory analyses for five non-spinning soccer balls. *Procedia Engineering*, 147: 32-37, 2016-6.

Asai, T., Hong, S., Ijuin, K.: Flow visualization of downhill ski racers using computational fluid dynamics. *Procedia Engineering*, 147: 44-49, 2016-6.

Hong, S., **Asai, T.**: Effects of dimple on soccer ball aerodynamics, *Proceedings of the 4th International Congress on sport sciences research and technology support*, 5-7, 2016-11.

Asai, T., Hong, S.: Trying to Understand Knuckling Effect Ball in Soccer. *Proceedings of the 31st International Congress on High-Speed Imaging and Photonics*, 804-808. 2016-11.

Hong, S., **Asai, T.**: Investigation of Kinematics of Knuckling Shot in Soccer. Selected Papers from the 31st International Congress on High-Speed Imaging and Photonics, edited by Hiroyuki Shiraga, Takeharu Goji Etoh, *Proc. of SPIE*, 10328: 103281S1-6, 2017-3.

Asai, T., Hong, S., Ijuin, K.: Flow visualisation of downhill skiers using the lattice Boltzmann method. *Eur. J. Phys.*, 38: 024002, 2017-3.

教授 井村 仁

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Sato, F., Watanabe, G., Imura, H., Ozaki, T.: The Autobiographical Memories of Outdoor Education Program for the Associates Training. The 6th Asia Oceania Camping Congress, Tokyo, 2016-10.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

佐藤冬果，渡邊仁，井村仁，尾崎智哉：社員研修としての野外教育プログラムに関する自伝的記憶．日本野外教育学会第19回大会，静岡，2016年10月．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金審査委員会委員」（2011年～）

日本野外教育学会副理事長（2012年～）

日本スキー学会監事（2012年～）

教授 内山 治 樹

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

北村麻衣，*内山治樹，柏倉秀徳：バスケットボールにおけるコーディネーション・トレーニングの検証：大学女子選手を対象にして．*いばらき健康・スポーツ科学*，32，11-23，2016年3月．

町田洋介，*内山治樹，吉田健司，池田英治，橋爪純，柏倉秀徳：バスケットボール競技におけるフローター・シュートのメカニズムと有用性に関する研究．*体育学研究*，61-1：301-318，2016年6月．

武田理，北村麻衣，*内山治樹：バスケットボールプレイヤーに求められる間欠的ハイパワー発揮の右翼向上のための高強度の間欠的運動の意義と役割その有効性の検討—「タバタプロトコル」に着目して—．*いばらき健康・スポーツ科学*，33：17-28，2017年3月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

内山治樹，阿江通良，中川昭，真田久，佐野淳，西嶋尚彦，有田祐二，斎藤卓，クラリクアンドレア，莉山靖，本谷聡，寺山由美，大山圭吾，木越清信，仙石泰雄，渡邊仁，吉田健司，中西康己，藤本元，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，吹田真士，安藤真太郎，川村卓，増地克之，香田郡秀，森俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価（第2報）—「上級」モデルの検証—．*筑波大学体育系紀要*，39：23-34，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会，研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別，招待講演

内山治樹：筑波大学「実技検定」～次世代型体育，スポーツ指導者育成システム～，日本体育学会指導者育成検討委員会，公開検討会，東京，2016年10月．

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

土肥崇史，内山治樹，橋爪純：バスケットボール競技におけるドライブの向上に必要な要素の検討．日本コーチング学会，東京，2016年3月．

池田英治，橋香織，内山治樹，岩井浩一，和田野安良：車椅子バスケットボールにおける「流れ」と勝敗の関係—時間と得失点差に着目して—．日本コーチング学会，東京，2016年3月．

池田英治，内山治樹，岩井浩一：バスケットボールにおける“Collective Efficacy for Defense”尺度の開発と有効性の検討．日本体育学会，大阪，2016年8月．

c-1-2-4. ポスター発表

土肥崇史，内山治樹，柏倉秀徳：バスケットボール競技における速攻成立のための条件の検討．日本コーチング学会，東京，2017年3月．

池田英治，内山治樹，岩井浩一，和田野安良：車椅子バスケットボールにおける「流れ」と勝敗の因果構造分析．日本コーチング学会，東京，2017年3月．

c-4. 研究成果による受賞

平成28年度日本体育・スポーツ哲学会学会賞，（受賞論文：チーム・パフォーマンスの生成にかかわる前提要件の検討—「チームの感性」究明に向けた予備的考察—．体育・スポーツ哲学研究，37(2)：115-131，2016年9月．）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本バスケットボール学会会長（2016年～）

茨城体育学会理事，編集委員会委員長（2012年～）

教授 大高敏弘

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

澁谷泉美，竹村雅裕，永井智，大高敏弘，宮川俊平：大学女子バスケットボール選手の運動器に発生した疼痛の実態—競技レベルに着目して—．バスケットボール研究，2：55-62，2016年11月．

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学重点公開講座 スポーツ教室「バスケットボール」（2016年3月，2日間）

3. 競技活動

b. 指導業績

女子バスケットボール部監督

全日本大学バスケットボール選手権，7位，東京，2016年11月21～26日

関東大学女子バスケットボール新人戦，7位，東京，2016年6月11～19日

関東大学女子バスケットボールリーグ戦，5位，東京，2016年8月27日～10月23日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城県バスケットボール協会理事（2016年～）

日本バスケットボール学会会長（2014年～2017年）

教授 尾 縣 貢

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

渡邊将司，森丘保典，伊藤静夫，三宅聡，繁田進，**尾縣貢**：日本代表選手の青少年期における運動遊び経験およびトレーニング環境—日本代表選手に対する軌跡調査—。 *陸上競技研究紀要*，11：4-15，2016年3月。

清野隼，**尾縣貢**：トップスポーツ現場における栄養サポートの必要性。 *日本スポーツ栄養研究誌*，9：16-30，2016年3月。

山元康平，内藤景，宮代賢治，関慶太郎，上田美鈴，木越清信，大山下圭悟，宮下憲，**尾縣貢**：男子400m走におけるパフォーマンス向上に伴うレースパターンの変化。 *陸上競技学会誌*，14：9-18，2016年3月。

広瀬健一，大山下圭悟，前田奎，梶谷亮輔，山元康平，中野美沙，木越清信，**尾縣貢**：ハンマー投のターン時間と投てき記録との関係。 *陸上競技研究*，105：24-29，2016年3月。

清野隼，**尾縣貢**：トップスポーツ現場が求めるスポーツ栄養士の資質，能力。 *Strength & Conditioning Journal*，23-6：16-30，2016年6月。

広瀬健一，大山下圭悟，藤井宏明，青木和浩，**尾縣貢**：ハンマー投における高重量ハンマーによる投てきのキネマティクスの特性—レジスティッドトレーニングとしての利用法の検討—。 *体育学研究*，61：75-89，2016年6月。

広瀬健一，大山下圭悟，**尾縣貢**：ハンマー投におけるターン局面への指導に関する事例報告—予備動作の形態を変更した投げ練習に着目して—。 *コーチング学研究*，30：65-72，2016年10月。

関慶太郎，鈴木一成，山元康平，加藤彰浩，中野美沙，青山清英，**尾縣貢**，木越清信：小学校5，6年生男子児童における短距離走の回復脚の動作と疾走速度との関係：回復脚の積極的な回復と膝関節の屈曲はどちらを優先して習得すべきか。 *体育学研究*，61：743-753，2016年12月。

前田奎，大山下圭悟，広瀬健一，山元康平，梶谷亮輔，中野美沙，木越清信，**尾縣貢**：女子円盤投における投てき動作の所要時間と投てき記録との関係。 *陸上競技研究*，108：14-22，2016年12月。

広瀬健一，大山下圭悟，藤井宏明，青木和浩，前田奎，梶谷亮輔，**尾縣貢**：ハンマー投における高重量

ハンマーを使用したトレーニングが投てき距離および技術に及ぼす影響. 体育学研究, 2017年1月. Doi:org/10.5432/jjpehss.16071.

渡邊將司, 明珍直樹, 上地勝, 久保佳彦, 森丘保典, 三宅聡, 繁田進, **尾縣貢**: 高校生における陸上競技の継続および非継続に係る要因. 陸上競技研究紀要, 12:4-15, 2017年3月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

尾縣貢: コーチの資質, 能力の向上に関する政策動向. 陸上競技学会誌, 14-1:47-52, 2016年3月.

尾縣貢: コーチングのツールとしてのスポーツ科学の活用. 陸上競技研究紀要, 11:46-52, 2016年3月.

尾縣貢: 「超回復」の原理と活かし方. ルミネ, 6-8:26-29, 2016年7月.

尾縣貢, 神田昌幸, 瀬古利彦, 西倉鉄也, 花岡伸和, 平田竹男, 屋井鉄雄, 結城和香子: アスリート, 観客にやさしい道づくりに向けた提言. 国土交通省, 2016年10月.

尾縣貢: バトンを繋ぐ魅力. 体育科教育, 65-3:9, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Hirose, K., Ohyama, K., **Ogata, M.**: The characteristics of turn rhythm patterns in the men's hammer throw. 21th annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

Hirose, K., Ohyama, K., Maeda, K., **Ogata, M.**: The relationship between the duration time of turn and the throwing record in the men's hammer throw. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Maeda, K., Ohyama, K., Hirose, K., **Ogata, M.**: Technical factors required for proper body translation in the discus throw. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

尾縣貢: リオオリンピックから東京オリンピックへ. 第15回日本陸上競技学会, 岡山, 2016年12月.

c-1-2-4. ポスター発表

梶谷亮輔, 木越清信, 前村公彦, 山元康平, 関慶太郎, 前田 奎, 広瀬健一, **尾縣貢**: 下肢における大きな力発揮を目的とした個人の反動動作特性. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

岩淵典仁, 飛松好子, 緒方徹, 梅崎多美, **尾縣貢**: ウィルチェアラグビー日本代表選手のトレーニング環境調査と体力・運動能力測定. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

前田奎, 大山卞圭悟, 山元康平, 広瀬健一, 梶谷亮輔, 戸邊直人, **尾縣貢**: 男子円盤投競技者の体幹捻転に関するキネマティクス. 第15回日本陸上競技学会大会, 岡山, 2016年12月.

梶谷亮輔, 木越清信, 前村公彦, 山元康平, 前田奎, 広瀬健一, 戸邊直人, **尾縣貢**: 短距離走者における高いパフォーマンスを獲得するために必要とされる力, パワー発揮能力 ~ジャンプ運動に着目して~. 第15回日本陸上競技学会大会, 岡山, 2016年12月.

戸邊直人, 林陵平, 荻山靖, 木越清信, 関子浩二, **尾縣貢**: 走高跳の踏切局面における3Dキネティクスと鉛直速度との関係. 第15回日本陸上競技学会大会, 岡山, 2016年12月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「マラソン選考に思う」. 毎日新聞, 2016年5月2日.

地域陸協の活性. 長野陸上競技協会創設70周年記念シンポジウム, 長野, 2016年12月.

北播に望むこと。北播地区政経懇話会，加東，2017年1月。

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

尾縣貢：新中学保健体育。学研，2016年1月。

尾縣貢，菊幸一：新・中学保健体育の研究 教授ノート体育（編集）。学研，2016年1月。

尾縣貢，菊幸一：新・中学保健体育の研究 研究編体育（編集）。学研，2016年1月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

2016年オリンピック（リオデジャネイロ）日本オリンピック委員会本部役員，2016年8月3～21日。

筑波大学陸上競技部部長。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

Association of International Marathons and Distance Races, Board Member (2014年～)

Asia Athletic Association, member of Youth and school commission (2015年～)

公益財団法人日本陸上競技連盟専務理事 (2011年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会理事 (2013年～)

公益財団法人安藤スポーツ，食文化振興財団理事 (2011年～)

一般法人東京マラソン財団理事 (2011年～)

公益財団法人日本サッカー協会裁定委員会委員 (2014年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会アンチドーピング委員会委員長 (2013年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会総務委員会副委員長 (2015年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会情報・医・科学専門部会副部長 (2015年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会強化本部常任委員会委員 (2013年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会加盟団体審査委員会委員 (2015年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会ナショナルトレーニングセンター活用事業部門副部門長 (2015年～)

公益法人日本スポーツマンクラブ評議員 (2014年～)

スポーツ庁コーチング推進コンソーシアム委員 (2014年～2016年)

スポーツ庁競技スポーツ課等技術審査委員会委員 (2015年～)

国土交通省 アスリートと観客に優しい道の検討会委員会委員 (2015年～2016年)

国立スポーツ科学センター発行 Japanese Journal of Elite Sports Support, Vice Editor (2015年～)

公益財団法人日本体育学会発行 International Journal of Sport and Health Science, Editorial Board Member (2013年～2017年)

日本陸上競技学会副会長 (2010年～)

日本スポーツ運動学会理事 (2003年～)

日本コーチング学会理事 (2013年～)

教授 木内敦詞

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

小林勝法, **木内敦詞**: 大学教養体育の分野別FDとしてのeラーニング教材の開発と評価. *文教大学国際学部紀要*, 26-2: 57-66, 2016年1月.

凶子美和, 中川昭, 白木仁, 高木英樹, 鍋倉賢治, **木内敦詞**: 日本の大学・短期大学・高等学校における体育系教員のプロフィール. *大学体育研究*, 38: 37-42, 2016年3月.

小林勝法, **木内敦詞**: 大学教養体育の大学教員準備教育としてのeラーニング教材の開発と評価. *大学体育研究*, 38: 13-20, 2016年3月.

西田順一, 橋本公雄, **木内敦詞**, 堤俊彦, 山本浩二, 谷本英彰: 体育授業における大学生の主観的恩恵評価およびその大学適応感に及ぼす影響性. *体育学研究*, 61-2: 537-554, 2016年4月.

木内敦詞, 松元剛, 日野克博, 富川理充, 奈良隆章: 大学体育の成績評価を考える. *大学教育学会誌*, 38-2: 113-117, 2016年12月.

奈良隆章, 金谷麻理子, 嵯峨寿, 松元剛, ***木内敦詞**: テキストマイニングによる大学体育授業の教育目標に関する肯定的認知度分析. *大学体育研究*, 39: 45-52, 2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

壺阪圭祐, 島本好平, **木内敦詞**: ライフスキルの獲得を促すスポーツコーチングスキル尺度の開発. 2015年度笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, 20-30, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Hasegawa, E., **Kiuchi, A.**, Kawato, Y., Kajita, K.: Analyzing and visualizing teaching-learning process to improve PE classes and teacher education. 2016 International conference for the 5th East Asian Alliance of Sport Pedagogy, Taipei, 2016-12.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

木内敦詞: ワークブックを用いた大学体育授業の展開と成績評価. 日本体育学会東北地域FD「私立大学における体育実技指導プログラムと成績評価」, 仙台, 2016年2月.

木内敦詞: 大学体育をフィールドとした疫学研究. 第2回運動疫学の集い「疫学的手法の運動・スポーツ分野における応用」, 2016年9月.

木内敦詞: 大学体育の価値と評価—体育実技授業の実践と効果—（健康・体力・技能向上を図る立場から）. 合同開催：第5回大学体育研究フォーラム・平成28年度九州地区大学体育連合春季研修会, 那覇, 2017年3月.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

壺阪圭祐, 島本好平, **木内敦詞**, 石井源信: ライフスキル獲得を促すスポーツコーチングスキルの検討. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

壺阪圭祐, 島本好平, **木内敦詞**: ライフスキル獲得を促す指導者によるコーチングと学生アスリートの

ライフスキルとの関連. 兵庫体育・スポーツ科学学会第27回大会, 神戸, 2016年5月.

壺阪圭祐, 島本好平, **木内敦詞**: ライフスキル獲得を促すコーチングスキルパターンによる指導者の類型化. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

川戸湧也, 長谷川悦示, **木内敦詞**, 梶田和宏: 大学体育における柔道授業の現状に関する探索的研究: 国立大学のシラバス分析から. 日本スポーツ教育学会第36回大会, 和歌山, 2016年10月.

福田将司, 高橋和孝, 荻山靖, **木内敦詞**, 関子浩二: 二塁打走における触塁足の違いからみた合理的なベースランニング法. 第29回日本トレーニング科学学会大会, 横浜, 2016年10月.

梶田和宏, 川戸湧也, **木内敦詞**, 長谷川悦示: 茨城県の高等教育機関における教養体育の教育システム分析. 合同開催「第5回大学体育研究フォーラム・平成28年度九州地区大学体育連合春季研修会」, 沖縄, 2017年3月.

川戸湧也, 梶田和宏, **木内敦詞**, 長谷川悦示: 大学体育における柔道授業の実施と課題. 合同開催「第5回大学体育研究フォーラム・平成28年度九州地区大学体育連合春季研修会」, 沖縄, 2017年3月.

安井年文, **木内敦詞**, 西嶋尚彦, 遠藤俊典, 中川昭: 運動不振学生の判別モデル構築の試み. 日本コーチング学会第28回大会, 東京, 2017年3月.

c-1-2-4. ポスター発表

亀谷涼, 島本好平, 壺阪圭祐, **木内敦詞**: ライフスキル獲得を促す指導者によるコーチングと学生アスリートのライフスキルとの関連. 九州スポーツ心理学会第29回大会, 福岡, 2016年3月.

c-4. 研究成果による受賞

大学体育優秀教員賞 (多年にわたり大学体育教員として教育および研究に尽力した功績), (公社) 全国大学体育連合, 2016年12月.

2. 教育活動

a. 教育活動による受賞

大学体育優秀教員賞 (多年にわたり大学体育教員として教育および研究に尽力した功績), (公社) 全国大学体育連合, 2016年12月.

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

硬式野球部部長

2016年首都大学野球春季リーグ戦, 二位, 2016年4月~5月.

2016年首都大学野球秋季リーグ戦, 五位, 硬式野球部部長, 2016年9月~10月.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体力医学会評議員 (1999年~)

全国大学体育連合常務理事 (2015年~)

「大学体育学」編集委員長 (2015年~)

首都大学野球連盟評議員 (2015年~)

「大学教育学会誌」編集委員 (2016年~)

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Hirono, J., Kanda, T., Hayami, T., Arita, Y., Nabeyama, T., **Koda, K.**: RELATIONSHIP BETWEEN PHYSICAL CHARACTERISTICS AND PERFORMANCE LEVEL OF COLLEGE KENDO ATHLETES. The 21st annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

有田祐二，直原幹，竹中健太郎，鍋山隆弘，**香田郡秀**：剣道初心者の送り足習得後における踏み込み足打突習得に跳躍素振りが及ぼす影響。日本武道学会第49回大会，伊勢，2016年9月。

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

筑波大学・国際室「留学コーディネーター配置事業」 サンパウロ大学（ブラジル・サンパウロ，2017年1月12日～2017年1月19日）

中国剣道連盟 剣道国際セミナー講師（蘇州市，2016年11月13日～15日，延べ3日間）

世界剣道選手権男子強化合宿講師（勝浦市，2016年1月～11月，延べ24日間）

世界剣道選手権女子強化合宿講師（勝浦市，2016年2月～12月，延べ24日間）

全日本剣道連盟審判講習会講師（札幌市，津市，大津市他 2016年4月～12月，延べ6日）

全日本剣道連盟指導法講習会講師（亀山市，2016年9月～10月，延べ2日）

全日本学生剣道連盟審判講習会講師（千代田区，2016年4月～12月，延べ6日）

栃木国体剣道アドバイザー（宇都宮市，2016年4月～12月，延べ5日）

茨城国体剣道アドバイザー（水戸市，2016年4月～12月，延べ5日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学公開講座 剣道教室（2016年4月～12月，延べ16日間）

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績（自身の受賞を含む）

第14回全日本選抜剣道八段選手権大会 出場

第16回寛仁親王杯剣道八段選抜大会 出場

全日本剣道東西対抗 福島 出場

b. 指導業績

・剣道部部长

・第64回全日本学生剣道優勝大会，第3位，エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育館），2016年10月9日

・第17回関東女子学生剣道新人戦大会，第3位，東京武道館，2016年12月3日

- ・第55回全日本女子剣道選手権大会，ホワイトリング長野市真島総合スポーツアリーナ，2016年9月11日
大西ななみ，準優勝.
- ・第50回全日本女子学生剣道選手権大会，日本武道館，2016年7月2日
木宮凜々子，準優勝.
- ・第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会，日本武道館，2016年7月16日
岐阜県次鋒；二宮恭子，準優勝.
- ・第65回関東学生剣道選手権大会，日本武道館，2016年5月8日
加納彰大，準優勝.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

- 日本オリンピック委員会強化スタッフ（平成22年～）
- 全日本剣道連盟理事（平成29年～）
- 全日本剣道連盟強化委員（平成25年～）
- 全日本剣道連盟試合・審判委員会委員（平成22年～）
- 全日本学校剣道連盟常務理事（平成19年～）
- 全日本学生剣道連盟常任理事（平成24年～）
- 全日本学生剣道連盟審判委員会委員長（平成24年～）
- 関東学生剣道連盟副幹事長（平成24年～）
- 関東学生剣道連盟審判委員会委員長（平成24年～）
- 茨城県剣道連盟常任理事（平成18年～）
- 茨城国体アドバイザー（平成27年～）
- 栃木国体スーパーアドバイザー（平成27年～）

教授 小 俣 幸 嗣

教授 坂 本 昭 裕

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

福田崇，坂本昭裕，齊藤まゆみ，澤江幸則，春名純：共通体育「トリム運動」での障害学生における体力向上の可能性. *大学体育研究*，38：21-28，2016年3月.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

坂本昭裕：情緒面の課題を抱える子どもへのキャンプセラピー. *情動と運動—スポーツとところ—*. 朝倉書店，116-134，2016年3月25日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Takeuchi, Y., Nakano, K., **Sakamoto, A.**, Tsuru, K., Ishida, Y.: Kids' family camp as a life-changing experiences for children with or without development disabilities, family & staff. The 6th Asia Oceania Camping Congress, Tokyo, 2016-10.

Sakatani, M., **Sakamoto, A.**, Ohtomo, A., Nishizima, R.: The difference of flow experiences between skiers and snowboarders in Japan. 7th International Congress on Science and Skiing, St. Christoph am Arlberg - Austria, 2016-12.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

坂谷 充, 坂本昭裕：中学校におけるスキー体験学習の効果。日本スキー学会第26回大会，山形，2016年3月。

大友あかね, 坂本昭裕, 坂谷充：中長期キャンプにおける課題を抱える児童生徒の社会適応に関する研究。日本野外教育学会第19回大会，静岡，2016年10月。

坂本昭裕, 大友あかね, 渡邊仁, 吉松梓, 向後佑香, 坂谷充：野外教育における心理臨床的アプローチ－発達障害の子どもたちの社会化と個性化－。日本野外教育学会第19回大会，静岡，2016年10月。

坂谷充, 坂本昭裕, 大友あかね：スノースポーツの楽しさに関する研究－スキーヤーとスノーボーダーのフロー体験の比較－。日本スキー学会第27回大会，北海道，2017年3月。

c-1-2-4. ポスター発表

太刀川弘和, 根本清貴, 高橋晶, 坂本昭裕, 石橋直子, 杉江征, 山田典子, 堀孝文, 新井哲明：平成27年関東・東北豪雨における常総市水害支援（2）常総市こころの相談活動：中長期支援に向けて。第112回日本精神神経学会学術総会，千葉，2016年6月。

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）
「体験活動を通して青少年の自立を促進するためのプログラム開発」（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

学校法人酪農学園大学とわの森三愛高等学校，「軟式庭球部グループワーク研修」講師，（つくば市，2016年3月26日）

日本サッカー協会，「JFAアカデミー福島グループワーク研修」講師，（つくば市，2016年4月16日）

クーバー・コーチング・ジャパン，「ASE研修」講師，（つくば市，2016年4月24日）

日本サッカー協会，「JFAアカデミー福島（女子）グループワーク研修」講師，（つくば市，2016年4月29日）

独立行政法人国立青少年教育振興機構，中部北陸ブロック次長プロジェクト「課題を抱える青少年の評価」講師，（妙高市，2016年6月2日）

日本サッカー協会「役員・管理職研修」講師，（つくば市，2016年7月6日）

独立行政法人青少年教育振興機構：国立妙高青少年自然の家，「不登校児童生徒及び一般の児童生徒対象の長期キャンプ妙高チャレンジ2016」講師，（妙高市，2016年7月11日～12日，7月30日～

8月11日)

公益社団法人ガールスカウト日本連盟「2016年度トレイナートレーニング」講師，(長野市，2016年9月17日～19日)

2016年JOCナショナルコーチアカデミー「野外研修」講師，(つくば市，2016年9月13日)

とわの森三愛高校「野外研修」講師，(つくば市，2016年10月20日)

独立行政法人国立青少年教育振興機構，中部北陸ブロック次長プロジェクト「体験活動を通じた青少年の自立を促進するための調査研究」講師，(小浜市，2016年12月6日)

つくば市立豊里中学校「学校保健委員会」講師，(つくば市，2017年2月14日)

独立行政法人国立青少年教育振興機構，中部北陸ブロック次長プロジェクト「体験活動を通じた青少年の自立を促進するための調査研究」講師，(高山市，2017年2月22日)

東京都立清瀬高等学校「グループワークトレーニング」講師，(つくば市，2017年3月26日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本野外教育学会理事(事務局)(2003年～)

日本スキー学会理事(1993年～)

日本臨床心理身体運動学会理事(2006年～)

茨城県教育委員会スクールカウンセラー(2001年～)

茨城県神栖市いじめ問題再調査委員会委員(2016年～)

独立行政法人青少年教育振興機構：国立妙高青少年自然の家「新しい公共」運営協議会委員(2013年～)

日本スポーツ振興センター「スポーツ指導における暴力行為等に関する第三者相談・調査委員会」委員(2013年～)

教授 佐野 淳

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文(国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

寺田進志，佐野淳：パス発生における出し手の体感身体知の分析. *スポーツ運動学研究*，28：31-54，2016年1月27日

中村真由美，佐野淳：バレーボールのレシーブにおける動感意識に関する発生論的分析. *スポーツ運動学研究*，28：55-68，2016年1月27日

a-2. その他の論文(査読無し論文など上記[a-1]に含まれない論文等)

佐野淳：運動学とは何か？*体育科教育*，2017年1月号：12-16，2017年1月1日.

佐野淳，中村剛：人の動きを人間らしくさせているもの(翻訳). *スポーツ運動学研究*，29：63-77，2017年3月16日.

3. 競技活動

b. 指導業績(部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

体操競技部 部長兼女子監督

2016 東日本学生体操競技選手権大会，酒田（山形），2016年5月20～22日

男子団体5位。

吉田和輝，男子種目別鉄棒優勝。

女子団体2位。

山元加奈子，女子種目別段違い平行棒優勝，

2016 全日本体操種目別選手権大会，東京（代々木第一体育館），2016年6月20～22日

小島廉生，男子ゆか5位。

宮地秀亨，男子鉄棒5位。

井上和佳奈，女子ゆか8位。

2016 全日本学生体操競技選手権大会，鯖江（福井），2016年8月18～21日

男子団体3位。

小森敬介，男子種目別跳馬優勝。

女子団体2位，種目別平均台，

井上和佳奈，女子平均台，ゆか2位。

2016 全日本体操団体選手権大会，東京（代々木第一体育館），2016年11月11～13日

男子団体12位。

女子団体5位。

2016 関東甲信越大学体育大会（体操競技の部），熊谷（埼玉），2016年8月20～21日

男子団体優勝。

樋口和真，男子個人総合優勝。

女子団体2位。

甲斐未来，女子個人総合3位。

2016 関東学生新人大会（体操競技），宇都宮（栃木），2016年10月21～22日

男子団体8位。

小森敬介，男子個人総合6位。

小森敬介，男子種目別跳馬3位。

宮内玲奈，女子個人総合3位。

宮内玲奈，女子種目別ゆか優勝。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スポーツ運動学会常任理事（1998年～）

日本スポーツ運動学会 編集委員会編集委員長（2003年4月1日～2017年3月31日）

教授 高木英樹

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Takeda, T., Sakai, S., Takagi, H., Okuno, K., Tsubakimoto, S.: Contribution of hand and foot force to

take-off velocity for the kick-start in competitive swimming. *Journal of Sports Sciences*, 35: 565-571, 2016-5.

Sakai, S., Koike, S., Takeda, T., **Takagi, H.**: Kinetic Analysis of start motion on starting block in competitive swimming. *In ISBS-Conference Proceedings Archive*, 34-1: 960-963, 2016-11.

Kawai, E., Tsunokawa, T., Tsubakimoto, S., **Takagi, H.**: A study of fluid forces acting on a foot during eggbeater kicks of water polo players. *In ISBS-Conference Proceedings Archive*, 34-1: 723-726, 2016-11.

Kobayashi, K., **Takagi, H.**, Tsubakimoto, S., Sengoku, Y.: Activation pattern of trunk, thigh and lower leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. *In ISBS-Conference Proceedings Archive*, 34-1: 2016-11.

Homma, M., Kawai, Y., **Takagi, H.**: Estimating Hydrodynamic Forces Acting on the Hand during Sculling in Synchronized Swimming. *In ISBS-Conference Proceedings Archive*, 34-1: 656-659, 2016-11.

Narita, K., Nakashima, M., **Takagi, H.**: Developing a methodology for estimating the drag in front-crawl swimming at various velocities. *Journal of Biomechanics*, 54: 123-128, 2017-3.

a-1-2. 和文のもの

中島きよ, **高木英樹**: 「けのび」動作指導法の違いによる学習効果の検証: 壁に着壁するまでの姿勢変換に着目して. *体育学研究*, 61-1: 229-243, 2016年6月.

小林啓介, 下門洋文, **高木英樹**, 椿本昇三, 仙石泰雄: エリート女性競泳選手の水中ドルフィンキックにおける体幹, 大腿, 下腿の筋活動様式. *体育学研究*, 61-1: 185-195, 2016年6月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

高木英樹: 私の考えるコーチング論. *コーチング学研究*, 29: 115-118, 2016年3月.

高木英樹: 水泳の流体力学. *体育科教育*, 7月号: 24-27, 2016年7月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

高木英樹: 第2章コーチング現場における体と心. 征矢英昭, 坂入洋右 (編著), *たくましい心とかしこい体*. 大修館書店, 19-28, 2016年7月.

高木英樹: 第2章水泳・水中運動の科学, 1. 水の特性, 2. 浮く科学. 健康・スポーツ科学における運動処方としての水泳・水中運動, 出村慎一 (監修), 佐藤進, 池本幸雄, 野口智博, 滝瀬定文 (編著), 杏林書院, 29-41, 2016年9月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Sakai, S., Koike, S., Takeda, T., **Takagi, H.**: Kinetic Analysis of start motion on starting block in competitive swimming. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-6.

Kawai, E., Tsunokawa, T., Tsubakimoto, S., **Takagi, H.**: A study of fluid forces acting on a foot during eggbeater kicks of water polo players. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-6.

Kobayashi, K., **Takagi, H.**, Tsubakimoto, S., Sengoku, Y.: Activation pattern of trunk, thigh and lower

leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-6.

Shimojo, H., Murakawa, R., Sengoku, Y., Tsubakimoto, S., **Takagi, H.**: A flow visualization of undulatory underwater swimming -a pilot study of three-dimensional analysis. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-6.

Haniu, T., Hasegawa, H., **Takagi, H.**: Three-dimensional Vortex Structure on the Monofin Propulsion. The 27th International Symposium on Transport Phenomena, Hawaii, 2016-9.

c-1-1-4. ポスター発表

Homma, M., Kawai, Y., **Takagi, H.**: Estimating Hydrodynamic Forces Acting on the Hand during Sculling in Synchronized Swimming. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-6.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

高木英樹:「ヒトはどこまで速く泳げるのか?」, AnyBody フォーラム東京2016, 株式会社テラバイト（主催）, 東京, 2016年8月3日.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

成田健造, 仙石泰雄, 椿本昇三, **高木英樹**: クロール泳における泳速度の違いが自己推進時抵抗とストローク変数に及ぼす影響について. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

辰本拓磨, 酒井紳, 椿本昇三, **高木英樹**: 競泳スタートの水中期がパフォーマンスに及ぼす影響～エントリーからグライドに着目して～. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

小林花枝, 榎井靖一郎, **高木英樹**: 慢性期脳血管障害片麻痺患者への水治療法の有効性. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

坂上輝将, 若林斉, 仙石泰雄, **高木英樹**: 冷水浴による筋温低下状態で行う持久的トレーニングの効果について. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

湯浅安理, 小林啓介, **高木英樹**, 増成暁彦, 高木祥, 吉田成仁, 宮本俊和, 宮川俊平: フィンスイミング日本代表選手のモノフィン・ビーフィンを用いたモノフィンズイミング泳動作解析の1事例～腰部・骨盤・足関節動作と筋活動に注目して～. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

積田貴幸, 北原格, **高木英樹**, 亀田能成: 競泳プール映像における色情報分布を用いた泳者領域抽出. 電子情報通信学会技術研究報告MVE, 福岡, 2017年3月.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

TBS情報番組「ビビット」, 2016年10月15日.

「超人の科学, 競泳」, 読売新聞, 2016年8月5日.

「リオ五輪 第10部 用具に込めた思い／2 高速水着の「次」模索」, 毎日新聞, 2016年5月11日.

「引退北島レガシーに 技術, 戦う姿を後輩にバトン」, 毎日新聞, 2016年4月11日.

c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学, 所属学会, 協会等によるもの）

「遊泳中のスイマーにかかる抵抗を推定する方法を開発 —スイマーの抵抗は泳速の3乗に比例する—」
（筑波大学, 2016年2月17日）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等（科研費を除く）

速く泳ぐ為のギアアイテムに関する研究（株式会社 デザント）

水中ロボットの形状に関する研究（空間知能化研究所）

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

高木英樹他：基礎から学ぶスポーツ概論2章2-6水泳競技，大修館書店，東京，61-63，2016年4月．

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

キッズ・ユニバーシティー，筑波大学（主催），「ヒトはどこまで速く泳げるのか？」，筑波大学，2016年4月23日．

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学水泳部水球監督

日本学生選手権水泳競技水球（男子），準優勝，2016年9月

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本水泳水中運動学会諮問委員（2002年～）

日本体育学会編集委員（2014年～）

日本日本バイオメカニクス学会編集委員（2014年～）

教授 椿本昇三

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Takeda, T., Sakai, S., Takagi, H., Okuno, K., **Tsubakimoto, S.**: Contribution of hand and foot force to take-off velocity for the kick-start in competitive swimming. *JOURNAL OF SPORTS SCIENCES*, 1-7, 2016-5.

a-1-2. 和文のもの

小林啓介，下門洋文，高木英樹，**椿本昇三**，仙石泰雄：エリート女性競泳選手の水の中ドルフィンキックにおける体幹，大腿，下腿の筋活動様式．*体育学研究*，2016年4月．doi:org/10.5432/jjpehss.15111.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

辰本拓磨，酒井紳，**椿本昇三**，高木英樹：競泳スタートの水中期がパフォーマンスに及ぼす影響—エントリーからグライドに着目して—．日本水泳水中運動学会2016年次大会，18-21，2016年10月．
成田健造，仙石泰雄，**椿本昇三**，高木英樹：クロール泳における泳速度の違いが自己推進時抵抗とストローク変数に及ぼす影響について．日本水泳水中運動学会2016年次大会，64-67，2016年10月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Shimojo, H., Murakawa, R., Sengoku, Y., Sakakibara, Jun., **Tsubakimoto, S.**, Takagi, H.: A FLOW VISUALIZATION OF UDULATORY UNDERWATER SWIMMING. Conference: 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, Japan, 2016-7.

Kawai, E., Tsunokawa, T., **Tsubakimoto, S.**, Takagi, H.: A STUDY OF FLUID FORCES ACTING ON A FOOT DURING EGGBEATER KICKS OF WATER POLO PLAYERS. Conference: 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, Japan, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

辰本拓磨，酒井紳，**椿本昇三**，高木英樹：競泳スタートの水中期がパフォーマンスに及ぼす影響—エントリーからグライドに着目して—。日本水泳水中運動学会2016年次大会，東京，2016年10月。

c-1-2-4. ポスター発表

成田健造，仙石泰雄，**椿本昇三**，高木英樹：クロール泳における泳速度の違いが自己推進時抵抗とストローク変数に及ぼす影響について。日本水泳水中運動学会2016年次大会，東京，2016年10月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

水泳部最高顧問

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊 専門委員（2006年～）

茨城県水泳連盟 理事（2009年～）

茨城県水泳連盟 競技力向上アドバイザー（2012年～）

ジョイフルアスレティッククラブ筑波スポーツ科学研究所 客員研究員（1985年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

春季筑波記録会兼筑波記録会，茨城県水泳連盟主催，（2016年4月）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

平成28年度 安全な水泳指導のための中央講習会 講師（東京都教育委員会）2016年5月。

平成28年度 水泳指導中の安全管理について—スタート— 講師（東京都教育委員会）2016年11月。

教授 中川 昭

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

中川昭：7人制ラグビーにおける記述的ゲームパフォーマンス分析を用いた研究の現状と展望。筑波大学体育系紀要，40：1-9，2017年3月。

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

関子美和, 中川昭, 白木仁, 高木英樹, 鍋倉賢治, 木内敦詞: 日本の大学・短期大学・高等専門学校における体育系教員のプロフィール. *大学体育研究*, 38: 37-42, 2016年3月.

内山治樹, 阿江通良, 中川昭, 真田久, 佐野淳, 西嶋尚彦, 有田祐二, 斎藤卓, クラリクアンドレア, 菊山靖, 本谷聡, 寺山由美, 大山下圭悟, 木越清信, 仙石泰雄, 渡邊仁, 吉田健司, 中西康己, 藤本元, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 吹田真士, 安藤真太郎, 川村卓, 増地克之, 香田郡秀, 森俊男, 池田英治: 「実技検定」の運用とその評価（第2報）－「上級」モデルの検証－. *筑波大学体育系紀要*, 39: 23-34, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

嶋崎達也, 千葉剛, 古川拓生, 中川昭: ラグビーの世界トップレベルにおけるラックのボール争奪の現状と変化. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

安井年文, 木内敦詞, 西嶋尚彦, 遠藤俊典, 中川昭: 運動不振学生の判別モデル構築の試み. 日本コーチング学会第28回大会, 東京, 2017年3月.

3. 競技活動

b. 指導業績

ラグビー部部長

関東大学ラグビー対抗戦A 5位.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本コーチング学会副会長（2015年～）

茨城体育学会副会長（2015年～）

教授 長谷川 聖 修

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

古屋朝映子, 檜皮貴子, 鈴木王香, 高橋靖彦, *長谷川聖修: 震災避難者の語りからみる体操教室参加の意味づけ－福島県双葉町から茨城県つくば市への避難者の事例から－. *コーチング学研究*, 29-2, 139-148, 2016年3月.

a-2. その他の論文

長谷川聖修: バランスボール. *Number Do*, 24: 110-111, 2016年1月15日.

長谷川聖修: 組（立）体操を体育の学習指導要領に位置づける. *体育科教育*, 64-8: 54-56, 2016年8月1日.

長谷川聖修: 子どもが自ら運動に取り組むプログラム. *健康教室*, 67-16: 13-15, 2016年12月1日.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

長谷川聖修：「たくましい心とかしこい体」—身心統合のスポーツサイエンス—，大修館書店，128-141，179-189，2016年7月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

古屋朝映子，高橋靖彦，新海萌子，長谷川聖修：震災避難者の体操教室参加に伴う心理プロセスの一事例～複線径路等至性モデル（TEM）を用いた分析～．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

c-1-2-4. ポスター発表

長谷川聖修，小山勇氣，小島瑞貴，新海萌子，古屋朝映子，檜皮貴子，鈴木王香，高橋靖彦：東日本大震災・支援活動としての「交流型」体操指導の事例（その2）～活動中の「笑い」発生場面から見た高齢者の指導方法の検討～．日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月．

大塚隆，檜皮貴子，長谷川聖修，高橋靖彦：「体力を高める運動」のねらいを複合化 力強い・巧みな動きを高めるための運動の実践例．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

田丸由紀子，岡本美和子，長谷川聖修，新海萌子，鈴木菜々，重田唯子，鈴木一宏：親子体操による親の養育行動促進のための介入効果の検討．日本体操学会第16回大会，鹿児島，2016年9月．

新海萌子，田丸由紀子，小島瑞貴，相原奨之，長谷川聖修：スモールボールを用いた親子体操の試案—素材の特性に応じた動きの体系化—．日本体操学会第16回大会，鹿児島，2016年9月．

田村元延，鈴木王香，小島瑞貴，高橋靖彦，堀口文，長谷川聖修：児童を対象としたGボールバランス時の動作変容について．日本コーチング学会第28回大会，東京，2017年3月．

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

長谷川聖修：アクティブスポーツ（総合版）2016．大修館書店，27-34，2016年4月1日．

c. 学外の教育活動

「（公財）日本体操協会：一般体操指導者養成講習会」講義・指導（東京都世田谷区，2016年8月，延べ3日）

「第30回フィットネスセッション：スパイラルGボール～“座る”ことから始めよう！アクティブライフへの好循環～」指導（東京都江戸川区，2016年5月3日）

「つくば市・つくば市体育協会（主催）：つくばスポーツフェスティバル2016」指導（茨城県つくば市，2016年9月17日）

「福島県大熊町職員向け体験セミナー：身体活動を通じた交流と文化の生成」講義・指導（茨城県つくば市，2016年11月8日）

「（公財）日本スポーツクラブ協会：介護予防運動スペシャリスト養成講習会（東京都渋谷区，2017年1月21日）

「東京都オリンピック推進校：Gボールを使った体づくり運動」指導（東京都羽村市，2017年2月23日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学地域貢献プロジェクト 「う・つく（ば+ふく）しま体操教室」（2016年1月～2017年3月，延べ35日間）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

(公財) 日本体操協会一般体操委員 (1995年～)

(NPO法人) 日本Gボール協会理事長 (2003年～)

日本ラート協会理事 (1990年～)

日本体育学会代議員 (2012年～)

日本体操学会副会長 (2010年～)

日本コーチング学会理事 (2010年～)

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

荃崎町高齢者健康体操教室：茨城県つくば市：4月から12月 (毎月1回)

復興支援体操教室：茨城県北茨城市：4月から12月 (毎月1回)

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

2016一般体操ジャパン・チャレンジ&一般発表フェスティバル (主催：日本体操協会)・実行委員長：
東京都渋谷区：2016年6月18日

2016日本体操祭 (主催：日本体操協会)・実行委員：東京都渋谷区：2016年11月5日～6日

第16回全日本ちゃんGボール大会 (主催：NPO法人日本Gボール協会)・実行委員長：茨城県つくば市：2016年11月27日

2016つくば体操フェスティバル・実行委員：茨城県つくば市：2016年2月6日

2017つくば体操フェスティバル・実行委員：茨城県つくば市：2017年2月4日

d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「相馬流れ山踊り披露」, 毎日新聞, 2016年2月7日.

「400人が演技発表 つくば体操フェス」, 常陽新聞, 2016年2月11日.

「声 震災5年 体操を通じて親睦深め」, 毎日新聞, 2016年3月7日.

「岐路にたつ避難者 ～原発事故6年 私たちにできること～」, NHK, 2017年2月17日.

教授 本間 三和子

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Ponciano, K., Miranda, M.L., Homma, M., Miranda, J.M., Figueira Júnior, A.J., Meira Júnior, C.M., Bocalini, D.S.: Physiological responses during the practice of synchronized swimming: systematic review. *Clinical Physiology and Functional Imaging*, 2017-3. DOI:10.1111/cpf.12412.

Homma, M., Kawai, Y., Takagi, H.: Estimating Hydrodynamic Forces Acting on the Hand during Sculling in Synchronized Swimming. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 1-4, 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

本間三和子：私の考えるコーチング論. *コーチング学研究*, 29 (増刊号) : 73-78, 2016年3月.

本間三和子, 伊藤浩志: シンクロナイズドスイミング世界トップアスリーの体格と筋形態の特徴 ~ 第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) デュエット代表選手~, 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会論文集, 52-55, 2016年10月.

白慕炜, *本間三和子: エリートスイマー北島康介の至適競技寿命の推定. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会論文集, 90-93, 2016年10月.

本間三和子, 中川加奈子: シンクロ・サイエンス・トピック「シンクロナイズドスイミングのスラスト動作の到達高を上げるための技術ポイント」. 月刊水泳, 487: 18, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

本間三和子: 2. 評定スポーツ (第6章 試合への準備「第6節 トップ選手の試合計画」に所収). コーチング学への招待, 日本コーチング学会 編. 大修館書店, 264-270, 2017年3月.

本間三和子: シンクロチーム, リオデジャネイロ・オリンピック出場権獲得! 月刊水泳, 477: 14-15, 2016年4月.

本間三和子: シンクロ日本選手権 日本, リオ五輪の演技を初披露. スイミングマガジン, 7: 62-64, 2016年7月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Homma, M., Kawai, Y., Takagi, H.: Estimating Hydrodynamic Forces Acting on the Hand during Sculling in Synchronized Swimming. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Vathagavorakul, R., Homma, M.: Asynchronies of Arm Movement with a Metronome in a Synchronized Swimmer. Human High Performance International Forum 2017, Tsukuba, 2017-3.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

本間三和子: シンクロナイズドスイミングにおけるトレーニング計画と実践. 日本コーチング学会第27回大会兼第9回日本体育学会体育方法専門領域研究会, 東京, 2016年3月.

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

本間三和子, 伊藤浩志: シンクロナイズドスイミング世界トップアスリーの体格と筋形態の特徴 ~ 第31回オリンピック競技大会 (2016/リオデジャネイロ) デュエット代表選手~, 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

c-1-2-4. ポスター発表

白慕炜, 本間三和子: エリートスイマー北島康介の至適競技寿命の推定. 2016年日本水泳・水中運動学会年次大会, 東京, 2016年10月.

2. 教育活動

a. 教育活動による受賞

平成27年度筑波大学 Best Faculty Member Award (SS評価教員 (学内運営・社会貢献領域)), 2016年2月.

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

平成28年度教育戦略推進プロジェクト支援事業「芸術・体育領域の融合と共同による2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けた「スポーツ芸術表現学」創生プログラムの実施」基調講演(筑波大学, 2016年11月3日)

3. 競技活動

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

第92回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技(NHKテレビ解説)2016年5月1日

4. 社会貢献活動

a. 社会貢献活動による受賞

スポーツ庁長官「奨励賞」(スポーツ庁, 2016年7月26日)

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本コーチング学会理事(2010年~2012年, 2015年~)

日本スポーツ運動学会理事(2009年~)

国際水泳連盟(FINA)シンクロ委員会委員(2000年~)

国際水泳連盟(FINA)シンクロナイズドスイミング難易率特別委員会委員長(2014年~)

アジア水泳連盟(AASF)シンクロ委員長(2000年~)

公益財団法人日本水泳連盟理事(2009年~)

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ委員長(2009年~)

公益財団法人日本水泳連盟シンクロ委員会委員(1987年~)

公益財団法人日本オリンピック委員会専任コーチングディレクター(ジュニアアスリート担当)(2010年~)

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ(医・科学スタッフ)(2002年~)

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ(情報・戦略スタッフ)(2003年~)

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ(コーチングスタッフ)(2005年~)

公益財団法人日本オリンピック委員会強化スタッフ(マネジメントスタッフ)(2009年~)

公益財団法人日本体育協会国際交流専門委員(2015年4月~)

NPO法人日本オリンピック協会代議員(2003年~)

茨城県水泳連盟理事(1996年~)

公益財団法人本田記念財団評議員

香川県丸亀市観光文化大使(2015年8月~)

追手門学院客員教授(2014年~)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

第15回FINA世界ジュニア選手権シンクロナイズドスイミング競技, エバリュエーター:ロシア・カザン:
2016年7月

第18回スペインシンクロオープン国際大会2016, 審判員:スペイン・アリカンテ:2016年7月

第10回AASFアジア選手権シンクロナイズドスイミング競技, テクニカルデレゲート:東京:2016年
11月

第71回国民体育大会シンクロナイズドスイミング競技, レフリー:岩手:2016年9月

第31回オリンピック競技大会リオデジャネイロ2016シンクロナイズドスイミング競技, アシスタント

レフリー：ブラジル・リオデジャネイロ：2016年8月
第92回日本学生選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技（学生シンクロ競技大会マーメイドカップ）、審判員：横浜：2016年9月
全国JOCジュニアオリンピックシンクロナイズドスイミング競技東北ブロック予選大会、レフリー：山形：2016年7月
公益財団法人日本水泳連盟2016年度シンクロ日本代表派遣選手選考会、審判員：東京：2016年9月、10月、2017年2月
第7回Make Up For Ever フレンチオープン大会2017、審判員：フランス・パリ：2017年3月
c-4. その他（詳しくお書きください）
公益財団法人日本オリンピック委員会国際人養成アカデミー講師「リオ五輪IF役員活動報告」：東京：2016年9月18日
公益財団法人日本水泳連盟シンクロ公認審判員研修会講師：大阪：2016年3月20日
FINAシンクロジャッジスクール講師：インドネシア・サヌール：2016年3月30日～4月2日
FINAデベロップメントプログラム シンクロジャッジクリニック中級 講師：ブラジル・リオデジャネイロ：2016年4月7日～10日
公益財団法人日本水泳連盟水泳上級指導員（マスター称号）義務研修会講師「リオ五輪シンクロ総括」：東京：2016年10月15日
シンクロコーチキャンプ2016講師「チームフリールーティンの難易度を考える」：東京：2016年12月
シンクロ公認審判員研修会講師「ディフィカルティ」：東京：2017年3月4日

教授 村田 芳子

教授 山田 幸雄

1. 研究業績

b. 著書（翻訳、監修、編集を含む）

b-2. 和文のもの

山田幸雄，森井大治，松尾高志，谷口勇美雄：テニスの科学．洋泉社MOOK，1-112，2016年1月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

野中由紀，塩入彬允，安藤真太郎，山田幸雄：卓球競技における男子世界トップレベル攻撃型のカット主戦型攻略法に関するゲーム分析．第26回日本コーチング学会大会，東京，2016年3月16日．

野中由紀，安藤真太郎，山田幸雄：女子卓球選手の9ヶ月のブランク後の競技復帰に関する事例研究について．HHP研究セミナー，茨城，2016年3月4日．

鳥屋智大，野中由紀，遠藤愛，山田幸雄：硬式テニス男子ダブルスのコンビネーションについて－サーブとネットプレーに着目して．第66回日本体育学会大会，大阪，2016年8月．

野中由紀，安藤真太郎，鳥屋智大，山田幸雄：卓球競技の1大会中におけるカット主戦型攻略の戦術変化に関するゲーム分析－2016年世界卓球選手権大会にてカット主戦型と3度対戦した1名の攻撃

型選手に着目してー。第66回日本体育学会大会，大阪，2016年8月25日。

2. 教育活動

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「超人たちのパラリンピック」NHK BS1，2016年3月21日。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

つくばマラソン組織委員会委員

第74回国民体育大会茨城県競技力向上対策本部普及強化委員会委員

日本スポーツ運動学会常任理事

教授 渡辺良夫

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

体操競技部男子監督，2016年全日本学生体操競技選手権大会，男子団体総合3位，鯖江市，2016年8月20日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

スポーツ運動学会理事（1996年～）

准教授 有田祐二

1. 研究業績

a. 論文

a-1-2. 和文のもの

竹中健太郎，下川美佳，有田祐二，前阪茂樹，前田明：剣道初心者に対する指導手順の違いが短期間における正面打突動作習得に与える影響。武道学研究，49-2：109-119，2016年11月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Hirono, J., Kanda, T., Hayami, T., Arita, Y., Nabeyama, T., Koda, K.: RELATIONSHIP BETWEEN PHYSICAL CHARACTERISTICS AND PERFORMANCE LEVEL OF COLLEGE KENDO ATHLETES. The 21st annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

有田祐二，直原幹，竹中健太郎，鍋山隆弘，香田郡秀：剣道初心者の送り足習得後における踏み込み足打突習得に跳躍素振りが及ぼす影響．日本武道学会第49回大会，伊勢，2016年9月．

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

有田祐二：中学体育実技．学研教育みらい，269-280，2016年4月．

c. 学外の教育活動

Torrance Kendo Dojo 40th anniversary Kendo seminar 講師．（Torrance, 2016年7月16～17日）

Finnish Kendo Association 30th anniversary Kendo seminar 講師．（Eerikkilä, 2016年8月26～28日）

「平成28年度青森県剣道連盟総合強化錬成会兼コーチスキルアップ事業」講師．（青森市，2016年12月11日）

文部科学省委託事業「平成28年度武道等指導充実・資質向上支援事業」講師中央オリエンテーション並びにコーディネーターオリエンテーション；講師．全日本剣道連盟．（勝浦市，2016年6月24～26日）

「平成28年度全国剣道指導者研修会（九州ブロック）」講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省．（宮崎市，2017年1月28～29日）

「平成28年度全国剣道指導者研修会（中国ブロック）」講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省．（米子市，2016年11月19～20日）

「平成28年度全国剣道指導者研修会（北信越ブロック）」講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省．（砺波市，2016年10月29～30日）

「平成28年度全国剣道指導者研修会（東海ブロック）」講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省．（名古屋市，2016年10月22～23日）

「平成27年度全国剣道指導者研修会（北信越ブロック）」講師．主催；日本武道館・全日本剣道連盟・全日本学校剣道連盟，後援；文部科学省．（福井市，2016年3月5～6日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」

筑波大学公開講座 スポーツ教室「剣道」（春季・秋季，延べ16回）

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績

第71回国民体育大会剣道大会，成年男子茨城県副将，ベスト16．二戸市総合スポーツセンター，2016年10月9～10日．

b. 指導業績

剣道部女子監督

第64回全日本学生剣道優勝大会，第3位，エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育館），2016年10月9日．

第17回関東女子学生剣道新人戦大会，第3位，東京武道館，2016年12月3日．

第55回全日本女子剣道選手権大会，準優勝，大西ななみ，ホワイトリング長野市真島総合スポーツアリーナ，2016年9月11日．

第50回全日本女子学生剣道選手権大会，準優勝，木宮凜々子，日本武道館，2016年7月2日．

第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会，準優勝，岐阜県次鋒；二宮恭子．日本武道館，2016年7月16日．

第65回関東学生剣道選手権大会，準優勝・加納彰大，日本武道館，2016年5月8日．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本武道学会評議員（2011年～）

身体運動文化学会常任理事（2009年～）・編集委員（2009年～）

全日本剣道連盟普及委員会学校教育部会委員（2009年～）

文部科学省委託事業「武道等指導充実・資質向上支援事業」全日本剣道連盟平成28年度武道等指導支援強化委員会委員（2016年度）

公益財団法人日本武道館 武道学園・剣道 講師（2015年～）

准教授 大山下 圭 悟

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Seki, K., Numazu, N., **Ohyama Byun, K.**, Enomoto, Y.: Effect of a biomechanical factor on energy expenditure by distance runners during repeated vertical jumps. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

Hirose, K., **Ohyama Byun, K.**, Ogata, M.: The characteristics of turn rhythm patterns in the men's hammer throw. *21th annual Congress of the European College of Sport Science*, 2016-7.

Hirose, K., **Ohyama Byun, K.**, Maeda, K., Ogata, M.: The relationship between the duration time of turn and the throwing record in the men's hammer throw. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

Maeda, K., **Ohyama Byun, K.**, Hirose, K., Ogata, M.: Technical factors required for proper body translation in the discus throw. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

広瀬健一，**大山下圭悟**，藤井宏明，青木和浩，尾縣貢：ハンマー投における高重量ハンマーによる投てきのキネマティクスの特性—レジスティッドトレーニングとしての利用法の検討—。 *体育学研究*，61:75-89，2016-2.

山元康平，内藤景，宮代賢治，関慶太郎，上田美鈴，木越清信，**大山下圭悟**，宮下憲・尾縣貢：男子400m走におけるパフォーマンス向上に伴うレースパターンの変化。 *陸上競技学会誌*，14：9-18，2016-3.

宮崎利勝，高橋和将，平山大作，内藤景，阿江通良，***大山下圭悟**：円盤投げにおける体幹の捻転動作が円盤の初速度に与える影響。 *陸上競技学会誌*，14：19-26。2016-3.

広瀬健一，**大山下圭悟**，前田奎，梶谷亮輔，山元康平，中野美沙，木越清信，尾縣貢：ハンマー投のターン時間と投てき記録との関係。 *陸上競技研究*，105：24-29，2016-6.

水島淳，小山宏之，***大山下圭悟**：「はだし」が児童の疾走動作に及ぼす影響：接地様式に着目して。 *発育発達研究*，73：13-19，2017-1.

広瀬健一，**大山下圭悟**，尾縣貢：ハンマー投におけるターン局面への指導に関する事例報告—予備動作の形態を変更した投げ練習に着目して—。 *コーチング学研究*，30：65-72，2017-3.

前田奎, 大山下圭悟, 広瀬健一, 尾縣貢: 円盤投における並進運動に関するパラメータと円盤の初速度との関係. *陸上競技学会誌*, 15: 35-46. 2017-3.

前田奎, 大山下圭悟, 広瀬健一, 山元康平, 梶谷亮輔, 中野美沙, 木越清信, 尾縣貢: 女子円盤投における投てき動作の所要時間と投てき記録との関係. *陸上競技研究*, 108: 14-22, 2017-3.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

大山下圭悟: 投擲競技の安全管理・事故事例の分析から見る問題の所在と対策の方向性-. *陸上競技学会誌*, 14: 53-59, 2016-3.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「内転筋の話 (その4) ~内転筋を鍛える~」*JATI EXPRESS*, 51: 42-43, 2016-2.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「足の話 (その1)」。 *JATI EXPRESS*, 52: 28-29, 2016-4.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「足の話 (その2)」。 *JATI EXPRESS*, 53: 34-35, 2016-6.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「足の話 (その3)」。 *JATI EXPRESS*, 54: 50-51, 2016-8.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「足の話 (その4)」。 *JATI EXPRESS*, 55: 34-35, 2016-10.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「股関節のはなし その1」。 *JATI EXPRESS*, 56: 34-35, 2016-12.

大山下圭悟: 現場で使える機能解剖学「腸腰筋のはなし (股関節のはなし その2)」。 *JATI EXPRESS*, 57: 46-47, 2017-2.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Hirose, K., **Ohyama Byun, K.**, Ogata, M.: The characteristics of turn rhythm patterns in the men's hammer throw. 21th annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

Maeda, K., **Ohyama Byun, K.**, Hirose, K., Ogata, M.: Technical factors required for proper body translation in the discus throw. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

c-1-1-4. ポスター発表

Hirose, K., **Ohyama Byun, K.**, Maeda, K., Ogata, M.: The relationship between the duration time of turn and the throwing record in the men's hammer throw. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Seki, S., Numazu, N., **Ohyama Byun, K.**, Enomoto, Y.: Effect of a biomechanical factor on energy expenditure by distance runners during repeated vertical jumps. 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Tsukuba, 2016-7.

Ohyama Byun, K., Maeda, K., Akimoto, K.: Electromyographic analysis of hip and pelvic rotation in the national top-class discus thrower. ARIHHP science week 2017, Tsukuba, 2017-3.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

ISBS (International Society of Biomechanics in Sport) Congress in Tsukuba, 2016-7. 参加者人数: 421名, 参加国数: 31ヶ国.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-4. ポスター発表

関慶太郎, 沼津直樹, 大山下圭悟, 榎本靖士: 傾斜条件の違いが連続ジャンプの運動効率に及ぼす影響.

第24回日本バイオメカニクス学会大会，滋賀，2016年9月。

前田奎，**大山下圭悟**，山元康平，広瀬健一，梶谷亮輔，戸邊直人，尾縣貢：男子円盤投競技者の体幹捻転に関するキネマティクスとパフォーマンスとの関係。第15回日本陸上競技学会，岡山，2016年12月。

河合郁実，前田奎，関慶太郎，**大山下圭悟**：円盤投における失敗試技の特徴 -いわゆる「右抜け」試技と成功試技との動作比較-。第15回日本陸上競技学会，岡山，2016年12月。

河合郁実，前田奎，**大山下圭悟**：円盤投における「右抜け」失敗試技の実態。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

大山下圭悟，ほか：ステップアップ高校スポーツ2016（陸上競技）。大修館書店，54-83，2016年4月。

大山下圭悟，ほか：ステップアップ中学体育2016（陸上競技）。大修館書店，61-86，2016年4月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

陸上競技部コーチ

第100回日本陸上競技選手権大会，名古屋，2016年6月24日～26日

男子砲丸投 7位，森下大地。

男子円盤投 4位，前田奎。

男子ハンマー投 4位，保坂雄志郎。

女子円盤投 優勝，坂口亜弓；5位，辻川美乃利。

女子ハンマー投 3位，勝山眸美。

女子やり投 5位，久世生宝。

第70回国民体育大会，北上，2016年10月7日～11日

成年女子ハンマー投 3位，勝山眸美。

成年女子やり投 4位，久世生宝。

天皇賜杯 第85回日本学生陸上競技対校選手権大会，熊谷，2016年9月2日～4日

男子砲丸投 2位，森下大地；6位，赤間祐一。

男子総合得点8位。

女子砲丸投 7位，齋藤友里。

女子円盤投 2位，辻川美乃利；5位，半田水晶。

女子ハンマー投 優勝，勝山眸美；3位，関口清乃。

女子やり投 5位，久世生宝。

女子総合得点2位。

2016日本学生陸上競技個人選手権大会，平塚，2016年6月10日～12日

男子やり投 8位，村澤雄平。

女子円盤投 4位，辻川美乃利。

女子ハンマー投 5位，関口清乃；8位，江原宇宙。

女子やり投 7位，後藤明日香。

第32回日本ジュニア陸上競技選手権大会，名古屋，2016年10月21日～23日

男子円盤投 4位，長谷川祥大。

男子ハンマー投 4位, 池田真佐夫.
女子砲丸投 4位, 齋藤友里.
女子円盤投 3位, 半田水晶.
女子ハンマー投 優勝, 関口清乃.
女子やり投 5位, 後藤明日香;6位, 黒住莉那.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技連盟トレーナー部 委員 (1999年～)
関東学生陸上競技連盟 評議員 (2011年～)
関東学生陸上競技連盟 強化副委員長 (2016年～)
日本学生陸上競技連合 医事副委員長・トレーナー部長 (2010年～)
日本学生陸上競技連合 強化委員 (2016年～)
日本陸上競技学会 理事 (2009年～)
JOC強化スタッフ (医科学スタッフ) (2000年～)
茨城陸上競技協会 理事 (2012年～)

准教授 岡田弘隆

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

岡田弘隆, 金丸雄介, 小野卓志, 増地克之, 山口香, 市村操一: 高校柔道部員のコーチに対する信頼感の競技レベルによる違いと学校差. 筑波大学体育系紀要, 39:13-21, 2016年3月.

木幡日出男, 岡田弘隆, 石井辰典, 夏原隆之, 市村操一: 高校サッカー競技者とコーチとの人間関係についての検討. 東京成徳大学研究紀要, 23:93-102, 2016年3月.

川戸湧也, 岡田弘隆, 増地克之, 小野卓志: 柔道指導現場における「体罰」・「ハラスメント」ならびに「ドメスティックバイオレンス」の実態調査. 武道学研究, 第49巻第3号:183-191, 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

小俣幸嗣 (編集), 畠山洋平, 桐生習作, 三宅恵介, 石川美久, 佐藤武尊, 林弘典, 増地克之, 金丸雄介, 小野卓志, 曾我部晋哉, 石井孝法, 町田正直, 松井崇, 久保田浩史, 坂本道人, 横山喬之, 岡田弘隆: 実践柔道論. メディアパル, 2017年3月15日.

岡田弘隆: 柔道上達プログラムDVD (監修), トレンドアクト, 2017年3月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

全国少年柔道協議会少年柔道教室 講師 (鳴門・大塚スポーツパーク ソイジョイ武道館, 2016年1月23日)

ハンガリー・ミシュコルツでの柔道指導者講習会 講師 (ハンガリー・ミシュコルツ, 2016年2月27日)

日～3月2日)

東海ブロック少年(小学生)柔道強化合宿 講師(豊田市, 2016年7月16～18日)

toto柔道教室(山形県) 講師(上市市体育文化センター, 2016年12月23日)

サウジアラビアナショナルチーム選手, コーチに対する柔道指導 講師(サウジアラビア・リヤド, 2017年3月7日～14日)

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

「つくばユナイテッド柔道」少年柔道教室(通年, 原則週2日)

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

(以下, 全て筑波大学柔道部総監督として)

2016年全日本選抜柔道体重別選手権大会 女子63kg級優勝(能智亜衣美) 福岡, 2016年4月2～3日

2016年全日本学生柔道団体優勝大会 男子3位 日本武道館, 2016年6月25～26日

2016年グランドスラムチュメニ大会 女子63kg級優勝(能智亜衣美) ロシア・チュメニ, 2016年7月16～17日

2016年全日本ジュニア柔道体重別選手権大会 男子81kg級優勝(佐々木健志) 埼玉県武道館, 2016年9月10～11日

2016年全日本学生柔道体重別選手権大会 女子63kg級優勝(津金恵) 日本武道館, 2016年10月1～2日

2016年全日本学生柔道体重別選手権大会 男子66kg級優勝(田川兼三) 日本武道館, 2016年10月1～2日

2016年全日本学生柔道体重別選手権大会 女子73kg級優勝(竹内信康) 日本武道館, 2016年10月1～2日

2016年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 女子63kg級優勝(能智亜衣美) 千葉, 2016年11月12～13日

2017年ヨーロッパオープンソフィア大会 女子52kg級優勝(内尾真子) ブルガリア・ソフィア, 2017年2月4～5日

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

リオデジャネイロオリンピック柔道(テレビ朝日・「モーニングショー」解説)8月

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

全日本柔道連盟国際委員会特別委員(2010年～)

茨城県柔道連盟強化部長・副理事長(2015年～)

関東学生柔道連盟理事

ヨーロッパ柔道連盟エキスパート(2013年～)

c. ボランティア活動

c-1. 日常的, 定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくばユナイテッド柔道代表として指導

各種少年柔道大会(小学生, 中学生)引率

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

岡田弘隆杯争奪つくばユナイテッド少年柔道大会開催, 筑波大学, 2016年7月24日

筑波大学少年柔道錬成大会開催, 筑波大学, 2016年12月24日

国内の各種柔道大会における審判

柔道グランドスラム東京大会 審判 東京体育館, 2016年12月2～4日

柔道グランドスラムパリ大会 審判 フランス・パリ, 2017年2月11～12日

関東柔道選手権大会 審判長 茨城県武道館, 2017年2月11～12日

准教授 ガイスラー ギド ヴァルター

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Geisler, G.: East-West measures of evaluative concern and self-presentational thinking in intercollegiate soccer. *International Journal of Sport and Exercise Psychology*, 2016-3. DOI: 10.1080/1612197X.2016.1162188.

Shi, Z., Takahashi, Y., **Geisler, G.:** The training systems of football youth prospects in China and Japan. *Sport and Olympic-Paralympic Studies Journal*, 1-1: 106-114, 2016-10.

Kuroda, Y., **Geisler, G.**, Hapeta, J.: Stress, emotions, and motivational states among traditional dancers in New Zealand and Japan. *Psychological Reports*, 2017. doi: 10.1177/0033294117711130.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-2. 特別・招待講演

Geisler, G.: Mental skills development as part of the coach's training plan. National Soccer Coaching Conference, Toronto, Canada, 2016-1.

Geisler, G.: Cross-cultural considerations in competitive sport cognitions: Implications for coaching practice / "Game sense" coaching / Mental skills development for athletes and coaches: 'Starter kit' for (mental) performance management. National Institute of Sport, Patiala, India, 2017-2.

Geisler, G.: Cross-cultural considerations in competitive sport cognitions: Implications for coaching practice / "Game sense" coaching / Mental skills development for athletes and coaches: 'Starter kit' for (mental) performance management. Indo-Japanese Conclave III, Manav Rachna International University, Faridabad, India, 2017-2.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

Obtained UEFA - B Coaching License (Soccer) from the Deutscher Fussball-Bund (DFB), [License No. B1502701] (Germany, 2016: 4-6)

Conducted Mental Training Seminar at Jugend Fussball Club (JFC), (Berlin, Germany, 2016-5)

准教授 金 谷 麻 理 子

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

奈良隆章, 金谷麻理子, 嵯峨寿, 松元剛, 木内敦詞: テキストマイニングによる大学体育授業の教育目標に関する肯定的認知度の分析. *大学体育研究*, 39: 33-40, 2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

金谷麻理子: 来れ! 女性指導者 特集企画①女性指導者 こんなところがいい①. *Sports Japan*, 28: 2-3, 2016年11月.

c. その他

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

Kanaya, M.: Training system for female artistic gymnasts in Japan: Focus on the training sites and coaches for top gymnasts. IWAG2016(International Women's Artistic Gymnastics conference), Gothenburg, 2016年11月.

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

MTGC（体操教室, つくばスポーツアソシエーション社会貢献事業）の運営全般: 茨城県・つくば市（2012年～）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本体操競技・器械運動学会常務理事（2012年～）

日本体育学会代議員（2016年～）

5. 公共機関, 企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

ハイパフォーマンスサポート事業における体操競技（男女）および新体操の用具開発全般（文部科学省）（2011年～）

准教授 河 合 季 信

1. 研究業績

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

久保田潤, 河合季信: 第1章 ユースオリンピックと我が国の競技力向上. 公益財団法人日本オリンピック委員会情報・医・科学専門部会科学サポート部門（編）, 「トップアスリート育成のための追跡調査」報告書<第四報>, 公益財団法人日本オリンピック委員会, 5-15, 2017年3月31日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

吉田雄大，山元勇樹，大垣亮，松葉開，河合季信：水を負荷とするトレーニング器具の筋活動特性．日本体育測定評価学会第16回大会，大分，2017年3月．

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

河合季信：スケート，佐伯年詩雄（編），中学体育実技．学研教育みらい，2016年4月．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

独立行政法人 日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンス戦略部 マネージャー（2016年～）

独立行政法人 日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンスセンター 協力者（2016年～）

公益財団法人 日本オリンピック委員会 情報・医・科学専門委員会科学サポート部門 委員（2013年～）

公益財団法人 日本オリンピック委員会 強化スタッフ（スケート）（1999年～）

一般社団法人 Non-Violence Project Japan アドバイザー（2015年～）

一般社団法人 日本スポーツアナリスト協会 スポーツアナリティクスジャパン実行委員会 委員（2015年～）

日本スポーツ運動学会『スポーツ運動学研究』編集委員（2015年～）

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

一般講演「IoTでスポーツをすべての人に」，IoT Connect 2016（株式会社東陽テクニカ）2016年11月10日

准教授 川村 卓

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Ae, K., Koike, S., Fujii, N., Ae, M., Kawamura T.: Kinetic analysis of the lower limbs in baseball tee batting. Sports Biomechanics, 2017-2. <http://dx.doi.org/10.1080/14763141.2017.1284257>.

a-1-2. 和文のもの

小倉圭，島田一志，金堀哲也，野本堯希，奈良隆章，川村卓：野球の内野手における通常のコロおよびイレギュラーバウンドに対するコロ捕球動作に関するキネマティクスの研究：上位群と下位群間の下肢および体幹の動作の比較．体育学研究，61-1：59-74，2016-6.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

川村卓：高校生がやるべきバッティングドリルはコレだ！右へ左へ鋭い打球が打てるようになる「22の

科学的練習ドリル」(DVD). 株式会社 RealStyle, 2017年4月.

川村卓: 守備走塁の科学. 洋泉社MOOK, 洋泉社, 2016年4月28日.

川村卓: 決定版バッティングの科学. 洋泉社, 2016年4月11日.

川村卓: 決定版ピッチングの科学. 洋泉社, 2016年5月21日.

川村卓: 左バッターを科学する. ベースボールマガジン社, 89-126, 2016年9月20日.

川村卓, 金堀哲也: 投打特別トレーニングドリル. 中学野球太郎, 廣濟堂出版, 12, 63-79, 2016年9月10日.

川村卓, 金堀哲也: 保護者のための“野球指導者”入門. 中学野球太郎, 廣濟堂出版, 14, 184-187, 2017年3月18日.

川村卓: 野球力向上ドリル (月刊連載). ほくらりトルリーグ, No.396-407, 日本リトルリーグ野球協会, 2016年1月~12月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

金堀哲也, 馬見塚尚孝, 小倉圭, 川村卓: ジュニア期における打撃の長期的指導に関する事例的研究. 日本コーチング学会第28回大会, 東京, 2017年3月21, 22日.

八木快, 川村卓: 大学野球選手における練習観の構築に関するコーチング事例—外野守備練習の取り組みを通して—. 日本コーチング学会第28回大会, 東京, 2017年3月21, 22日.

c-1-2-4. ポスター発表

梶田和宏, 川村卓, 島田一志, 八木快: プロ野球捕手における二塁送球動作の特徴. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.

小倉圭, 川村卓: 野球内野手のゴロ捕球におけるアプローチ局面のステップに関する研究. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24-26日.

堀内賢, 川村卓, 奈良隆章, 中田真之, 鶴澤大樹: 投球動作における肩甲骨の可動性とパフォーマンスの関係について. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

早津寛史, 川村卓: 野球の打撃における腰部回転様式の違いによる類型化の試み. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

小野寺和也, 川村卓: 連続トス打撃の即時効果. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

八木快, 川村卓: 社会人野球におけるビッグデータを用いた仮説検証: 元社会人野球選手へのインタビューの手掛かりに. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

宮西智久, 川村卓, 島田一志, 高橋佳三, 平山大作: スポーツコーチングカムにおける垂直ブランキング期間の計測~ローリングシャッターを用いたCMOSカメラの動画解析問題. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

西中裕也, 川村卓: 外野手への打球捕球と捕球形態の類型化. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

菊地亮輔, 川村卓, 小倉圭: 中学野球選手における中継プレイ動作に関する基礎的研究. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

大石泰広, 川村卓: 高校野球におけるイニング別得点の傾向: 高等学校野球選手権地方大会から. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

坂口拓也, 川村卓, 金堀哲也, 大石泰広: 野球の打撃動作におけるフォロースルーと打撃パフォーマンス

スの関係. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

劉璞臻, 川村卓, 小倉圭, 梶田和宏: 野球の打撃動作に関する研究~中国のプロ野球選手と日本の社会人野球選手の比較から~. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

壺内浩紀, 奈良隆章, 川村卓, 川口啓太: 高校野球の指導と活動の現状について. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

大森雄貴, 川村卓, 奈良隆章, 宮崎光次: 野球における競技離脱の傾向についての一考察. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

國井恒太郎, 川村卓, 小林育斗: 中学生におけるハンドボール投げの距離の獲得に作用する要因~体力的要素と三次元画像解析の観点から~. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

中田真之, 川村卓, 金堀哲也, 鶴澤大樹, 堀内賢, 梶田和宏, 小野寺和也: 野球の投球における非投球腕の動作の違いが及ぼす影響について. 日本野球科学研究会第4回大会, 東京, 2016年12月3, 4日.

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「動作解析・筒香嘉智」週刊現代6月13日号, 講談社, 25-31, 2016年6月13日.

「大谷翔平選手分析 (ユアタイム)」フジテレビ, 2016年10月17日.

「クイックモーション (球辞苑)」, NHK・BS1, NHK, 2016年11月12日.

「スイッチヒッター (球辞苑)」NHK・BS1, NHK, 2016年11月26日.

「徹底解剖・大谷翔平はなぜ常識を超えられるのか」. 週刊文春11月3日号, 文藝春秋社, 173-182, 2017年11月3日

「進化する二刀流ー大谷翔平の4年目ー」上・中. 北海道新聞, 2016年12月13日, 14日.

「上原浩治投手分析 (S☆1)」TBSテレビ, 2016年12月19日.

「前田健太投手・分析 (グッと!スポーツ)」NHK総合, 2016年12月27日.

「二刀流の進化」朝日新聞北海道版, 2017年1月1日.

「ストレート (球辞苑)」NHK・BS1, NHK, 2017年2月25日.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「科学の眼から見た野球のコーチングと自主性を重視したチームマネジメント (講演)」. 香川県部活動中高連携指導者講演会, 香川県教育委員会 (高松市, 2016年1月7日).

「野球のバイオメカニクス (講演)」. 全日本野球指導者講習会, 全日本野球協会 (千葉市, 2016年1月23日).

「科学の眼から見た野球のコーチング」(講演). 富山県砺波市指導者講習会 (砺波市, 2016年1月30日).

「捕球を科学する」(講演). 彩球野球学校 (川口市, 2016年2月11日).

「野球のコーチング総論」(講演). 野球力指導アカデミー①, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年6月1日).

「投球の科学とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー②, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年8月3日).

「打撃の科学とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー③, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年12月17日).

「捕球と走塁の科学とコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー④, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年1月11日).

- 「発育発達を考慮した野球のコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー⑤, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年2月1日)
- 「良いチーム作りとコーチング」(講演). 野球力指導アカデミー⑥, BSIP事務局, Fクレスト(東京)(東京都港区, 2016年2月15日)
- 「野球のコーチング(部活動の運営と基本的な指導のポイント)」(講演・実技指導). 茨城県運動部活動指導者研修会, 茨城県教育委員会(ひたちなか市, 2016年11月9日).
- 「ベースボール型・ソフトボールの授業の方法と理論」(講演・実技指導). 平成28年度学校体育担当教員実技指導者研修会(県東地区)(神栖市, 2016年11月17日)
- 「小・中・高とつながりのある野球指導」(講演・実技指導). 奄美大島野球指導者講習会, 奄美大島野球連盟(奄美市, 2016年12月23,24日)
- 「野球指導のためのスポーツ科学」(講演). 下町杯野球指導者講習会(東京都江戸川区, 2017年1月14日).
- 「野球のバイオメカニクス」(講演). 全日本野球指導者講習会, 全日本野球協会(東京都渋谷区, 2017年1月20日).
- 「科学の眼から見た野球のコーチング」(講演). 富山県砺波市指導者講習会(砺波市, 2017年1月28日)
- 「打撃動作の科学とコーチング」(講演). 寺虎家②・日本ハムジュニアコーチングアカデミー, 北海道日本ハムファイターズ・WAISPORTS, (札幌市, 2017年2月17日).
- 「野球指導のためのスポーツ科学」(講演). ヤングリーグ東関東支部指導者養成講座, 日本少年野球連盟(つくば市, 2017年2月12日).
- 「科学の眼から見た野球のコーチング」(講演・実技指導). 北海道高野連小樽支部指導者講習会(小樽市, 2016年11月25日).
- 「科学に基づく野球トレーニング」(講演). 甲子園大会100周年記念事業, 北海道高野連・朝日新聞社(札幌市, 2016年12月3日).
- 「科学に基づく野球トレーニング」(講演). 甲子園大会100周年記念事業, 北海道高野連・朝日新聞社(帯広市, 2016年12月4日).
- 「野球のバイオメカニクス」(講演・実技指導). 全日本軟式野球連盟上級コーチ講習会(横浜市, 2016年12月10日).
- 「投球動作の科学とコーチング」(講演). 寺虎家①・日本ハムジュニアコーチングアカデミー, 北海道日本ハムファイターズ・WAISPORTS(札幌市, 2016年12月15日).

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「ホームランを打ちたい」. 体験学②③, 日本経済新聞・夕刊紙面(2016年11月15日, 16日)

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

星空野球教室主催(通年, 週2回)

筑波大学エクステンションプログラム「お父さん・お母さんのための少年野球科学的コーチング講座」主任講師(2017年1月12日～2月16日, 全6回)

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

硬式野球部監督

2016年首都大学野球春季リーグ, 2位, 2016年4月～5月.

2016年首都大学野球秋季リーグ, 5位, 2016年9月～10月.

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「川村准教授の眼」. 第98回全国高等学校野球選手権茨城大会, 準決勝・決勝解説, 朝日新聞, 茨城版(2016

年7月26, 27日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

全日本大学野球連盟監督会常任委員 (2010年～)

首都大学野球連盟理事・評議員 (2010年～)

首都大学野球連盟監督会会長 (2010年～)

日本野球科学研究会運営委員 (2013年～)

つくば野球研究会幹事 (2006年～)

コーチング学研究編集委員 (日本コーチング学会) (2013年～)

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ, 大会運営など

土浦市中体連新人戦審判派遣: 茨城県・土浦市など: 2016年9月22日, 23日

土浦市中体連総体審判派遣: 茨城県・牛久市: 2016年6月8日, 9日

c-4. その他 (詳しくお書きください)

東日本大震災被災地野球教室: 岩手県・大船渡市: 2017年2月18, 19日

5. 公共機関, 企業等からの委託業務 (1.研究業績の“c-5”以外のもの)

動作分析測定・ゲームアナライズ (読売巨人軍)

動作分析測定・ゲームアナライズ (東京ガス野球部)

動作分析・体力測定・ゲームアナライズ (日立製作所野球部)

東京都教育庁委託事業「体力を高める運動ガイドライン」作成委員 (東京都教育庁)

BSIP野球力測定 (Fクレスト)

准教授 谷川 聡

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-1. 英文のもの

Beyer, K., Fukuda, D., Miramonti, A., Church, D., *Tanigawa, S., Stout, J., Hoffman, J.. Strength Ratios are Affected by Years of Experience in American Collegiate Rugby Athletes: A Preliminary Study. *Isokinetics and Exercise Science*, 24: 257-262, 2016-1.

Monica, M., Fukuda, D., *Tanigawa, S., Stout, J.R., Hoffman, J.R.: Physical Differences between Forwards and Backs in American Collegiate Rugby Players. *Journal of Strength and Conditioning Research*, 30: 2382-2391, 2016-9.

Beyer, K., Fukuda, D., Miramonti, A., Hoffman, M., Wang, R., Monica, M., Josh, J. Riffe., *Tanigawa, S., Stout, J., Hoffman, JR.: Spatial Awareness is Related to Moderate Intensity Running during Collegiate Rugby Match. *International Journal of Exercise Science*, 9: 599-606, 2016-11.

Wang, R., Hoffman, JR., *Tanigawa, S., Miramonti, A., Monica, M., Beyer, K., Church, D., Fukuda, D.,

Stout, J.. Isometric Mid-Thigh Pull Correlates with Strength, Sprint and Agility Performance in Collegiate Rugby Union Players. *Journal of Strength & Conditioning Research*, 30: 3051-3056, 2016-11.

a-1-2. 和文のもの

岡野憲一, 山中浩敏, 九鬼靖太, *谷川聡: 伸張-短縮サイクル運動の遂行能力からみたトップレベル男子バレーボール選手の跳躍パフォーマンスの特性. *体育学研究*, 2017年3月. Doi:org/10.5432/jjpehss.16068.

内藤景, 菊山靖, 山元康平, 宮代賢治, *谷川聡: 試合期における100mレース中のストライドおよびピッチの個人内変動. *陸上競技学会誌*, 15, 55-66. 2017年3月.

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

谷川聡: 生活習慣シリーズ3. 学校保健ニュース, 2016年11月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Tanigawa, S. (Organizer): 34th International Conference on Biomechanics in Sports. Tsukuba, 2016-7-18 to 22. 参加者人数: 552名, 参加国数: 20カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

谷川聡: 二度のオリンピック出場に向けたトレーニングの変遷. NSCA ジャパン S&C フォーラム, 京都, 2016年6月22日.

谷川聡: 日蘭スポーツ科学ラウンドテーブル「Improving Performance」, 東京, 2016年10月21日.

c-1-2-4. ポスター発表

土橋康平, 鈴木俊洋, 木越清信, 谷川聡, 西保岳: 運動前のウォーミングアップや下肢阻血が短時間高強度運動時の呼吸代謝応答及びパフォーマンスに及ぼす影響. 第71回日本体力医学会, 盛岡, 2016年9月.

岡野憲一・谷川聡: トップレベル男子バレーボール選手に対する準備期における体力トレーニングの効果. 第21回日本バレーボール学会, 2016年3月.

奥平柊道・谷川聡: 400m走競技者における自転車運動を用いた高強度間欠的運動の負荷特性. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

清山ちさと・谷川聡: 選手が求める指導者像に関する研究. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

佐藤孝大・谷川聡: サッカーの試合中におけるフィットネスパフォーマンスの縦断的研究とそれに対する体力要素の影響の検討. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

島田愛弓・谷川聡: 陸上競技選手における選手と指導者の関係および動機付けに関する研究 一年代・競技レベルに着目して一. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

丹伊田翔・谷川聡: 競技レベルの異なる大学野球選手の打撃におけるインパクト位置. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

二上浩一・谷川聡: 競技レベルおよび年代の違いからみたサッカーのスマールサイドゲームに関する研究. 第27回日本コーチング学会, 埼玉, 2016年3月.

萩原稜・谷川聡：サッカー選手におけるアジリティ能力ー下肢筋力および認知・意思決定能力に着目してー。第27回日本コーチング学会，埼玉，2016年3月。

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「サタデースポーツ 原口元気選手のトレーニング」NHK，2016年1月7日

「スポーツデータコロシウム『日本人に10秒は切れるか』」NHK，2016年7月30日

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「走り方教室」指導（東京都小笠原村，2016年11月，延べ4日間）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

陸上競技部監督

第16回世界ジュニア陸上競技選手権大会，山下潤，4×100mR銀メダル，ビドゴシチ，2016年7月23日

2016年オリンピック（リオデジャネイロ）Kukyong Kim（韓国），100m，リオデジャネイロ，2016年8月16日

准教授 寺山由美

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

宗宮悠子，寺山由美，會田宏：卓越したダンス指導者のコーチングフィロソフィーの構造に関する質的研究ー18歳以上のダンサーの指導に実績のある指導者に着目してー。コーチング学研究，29(2)：169-180，2016年3月。

内山治樹，阿江通良，中川昭，真田久，佐野淳，西嶋尚彦，有田祐二，斎藤卓，クラリクアンドレア，荻山靖，本谷聡，寺山由美，大山下圭悟，木越清信，仙石泰雄，渡邊仁，吉田健司，中西康己，藤本元，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，吹田真士，安藤真太郎，川村卓，増地克之，香田郡秀，森俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価（第2報）「上級」モデルの検証。筑波大学体育系紀要，39：23-34，2016年3月。

寺山由美，佐藤菜美：教員養成としてのダンス教育についてー「筑波大学卒業ダンス公演」の事例からー。筑波大学体育系紀要，39：71-73，2016年3月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

寺山由美：アクティブ・ラーニング：学びの普遍性を求めて。女子体育，公益社団法人日本女子体育連盟，58(4・5)，2016年4月。

寺山由美：実技 スティック（棒）を使った実践ースティック・スイング・ミュージック↑ー。女子体育，公益社団法人日本女子体育連盟，58(6・7)，2016年6月。

寺山由美：評定スポーツにおける競技力。日本コーチング学会（編），コーチング学への招待，大修館

書店，2017年3月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

寺山由美：ダンス学習における「意図のある」動きについて。日本体育・スポーツ哲学会第38回大会，千葉，2016年9月11日。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

・筑波大学ダンス部顧問

・全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸），文部科学大臣賞，2016年8月。

・アーティストック・ムーブメントin富山，松本千代栄賞，2016年9月。

・アーティストック・ムーブメントin富山，奨励賞，2016年9月。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本女子体育連盟理事（2008年～）

舞踊学会理事・編集委員（2015年～）

准教授 中西康己

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

秋山央，西田誠，伊藤健士，岩沢恭冨，五十嵐元，**中西康己**：大学男子トップレベルのバレーボールにおける勝敗に関する技術項目。大学体育学研究，39：7-18，2017年3月。

五十嵐元，**中西康己**，秋山央，西田誠：バレーボールにおける一流センタープレイヤーのブロックのコツに関する研究。バレーボール研究，18：14-23，2016年6月。

秋山央，西田誠，伊藤健士，五十嵐元，折笠愛，**中西康己**：バレーボールのサーブレシーブからの攻撃における勝敗に関連する技術項目—大学男子トップレベルを対象として—。バレーボール研究，18：1-5，2016年6月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

五十嵐元，**中西康己**，秋山央，西田誠，折笠愛：バレーボールにおける一流センタープレイヤーのブロックのコツに関する研究。第21回日本バレーボール学会，東京，2016年3月。

五十嵐元，**中西康己**，秋山央，西田誠，岩沢恭冨：バレーボールにおけるショート平行に関する一考察—男子トップレベルを対象として—。第22回日本バレーボール学会，東京，2017年3月。

五十嵐元, 中西康己, 秋山央: バレーボールのブロックのコツに関する研究——一流センタープレイヤーの構えに着目して—. 第28回日本コーチング学会, 東京, 2017年3月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「茨城県学校体育担当教員実技指導者研修」指導 (日立市, 2016年11月)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

女子バレーボール部監督

平成28年度春季関東大学バレーボール1部リーグ戦, 優勝監督賞, 2016年4月~5月

平成28年度秋季関東大学バレーボール1部リーグ戦, 優勝監督賞, 2016年9月~10月

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本バレーボール学会理事 (2000年~)

准教授 中村 剛

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-2. 和文のもの

市村さやか, 中村剛: 柔道競技における審判員の判定能力に関する運動学的研究. *スポーツ運動学研究*, 29:15-28, 2017年3月.

小井土正亮, 原仲碧, 中村剛: サッカー競技会における監督のメンバー選考に関する実践知 ——短期トーナメント方式の大会における事例を例証として—. *スポーツ運動学研究*, 29:29-43, 2017年3月.

藤本元, 中村剛: ボールゲームにおける監督の状況把握能力に関する研究 ——ハンドボール競技を例証として—. *スポーツ運動学研究*, 29:45-61, 2017年3月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

佐野淳・中村剛: 人の動きを人間らしくさせているもの (Buytendijk, F.J.J.: *Das Menschliche der menschlichen Bewegung* (1957), In: *Das Menschliche*, S. 170ff. 1958 Koehler Verlag.) (翻訳), *スポーツ運動学研究*, 29:63-77, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Sato, M., Nakamura, T.: Zur Problematik des Trainings der Sprunggrätsche. Jahrestagung der deutschen Vereinigung für Sportwissenschaft-Kommission Gerätturnen, Augsburg (Deutschland), 2016年9月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「埼玉県立総合教育センター平成28年度体育・スポーツサポート講座「やったね，できたね教室」」講師
(行田市，2016年6月19日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本スポーツ運動学会常任理事（2010年～）

日本体操競技・器械運動学会常務理事（2009年～）

准教授 中山雅雄

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Nakayama, M., Ogata, T., Haranaka, M., Tabaei, Y.: Comparison of Attacking Plays in Soccer Games between Japanese and Spanish U12 Players. *Football Science*, 13: 1-17, 2017-2-9.

a-1-2. 和文のもの

原仲碧，中山雅雄：育成年代サッカーコーチのコーチング実践に関するライフストーリー．*日本オーラル・ヒストリー研究*，12：123-144，2016年9月3日．

a-1-3. その他の外国語のもの

Hong, S., Sakamoto, K., Oshima, T., Lee, K., Nakayama, M., Koido, M., Asai, T.: Aerodynamic analysis of vortex trajectory of soccer ball. *Korean Journal of Science and Football*, 5: 23-29, 2016-2.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

中山雅雄：最新の心理学でわかる！サッカーで子どもの「考える力」と「たくましい心」を育てる方法．マイナビ出版，2016年3月25日．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Matsutake, T., Natsuhara, T., Tabei Y., Nakayama, M., Asai, T.: Brain Information Processing of Football Players during Decision Making. 21st annual Congress of the European College of Sport Science 2016, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

鈴木健介，中山雅雄，浅井武：サッカーの攻撃におけるバイタルエリアでのプレーについて．日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月．

松竹貴大，夏原隆之，田部井祐介，中山雅雄，浅井武：熟練したサッカー選手の状況判断時における脳

内情報処理の特性. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.
森政憲, 原仲碧, 堀野博幸, **中山雅雄**, 浅井武: サッカー指導者の学びに関する事例研究—プロ経験のないJリーグ監督経験者に着目して—. 日本コーチング学会 第28回大会, 東京, 2017年3月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「(公財)日本サッカー協会 JFAフットボールフューチャープログラム トレセン研修会U-12 自立する子どもを育てるには」(御殿場市, 2016年8月7日)

「石川県金沢市立大浦小学校校内研修講演 スポーツ上達のヒント」(金沢市, 2016年9月12日)

「山形県鶴岡市立第五中学校・PTA親子研修会講演 スポーツ上達のヒント」(鶴岡市, 2016年10月1日)

「平成28年度体育授業アドバイザー派遣事業 那珂市立第二中学校 サッカー」(那珂市, 2016年11月24日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本サッカー協会 指導者養成サブダイレクター (2014年～)

青年海外協力協会 (JOCA) 技術専門委員 (2012年～)

アジアサッカー連盟 グラルーツパネル (2016年～)

准教授 鍋山隆弘

1. 研究業績

b. 著書 (翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

鍋山隆弘: 私の稽古法. 月刊武道, ベースボール・マガジン社, 11: 78-84, 2016年10月.

鍋山隆弘: 真・剣道の技術第23弾 実はあった気剣体一致の要領. 月刊剣道時代, 体育とスポーツ出版社, 12: 44-49, 2016年10月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-4. ポスター発表

Hirono, J., Kanda, T., Hayami, T., Arita, Y., **Nabeyama, T.**, Koda, K.: RELATIONSHIP BETWEEN PHYSICAL CHARACTERISTICS AND PERFORMANCE LEVEL OF COLLEGE KENDO ATHLETES. The 21st annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

有田祐二, 直原幹, 竹中健太郎, **鍋山隆弘**, 香田郡秀: 剣道初心者の送り足習得後における踏み込み足打突習得に跳躍素振りが及ぼす影響. 日本武道学会第49回大会, 三重, 2016年9月.

廣野準一，川端大輔，鍋山隆弘：剣道における外傷および障害の発生状況—高等学校および大学の比較—。

日本武道学会第49回大会，三重，2016年9月。

小林優希，桐生習作，鍋山隆弘，麓正樹，石川実久，小俣幸嗣：大学体育における武道種目受講学生の
武道イメージ。日本武道学会第49回大会，三重，2016年9月。

c-1-2-4. ポスター発表

鍋山隆弘：指導場面での教育。現場からの医療改革推進協議会第11回シンポジウム，東京，2016年9月。

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「トップアスリートによる講習会」講師（小松市，2016年12月15日）

「青森県剣道連盟トップ指導者招聘事業」講師（八戸市，2016年1月30日；青森市，2016年1月31日）

「青森県剣道連盟トップ指導者招聘事業」講師（八戸市，2017年2月11日）

「平成28年度運動部活動指導者研修会」講師（水戸市，2016年11月18日）

「土浦市スポーツ少年団指導者研修会」講師（土浦市，2016年2月14日）

「平成28年度体育授業アドバイザー派遣事業」講師（つくば市，2016年10月5日）

「オランダ剣道連盟サマーセミナー」講師（アムステルダム，2016年8月12日～14日）

「Torrance Kendo Dojo 40th anniversary Kendo seminar」講師。（Torrance: Silverado Park Gym,
2016年7月16日～17日）

出張公開講座「剣道」講師（南会津町，2016年10月15日；福島市2016年10月16日）

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

公開講座春期スポーツ教室「剣道」（2016年4，5，6月，述べ8回）

公開講座秋期スポーツ教室「剣道」（2016年9，10，11月，述べ8回）

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績（自身の受賞を含む）

第62回全日本東西対抗剣道大会 優秀選手賞 郡山市 2016年9月18日。

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

剣道部・女子監督

第64回全日本学生剣道優勝大会，第3位，エディオンアリーナ大阪（大阪府立体育館），2016年10月9日

第17回関東女子学生剣道新人戦大会，第3位，東京武道館，2016年12月3日

第55回全日本女子剣道選手権大会，ホワイトリング長野市真島総合スポーツアリーナ，2016年9月11日

大西ななみ，準優勝。

第50回全日本女子学生剣道選手権大会，日本武道館，2016年7月2日

木宮凜々子，準優勝。

第8回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会，日本武道館，2016年7月16日

岐阜県次鋒；二宮恭子，準優勝。

第65回関東学生剣道選手権大会，日本武道館，2016年5月8日

加納彰大，準優勝。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

身体運動文化学会常任理事（2009年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

関東女子学生剣道新人戦大会審判員：東京：2016年12月3日

全日本医師剣道大会審判委員：茨城県・つくば市：2016年4月2日～3日

全国選抜少年剣道大会：茨城県・水戸市：2017年3月26日

c-4. その他（詳しくお書きください）

「文武両道アクティブラーニングセミナー」：沖縄県・那覇市：2017年3月2日

准教授 平山素子

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Soga, A., Umino, B., Yazaki, Y., **Hirayama, M.**: Body-part Motion Synthesis System and its Evaluation for Discovery Learning of Dance. *IEICE Transactions on Information and Systems*, E99-D-4: 1024-1031, 2016-4.

Soga, A., Yazaki, Y., Umino, B., **Hirayama, M.**: Body-part motion synthesis system for contemporary dance creation. *Proceeding SIGGRAPH '16 ACM SIGGRAPH 2016 Posters*, 29. 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

矢崎雄帆，曾我麻佐子，海野敏，**平山素子**：現代舞踊の創作支援を目的とした動作合成システム～振付フレーズの自動生成手法．*情報処理学会人文科学とコンピュータシンポジウム論文集*，2016-2：165-170，2016年12月．

朴京眞，**平山素子**，寺山由美，関子美和，米澤麻佑子：ダンスの授業を選択した大学生のもつダンスのイメージのテキストマイニング分析—大学体育におけるダンス授業のあり方の検討—．*大学体育研究*，39：29-44，2017年3月．

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績（自身の受賞を含む）

舞踊作品「Hybrid Rhythm & Dance」振付・出演（新国立劇場），2016年3月25日～27日．

舞踊作品「あやかしと縦糸」（NBAバレエ団 Stars & Stirpes）振付（さいたま芸術劇場），2016年12月2日～3日．

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）筑波大学ダンス部作品「Trance Tribe」：指導神戸文化ホール，2016年8月5日．

2016年オリンピック（リオデジャネイロ）シンクロデュエット（乾・三井組）フリールーティーン陸上動作振付，2016年8月．

2016年オリンピック（リオデジャネイロ）シンクロ日本代表チームフリールーティーン陸上動作振

付, 2016年8月.

日本スケート連盟強化選手合宿 (ジュニア&シニア) 表現力指導, 2016年7月23日~30日.

フィギュアスケート世界選手権 男子シングル第2位 宇野昌磨 表現力指導, ヘルシンキ, 2017年3月29日~4月2日.

准教授 古川拓生

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文 (国際学会の査読付き Proceedings も含む)

a-1-3. その他の外国語のもの

Ogaki, R., Takemura, M., Shimasaki, T., Nariai, M., Nagai, S., Imoo, Y., Takaki, S., **Furukawa, T.**, Miyakawa, S.: Preseason muscle strength tests in the assessment of shoulder injury risk in collegiate rugby union players. *Football Science*, 13: 36-43, 2016-10.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

荻原伸旭, 小柳竜太, 嶋崎達也, *古川拓生: ラグビーのタックル及びボール争奪局面におけるレフリーのポジションの定量化. *ラグビー科学研究*, 28-1: 36-49, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-1. 基調講演

古川拓生: ロケーションテクノロジーが生み出す次のビジネスヒント~スポーツ×データ: 日本代表の事例から~. *Location Business Japan 2016*, 千葉, 2016年6月10日.

c-1-2-2. 特別・招待講演

古川拓生: リオオリンピックの楽しみ方, 筑波大学永田恭平学長を囲む会, つくば市, 2016年6月23日.

c-1-2-4. ポスター発表

嶋崎達也, 千葉剛, 古川拓生, 中川昭: ラグビーの世界トップレベルにおけるラックのボール争奪の現状と変化. 第27回日本コーチング学会, 東京, 2016年3月.

下園博信, 村上純, 佐々木康, 古川拓生, 山本巧, 榎崎兼司: 7人制ラグビーのゲーム様相~リオデジャネイロオリンピック・日本代表の攻撃に関する検討~. 第14回日本フットボール学会大会, 福岡, 2016年10月.

村上純, 下園博信, 佐々木康, 古川拓生, 山本巧, 榎崎兼司: 7人制ラグビーのゲーム様相~リオデジャネイロオリンピック・日本代表の防御に関する検討~. 第14回日本フットボール学会大会, 福岡, 2016年10月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「鹿児島県内の指導者及び青少年に向けたラグビー指導」(宗像市, 2016年7月・2017年2月, 延べ4日間)

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

ラグビー部監督

第16回東日本大学セブンズ選手権大会 ベスト8，東京，2016年4月10日．

2016年度関東大学ラグビー対抗戦Aグループ 5位，2016年9～12月．

アジアラグビーチャンピオンシップ（ラグビー日本代表），日本・香港・韓国，2016年4～5月．

前田土芽，優勝．

World Rugby U20 Championship 2016（ラグビー U20 日本代表），イギリス，2016年6月．

前田土芽，12位．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本オリンピック委員会強化スタッフ（2012年～）

日本ラグビーフットボール協会普及・強化委員（1995年～）

日本コーチング学会編集委員（2013年～）

准教授 増地克之

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

小林優希，安藤梢，増地克之，西嶋尚彦：中学校保健体育の柔道における技能の目標に準拠した評価のための学習ノートの構成．*身体運動文化研究*，21-1：37-46，2016年3月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

川戸湧也，岡田弘隆，増地克之，小野卓志：柔道指導現場における「体罰」・「ハラスメント」ならびに「ドメスティックバイオレンス」の実態調査：大学生柔道選手を対象として．*武道学研究*，49-3：183-191，2017年3月．

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

増地克之：大学生における実践的なコーチング法．*実践柔道論*，メディアバル，98-108，2017年3月15日．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

仲田直樹，増地克之，金丸雄介，竹澤稔裕，福見友子，春日井淳夫：女子柔道選手の体幹筋力：軽・中・重量級の特徴．日本武道学会第49回大会，三重，2016年9月．

林弘典，坂本道人，石川美久，生田秀和，渡辺直勇，増地克之，佐藤伸一郎：高校女子柔道選手の指導状況について．日本武道学会第49回大会，三重，2016年9月．

小野卓志，小林優希，岡田弘隆，横山喬之，石川美久，竹澤稔裕，増地克之：ガッツポーズに関する意

識調査-武道に携わる大学生を対象として-。日本武道学会第49回大会，三重，2016年9月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学柔道部監督

平成28年全日本柔道選抜体重別選手権大会63kg級 能智亜衣美 優勝，福岡，2016年4月2日。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本武道学会評議委員（2011年～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（柔道競技コーチングスタッフ）：（2016年～）

全日本柔道連盟強化委員会女子監督（2016年～）

関東学生柔道連盟理事（2012年～）

c. ボランティア活動

c-4. その他（詳しくお書きください）

筑波大学社会貢献プロジェクト：「柔道の再興と武道必修化を支援する東北3県柔道指導キャラバン」
（2012年度～）

准教授 松尾牧則

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

松尾牧則：京都三十三間堂通し矢実施の弓術家，星野勘左衛門について。武道，595：160-167，2016年10月。

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-2. 和文のもの

松尾牧則：はじめての弓道。誠文堂新光社，2016年2月20日。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

松尾牧則：流派の発生と展開 日置弾正像，および目的に応じた射法。早稲田大学稲弓会，東京，2017年2月。

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

松尾牧則，五賀友継：通し矢弓術家和佐大八郎と遺品弓具について。第49回日本武道学会，伊勢，2016年9月。

原田隆次，松尾牧則：弓道における「口割」に関する一考察。第49回日本武道学会，伊勢，2016年9月。

c-1-2-4. ポスター発表

松尾牧則，五賀友継，原田隆次：「中学校における課題・対応策」－弓道の立場から－。第49回日本武道学会，伊勢，2016年9月。

2. 教育活動

f. 学内で自主的に実施している「教室」（たとえば各種スポーツ競技に関するもの）

筑波大学公開講座 スポーツ教室「弓道」（2016年5・6月，延べ8日間）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学体育会弓道部 部長・監督，2016年4月～

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本武道学会監事（2011年4月～2017年3月）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

桜一射会弓道指導者：茨城県・つくば市：2016年4月～（毎月1～2回）

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

高麗郡建郡1300年記念事業 第5回高麗王杯馬射戯～MASAHI～騎射競技大会審判長：埼玉県・日高市：
2016年11月26～27日

全国日置流弓道大会（一般の部）大会代表：茨城県・つくば市：2016年12月3日

全国日置流弓道大会（高校の部）大会代表：茨城県・つくば市：2017年1月8日

c-4. その他（詳しくお書きください）

2016マレーシア弓道セミナー講師：マレーシア弓道連盟主催：マレーシア・クアラルンプール：2016
年9月10～12日

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

松尾牧則：日本の伝統文化 弓馬術・流鏑馬 ～弓道研究家の視点から～，蹄の音34：6-7，大日本
弓馬会，2016年8月1日。

松尾牧則：Q&Aコーナー 練習の前のウォーミングアップには，どのようなものが効果的ですか？ 弓
道日本38：81，2016年4月29日。

松尾牧則：Q&Aコーナー 矢を購入する際の留意点（仮題），弓道日本39：81，2016年7月29日。

松尾牧則：Q&Aコーナー 弓を購入する際の留意点（仮題），弓道日本40：88-89，2016年10月28日。

松尾牧則：Q&Aコーナー 弓の張り方について（仮題），弓道日本41：73-76，2017年1月27日。

准教授 松元 剛

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Teraoka, E., *Matsumoto, T.: Current Status of Coaching in Club Activities at Japanese Junior High
Schools. *International Journal of Sport and Health Sciences*, 14: 1-10, 2016-6.

a-1-2. 和文のもの

奈良隆章, 金谷麻理子, 嵯峨寿, **松元剛**, 木内敦詞: テキストマイニングによる大学体育授業の教育目標に関する肯定的認知度分析. *大学体育研究*, 39: 45-52, 2017年3月.

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

松元剛: 体育センター自由科目「日本の体育・スポーツ文化」ーショートステイプログラムとしての大学体育ー. *大学体育研究*, 38: 5-8, 2016年3月.

松尾博一, 原口大輝, ***松元剛**: カナダにおける指導者のための実技型講習会についてー筑波大学海外武者修行支援プログラムの報告ー. *いばらき健康・スポーツ科学*, 33: 39-42, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

松元剛: 大学体育研究の発表に適した国際学会の紹介「SHAPE」. 第4回大学体育研究フォーラム, 東京, 2016年2月.

松尾博一, **松元剛**: アメリカンフットボールにおけるタックル技術指導プログラムに関する研究. ー試合中のタックル様相の変化に着目してー. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

c-1-2-4. ポスター発表

松尾博一, 山田晋三, **松元剛**: アメリカンフットボールにおけるタックル技術の指導法に関する現状分析. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

久野幹也, **松元剛**: 運動部活動におけるスポーツ経験がライフスキル獲得に与える影響についての考察. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

市川雅浩, **松元剛**: 水球競技におけるターンオーバー時の戦術的技能に関する研究. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

田中将理, **松元剛**: アメリカンフットボールにおけるタックル技術に関する意識の現状調査. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

川端翔, **松元剛**: アイスホッケー選手の攻撃時におけるゲームパフォーマンスに関する研究. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

鳴澤眞寿美, **松元剛**: スポーツにおける女性指導者の実態調査ー日本の現状とカナダでの活動報告ー. 日本コーチング学会第27回大会, 東京, 2016年3月.

鳴澤眞寿美, **松元剛**: 女性指導者に対して女性アスリートが持つ認識に関する研究. 日本コーチング学会第28回大会, 東京, 2017年3月.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究, 委託研究, これらからの研究助成, 奨励金等 (科研費を除く)

「日本の大学における体育局 (AD) 設立に向けた理論的枠組みの構築に向けた日米の大学での学生競技者に対する教育マネジメント支援体制の現状」(株式会社 ドーム)

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書, 副教材等

松元剛: フラッグフットボール, 『中学体育実技』, 学習研究社, 168-169, 2016年4月1日.

c. 学外の教育活動

茨城県教育委員会主催 平成28年度茨城県学校体育実技指導者講習会 (茨城県水戸市堀原運動公園 2016年8月4日)

「第8回大学体育指導者養成研修会 フラッグフットボール」(公益社団法人全国大学体育連合, 2017年

3月4日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「毎秒1.272ヤード アメフト・超人たちの瞬間勝負（NHKザ・データマン）」NHK, 2016年1月11日.
「水曜馬スぺ!羽ばたけ!藤田菜七子~新人女性騎手の奮闘~」競馬専門チャンネル・グリーンチャンネル,
2016年12月7日.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学アメリカンフットボール部 部長（関東大学アメリカンフットボール連盟・リーグ戦2部）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本フットボール学会理事（2009年～）

公益財団法人日本フラッグフットボール協会理事（2010年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

NFLフラッグフットボール日本選手権大会：神奈川県・川崎市：2016年12月25日.

c-4. その他（詳しくお書きください）

筑波大学アメリカンフットボール部地域貢献活動「Let's play in English」：茨城県・つくば市：2016年
8月12日.

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

アメリカンフットボール日本代表チーム（大学生および高校生）におけるゲームパフォーマンスの向上
に関する学術指導（公益社団法人日本アメリカンフットボール協会）2016年5月17日～6月30日.
日本アイ・ビー・エム株式会社アメリカンフットボール部 Big Blue におけるゲームパフォーマンスの向
上に関する学術指導（日本アイ・ビー・エム株式会社）2016年6月27日～11月30日.

准教授 三橋大輔

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

岡村麻人，石井壮郎，林昌希，青木義満，黒瀬龍之介，窪田辰政，*三橋大輔：よりよい動作を素早く
提案するシステム-家庭用デジタルビデオカメラを利用して-. *スポーツパフォーマンス研究*，9：
146-156，2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

岡村麻人，石井壮郎，窪田辰政，林恵嗣，*三橋大輔：テニス・ストローク動作のシミュレーションシス
テム. *静岡県立大学短期大学部研究紀要*，30：1-11，2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Okamura, A., Ishii, S., **Mitsuhashi, D.**: Instant Feedback System for Improving Sports Performance Utilizing Home-use Digital Video Camera. The 2nd Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Beijing, 2016-10.

c-1-2-4. ポスター発表

Okamura, A., Ishii, S., **Mitsuhashi, D.**: DEVELOPMENT OF SIMULATION SYSTEM FOR IMPROVING TENNIS STROKE MOTION. The 34th International Conference on Biomechanics in Sports, Japan, 2016-8.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-2. 特別・招待講演

三橋大輔: プロテニスプレーヤーを目指す高校生にとって大学体育会テニス部の意義. 第6回日本テニス・スポーツ医学研究会, 名古屋, 2016年3月19日.

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

岡村麻人, **三橋大輔**: テニス選手のための簡易シミュレーションシステム –よりよい動作を即時に提案する–. 第28回日本テニス学会, 岩手, 2016年5月.

高橋仁大, 花木大樹, 村上俊祐, **三橋大輔**, 村松憲: テニスのゲームにおける打球速度と回転数の実態 –国際大会の女子選手を対象として–. 第28回日本テニス学会, 岩手, 2016年5月.

岡村麻人, **三橋大輔**: 動作学習のための即時フィードバックシステム –テニスのサーブ動作を例として–. 第67回日本体育学会, 大阪, 2016年8月.

c-1-2-4. ポスター発表

岡村麻人, **三橋大輔**: テニス選手のためのモーション・シンセサイザー. 日本コーチング学会, 東京, 2016年3月.

岡村麻人, 石井壮郎, **三橋大輔**: よりよい動作を素早く提案するシステム –テニス選手のサーブ動作を例として–. 第2回スポーツパフォーマンス学会, 東京, 2016年8月.

c-4. 研究成果による受賞

The Young Scholar of The 2nd Asia-Pacific Conference on Coaching Science（受賞発表: Okamura, A., Ishii, S., **Mitsuhashi, D.**: Instant Feedback System for Improving Sports Performance Utilizing Home-use Digital Video Camera. The 2nd Asia-Pacific Conference on Coaching Science, Beijing, 2016-10.）

第2回スポーツパフォーマンス学会 学会賞（受賞発表: 岡村麻人, 石井壮郎, **三橋大輔**: よりよい動作を素早く提案するシステム –テニス選手のサーブ動作を例として–. 第2回スポーツパフォーマンス学会, 東京, 2016年8月.）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「国分寺市テニス連盟シニアテニス講習会」（国分寺市, 2016年1月24日）

「関東テニス協会関東ジュニア強化合宿」（つくば市, 2016年11月26日～27日）

「指導者講習会2016in神栖開催」（神栖市, 2017年1月22日）

「平成28年度関東大学中下部校強化練習会」(つくば市, 2017年2月23日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「フューチャーズを失くさないために」テニスマガジン, 47-8:98-100, 2016年7月.

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

第1回筑波大学テニスクリニック 「ボレーとサービス編」(2016年11月23日)

第2回筑波大学テニスクリニック 「ストローク編」(2016年12月10日)

第3回筑波大学テニスクリニック 「ゲーム編」(2017年1月29日)

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

硬式庭球部監督

関東学生テニストーナメント, 東京, 2016年5月2日～8日.

牛島里咲, 女子シングルス3位.

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス3位.

ITF(国際テニス連盟)軽井沢女子オープンテニス, 長野, 5月19日～24日.

牛島里咲, シングルス3位

全日本学生テニス選手権, 岐阜, 8月14日～20日.

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス準優勝.

関東大学テニスリーグ 女子1部準優勝, 東京, 8月27日～9月9日.

関東学生テニス選手権, 埼玉, 9月14日～19日

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス準優勝.

全日本大学対抗テニス王座決定試合, 女子準優勝, 東京, 10月12～16日.

国民体育大会, 岩手, 10月2日～5日.

森崎可奈子・古川鈴夏, 成年女子 第3位.

全日本テニス選手権, 東京, 10月22～25日.

牛島里咲, 森崎可奈子, 女子シングルス出場.

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス出場.

全日本学生室内テニス選手権, 大阪, 12月1日～4日.

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス 優勝.

牛島里咲, 女子シングルス3位.

全日本室内テニス選手権, 京都, 2017年2月19日～26日.

森崎可奈子, 女子シングルス出場.

ITF(国際テニス連盟)慶応チャレンジャーテニス, 神奈川, 2017年3月7日～11日.

米原実令・森崎可奈子, 女子ダブルス 準優勝.

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「関東大学テニスリーグ 筑波大学女子1部2位, 男子2部で優勝」(常陽新聞)2016年9月22日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本オリンピック委員会強化スタッフ(テニス)(2015年4月～)

日本テニス協会強化本部情報科学委員(2015年4月～)

筑波大学MEIKEIオープンテニストーナメント トーナメントディレクター(2013年4月～)

スポーツ運動学会理事（2012年～）

全日本学生テニス連盟部長監督会理事（2014年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的、定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

大学高校合同練習会：茨城県・つくば市：2016年2, 3, 4, 5, 6, 10, 12月

ブラインドテニス練習会：茨城県・つくば市：2016年3月21日

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ、大会運営など

第1回筑波大学オープンジュニアの運営：茨城県・つくば市：2016年8月6日

第2回筑波大学オープンジュニアの運営：茨城県・つくば市：2016年10月8日

第3回筑波大学オープンジュニアの運営：茨城県・つくば市：2017年1月28日

筑波大学MEIKEIオープンテニスWC大会高校生以下部の運営：茨城県・つくば市：2017年1月21日

筑波大学MEIKEIオープンテニスWC大会学生の部の運営：茨城県・つくば市：2017年2月4日

筑波大学MEIKEIオープンテニスWC大会一般シングルの部の運営：茨城県・つくば市：2017年2月
20日

筑波大学MEIKEIオープンテニスWC大会一般ダブルスの部の運営：茨城県・つくば市：2017年2月
16日

筑波大学MEIKEIオープンテニス（国際テニス連盟公認大会）の運営：茨城県・つくば市：2017年3月
25日～4月2日。

准教授 山口 香

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

川北準人, 山口香, 中瀬雄三, 村田洋佑, 市村操一: 学校運動部のコーチが感じている競技者の人間関係。
東京成徳大学研究紀要—人文学部・応用心理学部—, 23: 85-91, 2016.3

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

山口香: 無限に広がる本の世界. 新教育課程ライブラリ vol.3: ぎょうせい, 2016年3月

山口香: 論説「保健体育において育むべき資質・能力を考える」. 中等教育資料, 9月号: 文部科学省,
18-19, 2016年9月.

山口香: 私がガッツを発揮したあの時—ガッツを持った闘いは今もつづく—. 児童心理, 70-18: 金子
書房, 87-91, 2016年12月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

小林好信, 山口香, 松田基子, 岡田弘隆, 橋本佐由理: 大学柔道選手のスポーツ傷害とストレス反応,
競技特性不安との関連について, 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24～26日.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

講演「スポーツから考える男女共同参画」(枚方市, 2016年6月18日)

2016男女共同参画市民フォーラム in いわみざわ, 講演「強さは優しさ 柔道から学んだこと」(岩見沢市, 2016年6月29日)

「Gender in Budo」International Gender Forum. 発表「武道とジェンダー」(高崎市, 2016年9月29日)
平成28年度栃木県体育協会競技力向上研修会 講演「スポーツの力～競技力と人間力の向上を目指して～」(栃木市, 2016年11月2日)

第55回全国学校体育研究大会 シンポジウムコーディネーター「体育・保健体育で育成すべき資質・能力について」(福島市, 2016年11月10日)

新渡戸国際塾 講師「柔道の国際化から考えるリーダーシップとチームワーカー」(東京, 2016年11月26日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

株式会社ニッポン放送 番組審議委員 (2009年～)

公益財団法人日本オリンピック委員会 理事 (2011年～)

一般財団法人上月財団 理事 (2013年～)

独立行政法人日本スポーツ振興センター・国立スポーツ科学センター業績評価委員会委員 (2013年～)

東京都教育会委員 (2013年～)

公益財団法人 全日本柔道連盟 監事 (2013年～)

公益財団法人 日本バレーボール協会 理事 (2013年～)

コナミ株式会社 社外取締役 (2014年～)

日本BS放送株式会社 社外取締役 (2015年～)

スポーツ庁参与 (2015年～)

日本体育学会理事 (2015年～)

日本武道学会理事 (2015年～)

公益財団法人日本サッカー協会 理事 (2016年～)

公益財団法人日本アントドーピング機構評議員 (2016年～)

d. 社会貢献活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

NHKラジオ「ごごラジ」月曜レギュラーパーソナリティー 2016年4月～12月.

NHKラジオ「ラジオ深夜便—ミッドナイトトーク」2016年5月12日, 7月7日, 9月8日, 11月10日, 2017年1月12日, 3月9日.

NHKテレビ「リオデジャネイロオリンピックデイリーハイライト」2016年8月6日, 7日, 9日, 10日, 12日, 13日, 20日.

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

町田洋介, 内山治樹, 吉田健司, 池田英治, 橋爪純, 柏倉秀徳: バasketボール競技におけるフローター・シュートのメカニズムと有用性に関する研究. *体育学研究*, 61: 301-18, 2016年6月.

2. 教育活動

a. 教育活動による受賞

学長賞「インカレ優勝」(筑波大学, 3月16日)

体育専門学群長賞「インカレ優勝」(筑波大学, 3月24日)

c. 学外の教育活動

「福井県Basketボール協会強化講習会」指導(福井市, 2016年2月, 2017年2月 延べ12日間)

「静岡県Basketボール協会強化練習会」指導(つくば市, 2016年3月12, 13日)

「Shu's Basketball Camp」講義(東京, 7月30日)

「静岡県Basketボール協会強化講習会」指導(静岡市, 2017年8月24日)

「日本Basketボール協会B級コーチ講習会」指導(東京, 2017年3月6日)

「奈良県Basketボール協会指導者講習会」指導(奈良市, 2017年3月12日)

「茨城県Basketボール協会高体連指導者講習会」講義(水戸市, 2017年3月24日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

「関東大学Basketボールリーグ戦解説(J-SPORT)」(2016年9月4日放送)

3. 競技活動

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

男子Basketボール部

第65回関東大学Basketボール選手権大会, 優勝, 監督, 東京, 2016年5月1日~7日.

第56回関東大学Basketボール新人戦, 3位, 監督, 東京, 2016年6月5~11日.

第20回日本男子学生選抜Basketボール大会, 優勝, 部長, 新潟, 2016年7月1~3日.

BLIA UNIVERSITY BASKETBALL TOURNAMENT 2016, 3位, 監督, 台湾高雄, 2016年8月16~21日.

第92回関東大学Basketボールリーグ戦, 優勝, 監督, 東京, 2016年9月3~10月30日.

第68回全日本大学Basketボール選手権大会, 優勝, 監督, 東京, 2016年11月21~27日.

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送(競技会等の解説を含む)

第65回関東大学Basketボール選手権大会決勝(JSPORT解説)2016年5月7日.

第92回関東大学Basketボールリーグ戦(JSPORT解説)2016年9月3日~10月30日, 累計18試合.

第68回全日本大学Basketボール選手権大会準決勝・決勝(BSフジ)2016年11月26日~27日.

「第68回全日本大学Basketボール選手権大会優勝」(朝日新聞他, 2016年11月28日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本バスケットボール協会 技術委員会委員アドバイザー（2010年～）

全日本大学バスケットボール連盟 理事・強化副部長（2013年～）

関東大学バスケットボール連盟 副理事長（2015年～）

関東大学バスケットボール連盟 強化部長（2013年～）

講 師 安 藤 真 太 郎

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

野中由紀，安藤真太郎，山田幸雄：卓球競技の世界トップレベル女子カット主戦型選手のゲームの特徴。
体育学研究，2017-2. doi:org/10.5432/jjpehss.16015.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

野中由紀，安藤真太郎，鳥屋智大，山田幸雄：卓球競技の1大会中におけるカット主戦型攻略の戦術変化に関するゲーム分析。日本体育学会第67回大会，大阪，2016年8月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

卓球部監督

2016年全日本大学総合卓球選手権，男子団体3位，2016年7月6～9日

2016年ITTFワールドツアー・オーストリアオープン，2016年11月9～13日

坪井勇磨，U-21男子シングルスベスト16.

講 師 本 谷 聡

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

高橋靖彦，鈴木王香，田村元延，本谷聡，小島瑞貴，古屋朝映子：静的及び動的荷重による各種大型ボールの変形と使用感の比較。*体操研究*，12：14-21，2016年4月。

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

内山治樹，阿江通良，中川昭，真田久，佐野淳，西嶋尚彦，有田祐二，齊藤卓，クラリク アンドレア，
荊山靖，本谷聡，寺山由美，大山下圭悟，木越清信，仙石泰雄，渡邊仁，吉田健司，中西康己，

藤本元, 中山雅雄, 古川拓生, 三橋大輔, 吹田真士, 安藤真太郎, 川村卓, 増地克之, 香田郡秀, 森俊男, 池田英治:「実技検定」の運用とその評価(第2報)―「上級」モデルの検証―. 筑波大学体育系紀要, 39:23-34, 2016年3月.

本谷聡, 古屋朝映子:伸縮(バンジー)ロープの用具特性を活用した体操試案. 筑波大学体育系紀要, 39:39-42, 2016年3月.

b. 著書(翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

大塚隆, 本谷聡編:ラート競技採点規則2016. 日本ラート協会, 1-36, 2016年9月30日.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会(上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-4. ポスター発表

高橋靖彦, 本谷聡, 堀口文, 小出奈実, 相原奨之:第12回世界ラート競技選手権大会における有力選手の競技動向に関する研究. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月26日.

小出奈実, 本谷聡, 高橋靖彦, 鈴木王香, 相原奨之:立体網状構造体上の運動がバランス能力に与える即時的な効果に関する研究. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月26日.

本谷聡, 高橋靖彦, 鈴木王香, 堀口文, 小出奈実, 相原奨之:伸縮ロープの用具特性を活用したペア体操の効果に関する研究 第2報. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月26日.

本谷聡, 高岡綾子, 小島瑞貴:児童を対象としたオリジナル体操の試案に関する実践的研究―伸縮ロープを活用して―. 日本体操学会第16回大会, 鹿児島, 2016年9月10日.

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書, 副教材等

本谷聡:2016中学体育実技 体づくり運動. 学習研究社, 5-32, 2016年4月.

c. 学外の教育活動

平成27年度ジュニア選手育成強化プログラム事業「コアトレーニング」講師(つくば市, 2016年1月23日)

平成28年度茨城県生涯スポーツ指導員養成講習会兼茨城県スポーツリーダーバンク登録指導者講習会「高齢者および中高年の健康・体力づくり」講師(笠間市, 2016年7月23日)

つくばカピオ会館20周年記念事業・つくばスポーツフェスティバル2016「ラート」講師(つくば市, 2016年9月17日)

つくば市立桜学園九重小学校親子行事「親子でラート運動」講師(つくば市, 2016年9月24日)

平成28年度体育授業アドバイザー派遣事業「体づくり運動」講師, 那珂市立菅谷西小学校(那珂市, 2016年9月27日)

東京都大島町ジュニアスポーツフェスティバル「体操」講師(大島町, 2016年10月22日)

平成28年度体育授業アドバイザー派遣事業「Gボールを使った体づくり運動」講師, 結城市立上山川小学校(結城市, 2016年10月28日)

平成28年度体育授業アドバイザー派遣事業「体づくり運動」講師, 茨城県立牛久高等学校(牛久市, 2016年11月1日)

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

筑波大学オープンキャンパス「ラート」指導, 茨城県中学生視察団(2016年7月26日)

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

こどもフィット&ダンスフェスティバル2016 第19回新春の会，招待演技発表：演技指導，2016年3月27日．

2016 NPO 法人ジョイナスみほ設立記念体操フェスティバル，招待演技発表：演技指導，2016年4月3日．
日筑定期戦2016バスケットボールホームゲーム，招待演技発表：演技指導，2016年4月24日．

2016 ジャパン・チャレンジ，シルバー賞（筑波大学体操部）：監督，2016年6月18日．

12th World Championships in Wheel Gymnastics: Delegation Leader, USA / Cincinnati, 2016年6月21日～25日．

田村元延，個人総合2位，種目別決勝直転4位，斜転2位，跳躍優勝．

堀口文，個人総合5位，種目別決勝直転5位，斜転4位．

松浦佑希，種目別決勝跳躍5位．

団体（田村元延・堀口文）日本，2位．

東京都大島町ジュニアスポーツフェスティバル，招待演技発表：演技指導，2016年10月22日．

全日本ラート競技選手権2016：監督，2016年12月10～11日．

田村元延，種目別決勝跳躍2位

松浦佑希，個人総合2位，種目別決勝斜転優勝，跳躍優勝

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体操学会・常任理事（2002年～）／研究委員会委員長（2013年～）

日本ラート協会理事（1999年～）／副会長（2013年～）／国際部部長（2010年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

つくば体操フェスティバル2016：実行委員会委員：茨城県・つくば市：2016年2月6日．

12th World Championships in Wheel Gymnastics : International Judge : USA / Cincinnati : 2016年6月21日～25日．

全日本ラート競技選手権2016：大会実行委員長／審判（主審）：茨城県・つくば市：2016年12月10～11日．

つくば体操フェスティバル2017：実行委員会委員長：茨城県・つくば市：2017年2月4日．

助 教 秋 山 央

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

秋山央，西田誠，伊藤健士，五十嵐元，折笠愛，中西康己：バレーボールのサーブプレッシュからの攻撃における勝敗に関連する技術項目—大学男子トップレベルを対象として—，*バレーボール研究*，18(1)：1-5，2016年6月．

秋山央，西田誠，伊藤健士，岩沢恭彦，五十嵐元，中西康己：大学男子トップレベルのバレーボールに

における勝敗に関連する技術項目. *大学体育研究*, 39:7-18, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

秋山央, 伊藤健士: バレーボールの攻撃局面における勝敗に関わる項目—2015ワールドカップ男子大会について—. 日本バレーボール学会第21回大会, 東京, 2016年3月.

五十嵐元, 中西康己, **秋山央**, 西田誠, 折笠愛: 一流ブロッカーのブロックのコツに関する研究. 日本バレーボール学会第21回大会, 東京, 2016年3月.

岩沢恭冴, **秋山央**, 五十嵐元, 西田誠, 中西康己: サイドプレイヤーにおけるAクイックスパイク動作と平行スパイク動作の比較. 日本バレーボール学会第22回大会, 東京, 2017年3月.

五十嵐元, 中西康己, **秋山央**, 西田誠, 岩沢恭冴: バレーボールにおけるショート平行に関する一考察—男子トップレベルを対象として—. 日本バレーボール学会第22回大会, 東京, 2017年3月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

男子バレーボール部監督, 2016年度春季関東大学男子1部バレーボールリーグ戦, 優勝, 2016年4月9日～5月28日

「優勝監督賞」受賞

日本代表コーチ, 2016リオデジャネイロオリンピック男子バレーボール世界最終予選, 東京, 2016年5月28日～6月5日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

全日本大学バレーボール連盟科学研究委員（2012年～）

全日本大学バレーボール連盟男子強化委員（2014年～）

茨城県バレーボール協会常任理事（2015年～）

助 教 木 越 清 信

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

山元康平, 内藤景, 宮代賢治, 関慶太郎, 上田美鈴, **木越清信**, 大山下圭悟, 宮下憲, 尾縣貢: 男子400m走におけるパフォーマンス向上に伴うレースパターンの変化. *陸上競技学会誌*, 14-1: 9-18, 2016年3月.

関慶太郎, 鈴木一成, 山元康平, 加藤彰浩, 中野美沙, 青山清英, 尾縣貢, **木越清信**: 小学校5, 6年生男子児童における短距離走の回復脚の動作と疾走速度との関係: 回復脚の積極的な回復と膝関節の屈曲はどちらを優先して習得すべきか? *体育学研究*, 61-2: 743-753, 2016年5月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

木越清信：跳躍競技のバイオメカニクス．*陸上競技学会誌*，14-1：60-67，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

景行崇文，松林武生，木越清信：棒高跳における最大重心高に影響を及ぼすパラメータ．日本陸上競技学会，岡山県，2016年12月．

梶谷亮輔，木越清信：短距離競技者における高いパフォーマンスを獲得するために必要とされる力・パワー発揮能力．日本陸上競技学会，岡山県，2016年12月．

白木駿佑，木越清信：短時間運動における運動強度とエネルギー供給比率との関係．日本陸上競技学会，岡山県，2016年12月．

眞鍋芳明，木越清信：110mH走のアプローチ区間における7歩の優位性．日本陸上競技学会，岡山県，2016年12月．

中野美沙，木越清信：男子走幅跳競技者におけるジャンプ能力とパフォーマンスとの関係．日本陸上競技学会，岡山県，2016年12月．

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「BS ファイン素材で製作されたレッグウォーマー」（株式会社加茂繊維）

「疾走動作の修正を目指した補助器具の効果検証」（株式会社ミズノ）

3. 競技活動

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

リオデジャネイロオリンピック（陸上競技），（日本国内向けテレビ放送）2016年8月12日～20日

日本陸上競技選手権大会，（NHK）2016年6月24日～26日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本陸上競技連盟強化委員（2013年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

つくばツインピークス陸上教室：茨城県・つくば市：（2016年4月～12月，年20回）

助 教 小 井 土 正 亮

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Nahagaha, R., Morin, J-B., Koido, M.: Impairment of sprint mechanical properties in an actual soccer match: A pilot study. *International Journal of Sports Physiology and Performance*, 11: 893-898, 2016-10.

Nahagaha, R., Botter, A., Rejc, E., **Koido, M.**, Shimizu, T., Samozino, P., Morin, JB.: Concurrent validity of GPS for deriving mechanical properties of sprint acceleration. *International Journal of Sports Physiology and Performance*, 12: 129-132, 2017-1.

a-1-2. 和文のもの

小井土正亮, 原仲碧, 中村剛: サッカー競技会における監督のメンバー選考に関する実践知 ~短期トーナメント方式の大会における事例を例証として~. *日本スポーツ運動学研究*, 29: 29-43, 2017年3月.

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会 (上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

小井土正亮, 原仲碧: チームスポーツの監督はチームを勝利に導くために何をしているのか ~全国大会で優勝した大学サッカーチームの事例を例証として~. 第30回日本スポーツ運動学会, 茨城, 2017年3月28日.

c-1-2-4. ポスター発表

沼津直樹, 藤井範久, 中山雅雄, **小井土正亮**: 大学生男子サッカーにおけるゴールキーパーのゲーム分析 -試合中におけるゴールキーパーのプレーの分類-. 日本フットボール学会, 東京, 2016年3月13日.

鍋倉賢治, **小井土正亮**, 青柳篤, 岡部正明, 辻俊樹, 濱谷奎介: プロサッカー選手の持久性体力~年齢やポジション別特徴など~. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月24日.

小井土正亮, 貝崎佳祐: 高校生サッカー選手の Reactive Agility 能力について. 日本コーチング学会第28回大会 兼 第10回日本体育学会体育方法専門領域研究会, 東京, 2017年3月22日.

松倉啓太, **小井土正亮**: サッカーのスモールサイドゲームにおけるゲーム様相が選手個々の体力的負荷に与える影響. 日本コーチング学会第28回大会第10回日本体育学会体育方法専門領域研究会, 東京, 2017年3月22日.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「平成28年度 土浦市スポーツ少年団指導者研修会」(土浦市, 2017年2月17日)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

筑波大学蹴球部監督, 平成28年度 第65回全日本大学サッカー選手権大会, 優勝, 東京ほか, 2016年12月7~18日

助 教 齋 藤 卓

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文 (査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等)

濱崎裕介, 齋藤卓: あん馬における<正交差1/4ひねり倒立1/4ひねり逆把手に片腕支持逆交差入れ(ブライアン)>の技名表記と運動構造に関する問題提起. *研究部報 (体操協会)*, 115, 151-157,

2016年6月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学体操競技部男子コーチ

第67回全日本学生体操競技選手権大会，福井県，2016年8月19日～20日

男子団体総合3位.

宮地秀享，個人総合5位.

小森敬介，種目別跳馬優勝.

宮地秀享，種目別平行棒3位.

第67回全日本体操種目別選手権，東京，2016年6月5日

小島廉生，ゆか5位.

宮地秀享，鉄棒5位.

ワールドカップカタール大会，カタール，2017年3月22日～25日

小宮修雅，ゆか21位.

小宮修雅，平行棒12位.

小宮修雅，鉄棒12位.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体操協会オリンピック委員会強化スタッフ（U-21）（平成23年～）

国際体操連盟国際審判員（平成25年～）

助 教 嶋 崎 達 也

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Ogaki, R., Takemura, M., **Shimasaki T.**, Nagai, S., Imoo, Y., Takaki, S., Furukawa, T., Miyakawa, S.:
Risk assessment of shoulder injuries using preseason muscle strength tests in collegiate
rugby union players. *Football Science*, 13: 36-43, 2016-10.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Washiya, K., Ogaki, R., Kiuchi, M., Chiba, G., **Shimasaki, T.**, Iwai, Y., Koyanagi, R.: A study of the “ideal
coach” for elite level rugby football players in Japan. European College of Sport Science,
Austria, 2016-6.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-4. ポスター発表

嶋崎達也，千葉剛，古川拓生，中川昭：ラグビーの世界トップレベルでのラックにおけるボール争奪の現状. 第27回日本コーチング学会大会，東京，2016年3月.

嶋崎達也：ラグビーにおけるラックからのエリア別の攻撃様相について. 第28回日本コーチング学会大会，東京，2017年3月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

ラグビー部ヘッドコーチ

2015年度関東大学対抗戦，5位，2016年9月～12月

前田土芽，日本代表選出，韓国戦（2016年4月30日，5月21日），香港戦（2016年5月7日，5月28日）出場.

5. 公共機関，企業等からの委託業務（1.研究業績の“c-5”以外のもの）

日本ラグビーフットボール協会 リソースコーチ（2012年～）

助 教 吹 田 真 士

1. 研究業績

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

吹田真士，児島雄三郎，山本皓策：競技レベルの異なるバドミントン選手のストロークに伴う移動のフェイズ毎の速度変化の比較. 日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月.

児島雄三郎，藁科侑希，吹田真士：大学女子バドミントン競技者の最大酸素摂取量を評価するフィールドテストの開発. 日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月.

2. 教育活動

b. 小・中・高校の教科書，副教材等

吹田真士：バドミントン.ステップアップ中学体育2016，大修館書店，216-227，2016年3月.

吹田真士：バドミントン.ステップアップ高校スポーツ2016，大修館書店，236-247，2016年4月.

吹田真士：バドミントン.ステップアップ中学体育2017，大修館書店：216-227，2017年3月.

c. 学外の教育活動

「茨城県北茨城市バドミントン教室」指導（北茨城市，2016年8月）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

バドミントン部監督

タイオープンングランプリゴールド：日本，女子ダブルス（加藤・柏原組），第3位，2016年10月

2016年度関東大学バドミントン春季リーグ戦，女子1部優勝，2016年4～5月。
2016年度日本ランキングサーキット大会，女子ダブルス（加藤・柏原組），第3位，2016年5月。
第58回東日本学生バドミントン選手権大会，女子団体監督，2016年9月。
2016年度関東大学バドミントン秋季リーグ戦，女子1部優勝，2016年9月。
第67回全日本学生バドミントン選手権大会，女子団体優勝，2016年10月。
第67回全日本学生バドミントン選手権大会，大久保淳美，女子シングルス第3位，2016年10月。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本バドミントン協会普及指導開発部部員（2003年～）

関東学生バドミントン連盟常任役員（2016年～）

全日本学生バドミントン連盟代議員（2016年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

茨城国体2019に向けた強化練習会（毎月1回）

鹿児島国体2020に向けた強化練習会（2月1回程度）

その他，日本バドミントン協会の公認コーチ養成講習会講師，資格更新の義務研修会講師など

助 教 仙 石 泰 雄

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kobayashi, K., Takagi, H., Tsubakimoto, S., *Sengoku, Y.: Activation pattern of trunk, thigh and lower leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, Tsukuba, 711-714, 2016-7.

Shimojo, H., Murakawa, R., Sengoku, Y., Sakakibara, J., Tsubakimoto, S., Takagi, H.: A Flow Visualization of undulatory underwater swimming -A pilot study of three dimensional analysis. *34th International Conference on Biomechanics in Sports*, Tsukuba, 953-955, 2016-7.

Nakamura, K., Sengoku, Y., Ogata, H., Watanabe, K., Shirai, Y., Nabekura, Y.: Blood glucose and lactate kinetics during an incremental running test in endurance runners, *International Journal of Sport and Health Science*, 14: 11-20, 2016-9.

Fujimoto, T., Sasaki, Y., Wakabayashi, H., Sengoku, Y., Tsubakimoto, S., Nishiyasu, T.: Maximal workload but not peak oxygen uptake is decreased during immersed incremental exercise at cooler temperatures, *European Journal of Applied Physiology*, 116-9: 1819-1827, 2016-9.

Kobayashi, K., Takagi, H., Tsubakimoto, S., *Sengoku, Y.: Suitability of electrodes waterproofing treatment in underwater surface electromyography measurement, *The Bulletin of Faculty of Health and Sport Sciences*, 40: 65-70, 2017-3.

a-1-2. 和文のもの

小林啓介，下門洋文，高木英樹，椿本昇三，*仙石泰雄：エリート女性競泳選手の水中毒予防効果

クにおける体幹，大腿，下腿の筋活動様式，*体育学研究*，61：185-195，2016-6.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Kobayashi, K., Takagi, H., Tsubakimoto, S., **Sengoku, Y.**: Activation pattern of trunk, thigh and lower leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. 34th International Society of Biomechanics in Sport Conference, Tsukuba, 2016-7.

Shimojyo, H., Murakawa, R., **Sengoku, Y.**, Sakakibara, J., Tsubakimoto, S., Takagi, H.: A flow visualization of undulatory underwater swimming. 34th International Society of Biomechanics in Sport Conference, Tsukuba, 2016-7.

Wakabayashi, H., Osawa, M., Li, K., Sakaue, H., **Sengoku, Y.**: Pulmonary oxygen uptake kinetics and tissue oxygenation during exercise with hypothermic skeletal muscle in human. 6th International Conference on the Physiology and Pharmacology of Temperature Regulation, Ljubljana, 2016-12.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

若林斉，大澤瑞樹，李柯，坂上輝将，**仙石泰雄**：骨格筋冷却下で行う乳酸閾値強度自転車運動時に見られる代謝応答．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

成田健造，**仙石泰雄**，椿本昇三，高木英樹：クロール泳における泳速度の違いが自己推進時抵抗とストローク変数に及ぼす影響について．日本水泳・水中運動学会2016年次大会，東京，2016年10月．

c-1-2-4. ポスター発表

仙石泰雄，徳永祐一，武田紘平，武政徹：一過性のシトルリン摂取が競泳インターバルトレーニング中の泳パフォーマンスに及ぼす効果．第71回日本体力医学会大会，岩手，2016年9月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「新日本スポーツ連盟東京都連盟東京水泳協議会水泳技術講習会 楽にかっこよく泳ぐバタフライ・スマートバタフライを習得しよう！」指導（東京都，2017年1月8日）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

水泳部競泳 コーチ

第92回日本選手権水泳競技大会兼リオデジャネイロ五輪選考会，東京，2016年4月4～10日

金子雅紀，男子100m背泳ぎ 6位．

金子雅紀，男子200m背泳ぎ 2位．

山田泰也，男子200m個人メドレー 7位．

諸貫瑛美，女子100m背泳ぎ 3位．

小林明日香，女子100mバタフライ 6位．

第58回日本選手権（25m），東京，2016年10月25，26日

三浦遼，男子200m自由形 7位．

金子雅紀, 男子100m背泳ぎ 1位.
金子雅紀, 男子200m背泳ぎ 1位.
渡会舜, 男子200mバタフライ 5位.
山田泰也, 男子100m個人メドレー 8位.
諸貫瑛美, 女子50m背泳ぎ 2位.
諸貫瑛美, 女子100m背泳ぎ 1位.
岸愛弓, 女子100m平泳ぎ 7位.
平山友貴奈, 女子50mバタフライ 2位.
小林明日香, 女子50mバタフライ 3位.
小林明日香, 女子100mバタフライ 2位.

日本代表輩出コーチ

第31回オリンピック大会, リオデジャネイロ, 2016年8月10日,

金子雅紀, 男子200m背泳ぎ 準決勝11位.

第10回アジア選手権, 東京, 2016年11月17～20日

金子雅紀, 男子200m背泳ぎ 4位.

諸貫瑛美, 女子50m背泳ぎ 3位.

諸貫瑛美, 女子100m背泳ぎ 3位.

日本代表コーチ

第13回世界選手権 (25m), ウィンザー, 2016年12月6～11日

金子雅紀, 男子50m背泳ぎ, 準決勝13位.

金子雅紀, 男子100m背泳ぎ, 準決勝9位.

金子雅紀, 男子200m背泳ぎ, 決勝3位.

諸貫瑛美, 女子50m背泳ぎ, 予選20位.

諸貫瑛美, 女子100m背泳ぎ, 準決勝10位.

小林明日香, 女子50mバタフライ, 予選21位.

小林明日香, 女子100mバタフライ, 準決勝16位.

水泳部競泳, 監督

第91回, 日本学生選手権水泳競技大会, 東京, 2016年9月2～4日

大久保琳太郎, 男子100m平泳ぎ, 7位.

大久保琳太郎, 男子200m平泳ぎ, 4位.

安藤一步, 男子100mバタフライ, 8位.

渡会舜, 男子200mバタフライ, 6位.

瀬戸吟次, 男子200m個人メドレー, 5位.

山田泰也, 男子20m個人メドレー, 6位.

岡野圭穂, 女子50m自由形, 4位.

平山友貴奈, 女子50m自由形, 7位.

齋藤ゆり子, 女子200m背泳ぎ, 4位.

岸愛弓, 女子100m平泳ぎ, 6位.

平山友貴奈, 女子100mバタフライ, 3位.

齋藤ゆり子, 女子200m個人メドレー, 5位.

岸本・大西・岡野・平山, 女子400mリレー, 3位.

岸本・大西・平山・齋藤, 女子800mリレー, 3位.

西脇・岸・平山・岸本，女子400mメドレーリレー，3位。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本水泳連盟科学委員（2011年～）

日本オリンピック委員会強化スタッフ（コーチングスタッフ）（2011年～）

日本スイミングクラブ協会理事（2013年～）

茨城県水泳連盟競技力向上アドバイザー（2011年～）

筑波スポーツ科学研究所客員研究員（2011年～）

助教 奈良隆章

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

小倉圭，島田一志，金堀哲也，野本亮希，**奈良隆章**，川村卓：野球内野手における通常のごろおよびイレギュラーバウンドに対するゴロ捕球動作に関するキネマティクスの研究：上位群と下位群間の下肢および体幹の動作の比較. *体育学研究*，61-1：59-74，2016年6月。

奈良隆章，金谷麻理子，嵯峨寿，松元剛，木内敦詞：テキストマイニングによる大学体育授業の教育目標に関する肯定的認知度分析. *大学体育研究*，9：45-52. 2017年3月。

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

木内敦詞，松元剛，日野克博，富川理充，**奈良隆章**：大学体育の成績評価を考える. *大学教育学会誌*，38-2：113-117，2016年11月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

壺内浩紀，**奈良隆章**，川村卓，川口啓太：高校野球の指導と活動の現状について～北海道地区に着目して～. 日本野球科学研究会第4回大会，東京，2016年12月。

堀内賢，川村卓，**奈良隆章**，中田真之，鶴澤大樹：投球動作における肩甲骨の可動性とパフォーマンスの関係について. 日本野球科学研究会第4回大会，東京，2016年12月。

奈良隆章：筑波大学における成績評価の現状と課題. 大学教育学会第38回大会，大阪，2016年6月。

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学野球部助監督

2016年首都大学野球春季リーグ戦，2位

4. 社会貢献活動

c. ボランティア活動

c-4. その他（詳しくお書きください）

平成28年度筑波大学社会貢献プロジェクト 復興作業およびスポーツ振興を通じた被災地での支援活動：岩手県・大船渡市：2017年2月18日～19日

助 教 ネメシュ ローランド

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Miller, A., Harvey, S., Morley, D., **Nemes, R.**, Janes, M., Eather, N.: Exposing athletes to playing form activity: outcomes of a randomized control trial among community netball teams using a game-centred approach. *Journal of Sport Sciences*, 35-18: 1846-1857, 2016-10 (Epub).

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

長野翔大, **Nemes Roland**, 藤本元, 會田宏：日本とドイツにおけるハンドボールの一貫指導プログラムに関する比較研究. 日本体育学会第67回大会, 大阪, 2016年8月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

ハンドボール男子日本代表 コーチ

第25回男子世界選手権大会, 第22位, フランス, 2017年1月11日～29日.

第17回アジア選手権大会, 第3位, バーレーン, 2016年1月15日～28日.

ハンドボールU-24男子代表 監督

世界学生選手権大会, 第2位, スペイン, 2016年6月27日～7月3日.

男子ハンドボール部 コーチ

関東学生ハンドボール春季リーグ戦, 第2位, 2016年4月16日～5月21日.

関東学生ハンドボール秋季リーグ戦, 優勝, 2016年8月26日～9月25日.

2016全日本学生ハンドボール選手権大会, 出場, 2016年11月19日～23日.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

財団法人日本ハンドボール協会参事 (2009年～)

日本ハンドボール学会理事 (2014年～)

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

日比敦史, 永野翔大, 藤本元, 會田宏: 大学男子ハンドボールチームにおける情報分析活動の改善に関する事例報告: 筑波大学男子ハンドボール部の2015年の活動を対象に. ハンドボールリサーチ, 5: 25-34, 2016年12月.

仙波慎平, 藤本元, 山田永子, 會田宏: 中学男子ハンドボール競技における大会使用球の変更がゲーム様相に与える影響. ハンドボールリサーチ, 5: 35-42, 2016年12月.

藤本元, 中村剛: ボールゲームにおける監督の状況把握能力に関する研究—ハンドボール競技を例証として—. スポーツ運動学研究, 29, 45-62, 2017年3月.

永野翔大, 藤本元, 會田宏: 男子ハンドボール競技におけるバックコートプレイヤーの有効的なフェイントプレー—日本代表選手と韓国代表選手とを比較して—. 大学体育研究, 39, 19-28, 2017年3月.

仙波慎平, 小俣貴洋, 藤本元, 會田宏: 大学女子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での有効な防御方法. いばらき健康・スポーツ科学, 33, 9-16, 2017年3月.

b. 著書（翻訳, 監修, 編集を含む）

b-2. 和文のもの

藤本元, 田中守, 田口隆, 田村修治: ハンドボールレクニカルレポート2015（編集・執筆）. 日本ハンドボール協会, 2016年8月.

藤本元, 田中守, 田口隆, 田村修治: 【別冊】ハンドボールレクニカルレポート2015（編集・執筆）. 日本ハンドボール協会, 2016年8月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

永野翔大, ネメシュローランド, 藤本元, 會田宏: 日本とドイツにおけるハンドボールの一貫指導プログラムに関する比較研究. 第67回日本体育学会, 大阪, 2016年10月.

佐藤奏吉, 藤本元: 世界トップレベルの男子ハンドボール競技における6:0防御の戦術的特徴—インサイドディフェンダーとハーフディフェンダーの防御行動に着目して—. 第5回日本ハンドボール学会, 東京, 2016年2月.

c-1-2-4. ポスター発表

岡部正明, 濱谷奎介, 藤本元, 鍋倉賢治: 高強度インターバルトレーニングの負荷特性—. 第70回日本体力医学会, 岩手, 2016年9月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学男子ハンドボール部監督

関東学生ハンドボール春季リーグ 1部, 5位, 2016年4月16日～5月21日.

関東学生ハンドボール春季リーグ 1部, 1位, 2016年8月27日～9月24日.

全日本学生ハンドボール選手権大会，ベスト8，2016年11月19日～23日。

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本ハンドボール学会 理事（2012年～）

日本ハンドボール協会 参事 指導委員長（2015年～）

助 教 洪 性 賛

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Goff, J.E., Hobson, C.M., Asai, T., **Hong, S.**: Wind-tunnel experiments and trajectory analyses for five non-spinning soccer balls. *Procedia Engineering*, 147: 32-37, 2016-6.

Sakamoto, K., Numazu, N., **Hong, S.**, Asai, T.: Kinetics analysis of instep and side-foot kick in female soccer players. *Procedia Engineering*, 147: 214-219, 2016-6.

Asai, T., **Hong, S.**, Ijuin, K.: Flow visualization of downhill ski racers using computational fluid dynamics. *Procedia Engineering*, 147: 44-49, 2016-6.

Hong, S., Nobori, R., Sakamoto, K., Koido, M., Nakayama, M., Asai, T.: Experiment of aerodynamic force on a rotating soccer ball. *Procedia Engineering*, 147: 56-61, 2016-6.

Asai, T., **Hong, S.**: Try to understand knuckling effect ball in soccer. *Proceedings of the International Congress on High-speed Imaging and Photonics*, 804-808, 2016-11.

Hong, S., Asai, T.: Effects of dimple on soccer ball aerodynamics. *Proceedings of the International Congress on sport sciences research and technology support*, 5-7, 2016-11.

Hong, S., Asai, T.: Surface texture effects on the drag crisis for soccer balls. *Proceedings of the International conference in sports science and technology*, 120-125, 2016-12.

Asai, T., **Hong, S.**, Ijuin, K.: Flow visualisation of downhill skiers using the lattice Boltzmann method. *European Journal of Physics*, 38: 024002, 2017-3.

Asai, T., **Hong, S.**: Investigation of kinematics of knuckling shot in soccer. *Proc. of SPIE*, 10328: 103281S, 2017-3.

a-1-2. 和文のもの

浅井武，**洪性賛**，瀬尾和哉：サッカーボールの空力。宇宙航空研究開発機構特別資料：風洞技術の開発と応用シンポジウム講演集：第1回-第4回，JAXA-SP-15-021，43-48，2016-3。

a-1-3. その他の外国語のもの

Hong, S., Asai, T.: Aerodynamics on official soccer balls using korea leagues. *Korean Journal of Science and Football*, 5: 17-21, 2016-12.

Hong, S., Sakamoto, K., Oshima, T., Lee, K., Nakayama, M., Koido, M., Asai, T.: Aerodynamic analysis of vortex trajectory of soccer ball. *Korean Journal of Science and Football*, 5: 23-29, 2016-12.

b. 著書（翻訳，監修，編集を含む）

b-3. その他の外国語のもの

Hong, S.: Chapter 8, Aerodynamics of modern soccer ball. Decyphering the 12 codes of Korean Football, 227-244, Namuwasup, 2016-5.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-1. 基調講演

Asai, T., **Hong, S.:** Directions for sport research as a multi-disciplinary subject. 28th International Sport Science Congress, Korea, 2016-8.

c-1-1-2. 特別・招待講演

Hong, S.: Influence of surface roughness on the aerodynamics of soccer balls. KSSF International Workshop Science and Football 2016, Korea, 2016-12.

Hong, S.: Aerodynamics of soccer ball. 1st Japan-Korea joint conference on science and football, Fukuoka, 2016-10.

Asai, T., **Hong, S.:** Sports fluid dynamics: aerodynamics of sports balls. 34th International Conference of Biomechanics in Sport, Tsukuba, 2016-7.

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Goff, J.E., Hobson, C.M., Asai, T., **Hong, S.:** Wind-tunnel experiments and trajectory analyses for five non-spinning soccer balls. 11th conference of the International Sports Engineering Association, Netherlands, 2016-7.

Sakamoto, K., Numazu, N., **Hong, S.**, Asai, T.: Kinetics analysis of instep and side-foot kick in female soccer players. 11th conference of the International Sports Engineering Association, Netherlands, 2016-7.

Asai, T., **Hong, S.**, Ijuin, K.: Flow visualization of downhill ski racers using computational fluid dynamics. 11th conference of the International Sports Engineering Association, Netherlands, 2016-7.

Hong, S., Asai, T.: Effects of dimple on a soccer ball flight. 21st Annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

Hong, S., Asai, T.: Effects of dimple on soccer ball aerodynamics. 4th International Congress on sport sciences research and technology support, Portugal, 2016-11.

Asai, T., **Hong, S.:** Try to understand knuckling effect ball in soccer. 31st International Congress on High-Speed Imaging and Photonics, Osaka, 2016-11.

Hong, S., Asai, T.: Surface texture effects on the drag crisis for soccer balls. 2th International conference in sports science and technology, Singapore, 2016-12.

c-1-1-4. ポスター発表

Hong, S., Nobori, R., Sakamoto, K., Koido, M., Nakayama, M., Asai, T.: Experiment of aerodynamic force on a rotating soccer ball. 11th conference of the International Sports Engineering Association, Netherlands, 2016-7.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

洪性賛，浅井武：新デザインサッカーボールの空力特性．第26回日本MRS学会年次大会，横浜，2016年12月．

c-2. 研究成果に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送

「スキーダウンヒールのスポーツ科学」，MBC（韓国文化放送局），2017年2月24日．

「スキーダウンヒールにおける空気抵抗」，韓国毎日経済新聞，2017年1月23日．

「The secret of Olympic gold? Stunning pictures reveal the airflow around downhill skiers as they descend」，Daily Mail(UK)，2017年1月17日．

「スキー滑降の空気抵抗，下腿部に最大発生」，日刊工業新聞，2017年1月17日．

「Computational modeling reveals anatomical distribution of drag on downhill skiers」，PHYS.ORG，2017年1月16日．

c-3. 研究成果に関するプレスリリース（筑波大学，所属学会，協会等によるもの）

「アルペンスキー競技ダウンヒルにおいてレーサーが受ける空気抵抗は下腿部が最大～身体部位ごとの空力特性を初めて解明～」（筑波大学，2017年1月6日）

「Computational Modeling Reveals Anatomical Distribution of Drag on Downhill Skiers」（筑波大学，2017年1月6日）

c-4. 研究成果による受賞

第26回日本MRS年次大会 奨励賞（受賞論文：Aerodynamic characteristics of new design soccer balls. 2017年2月.）

2. 教育活動

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「冬オリンピックとスポーツ工学」SIRI.or.kr，2016年10月19日．

「ワールドカップ，そしてサッカー科学」SIRI.or.kr，2017年3月9日．

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

韓国サッカー科学会 理事（2017年～）

c. ボランティア活動

c-2. スポーツ大会などのイベントでの審判や医療スタッフ，大会運営など

「第4回筑波大・ソウル大教職員サッカー交流試合」の準備および運営，通訳：韓国・ソウル市：7月29～31日

「第33回筑波大・ソウル大サッカー交流戦」の準備および運営，通訳：韓国・ソウル市：7月27～30日

「第1回，ユースサッカー交流（韓国KMG-日本トラウム）」の準備および運営，通訳：日本・つくば市：8月3～6日

助教 山田 永子

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

仙波慎平, 藤本元, 山田永子, 會田宏: 中学男子ハンドボール競技における大会使用球の変更がゲーム様相に与える影響. *ハンドボールリサーチ*, 5: 35-42, 2016年12月.

伊東裕希, 山田永子, 會田宏: 男子ハンドボール競技における世界トップレベルのセンタープレーヤーのシュートプレーの特徴: N.カラバティッチ (フランス代表) と D.ドゥデアー (スウェーデン代表) の2選手に着目して. *いばらき健康・スポーツ科学*, 33: 29-38, 2017年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

下拂翔, 永野翔大, 山田永子, 會田宏: ハンドボール競技における若手コーチの省察を深める方法に関する事例報告. *日本体育学会第67回大会*, 大阪, 2016年8月.

仙波慎平, 山田永子: 中学男子ハンドボール競技におけるボール規格の変更がゲーム様相に与える影響. *日本ハンドボール学会第4回大会*, 東京, 2016年2月.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

女子ハンドボール部監督

関東学生ハンドボール連盟春季リーグ戦, 2位, 2016年4月23日～5月22日

関東学生ハンドボール連盟秋季リーグ戦, 2位, 2016年9月3～25日

全日本学生ハンドボール選手権大会, 3位, 2016年11月19～23日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

国際ハンドボール連盟 Handball at school 講師 (2011年～)

日本コーチング学会理事 (2015年～)

日本ハンドボール学会理事 (2012年～)

日本ハンドボール学会編集委員長 (2016年～)

助教 渡邊 仁

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

渡邊仁: 継続型登山授業における登山初心者の基礎装備に対する意識変化. *野外教育研究*, 18-2, 2016

年1月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会 (要件: 50人以上参加, 3カ国以上参加, 1日以上開催のすべてを満たすか, 国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議)

c-1-1-3. 一般口述発表 (口頭発表)

Yoshizawa, N., **Watanabe, H.**: The Thinking Process in the Solo Experience. 6th Asia Oceania Camping
Congress, Tokyo, 2016-10.

Sato, F., **Watanabe, H.**, Imura, H., Ozaki, T.: Autobiographical Memories of an Outdoor Education
Program for Associates Training: Exploring Narratives and Memory Characteristics. 6th Asia
Oceania Camping Congress, Tokyo, 2016-10.

c-1-1-5. 企画運営を行った国際学会

Watanabe, H. (Executive Committee): 6th Asia Oceania Camping Congress, Tokyo, 2016-10-28 to 11-1.
参加者人数: 約400名, 参加国数: 12カ国.

c-1-2. 国内学会・研究会

c-1-2-3. 一般口述発表 (口頭発表)

佐藤冬果, **渡邊仁**, 井村仁, 尾崎智哉: 社員研修としての野外教育プログラムに関する自伝的記憶. 日
本野外教育学会第19回大会, 静岡, 2016年10月.

坂本昭裕, 大友あかね, **渡邊仁**, 吉松梓, 向後佑香, 坂谷充: 野外教育における心理臨床的アプローチ
—発達障害の子どもの社会化と個性化—. 日本野外教育学会第19回大会, 静岡, 2016年10月.

c-1-2-4. ポスター発表

大関久仁, **渡邊仁**: 森のようちえん活動が幼児の体力に及ぼす影響. 第20回日本キャンプミーティング,
東京, 2016年6月.

吉沢直, **渡邊仁**: オフザピッチトレーニングとしての雪上野外研修プログラムの実践. 第20回日本キャン
プミーティング, 東京, 2016年6月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

大学スキー研究会「平成27年度大学体育スキー指導者研究集会 スノーボード」講師 (上田市, 2016
年1月3日~6日)

立正大学サッカー部「雪上野外研修プログラム」講師 (南会津町, 2016年2月27日~3月1日)

立正大学サッカー部「野外研修プログラム (ASE)」講師 (つくば市, 2016年3月10日)

TOEL「南会津スキーキャンプ」実施責任者 (南会津町, 2016年3月26日~29日)

下條整形外科「野外研修プログラム」講師 (つくば市, 2016年4月7日)

公益財団法人日本サッカー協会「公認S級コーチ養成講習会野外研修」講師 (行方市, 2016年5月15日)

TOEL「南会津アドベンチャーキャンプ」実施責任者 (南会津町, 2016年7月31日~8月5日)

TOEL「南会津チャレンジキャンプ」実施責任者 (南会津町, 2016年8月7日~10日)

船橋市立船橋高等学校女子サッカー部「野外研修プログラム」講師 (つくば市, 2016年8月23日)

大学スキー研究会「平成28年度大学体育スキー指導者研究集会 スノーボード」講師 (上田市, 2017
年1月3日~6日)

立正大学サッカー部「野外研修プログラム (ソロ)」講師 (藤岡市, 2017年2月27日~28日)

立正大学サッカー部「野外研修プログラム (ASE)」講師 (つくば市, 2017年3月10日)

d. 教育活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

「健康応援サイクリングガイド」に対するコメント（茨城県）2016年5月

「書評 公益財団法人全日本スキー連盟（2016）：日本スキー教程 安全編」（日本スキー学会シーハイル）
2017年3月

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本野外教育学会事務局（2011年～）

大学スキー研究会常任幹事（2015年～）

日本野外教育学会理事（2012年～）

日本スキー学会理事（2012年～）

公益社団法人日本キャンプ協会運営委員（2012年～）

常総市復興計画策定委員会アドバイザー（2016年）

日本スキー学会第26回大会組織委員（2016年3月）

公益社団法人日本キャンプ協会 Camp Meeting in Japan 2016 実行委員（2016年6月）

日本スキー学会2016年度秋季大会実行委員長（2016年9月）

第6回アジア・オセアニア・キャンプ会議2016 実行委員（2016年10月）

日本スキー学会第27回大会組織委員（2017年3月）

特任助教 岡野 憲 一

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

岡野憲一，山中浩敬，内藤景，谷川聡：エリート男子バレーボール選手における身長と跳躍能力に関する研究．*コーチング学研究*，29-2：149-159，2016年3月．

岡野憲一，谷川聡：国内トップリーグ男子バレーボール選手における一側性トレーニングが両側性筋力および跳躍能力に及ぼす影響．*東京体育学研究*，17：25-30，2016年3月．

岡野憲一，谷川聡：準備期におけるウエイトトレーニングと自転車トレーニングがエリートバレーボール選手の形態及び身体能力に及ぼす影響．*トレーニング科学*，27-3：55-66，2016年6月．

岡野憲一，谷川聡：バレーボール国内男子トップリーグの試合中における跳躍頻度に関する研究．*バレーボール研究*，18：27-31，2016年6月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

岡野憲一，谷川聡：跳躍力向上を目的としたクイックリフト・エクササイズの効果．日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月．

岡野憲一，谷川聡：トップレベル男子バレーボール選手に対する準備期における体力トレーニングの効果．日本バレーボール学会第21回大会，東京，2016年3月．

岡野憲一，九鬼靖太，谷川聡：跳躍遂行能力タイプの異なる男子バレーボール選手におけるトレーニング効果に関する研究．日本コーチング学会28回大会，東京，2017年3月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「日本アスレティックトレーニング学会・日本トレーニング指導学会 共催シンポジウム 競技特性に応じた体力トレーニング」(江東区，2016年8月2日)

「国際スポーツ医科学研究所主催 現場に役立つスポーツ医科学研究会 バレーボール」(江東区，2016年10月30日)

f. 学内で自主的に実施している「教室」(たとえば各種スポーツ競技に関するもの)

筑波大学TSAセミナー「トレーニング指導者に求められる資質とは」(2016年5月22日)

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本トレーニング指導者協会資格認定委員(2015年～)

特任助教 小野卓志

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文(査読無し論文など上記[a-1]に含まれない論文等)

川戸湧也，岡田弘隆，増地克之，**小野卓志**：柔道指導現場における「体罰」・「ハラスメント」ならびに「ドメスティックバイオレンス」の実態調査：大学生柔道選手を対象として．*武道学研究*，49-3，183-191，2017年3月．

b. 著書(翻訳，監修，編集を含む)

b-2. 和文のもの

小野卓志：大学生における実践的なコーチング法．*実践柔道論*，小俣幸嗣(編)，メディアバル，129-140，2017年3月15日．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会(上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表(口頭発表)

小野卓志，小林優希，岡田弘隆，横山喬之，石川美久，竹澤稔裕，増地克之：ガッツポーズに関する意識調査-武道に携わる大学生を対象として-．*日本武道学会第49回大会*，三重，2016年9月．

竹澤稔裕，窪田友樹，**小野卓志**，仲田直樹，佐藤武尊：高気圧高酸素条件下における運動時の生体応答：ミドルパワー発揮時の場合．*日本武道学会第49回大会*，三重，2016年9月．

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

豊里学園上郷小学校講演「オリンピック・パラリンピック教育全国展開事業」(つくば市，2017年1月28日)

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学柔道部コーチ

平成28年全日本柔道選抜体重別選手権大会63kg級，能智亜衣美，優勝，2016年4月2日

筑波大学柔道部監督

平成28年全日本ジュニア柔道選抜体重別選手権大会81kg級，佐々木健志，優勝，2016年9月11日

平成28年全日本学生柔道選抜体重別選手権大会63kg級，津金恵，優勝，2016年10月1日

平成28年全日本学生柔道選抜体重別選手権大会66kg級，田川兼三，優勝，2016年10月1日

平成28年全日本学生柔道選抜体重別選手権大会73kg級，竹内信康，優勝，2016年10月1日

平成28年講道館杯全日本柔道体重別選手権大会63kg級，能智亜衣美，優勝，2016年11月12日

c. 競技活動に関する新聞・テレビ・ラジオ等の掲載・放送（競技会等の解説を含む）

柔道グランドスラム東京2016（テレビ東京解説）2016年12月2-4日

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

全日本柔道連盟アスリート委員（2013年～）

c. ボランティア活動

c-4. その他（詳しくお書きください）

筑波大学社会貢献プロジェクト：「柔道の再興と武道必修化を支援する東北3県柔道指導キャラバン」
（2015年～）

特任助教 柏倉秀徳

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

町田洋介，内山治樹，吉田健司，池田英治，橋爪純，**柏倉秀徳**：バスケットボール競技におけるフローター・シュートのメカニズムと有用性に関する研究．*体育学研究*，61：301-318，2016年6月．

北村麻衣，内山治樹，**柏倉秀徳**：バスケットボールにおけるコオーディネーション・トレーニングの検証：大学女子選手を対象にして．*いばらき健康・スポーツ科学*，32：11-23，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

土肥崇史，内山治樹，**柏倉秀徳**：バスケットボール競技における速攻成立のための条件の検討．第28回日本コーチング学会兼第10回日本体育学会体育方法専門領域研究会，東京，2017年3月

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「2016茨城県県北地区バスケットボール教室」指導（日立市，2016年7月9日）

「練馬区立上石神井中学校講演 生き方に関する講演会」(練馬区, 2016年12月12日)

「文部科学省平成28年度指定 スーパーグローバルハイスクール トップアスリートによるグローバルセミナー」運動指導, 実技指導(浦和市, 2016年12月22日)

3. 競技活動

a. 自身の競技活動業績(自身の受賞を含む)

パスラボ山形ワイヴァンズ選手兼アシスタントコーチ(NATIONAL BASKETBALL DEVELOPMENT LEAGUE, 以下「NBDL」と略称), (~2016年4月30日)

b. 指導業績(部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

筑波大学女子バスケットボール部監督, 2017年2月~

筑波大学女子バスケットボール部コーチ, 2016年7月~2017年1月

第68回全日本大学バスケットボール選手権大会, 第7位(2016年11月)

第92回天皇杯・第83回皇后杯全日本総合バスケットボール選手権大会, ベスト16(2017年1月)

パスラボ山形ワイヴァンズ選手兼アシスタントコーチ, ~2016年4月30日

第91回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会, 出場(2016年1月)

NBDL, 2015-2016レギュラーシーズン, 4位(プレーオフ出場)(2016年3月)

特任助教 金堀哲也

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文(国際学会の査読付きProceedingsも含む)

a-1-1. 英文のもの

Okamoto, Y., Maehara, K., Kanahori, T., Hiyama, T., Kawamura, T., Minami, M.: Incidence of elbow injuries in adolescent baseball players: screening by a low field magnetic resonance imaging system specialized for small joints. *Jpn J Radiol*, 34-4: 300-306, 2016-4.

a-1-2. 和文のもの

小倉圭, 島田一志, 金堀哲也, 野本堯希, 奈良隆章, 川村卓: 野球内野手における通常のコロおよびイレギュラーバウンドに対するコロ捕球動作に関するキネマティクスの研究: 上位群と下位群間の下肢および体幹の動作の比較. *体育学研究*, 61-1, 59-74, 2016年6月.

金堀哲也, 谷川聡, 島田一志, 内藤景, 川村卓: 大学野球におけるレギュラー打者と非レギュラー打者のインパクトパラメーターに関する事例的研究: マシン打撃における試技結果および投射コースの比較から. *コーチング学研究*, 30-2, 167-178, 2017年3月.

b. 著書(翻訳, 監修, 編集を含む)

b-2. 和文のもの

立花龍司, 金堀哲也: プロ野球打者の共通フォーム&習得法. ベースボールマガジン社, 2016年2月.

金堀哲也: ピッチングの正体. *Hit & Run* (連載). ベースボールマガジン社, 2016年1月~2017年1月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会(上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む)

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

牧原武史，岡本嘉一，田中健太，吉沢和宏，前原淳，遠江知子，**金堀哲也**，小倉圭，井汲彰，山崎正志，宮川俊平：無症候学童期野球選手における投球側内側副靭帯損傷とadaptation-11ヶ月MRI追跡調査．第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会，福岡，2016年7月．

金堀哲也，馬見塚尚孝，小倉圭，川村卓：ジュニア期における打撃の長期的指導に関する事例的研究．第28回日本コーチング学会大会，東京，2017年3月．

c-1-2-4. ポスター発表

c-4. 研究成果による受賞

第8回日本コーチング学会優秀発表賞（受賞論文：ジュニア期における打撃の長期的指導に関する事例的研究．第8回日本コーチング学会大会，2017年3月．）

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）

「巨人軍監督，コーチ，選手，職員の野球の技術向上，動作解析とデータ分析の理解，コーチング技術などの向上の活動に関する学術指導」（株式会社 読売巨人軍）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「鹿児島県奄美市少年野球教室」指導（奄美市，2016年12月，延べ2日間）

「茨城県つくば市少年野球教室」指導（つくば市，2017年3月）

筑波大学エクステンションプログラム「お父さん・お母さんのための少年野球科学的コーチング講座」（つくば市，2017年1月～2月，延べ2回）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本コーチング学会幹事（2016年～）

c. ボランティア活動

c-1. 日常的，定期的な地域のスポーツクラブ等でのコーチや指導

春日学園少年野球クラブのコーチ：茨城県・つくば市：毎週1回

特任助教 **荻山靖**

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

内山治樹，阿江通良，中川昭，真田久，佐野淳，西嶋尚彦，有田祐二，齋藤卓，クラリックアンドレア，**荻山靖**，本谷聡，寺山由美，大山卞圭悟，木越清信，仙石泰雄，渡邊仁，吉田健司，中西康己，藤本元，中山雅雄，古川拓生，三橋大輔，吹田真士，安藤真太郎，川村卓，増地克之，香田郡秀，森俊男，池田英治：「実技検定」の運用とその評価（第2報）－「上級」モデルの検証－．筑波大学体育系紀要，39：23-34，2016年3月．

Kariyama, Y.: Relationships between lower-limb joint kinetics during the support phases of sprint running and rebound jumping. 筑波大学体育系紀要，39：53-56，2016年3月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

川原布紗子，林陵平，**荻山靖**，**関子浩二**：サッカー選手における後方への方向転換能力を評価するためのテスト法の開発．日本フットボール学会 13th Congress, 東京，2016年3月12日．

米原博章，北崎悦子，**荻山靖**，**関子浩二**：男子棒高跳選手におけるトレーニング経過とパフォーマンスの向上に関するコーチング学的研究－初心者から熟練者における技術の習得に着目して－．日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月15日．

米澤宏明，**荻山靖**，林陵平，**関子浩二**：三段跳において減速を少なくするための踏切動作：リバウンドロングジャンプテストを用いた評価．日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月15日．

平龍彦，**荻山靖**，吉田拓矢，戸邊直人，小山宏之，**関子浩二**：男子走高跳選手のパフォーマンスを決定する踏切動作パラメータ．日本コーチング学会第27回大会，東京，2016年3月15日．

c-4. 研究成果による受賞

日本コーチング学会第27回大会優秀発表賞（受賞発表：男子棒高跳選手におけるトレーニング経過とパフォーマンスの向上に関するコーチング学的研究－初心者から熟練者における技術の習得に着目して－．2016年3月）

日本コーチング学会第27回大会優秀発表賞（受賞発表：三段跳において減速を少なくするための踏切動作：リバウンドロングジャンプテストを用いた評価．2016年3月）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本体育学会 茨城地域 幹事/総務担当（2014年4月～）

特任助教 クラリク アンドレア

特任助教 小 林 啓 介

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Kobayashi, K., Takagi, H., Tsubakimoto, S., Sengoku, Y.: Activation pattern of trunk, thigh and lower leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. *International Society of Biomechanics in Sports-Conference Proceedings Archive, Tsukuba*, 2016-7.

a-1-2. 和文のもの

小林啓介，下門洋文，高木英樹，樺本昇三，仙石泰雄：エリート女性競泳選手の水の中ドルフィンキックにおける体幹，大腿，下腿の筋活動様式．*体育学研究*，61：185-195，2016年4月．

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Kobayashi, K., Takagi, H., Tsubakimoto, S., Sengoku, Y.: Activation pattern of trunk, thigh and lower
leg muscles during underwater dolphin kick in skilled female swimmers. International society
of biomechanics in sports conference, Tsukuba, 2016-7.

c-5. 公的機関あるいは企業等との共同研究，委託研究，これらからの研究助成，奨励金等（科研費を除く）
「速く泳ぐための水着に関する研究」（株式会社デサント）

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

茨城大学非常勤講師「健康とスポーツの科学」（日立市，2016年10月～12月）

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

筑波大学水泳部競泳ヘッドコーチ，2016年4月～9月

第92回日本選手権水泳競技大会，2016年4月4日～10日

山田泰也，200m個人メドレー7位.

ジャパンオープン2016(50m)，2016年5月19日～21日

山田泰也，200m個人メドレー5位.

第92回日本学生選手権水泳競技大会，2016年9月1日～3日

渡会舜，200mバタフライ6位.

瀬戸吟次，200m個人メドレー5位.

山田泰也，200m個人メドレー6位.

齋藤ゆり子，200m背泳ぎ4位.

齋藤ゆり子，200m個人メドレー5位.

岸本梨沙，大西綾香，岡野圭穂，平山友貴奈，400mフリーリレー3位.

岸本梨沙，大西綾香，平山友貴奈，齋藤ゆり子，800mフリーリレー3位.

女子総合3位.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

茨城体育学会 幹事担当（2016年4月～）

c. ボランティア活動

c-4. その他（詳しくお書きください）

茨城県ジュニアエリート競泳選手の体力測定補助（2012年～，12月に1回）

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

清水史郎，中野友博，黒澤毅，**坂谷充**：膝関節と股関節の屈曲・伸展による能動型ターンモデルの開発。
スキー研究，13：31-36，2016年11月。

金森雅夫，林綾子，**坂谷充**，水津真委：登山前後のヘモグロビンおよび動脈血酸素飽和度・SpO₂の変
化—自験例の再解析およびシステマティックレビュー—。登山医学，36：95-104，2016年12月。

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体
連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Sakatani, M., Sakamoto, A., Ohtomo, A., Nishijima, R.: THE DIFFERENCE OF FLOW
EXPERIENCES BETWEEN SKIERS AND SNOWBOARDERS IN JAPAN. 7th International
Congress on Science and Skiing, St. Christoph am Arlberg - Austria, 2016-12.

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-3. 一般口述発表（口頭発表）

坂谷充，坂本昭裕：中学校におけるスキー体験学習の効果。日本スキー学会第26回大会，山形，2016
年3月。

清水史郎，中野友博，黒澤毅，**坂谷充**：膝関節と股関節の屈曲・伸展による受動型ターンモデルの開発。
日本スキー学会第26回大会，山形，2016年3月。

大友あかね，坂本昭裕，**坂谷充**：長期キャンプにおける課題を抱える児童生徒の社会適応に関する研究。
日本野外教育学会第19回大会，静岡，2016年10月。

坂本昭裕，大友あかね，渡邊仁，吉松梓，向後佑香，**坂谷充**：自主企画シンポジウム「野外教育におけ
る心理臨床的アプローチ—発達障害の子どもの社会化と個性化—」。日本野外教育学会第19回大
会，静岡，2016年10月。

坂谷充，坂本昭裕，大友あかね：スノースポーツの楽しさに関する研究—スキーヤーとスノーボーダー
のフロー体験の比較—。日本スキー学会第27回大会，北海道，2017年3月。

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

立正大学サッカー部1年「野外研修プログラム」講師（つくば市，2016年3月8日）

とわの森三愛高校ソフトテニス部（男子）グループワークトレーニング講師（つくば市，2016年3月26
日）

JFAアカデミー福島（女子）「Outdoor Training Program」講師（つくば市，2016年4月29日）

日本サッカー協会「S級コーチ養成講習会」野外研修講師（行方市，2016年5月15日）

日本サッカー協会「役員・管理職研修」講師（つくば市，2016年7月1日）

藤村女子高等学校「キャンプ実習」講師（富士見町，2016年7月，延べ5日間）

Tsukuba Outdoor Education Lab. 「南会津チャレンジキャンプ」講師（南会津町，2016年8月，延べ4

日間)

2016年JOCナショナルコーチアカデミー「野外研修」講師（つくば市，2016年9月13日）

とわの森三愛高校「野外研修」講師（つくば市，2016年10月20日）

「日本オリンピックアカデミー第4回ユースセッションinつくば クーベルタン-嘉納ユースフォーラム
2016」野外活動講師（つくば市，2016年12月23日）

立正大学サッカー部「野外研修プログラム」講師（藤岡市，2017年2月，延べ2日間）

立正大学サッカー部1年「野外研修プログラム」講師（つくば市，2017年3月10日）

清瀬高校サッカー部「グループワークトレーニング」講師（つくば市，2017年3月26日）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

全国大学体育連合「第4回大学体育研究フォーラム」実行委員（2016年2月）

特任助教 田部井 祐 介

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-1. 英文のもの

Nakayama, M., Ogata, T., Haranaka, M., **Tabei, Y.**: Comparison of attacking plays in soccer games between Japanese and Spanish U12 players. *Football Science*, 14: 1-7, 2017-2.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-4. ポスター発表

Matsutake, T., Natsuhara, T., **Tabei, Y.**, Nakayama, M., Asai, T.: Brain information processing of football players during decision making. 21st annual congress of the European college of sport science, Vienna, 2016-7.

Tabei, Y., Matsutake, T.: Toward a performance self-evaluation tool for collegiate athletes. The 15th Hawaii international conference on education, Hawaii, 2017-1.

3. 競技活動

b. 指導業績（部長，監督，コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する）

・筑波大学体育会女子サッカー部 ヘッドコーチ

・大学女子サッカー地域対抗戦2017 関東B選抜 コーチ

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

・関東大学女子サッカー連盟理事（2014年～）

特任助教 角 川 隆 明

1. 研究業績

a. 論文

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

角川隆明：水球選手の巻き足中に発揮される流体力の推定．筑波大学体育系研究紀要，39：57-60，2016年3月．

角川隆明，高木英樹．：圧力センサーを用いた泳動作の測定．バイオメカニクス研究，19：218-224，2016年3月．

特任助教 内 藤 景

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

山元康平，内藤景，宮代賢治，関慶太郎，上田美鈴，木越清信，大山下圭悟，宮下憲，尾縣貢：男子400m走におけるパフォーマンス向上に伴うレースパターンの変化．陸上競技学会誌，14：9-18，2016年3月．

宮崎利勝，高橋和将，平山大作，内藤景，阿江通良，大山下圭悟：円盤投げにおける体幹の捻転動作が円盤の初速度に与える影響．陸上競技学会誌，14：19-26，2016年3月．

a-1-3. その他の外国語のもの

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

内藤景，谷川聡：日本人スプリンターにおけるピッチ・ストライド特性を踏まえた100m走パフォーマンスの評価．陸上競技研究，104-1：2-13，2016年3月．

特任助教 中 野 美 沙

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

広瀬健一，大山下圭悟，前田奎，梶谷亮輔，山元康平，中野美沙，木越清信，尾縣貢：ハンマー投のターン時間と投てき記録との関係．陸上競技研究，2016-2，24-29，2016年6月．

関慶太郎，鈴木一成，山元康平，加藤彰浩，中野美沙，青山清英，尾縣貢，木越清信：小学校5，6年生男子児童における短距離走の回復脚の動作と疾走速度との関係：回復脚の積極的な回復と膝関節の屈曲はどちらを優先して習得すべきか．体育学研究，61-2，743-753，2016年12月．

前田奎，大山下圭悟，広瀬健一，山元康平，梶谷亮輔，中野美沙，木越清信，尾縣貢：女子円盤投における投てき動作の所要時間と投てき記録との関係．陸上競技研究，2017-1，14-22，2017年3月．

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

中野美沙，大山下圭悟，尾縣貢：女子やり投げ競技者における下肢のトレーニングがやり投げの投擲動

作に与える影響. いばらき健康・スポーツ科学, 32, 59-63, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-2. 国内学会・研究会（上記「国際学会」の要件に当てはまらない学会を含む）

c-1-2-4. ポスター発表

中野美沙, 梶谷亮輔, 木越清信: 男子走幅跳競技者におけるジャンプ能力とパフォーマンスとの関係.
陸上競技学会第15回大会, 岡山, 2016年12月.

2. 教育活動

c. 学外の教育活動

「桐蔭総合大学」(和歌山県立桐蔭高等学校) 講師 (和歌山市, 2016年3月22日)

「桐蔭総合大学」(和歌山県立桐蔭高等学校) 講師 (和歌山市, 2017年3月15日)

3. 競技活動

b. 指導業績 (部長, 監督, コーチなど役割および指導対象者の受賞を記載する)

陸上競技部アシスタントコーチ

第17回アジアジュニア陸上競技選手権大会, ベトナム, 6月3～6日

関口清乃, 女子ハンマー投4位.

2016日本学生陸上競技個人選手権大会, 神奈川, 6月10～12日

村澤雄平, 男子やり投8位. 辻川美乃利, 女子円盤投5位. 関口清乃, 女子ハンマー投5位.

江原宇宙, 女子ハンマー投7位. 後藤明日香, 女子やり投7位.

第100回日本陸上競技選手権大会, 愛知, 2016年6月24～26日

森下大地, 男子砲丸投7位. 辻川美乃利, 女子円盤投5位. 勝山眸美, 女子ハンマー投3位.

久世生宝, 女子やり投5位.

第3回日中韓3カ国交流陸上競技大会, 韓国, 7月3日.

久世生宝, 女子やり投5位.

秩父宮賜杯第56回実業団・学生対校陸上競技大会, 神奈川, 7月23日

勝山眸美, 女子ハンマー投1位.

天皇賜杯第85回日本学生陸上競技対校選手権, 埼玉, 9月2～4日

森下大地, 男子砲丸投2位. 赤間祐一, 男子砲丸投6位. 齋藤友里, 女子砲丸投7位. 辻川美乃利, 女子円盤投2位.

半田水晶, 女子円盤投5位. 勝山眸美, 女子ハンマー投1位. 関口清乃, 女子ハンマー投3位.

久世生宝, 女子やり投5位.

第71回国民体育大会, 岩手, 10月7～11日

勝山眸美, 成年女子ハンマー投2位. 久世生宝, 成年女子やり投4位.

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員, 役員

日本陸上競技学会幹事 (2014年～)

日本陸上競技連盟強化委員会男女やり投コーディネーター (2017年～)

1. 研究業績

a. 論文

a-1. 査読付き学術論文（国際学会の査読付き Proceedings も含む）

a-1-2. 和文のもの

朴京眞, 平山素子, 寺山由美, 関子美和, 米澤麻佑子: ダンスの授業を選択した大学生のもつダンスのイメージのテキストマイニング分析—大学体育におけるダンス授業のあり方の検討—. *大学体育研究*, 39: 29-44, 2017年3月.

a-2. その他の論文（査読無し論文など上記 [a-1] に含まれない論文等）

朴京眞: 教員養成課程におけるダンス授業のあり方に関する一考察—T大学の「ダンス実技」の授業を事例に—. *体育大学体育系紀要*, 39: 61-70, 2016年3月.

c. その他

c-1. 研究発表

c-1-1. 国際学会（要件：50人以上参加，3カ国以上参加，1日以上開催のすべてを満たすか，国際団体連合UIAまたは国際会議協会ICCA加盟団体の会議）

c-1-1-3. 一般口述発表（口頭発表）

Park, K.: Exemplary dance lessons in teacher training courses in Japan –A case study. 14th Annual conference of the Hawaii International conference on education, Hawaii, 2016-1.

Park, K.: Case Study of Creative Dance Teaching Methods in Japanese Teacher Education Programs: Focusing on the Use of Objects for Expression. 21th Annual Congress of the European College of Sport Science, Vienna, 2016-7.

c-4. 研究成果による受賞

2016年度第30回河本体育科学研究奨励賞（受賞論文：日韓の新ナショナルカリキュラムにおけるダンスに関する内容の具体化と比較検討：韓国の「体育」教科書を用いて．*体育学研究*, 60 (2): 715-736. 2016年11月）

2016年度浅田学術奨励賞（体育科教育学分野）（受賞論文：日韓の新ナショナルカリキュラムにおけるダンスに関する内容の具体化と比較検討：韓国の「体育」教科書を用いて．*体育学研究*, 60 (2): 715-736. 2016年8月）

4. 社会貢献活動

b. 公共機関あるいは私企業等の委員，役員

日本女子体育連盟「女子体育」編集委員（2014年～）

舞踊学会定例研究会委員（2016年～）

索引

体育・スポーツ学分野

氏名	頁
岡出美則	1
菊幸一	2
齋藤健司	5
酒井利信	6
坂入洋右	8
真田久	10
清水諭	13
清水紀宏	14
中込四郎	16
松村和則	16
柳沢和雄	16
ラクワールランディープ	18
ウバイドゥロエフズバイドゥロ	20
大石純子	21
齊藤まゆみ	22
嵯峨寿	25
澤江幸則	25
高橋義雄	30
仲澤眞	31
長谷川悦示	32
深澤浩洋	34
三木ひろみ	34
三田部勇	35
宮崎明世	36
リラスアレキシス	38
金子史弥	39
國部雅大	39
成瀬和弥	41
山口拓	41
李燦雨	42
荒牧亜衣	44
笠野英弘	45
下竹亮志	45
松畑尚子	46
村上祐介	46

健康体力学分野

氏名	頁
阿江通良	47
大森肇	47
木塚朝博	53
久野譜也	55
白木仁	58
征矢英昭	59
田神一美	64
武田文	65
武政徹	68
田中喜代次	70
徳山薫平	76
鍋倉賢治	76
西嶋尚彦	80
西平賀昭	82
西保岳	83
野津有司	85
藤井範久	87
本田靖	90
前田清司	93
水上勝義	98
宮川俊平	101
ヤッサマイケル	104
足立和隆	106
榎本靖士	107
大藏倫博	109
小野誠司	114
麻見直美	115
小池関也	118
柴田愛	121
竹村雅裕	122
橋本佐由理	124
向井直樹	128
渡部厚一	129
赤澤暢彦	131
岡本正洋	132
片岡千恵	133

ビヨンギョンホ	134
福田崇	135
藤井直人	137
松井崇	139
久保大輔	141
高林俊幸	141
辻本健彦	141
横山典子	143
藁科侑希	145

コーチング学分野

氏名	頁
會田宏	147
浅井武	149
井村仁	150
内山治樹	150
大高敏弘	151
尾縣貢	152
木内敦詞	155
香田郡秀	157
小俣幸嗣	158
坂本昭裕	158
佐野淳	160
高木英樹	161
椿本昇三	164
中川昭	165
長谷川聖修	166
本間三和子	168
村田芳子	171
山田幸雄	171
渡辺良夫	172
有田祐二	172
大山下圭悟	174
岡田弘隆	177
ガイスラーギドヴァルター	179
金谷麻理子	180
河合季信	180
川村卓	181

谷川	聡	185
寺山	由美	187
中西	康己	188
中村	剛	189
中山	雅雄	190
鍋山	隆弘	191
平山	素子	193
古川	拓生	194
増地	克之	195
松尾	牧則	196
松元	剛	197
三橋	大輔	199
山口	香	202
吉田	健司	204
安藤	真太郎	205
本谷	聡	205
秋山	央	207
木越	清信	208
小井土	正亮	209
斎藤	卓	210
嶋崎	達也	211
吹田	真士	212
仙石	泰雄	213
奈良	隆章	216
ネメシュ	ローランド	217
藤本	元	218
洪	性賛	219
山田	永子	222
渡邊	仁	222
岡野	憲一	224
小野	卓志	225
柏倉	秀徳	226
金堀	哲也	227
荻山	靖	228
クラリク	アンドレア	229
小林	啓介	229
坂谷	充	231
田部井	祐介	232
角川	隆明	233
内藤	景	233
中野	美沙	233
朴	京真	235

平成 29 年 9 月発行

編 集 筑波大学体育系 紀要・業績集編集委員会
発行者 筑波大学体育系長 中川 昭
〒 305-8574 茨城県つくば市天王台 1-1-1
電 話 029-853-2590
印 刷 前田印刷株式会社
〒 305-0836 茨城県つくば市山中 152-4
電 話 029-875-6696

